

阿弥大寺本郷遺跡

主要地方道高崎伊勢崎線（葦塚工区）社会資本総合整備事業
（地域住宅支援）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

阿弥大寺本郷遺跡

主要地方道高崎伊勢崎線（葦塚工区）社会資本総合整備事業
（地域住宅支援）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、主要地方道高崎伊勢崎線建設事業を進めるにあたり、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査が行われた伊勢崎市の阿弥大寺本郷遺跡の調査報告書です。

この遺跡の発掘調査は群馬県伊勢崎土木事務所の委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成22年度から23年度に実施し、平成24年度に整理事業を実施しました。調査の発端となった県道高崎伊勢崎線は、群馬県の平野部中央を東西に繋ぐ大動脈である国道354号線の一連のバイパス工事、すなわち東毛広域新幹線道路の一部をなすものです。

阿弥大寺本郷遺跡の周辺は、伊勢崎市西部の利根川左岸にある自然堤防や氾濫層上にあり、開発の著しい平野部にあっては埋蔵文化財の発掘調査例の少ない地域でした。このたび発掘調査により、古墳時代初頭の水田遺構から集落そして畑、平安時代の集落から畑、中世の館と畑に至るまで、目まぐるしく土地利用を変化させながら氾濫の中で先人が生活していった様子が明らかにされました。さまざまな新たな知見が地域の歴史をひも解く史料として、また地域理解の教材として活用されますようお願いしております。

発掘調査から本書刊行に至るまでには、群馬県伊勢崎土木事務所・群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会をはじめとする関係機関、および地元の皆さまから多大なご指導・ご協力を賜りました。ここに心から感謝の意を表し、序といたします。

平成25年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 榮 一

例 言

- 1 本書は、主要地方道高崎伊勢崎線(蕪塚工区)社会資本総合整備事業(地域住宅支援)に伴い発掘調査された阿弥大寺本郷遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
- 2 阿弥大寺本郷遺跡は群馬県伊勢崎市田中町404、408、425-1、428-1 同市蕪塚町964、965、966、967、968、969-1・4、970-1、971-1、972、973-1に所在する。
- 3 事業主体 群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査履行期間 平成22(2010)年10月1日～平成23(2011)年8月31日
調査期間 平成22(2010)年11月1日～平成23(2011)年6月30日
- 6 発掘調査体制は次のとおりである。
(平成22年度)
発掘調査担当 友廣哲也(上席専門員) 石守晃(上席専門員) 矢口裕之(専門員(総括)) 宮下寛(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社
地上測量委託・航空測量委託 株式会社シン技術コンサル
(平成23年度)
発掘調査担当 関晴彦(上席専門員) 友廣哲也(上席専門員)
遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル
地上測量委託 アコン測量設計株式会社
航空測量委託 技研測量設計株式会社
- 7 整理履行期間 平成24(2012)年4月1日～平成25(2013)年3月31日
整理期間 平成24(2012)年4月1日～平成25(2013)年1月31日
- 8 整理事業体制は次のとおりである。
整理担当 飯田陽一(上席専門員)、石守晃(上席専門員)
保存処理：関邦一(係長(総括)) 遺物撮影：佐藤元彦(係長(総括))
遺物観察 土師器・須恵器：桜岡正信(上席専門員) 陶磁器・金属製品：大西雅広(上席専門員)
石器・石造品：岩崎泰一(上席専門員) 板碑・宝塔類等：新倉明彦(上席専門員) 木製品：関邦一
- 9 本書作成の担当者は次のとおりである。
編集 飯田陽一、石守晃
本文執筆 第I～IV・VII章-1・2：石守晃 第V章・VII章-3・4：飯田陽一
第VI章の自然科学分析については本文368頁以降に記した。
- 10 発掘調査及び本書作成に当たり、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、伊勢崎土木事務所からご協力、ご指導を頂いた。
- 11 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

凡 例

- 1 本報告書における座標値は世界測地系IX系による。
- 2 挿図中に示す方位記号は座標上の北を示している。なお、真北方向角は $+0^{\circ} 23' 40.05''$ である。
- 3 本文および一覧表の方位表記については、例としてN-45° Eとあるのは座標北より45度東側に振れていることを示している。
- 4 グリッドおよび座標値の表記方法については本文13頁に記した。

住居の面積は、1/30打ち出し図上で住居壁下端ラインをデジタルプランメーターで3回計測した数値の平均値である。壁溝のない住居では床面積と一致し、壁溝のある住居では床面に壁溝部分を加えた面積となっている。

- 5 遺構番号については、発掘調査ごとの通番となっている。3-1・2区など枝番のある調査区でも枝番にかかわらず通番としている。発掘調査時の名称を原則として踏襲したため、調査段階での欠番に加え、整理作業段階での読み替えや削除などが重なって欠番を生じている。住居・ピット・畑などで遺構番号にアルファベットを足したものは整理段階での加筆である。
- 6 遺構図の縮率はそれぞれの挿図中のスケールに示した。同一ページ内の遺構図で異なる縮率の図が混在する場合(平面と断面・住居とカマド等)は、図ごとにスケールを加えて表示した。
- 7 住居や土坑・ピット等の計測表「長×短×深」は「長径×短径×床面(確認面)からの深さ」を意味する。
- 8 遺構図の縮率は下記の基準を原則とした。

竪穴住居・井戸・掘立柱建物 1 : 60、住居カマド・炉の詳細図 1 : 30

ピット・土坑 1 : 40 溝 1 : 50 ~ 200

畑 1 : 50 ~ 200 (1 : 100を基本とする) 水田 1 : 200

- 9 遺物図の縮率は下記の基準を原則としスケールを添付した。スケールに沿わない遺物が混在する場合は遺物番号のあとに分数で縮率を加えた。遺物写真はおおむね図の縮率に沿うようにした。

土器および陶磁器類 碗皿等小型品 1 : 3、鉢・すり鉢・焙烙等大型品 1 : 4

石製品 砥石 1 : 1 ~ 3 台石、石造品 1 : 1 ~ 6 敲石 1 : 3 火打石 1 : 2 その他 1 : 3・4

金属製品 1 : 2、古銭の拓影 2 : 3

古代の土器 1 : 3 大型土器の一部 1 : 4

- 10 遺構・遺物図中で使用したスクリーンパターンやマークは、以下のことを表す。

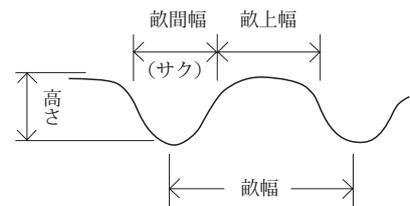
遺構

焼土  灰  炭化物 

遺物

燻  灰釉  付着粘土  砂目粘土 
還元  溶融部  酸化 

- 11 畑の記載および計測にあたっては、左図のような基準で
畝・畝間を呼称・計測した。



- 12 本文中にある火山噴出物の標記は以下のとおりである。

As-A：浅間山A軽石 1783年(天明3年)

As-B：浅間山B軽石 1108年(天仁元年)

Hr-FP：榛名山ニッ岳軽石 6世紀中頃 (遺構埋没土の土層説明の項ではFPと略す)

Hr-FA：榛名山ニッ岳火山灰 6世紀初頭 (遺構埋没土の土層説明の項ではFAと略す)

As-C：浅間山C軽石 4世紀初頭

As-YP：浅間山板鼻パミス 1.3万年前頃 (遺構埋没土の土層説明の項ではYPと略す)

- 13 遺物観察表は巻末に一括して掲載した。観察表中の略語は以下のとおりである。

口→口縁上端径 底→底径および陶磁器高台の下端径 頸→頸部外径 胴→胴部最大径 高→器高 長→長さ
厚→厚さ 重→重さ

計測値の単位はcmである。なお、陶磁器・中世土器類には復元値に()を、土師器・須恵器および石製品には残存値に()を付けている。

また、胎土観察における砂粒の表現でおおむね2mm未満を細砂粒、2mm以上を粗砂粒とした。色調は『新版標準土色帖』による。

目次

序
例言
凡例

第I章 発掘調査と遺跡の概要

- 1 調査に至る経過 1
 (1)主要地方道高崎伊勢崎線(葦塚工区)..... 1
 (2)埋蔵文化財の調査に至る経過..... 2
- 2 発掘調査の経過 4
- 3 整理業務の経過と方法 5

第II章 遺跡の立地と歴史的環境

- 1 遺跡の位置と地形 6
- 2 周辺遺跡 7

第III章 調査の方法と遺跡の概要

- 1 調査の方法 13
 (1)調査区及びグリッドの設定 13
 (2)基本土層 15
 (3)調査面 16
 (4)発掘調査方法 16

第IV章 中世の遺構と遺物

- 1 概要 17
- 2 1区の遺構と遺物
 (1)ピット群 21
 (2)土坑 23
 (3)溝 24
 (4)遺構外 26
- 3 2区の遺構と遺物
 (1)堅穴 29
 (2)区画溝 39
 (3)中世屋敷内ピット群 43
 (4)中世屋敷内土坑群 49
 (5)区画内井戸 55
 (6)区画外堅穴 58
 (7)掘立柱建物 58
 (8)中世屋敷外ピット群 72
 (9)中世屋敷外土坑群 75
 (10)井戸 79
 (11)溝 79
 (12)遺構外 87
- 4 3区の遺構と遺物
 (1)ピット 90
 (2)土坑 91
 (3)畠 93
- 5 4区の遺構と遺物
 (1)ピット 95
 (2)土坑 97
 (3)溝 101
 (4)谷 102
 (5)遺構外 108
- 6 5区の遺構と遺物
 (1)ピット 110
 (2)土坑 111

- (3)井戸 113
- (4)溝 119
- (5)河道 119
- (6)遺構外 124

第V章 古代の遺構と遺物

- 1 概要 125
- 2 堅穴住居 126
 (1)平安時代の堅穴住居 126
 (2)古墳時代の堅穴住居 1区の堅穴住居 147
 (3)古墳時代の堅穴住居 2区の堅穴住居 162
 (4)古墳時代の堅穴住居 3区の堅穴住居 237
 (5)古墳時代の堅穴住居 4区の堅穴住居 246
- 3 古代の区画と溝 271
- 4 掘立柱建物とピット列 278
- 5 ピット 286
- 6 土坑 291
- 7 井戸 296
- 8 木製品 298
- 9 畑 299
 (1)A s - B直下の畑 299
 (2)泥流の前後で確認された畑 301
- 10 水田 328
 (1)概要 328
 (2)A区画の水田 328
 (3)大畔 330
 (4)B区画の水田 330
 (5)C区画の水田 330
 (6)2区住居下の溝 336
 (7)1区住居下の溝 336
- 11 溝 337
 (1)1区の溝 337
 (2)2区の溝 339
 (3)3区の溝 346
 (4)4区の溝 350
 (5)5区の溝 353
- 12 遺構外の遺物 354

第VI章 自然科学分析

- 1 分析の目的 368
- 2 テフラ分析 369
- 3 2区古墳時代畠遺構の植物遺体分析 375
- 4 種子同定(1)と珪酸体分析 386
- 5 木製品及び種子同定(2) 391

第VII章 まとめ

- 1 弘仁9年の地震の痕跡 396
 - 2 阿弥大寺本郷遺跡出土の人骨及び獣骨 399
 - 3 装飾器台の出土状態 400
 - 4 カマド出現期の堅穴住居 401
- 遺物観察表 402

挿 図 目 次

第1図	阿弥大寺本郷遺跡位置図	1	第62図	2区6号溝	79
第2図	試掘調査図	3	第63図	2区8号溝および出土遺物(1)	80
第3図	遺跡周辺地質図	6	第64図	2区8号溝出土遺物(2)	81
第4図	遺跡分布図	8	第65図	2区9・10号溝	82
第5図	阿弥大寺本郷遺跡調査区とグリッド	13	第66図	2区11・12・13号溝	83
第6図	各区の土層堆積状況	14	第67図	2区14号溝および出土遺物	84
第7図	4-1区の土層堆積状況と標準土層	15	第68図	2区17・18・19・20号溝	85
第8図	1区1面全体図	17	第69図	2区遺構外出土遺物(1)	87
第9図	2・3区1面全体図	18	第70図	2区遺構外出土遺物(2)	88
第10図	4区1面全体図	19	第71図	3-2区ピット群(1)	89
第11図	5区1面全体図	20	第72図	3-2区ピット群(2)	90
第12図	1区ピット群配置図	21	第73図	3-2区2号土坑	91
第13図	1区ピット群	22	第74図	3-1区1・2号畠	91
第14図	1区土坑群	23	第75図	3-1区3・4号畠	92
第15図	1区1・2号溝および出土遺物	24	第76図	3-1区中世11・12・13号溝	94
第16図	1区3・4号溝	25	第77図	4-1区ピット群	96
第17図	1区5号溝	26	第78図	4-1区土坑群	98
第18図	1区遺構外出土遺物	26	第79図	4-1区1~7号溝	99・100
第19図	2区1号竪穴新段階平面図(上)、硬化面(下)	27	第80図	4-1区1号谷	103
第20図	2区1号竪穴中段階	28	第81図	4-1区1号谷セクション	104
第21図	2区1号竪穴旧段階	29	第82図	4-1区1号谷遺物出土状態	105
第22図	2区1号竪穴遺物出土状態および出土遺物	30	第83図	4-1区1号谷出土遺物(1)	106
第23図	2区3号竪穴および出土遺物(1)	32	第84図	4-1区1号谷出土遺物(2)	107
第24図	2区3号竪穴出土遺物(2)	33	第85図	4-2区1号谷	108
第25図	2区3号竪穴出土遺物(3)	34	第86図	4-1区遺構外出土遺物	108
第26図	2区3号竪穴出土遺物(4)	35	第87図	阿弥大寺耕地図	109
第27図	2区3号竪穴出土遺物(5)	36	第88図	5-1区1号ピットおよび土坑群	110
第28図	2区1・3・5・7号溝	37・38	第89図	5-2区5・6・7号土坑	111
第29図	2区1号溝遺物出土状態	39	第90図	5-1区1号井戸	112
第30図	2区1号溝出土遺物	40	第91図	5-2区2号井戸上面	113
第31図	2区15・16号溝および出土遺物	42	第92図	5-2区2号井戸下面および出土遺物	114
第32図	2区中世屋敷内ピット群(1)	44	第93図	5-1区3・4号井戸	115
第33図	2区中世屋敷内ピット群(2)	45	第94図	5-1区5号井戸	116
第34図	2区中世屋敷内ピット群(3)	46	第95図	5-2区1号溝	117
第35図	2区中世屋敷内ピット群(4)	47	第96図	5-1区2号溝	118
第36図	2区中世屋敷内ピット群(5)	48	第97図	5-2区3号溝	119
第37図	2区中世屋敷内土坑群(1)	50	第98図	5-2区4・5・6・7号溝	120
第38図	2区中世屋敷内土坑群(2)および出土遺物	51	第99図	5-1区1・2号河道および出土遺物	121
第39図	2区中世屋敷内土坑群(3)および出土遺物	52	第100図	5-1区1・2号河道セクション	122
第40図	2区中世屋敷内土坑群(4)および出土遺物	53	第101図	5-2区1号河道および出土遺物	123
第41図	2区中世屋敷内土坑群(5)および出土遺物	54	第102図	5-1区遺構外出土遺物	124
第42図	2区1号井戸および出土遺物	56	第103図	3区1号住居および出土遺物	126
第43図	2区3号井戸および出土遺物	57	第104図	3区2号住居および出土遺物	127
第44図	2区2号竪穴	58	第105図	4区平安時代住居配置図	128
第45図	2区1号掘立柱建物	59	第106図	4区1号住居	128
第46図	2区2号掘立柱建物	60	第107図	4区1号住居掘り方およびカマド	129
第47図	2区2号掘立柱建物エレベーション	61	第108図	4区1号住居出土遺物	130
第48図	2区3号掘立柱建物	62	第109図	4区2号住居	131
第49図	2区1・2号柵跡	63	第110図	4区2号住居出土遺物	132
第50図	2区中世屋敷外ピット群(1)	64	第111図	4区3号住居	132
第51図	2区中世屋敷外ピット群(2)および出土遺物	65	第112図	4区3号住居断面および出土遺物	133
第52図	2区中世屋敷外ピット群(3)	66	第113図	4区4号住居および出土遺物	134
第53図	2区中世屋敷外ピット群(4)	67	第114図	4区5号住居	135
第54図	2区中世屋敷外ピット群(5)	68	第115図	4区5号住居出土遺物	136
第55図	2区中世屋敷外ピット群(6)	69	第116図	4区6号住居	136
第56図	2区中世屋敷外ピット群(7)および出土遺物	70	第117図	4区6号住居掘り方および出土遺物(1)	137
第57図	2区中世屋敷外ピット群(8)	71	第118図	4区6号住居出土遺物(2)	138
第58図	2区中世屋敷外ピット群(9)	72	第119図	4区7号住居	139
第59図	2区中世屋敷外土坑群	76	第120図	4区7号住居掘り方および出土遺物(1)	140
第60図	2区2号井戸および出土遺物	77	第121図	4区7号住居出土遺物(2)	141
第61図	2区2・4号溝および2号溝出土遺物	78	第122図	4区8号住居	141

第123図	4区9号住居および出土遺物	142	第189図	2区29号住居および出土遺物	199
第124図	4区10号住居および出土遺物	143	第190図	2区30号住居	200
第125図	4区11号住居および出土遺物(1)	144	第191図	2区30号住居出土遺物(1)	201
第126図	4区11号住居出土遺物(2)	145	第192図	2区30号住居出土遺物(2)	202
第127図	4区17号住居および出土遺物	145	第193図	2区31号住居および出土遺物	203
第128図	5区1号住居および出土遺物	146	第194図	2区32号住居	204
第129図	1区古墳時代住居配置図	147	第195図	2区32号住居遺物出土状態および出土遺物(1)	205
第130図	1区1号住居および出土遺物(1)	148	第196図	2区32号住居出土遺物(2)	206
第131図	1区1号住居出土遺物(2)	149	第197図	2区33号住居	207
第132図	1区2号住居	149	第198図	2区33号住居掘り方および出土遺物	208
第133図	1区2号住居出土遺物(1)	150	第199図	2区34号住居および出土遺物	209
第134図	1区2号住居出土遺物(2)	151	第200図	2区35号住居および出土遺物	210
第135図	1区3号住居および出土遺物	152	第201図	2区36号住居	210
第136図	1区4号住居	153	第202図	2区36号住居出土遺物	211
第137図	1区4号住居出土遺物(1)	154	第203図	2区37号住居	211
第138図	1区4号住居出土遺物(2)	155	第204図	2区37号住居出土遺物	212
第139図	1区5号住居	156	第205図	2区38号住居	212
第140図	1区5号住居掘り方	157	第206図	2区38号住居出土遺物	213
第141図	1区5号住居出土遺物	158	第207図	2区39号住居および出土遺物	214
第142図	1区6号住居および出土遺物	159	第208図	2区40号住居および出土遺物	215
第143図	1区7号住居および出土遺物	160	第209図	2区41号住居および出土遺物	216
第144図	1区8号住居および出土遺物	161	第210図	2区42号住居	217
第145図	2区古墳時代住居配置図	162	第211図	2区42号住居掘り方および出土遺物	218
第146図	2区1号住居	163	第212図	2区43号住居および出土遺物(1)	219
第147図	2区2・3号住居	164	第213図	2区43号住居出土遺物(2)	220
第148図	2区4号住居	165	第214図	2区45号住居および出土遺物	220
第149図	2区4B号住居および出土遺物(1)	166	第215図	2区46号住居および出土遺物	221
第150図	2区4号住居出土遺物(2)	167	第216図	2区47号住居および出土遺物	222
第151図	2区5号住居	167	第217図	2区48号住居および出土遺物	223
第152図	2区6号住居	168	第218図	2区49号住居および出土遺物	224
第153図	2区6号住居出土遺物	169	第219図	2区50号住居および出土遺物	225
第154図	2区7号住居	169	第220図	2区51号住居	226
第155図	2区8号住居	170	第221図	2区51号住居出土遺物	227
第156図	2区8号住居掘り方	171	第222図	2区52号住居および出土遺物	228
第157図	2区8号住居出土遺物(1)	172	第223図	2区53号住居	229
第158図	2区8号住居出土遺物(2)	173	第224図	2区53号住居出土遺物	230
第159図	2区9号住居	173	第225図	2区54号住居	231
第160図	2区10号住居および出土遺物	174	第226図	2区55号住居	232
第161図	2区11号住居	175	第227図	2区56号住居	233
第162図	2区11号住居出土遺物	176	第228図	2区56号住居掘り方および出土遺物	234
第163図	2区12号住居および出土遺物	176	第229図	2区57号住居および出土遺物(1)	235
第164図	2区13号住居および出土遺物	177	第230図	2区57号住居出土遺物(2)	236
第165図	2区14号住居および出土遺物(1)	178	第231図	3区古墳時代住居配置図	237
第166図	2区14号住居出土遺物(2)	179	第232図	3区3号住居	237
第167図	2区15号住居	180	第233図	3区3号住居出土遺物	238
第168図	2区16号住居	181	第234図	3区4号住居および出土遺物(1)	239
第169図	2区16号住居掘り方および出土遺物(1)	182	第235図	3区4号住居出土遺物(2)	240
第170図	2区16号住居出土遺物(2)	183	第236図	3区5号住居	241
第171図	2区17号住居および出土遺物	183	第237図	3区5号住居カマドおよび出土遺物(1)	242
第172図	2区18号住居	184	第238図	3区5号住居出土遺物(2)	243
第173図	2区18号住居掘り方および出土遺物	185	第239図	3区5号住居出土遺物(3)	244
第174図	2区19号住居	186	第240図	3区6号住居および出土遺物	245
第175図	2区19号住居出土遺物(1)	187	第241図	4区古墳時代住居配置図	246
第176図	2区19号住居出土遺物(2)	188	第242図	4区12号住居	246
第177図	2区20号住居	188	第243図	4区12号住居出土遺物	247
第178図	2区20号住居出土遺物	189	第244図	4区13号住居	247
第179図	2区21号住居	189	第245図	4区14号住居	248
第180図	2区21号住居出土遺物	190	第246図	4区15号住居	248
第181図	2区22号住居および出土遺物	191	第247図	4区15号住居出土遺物	249
第182図	2区23号住居および出土遺物	192	第248図	4区16号住居	249
第183図	2区24号住居	193	第249図	4区18号住居	250
第184図	2区24号住居掘り方および出土遺物	194	第250図	4区18号住居出土遺物	251
第185図	2区25号住居および出土遺物	195	第251図	4区19号住居	251
第186図	2区26号住居および出土遺物	196	第252図	4区19号住居カマド	252
第187図	2区27号住居および出土遺物	197	第253図	4区19号住居出土遺物(1)	253
第188図	2区28号住居および出土遺物	198	第254図	4区19号住居出土遺物(2)	254

第255図	4区20号住居	254	第320図	3-1区10号畑	319
第256図	4区20号住居カマド	255	第321図	4区1号畑	320
第257図	4区20号住居出土遺物	256	第322図	4区2号畑	321
第258図	4区21号住居	256	第323図	4区3号畑	322
第259図	4区22号住居	257	第324図	4区4号畑と4区出土遺物	323
第260図	4区22号住居遺物出土状態および出土遺物(1)	258	第325図	5区1号畑	324
第261図	4区22号住居出土遺物(2)	259	第326図	5区2号畑	325
第262図	4区23号住居	260	第327図	5区3号畑	326
第263図	4区24号住居	261	第328図	5区4号畑	327
第264図	4区24号住居断面およびカマド	262	第329図	水田配置図	328
第265図	4区24号住居出土遺物(1)	263	第330図	4区水田	329
第266図	4区24号住居出土遺物(2)	264	第331図	3-2区水田	331
第267図	4区25号住居	264	第332図	3-2区水田断面	332
第268図	4区25号住居断面	265	第333図	3-1区水田	333
第269図	4区25号住居出土遺物	266	第334図	3-1区水田断面	334
第270図	4区26号住居	266	第335図	1区住居下の水田痕跡	336
第271図	4区26号住居出土遺物	267	第336図	1区6~9号溝	338
第272図	4区27号住居	267	第337図	2区21・22号溝	340
第273図	4区28号住居および出土遺物	268	第338図	2区23・24号溝および出土遺物	341
第274図	4区29号住居	269	第339図	2区25・26号溝および出土遺物	342
第275図	4区30号住居	269	第340図	2区27号溝および出土遺物	343
第276図	4区30号住居断面および出土遺物	270	第341図	2区28・30号溝および出土遺物	344
第277図	4区31号住居および出土遺物	270	第342図	2区29号溝	345
第278図	古代の区画溝配置図	271	第343図	3-1区5号溝	346
第279図	3-2区1・4号溝および出土遺物	272	第344図	3-1区6・7号溝	347
第280図	4区8号溝	273	第345図	3-2区2号溝	348
第281図	4区9号溝出土遺物	274	第346図	3-2区8~10号溝	349
第282図	4区9・11・10号溝	275	第347図	4区12号溝	350
第283図	3-2区3号溝	276	第348図	4区12号溝出土遺物	351
第284図	3-2区3号溝出土遺物	277	第349図	4区13・14号溝	352
第285図	4区掘立柱建物配置図	278	第350図	5区9・10号溝および出土遺物	353
第286図	4区1号掘立柱建物	279	第351図	2区1号土器集中地点および出土遺物(1)	354
第287図	4区1号掘立柱建物断面および出土遺物	280	第352図	2区1号土器集中地点出土遺物(2)	355
第288図	4区2号掘立柱建物	281	第353図	2区2号土器集中地点および出土遺物	356
第289図	4区3号掘立柱建物	283	第354図	2区3号土器集中地点および出土遺物(1)	357
第290図	4区1号ピット列	285	第355図	2区3号土器集中地点出土遺物(2)	358
第291図	2区ピット配置図	286	第356図	2区流路脇土器集中地点	359
第292図	ピット(2~4区)	287	第357図	2区流路脇土器集中地点出土遺物(1)	360
第293図	ピット(4区)	288	第358図	2区流路脇土器集中地点出土遺物(2)	361
第294図	4区ピット配置図	289	第359図	2区流路脇土器集中地点出土遺物(3)	362
第295図	ピット出土遺物	289	第360図	2区流路脇土器集中地点出土遺物(4)	363
第296図	土坑出土遺物	291	第361図	4区包含層	363
第297図	土坑(2区)	292	第362図	4区包含層出土遺物	364
第298図	土坑(2・3区)	293	第363図	その他の遺物(1区・2区(1))	364
第299図	土坑(3・4区)	294	第364図	その他の遺物(2区(2))	365
第300図	3-2区1号井戸	296	第365図	その他の遺物(3区・4区(1))	366
第301図	3-2区1号井戸出土遺物(1)	297	第366図	その他の遺物(4区(2)・5区)	367
第302図	2区4号井戸	298	第367図	阿弥大寺本郷遺跡2区南壁の土層柱状図	373
第303図	2区出土遺物(木器)	298	第368図	テフラ組成ダイヤグラム	374
第304図	3-1区5・6号畑	299	第369図	1号河道跡の主な試料採取地点の模式柱状図	375
第305図	3-1区7号畑	300	第370図	花粉化石群集	377
第306図	1区1号畑	302	第371図	植物珪酸体含量	378
第307図	1区2・3号畑	303	第372図	安定同位体比分析結果	383
第308図	2区1号(旧)畑	305	第373図	植物珪酸体含量	389
第309図	2区1号(新)畑	306	第374図	5-1区噴砂痕および西壁セクション	397
第310図	2区2号畑	307	第375図	5-1区の側方流動痕	398
第311図	2区3号畑	308	第376図	装飾器台出土位置	400
第312図	2区4号畑	309			
第313図	3-2区1号畑	311			
第314図	3-2区2号畑	312			
第315図	3-2区3号畑および出土遺物	313			
第316図	3-2区4・5号畑	314			
第317図	3-2区6号畑	315			
第318図	3-1区8号畑	316			
第319図	3-1区9号畑	318			

表 目 次

第1表-1	周辺遺跡一覧	9・10	第17表	古代のピット一覧表	290
第1表-2	周辺遺跡一覧	11	第18表	古代の土坑一覧表	295
第2表	1区ピット一覧	22	第19表	3・4区水田計測値一覧表	335
第3表	1区土坑一覧	23	第20表	テフラ検出分析結果	374
第4表	2区1号竪穴ピット一覧	31	第21表	火山ガラス比分析結果	374
第5表	2区中世屋敷内ピット一覧	48・49	第22表	重鉍物組成分析結果	374
第6表	2区中世屋敷内土坑一覧	55	第23表	屈折率測定結果	374
第7表	2区掘立柱建物一覧	61	第24表	花粉分析結果	377
第8表	2区1・2号柵跡一覧	63	第25表	植物珪酸体含量	378
第9表	2区中世屋敷外ピット一覧	73～75	第26表	微細物分析結果	379
第10表	2区中世屋敷外土坑一覧	75	第27表	種実遺体分析結果	387
第11表	3区ピット一覧	90	第28表	植物珪酸体含量	389
第12表	3区土坑一覧	91	第29表	主な分類群の推定生産量	389
第13表	4区ピット一覧	97	第30表	種実同定結果	392
第14表	4区土坑一覧	97	第31表	樹種同定結果	394
第15表	5区ピット一覧	110	第32表	出土装飾器台一覧	400
第16表	5区土坑一覧	111	第33表	カマドのある古墳時代住居一覧	401

写 真 目 次

PL. 1	遺跡全景	① 調査区東部(南東から)	⑤ 2区1号土坑全景(北から)	
		② 調査区西部(東から)	⑥ 2区2号土坑全景(南から)	
PL. 2	2区中世屋敷	① 2区中世屋敷全景(右手が北)	⑦ 2区4号土坑全景(北から)	
PL. 3	竪穴遺構・掘立柱建物	① 2区1号竪穴遺物出土状況(西から)	⑧ 2区5号土坑全景(西から)	
		② 2区1号竪穴新・中段階全景(南から)	⑨ 2区6号土坑全景(東から)	
		③ 2区1号竪穴古段階全景(南から)	⑩ 2区7号土坑全景(南から)	
		④ 2区2号竪穴全景(北から)	⑪ 2区8号土坑全景(北から)	
		⑤ 2区3号竪穴全景(西から)	⑫ 2区9号土坑全景(南から)	
		⑥ 2区3号竪穴土層断面(東から)	⑬ 2区10号土坑全景(西から)	
		⑦ 2区1号掘立柱建物全景(西から)	⑭ 2区11号土坑全景(西から)	
		⑧ 2区2号掘立柱建物全景(東から)	⑮ 2区12号土坑集石出土状況(南から)	
PL. 4	中世のピット(1)	① 1区1面ピット群全景(東から)	PL. 7	中世の土坑(2)
		② 3-2区23・24号ピット全景(南から)		① 2区15号土坑全景(北から)
		③ 3-2区25号ピット全景(南から)		② 2区16号土坑全景(南から)
		④ 3-2区26号ピット全景(南から)		③ 2区19号土坑全景(南から)
		⑤ 4-1区1号ピット全景(南から)		④ 2区20号土坑全景(南から)
		⑥ 4-1区2号ピット全景(南から)		⑤ 2区23号土坑全景(南から)
		⑦ 2区ピット群		⑥ 2区21号土坑全景(南から)
PL. 5	中世のピット(2)	① 4-1区8号ピット全景(南から)		⑦ 2区25・32号土坑全景(南から)
		② 4-1区9号ピット全景(西から)		⑧ 2区26号土坑全景(南から)
		③ 4-1区9～24号ピット全景(東から)		⑨ 2区27号土坑全景(東から)
		④ 4-1区11号ピット全景(北から)		⑩ 2区28号土坑全景(南西から)
		⑤ 4-1区12・24号ピット全景(北から)		⑪ 2区29号土坑全景(南から)
		⑥ 4-1区13号ピット全景(南から)		⑫ 2区30号土坑全景(南から)
		⑦ 4-1区14号ピット全景(西から)		⑬ 2区31号土坑全景(東から)
		⑧ 4-1区16号ピット全景(西から)		⑭ 2区32号土坑全景(南から)
		⑨ 4-1区18号ピット全景(南から)	PL. 8	中世の土坑(3)
		⑩ 4-1区20号ピット全景(南から)		① 2区33号土坑全景(南から)
		⑪ 4-1区21・22号ピット全景(南から)		② 2区34号土坑全景(西から)
		⑫ 4-1区24号ピット全景(南から)		③ 2区35号土坑全景(東から)
PL. 6	中世の土坑(1)	① 1区1号土坑全景(西から)		④ 2区36号土坑全景(東から)
		② 1区2号土坑全景(西から)		⑤ 2区37号土坑全景(南から)
		③ 1区3号土坑全景(西から)		⑥ 2区38号土坑全景(南から)
		④ 1区4号土坑全景(西から)		⑦ 2区40号土坑全景(北から)
				⑧ 2区42号土坑全景(南から)
				⑨ 2区47号土坑全景(西から)
				⑩ 2区47号土坑遺物出土状況(西から)
				⑪ 3-2区2号土坑・21号ピット全景(東から)
				⑫ 4-1区1号土坑全景(南から)

- ⑬ 4-1区2号土坑全景(南西から)
 ⑭ 4-1区3号土坑全景(南から)
 ⑮ 4-1区4号土坑全景(南から)
- PL. 9 中世の土坑(4)
 ① 4-1区5号土坑全景(南から)
 ② 4-1区7号土坑全景(東から)
 ③ 4-1区8号土坑全景(南から)
 ④ 4-1区9・10・11号土坑全景(南東から)
 ⑤ 4-1区10・11号土坑全景(東から)
 ⑥ 4-1区11号土坑土層断面(東から)
 ⑦ 5-2区6号土坑・3号溝土層断面(南から)
 ⑧ 5-2区6号土坑全景(北東から)
 ⑨ 5-2区7号土坑全景(東から)
 ⑩ 5-2区7号土坑遺物出土状況(北から)
 ⑪ 5-1区8号土坑全景(北から)
 ⑫ 5-1区9・10号土坑全景(西から)
- PL. 10 中世の井戸(1)
 ① 2区1号井戸遺物出土状況(東から)
 ② 2区1号井戸全景(東から)
 ③ 2区2号井戸全景(南から)
 ④ 2区3号井戸全景(東から)
 ⑤ 5-1区1号井戸全景(東から)
 ⑥ 5-2区2号井戸集石状況(西から)
 ⑦ 5-2区2号井戸全景(東から)
 ⑧ 5-2区2号井戸掘り方と積石(北から)
- PL. 11 中世の井戸(2)と溝(1)
 ① 5-1区3号井戸全景(西から)
 ② 1区3号溝全景(南から)
 ③ 1区4号溝全景(南東から)
 ④ 1区1号溝土層断面(西から)
 ⑤ 2区1号溝全景(西から)
- PL. 12 中世の溝(2)
 ① 2区1号溝北壁土層断面(南から)
 ② 2区1号溝北壁石溜り(南東から)
 ③ 2区2号溝全景(南東から)
 ④ 2区3号溝全景(南から)
 ⑤ 2区4号溝全景(南西から)
 ⑥ 2区5号溝全景(南から)
 ⑦ 2区6号溝全景(南から)
 ⑧ 2区7号溝全景(北から)
- PL. 13 中世の溝(3)
 ① 2区8号溝集積出土状況(北から)
 ② 2区8号溝全景(東から)
 ③ 2区9号溝全景(北から)
 ④ 2区10号溝全景(北から)
 ⑤ 2区11号溝全景(北から)
 ⑥ 2区12号溝全景(南から)
- PL. 14 中世の溝(4)
 ① 2区13号溝全景(北から)
 ② 2区14号溝全景(南から)
 ③ 2区15号溝全景(北から)
 ④ 2区16号溝全景(東から)
 ⑤ 2区20号溝全景(東から)
 ⑥ 2区18号溝全景(東から)
 ⑦ 2区19号溝全景(北東から)
- PL. 15 中世の溝(5)
 ① 3-1区11・12号溝全景(南から)
 ② 3-1区12号溝全景(北から)
 ③ 3-1区13号溝全景(南から)
 ④ 4-1区1号溝全景(東から)
 ⑤ 4-1区2号溝全景(西から)
- ⑥ 4-1区3号溝全景(東から)
 ⑦ 4-1区4号溝全景(南から)
 ⑧ 4-1区5号溝全景(北西から)
- PL. 16 中世の溝(6)
 ① 4-1区6号溝全景(西から)
 ② 4-1区7号溝全景(東から)
 ③ 4-1区1号谷全景(北から)
 ④ 4-1区1号谷西寄り全景(北から)
 ⑤ 4-1区1号谷全景(南東から)
- PL. 17 中世の溝(7)
 ① 4-1区1号谷-1遺物出土状況(西から)
 ② 4-1区1号谷-1遺物出土状況(北西から)
 ③ 4-1区1号谷-2遺物出土状況(東から)
 ④ 4-1区1号谷-2板碑(3)出土状況(東から)
 ⑤ 5-2区1号溝及び土層断面(東から)
 ⑥ 5-1区2号溝全景(北東から)
 ⑦ 5-2区3号溝全景(南から)
 ⑧ 5-2区1号河道4~7号溝全景(南東から)
- PL. 18 中世の河道
 ① 5-1区1・2号河道全景(東から)
 ② 5-1区2号河道全景(北から)
 ③ 5-1区1・2号河道土層断面(南東から)
 ④ 5-1区2号河道遺物(1)出土状況
 ⑤ 5-2区1号河道全景(東から)
- PL. 19 平安時代の竪穴住居(1)
 ① 3・4区の集落全景(上方が北)
 ② 3区1号住居掘り方(西から)
 ③ 3区2号住居全景(東から)
 ④ 3区3号住居全景(北から)
 ⑤ 3区3号住居全景(西から)
 ⑥ 3区3号住居炉断面(南から)
 ⑦ 4区1号住居遺物出土状態(西から)
- PL. 20 平安時代の竪穴住居(2)
 ① 4区1号住居断面(西から)
 ② 4区1号住居カマド(西から)
 ③ 4区1号住居2号ピット断面(西から)
 ④ 4区2・5号住居遺物出土状態(西から)
 ⑤ 4区2号住居掘り方(西から)
 ⑥ 4区2号住居カマド掘り方(西から)
 ⑦ 4区2号住居カマド断面(南から)
 ⑧ 4区3号住居掘り方(西から)
- PL. 21 平安時代の竪穴住居(3)
 ① 4区3号住居断面(南から)
 ② 4区3号住居カマド掘り方(東から)
 ③ 4区3号住居土坑(西から)
 ④ 4区4号住居掘り方(西から)
 ⑤ 4区5号住居カマド掘り方(西から)
 ⑥ 4区5号住居カマド断面(西から)
 ⑦ 4区6号住居全景(西から)
 ⑧ 4区6号住居掘り方(西から)
- PL. 22 平安時代の竪穴住居(4)
 ① 4区6号住居遺物出土状態(西から)
 ② 4区6号住居貯蔵穴(西から)
 ③ 4区7号住居全景(西から)
 ④ 4区7号住居カマド(西から)
 ⑤ 4区7号住居遺物出土状態(西から)
 ⑥ 4区7号住居遺物出土状態(西から)
 ⑦ 4区8号住居全景(南西から)
 ⑧ 4区8号住居1号ピット(東から)

- PL. 23 平安時代の竪穴住居(5)
- ① 4区9号住居掘り方(南西から)
 - ② 4区10号住居全景(西から)
 - ③ 4区11号住居掘り方(西から)
 - ④ 4区11号住居遺物出土状態(北から)
 - ⑤ 4区11号住居遺物出土状態(東から)
 - ⑥ 4区11号住居ピット(南西から)
 - ⑦ 5区1号住居遺物出土状態(南西から)
 - ⑧ 5区1号住居ピット(南西から)
- PL. 24 1区古墳時代の竪穴住居(1)
- ① 1区の集落全景(上方が北)
 - ② 1区1号住居全景(東から)
 - ③ 1区1号住居遺物出土状態(南から)
 - ④ 1区1号住居掘り方断面(南から)
 - ⑤ 1区2号住居全景(北東から)
 - ⑥ 1区2号住居遺物出土状態(北東から)
 - ⑦ 1区2号住居遺物出土状態(東から)
- PL. 25 1区古墳時代の竪穴住居(2)
- ① 1区3号住居全景(北東から)
 - ② 1区3号住居断面(南から)
 - ③ 1区3号住居遺物出土状態(北東から)
 - ④ 1区3号住居掘り方断面(南から)
 - ⑤ 1区4号住居全景(南東から)
 - ⑥ 1区4号住居断面(南から)
 - ⑦ 1区5号住居全景(北西から)
 - ⑧ 1区5号住居断面(南から)
- PL. 26 1区古墳時代の竪穴住居(3)
- ① 1区5号住居掘り方(北西から)
 - ② 1区6号住居全景(南東から)
 - ③ 1区7号住居遺物出土状態(北東から)
 - ④ 1区7号住居掘り方(北東から)
 - ⑤ 1区7号住居遺物出土状態(東から)
 - ⑥ 1区7号住居断面(東から)
 - ⑦ 1区8号住居全景(北東から)
 - ⑧ 1区8号住居断面(南から)
- PL. 27 2区古墳時代の竪穴住居(1)
- ① 2区の集落全景(東から)
 - ② 2区1号住居全景(南東から)
 - ③ 2区2(奥)・3(手前)号住居(南から)
 - ④ 2区4号住居全景(南東から)
 - ⑤ 2区4号住居遺物出土状態(南東から)
 - ⑥ 2区4号住居遺物出土状態(西から)
 - ⑦ 2区4号住居遺物出土状態(北から)
- PL. 28 2区古墳時代の竪穴住居(2)
- ① 2区5号住居全景(北西から)
 - ② 2区5号住居断面(南西から)
 - ③ 2区5号住居壁際焼土(東から)
 - ④ 2区6号住居全景(南西から)
 - ⑤ 2区6号住居カマド(南西から)
 - ⑥ 2区6号住居カマド断面(南から)
 - ⑦ 2区7号住居全景(東から)
 - ⑧ 2区7号住居掘り方(南西から)
- PL. 29 2区古墳時代の竪穴住居(3)
- ① 2区8号住居全景(南から)
 - ② 2区8号住居遺物出土状態(南から)
 - ③ 2区8号住居断面(南から)
 - ④ 2区8号住居ピット(西から)
 - ⑤ 2区9号住居全景(南から)
 - ⑥ 2区10号住居全景(北西から)
 - ⑦ 2区10号住居断面(南から)
 - ⑧ 2区10号住居掘り方(北西から)
- PL. 30 2区古墳時代の竪穴住居(4)
- ① 2区11・12・13号住居全景(西から)
- ② 2区11号住居貯蔵穴(南西から)
- ③ 2区12号住居掘り方(南西から)
- ④ 2区12号住居遺物出土状態(南西から)
- ⑤ 2区14号住居全景(南から)
- ⑥ 2区14号住居掘り方(南から)
- ⑦ 2区15号住居全景(南西から)
- ⑧ 2区15号住居掘り方(西から)
- PL. 31 2区古墳時代の竪穴住居(5)
- ① 2区16号住居全景(南東から)
 - ② 2区16号住居断面(南から)
 - ③ 2区17・34号住居全景(南から)
 - ④ 2区17・34号住居掘り方(南から)
 - ⑤ 2区18号住居全景(南東から)
 - ⑥ 2区18号住居遺物出土状態(北から)
 - ⑦ 2区19号住居全景(南から)
 - ⑧ 2区19号住居遺物出土状態(南から)
- PL. 32 2区古墳時代の竪穴住居(6)
- ① 2区20号住居全景(南から)
 - ② 2区20号住居遺物出土状態(北から)
 - ③ 2区21号住居全景(南東から)
 - ④ 2区21号住居断面(南から)
 - ⑤ 2区22号住居全景(南東から)
 - ⑥ 2区22号住居断面(南から)
 - ⑦ 2区23号住居全景(南東から)
 - ⑧ 2区24号住居全景(南東から)
- PL. 33 2区古墳時代の竪穴住居(7)
- ① 2区25号住居全景(北東から)
 - ② 2区26号住居全景(南東から)
 - ③ 2区26号住居掘り方(南東から)
 - ④ 2区26号住居遺物出土状態(北から)
 - ⑤ 2区27号住居全景(南東から)
 - ⑥ 2区28号住居全景(南から)
 - ⑦ 2区28号住居遺物出土状態(南から)
 - ⑧ 2区29号住居全景(南東から)
- PL. 34 2区古墳時代の竪穴住居(8)
- ① 2区30号住居全景(南東から)
 - ② 2区30号住居掘り方(南東から)
 - ③ 2区30号住居断面(南から)
 - ④ 2区30号住居遺物出土状態(北から)
 - ⑤ 2区31号住居全景(南東から)
 - ⑥ 2区31号住居掘り方(北西から)
 - ⑦ 2区32号住居全景(南東から)
 - ⑧ 2区32号住居遺物出土状態(西から)
- PL. 35 2区古墳時代の竪穴住居(9)
- ① 2区33号住居全景(南西から)
 - ② 2区33号住居遺物出土状態(北東から)
 - ③ 2区35号住居全景(南東から)
 - ④ 2区36号住居全景(西から)
 - ⑤ 2区36号住居断面(南から)
 - ⑥ 2区37号住居全景(北西から)
 - ⑦ 2区38号住居全景(南東から)
 - ⑧ 2区38号住居遺物出土状態(南西から)
- PL. 36 2区古墳時代の竪穴住居(10)
- ① 2区39号住居掘り方(南西から)
 - ② 2区39号住居断面(南西から)
 - ③ 2区40号住居全景(南東から)
 - ④ 2区40号住居遺物出土状態(東から)
 - ⑤ 2区41号住居全景(南東から)
 - ⑥ 2区42号住居全景(南東から)
 - ⑦ 2区43号住居全景(南東から)
 - ⑧ 2区43号住居2号土坑(南西から)
- PL. 37 2区古墳時代の竪穴住居(11)
- ① 2区45号住居全景(南から)

- ② 2区46号住居全景(南から)
 ③ 2区47号住居掘り方(南東から)
 ④ 2区48号住居遺物出土状態(南から)
 ⑤ 2区48号住居掘り方(南から)
 ⑥ 2区49号住居全景(南から)
 ⑦ 2区50号住居全景(南東から)
 ⑧ 2区51号住居全景(南から)
- PL. 38 2区古墳時代の竪穴住居(12)
 ① 2区52号住居全景(南から)
 ② 2区53号住居全景(南東から)
 ③ 2区54号住居全景(北東から)
 ④ 2区55号住居全景(南東から)
 ⑤ 2区55号住居遺物出土状態(南から)
 ⑥ 2区56号住居全景(南東から)
 ⑦ 2区56号住居遺物出土状態(南から)
 ⑧ 2区57号住居遺物出土状態(南西から)
- PL. 39 3区古墳時代の竪穴住居(1)
 ① 3区4号住居遺物出土状態(東から)
 ② 3区4号住居遺物出土状態(北から)
 ③ 3区4号住居遺物出土状態(南から)
 ④ 3区5号住居全景(南西から)
 ⑤ 3区5号住居カマド(南西から)
 ⑥ 3区5号住居断面(北東から)
 ⑦ 3区5号住居貯蔵穴(南から)
 ⑧ 3区6号住居全景(南西から)
- PL. 40 4区古墳時代の竪穴住居(1)
 ① 4区12号住居全景(北から)
 ② 4区13号住居全景(北西から)
 ③ 4区14号住居掘り方(西から)
 ④ 4区15号住居遺物出土状態(東から)
 ⑤ 4区15号住居掘り方(西から)
 ⑥ 4区16号住居掘り方(西から)
 ⑦ 4区17号住居全景(南から)
 ⑧ 4区18号住居全景(東から)
- PL. 41 4区古墳時代の竪穴住居(2)
 ① 4区19号住居全景(西から)
 ② 4区19号住居カマド(西から)
 ③ 4区19号住居カマド断面(東から)
 ④ 4区19号住居遺物出土状態(北から)
 ⑤ 4区20号住居全景(南西から)
 ⑥ 4区20号住居カマド(西から)
 ⑦ 4区20号住居カマド断面(南から)
 ⑧ 4区20号住居断面(南から)
- PL. 42 4区古墳時代の竪穴住居(3)
 ① 4区21号住居全景(北東から)
 ② 4区22号住居掘り方(北から)
 ③ 4区22号住居貯蔵穴(北西から)
 ④ 4区22号住居1号ピット(南西から)
 ⑤ 4区23号住居掘り方(北から)
 ⑥ 4区24号住居全景(南西から)
 ⑦ 4区24号住居掘り方(南西から)
 ⑧ 4区24号住居カマド(南西から)
- PL. 43 4区古墳時代の竪穴住居(4)
 ① 4区25号住居掘り方(南西から)
 ② 4区25号住居カマド(南西から)
 ③ 4区26号住居全景(南西から)
 ④ 4区27号住居全景(南西から)
 ⑤ 4区28号住居全景(北から)
 ⑥ 4区28号住居遺物出土状態(西から)
 ⑦ 4区29号住居全景(西から)
 ⑧ 4区30号住居全景(北から)
- PL. 44 区画をつくる溝
- ① 3区3号溝(南から)
 ② 3区3号溝遺物出土状態(南東から)
 ③ 3区4号溝(西から)
 ④ 4区8号溝(北から)
 ⑤ 4区9号溝(西から)
 ⑥ 4区9号溝断面(西から)
 ⑦ 4区10号溝(西から)
 ⑧ 4区11号溝(西から)
- PL. 45 1号掘立柱建物
 ① 4-1区1号掘立柱建物全景(北から)
 ② P1断面(南から)
 ③ P2断面(南から)
 ④ P3(西から)
 ⑤ P5(西から)
 ⑥ P6断面(南西から)
 ⑦ P8(東から)
 ⑧ P11(南西から)
 ⑨ P13(西から)
 ⑩ P16(西から)
- PL. 46 2号掘立柱建物
 ① 4-1区2号掘立柱建物全景(西から)
 ② P1(南から)
 ③ P5断面(南から)
 ④ P6断面(南から)
 ⑤ P7・P16(南から)
 ⑥ P8(南から)
 ⑦ P10・P17(南から)
 ⑧ P12(南から)
 ⑨ P13(南から)
 ⑩ P15(南から)
- PL. 47 3号掘立柱建物
 ① 4-1区3号掘立柱建物全景(西から)
 ② P1(南から)
 ③ P4(南から)
 ④ P6(西から)
 ⑤ P9(西から)
 ⑥ P10(西から)
 ⑦ P11(南から)
 ⑧ P12(南から)
 ⑨ P13(南から)
 ⑩ P16(南から)
- PL. 48 4-1区1号ピット列と4区のピット
 ① 4-1区1号ピット列西側(南東から)
 ② 4-1区1号ピット列東側(北西から)
 ③ 45号ピット(北から)
 ④ 48号ピット(西から)
 ⑤ 49号ピット(西から)
 ⑥ 56号ピット(西から)
 ⑦ 70号ピット(西から)
 ⑧ 78号ピット(西から)
 ⑨ 80号ピット(南から)
 ⑩ 89号ピット(南から)
 ⑪ 90号ピット(南から)
- PL. 49 土坑
 ① 2区50号土坑(南から)
 ② 2区51号土坑断面(南から)
 ③ 2区53号土坑(南東から)
 ④ 2区53号土坑断面(南から)
 ⑤ 2区54号土坑断面(南から)
 ⑥ 2区57号土坑(南東から)
 ⑦ 2区60号土坑断面(南から)
 ⑧ 2区61～64号土坑(北西から)
 ⑨ 2区61号土坑(南から)

- ⑩ 2区63号土坑(南西から)
 ⑪ 2区64号土坑(東から)
 ⑫ 2区65号土坑(北から)
 ⑬ 4区12号土坑断面(南から)
 ⑭ 4区12号土坑(南から)
 ⑮ 4区14号土坑(西から)
- PL. 50 井戸・As-B下の畑
 ① 3区1号井戸(西から)
 ② 3区1号井戸石積み(西から)
 ③ 2区4号井戸(南西から)
 ④ 3-1区5号畑南側(西から)
 ⑤ 3-1区南側(東から)
 ⑥ 3-1区As-Bと畑確認状態
 ⑦ 3-1区南側(西から)
- PL. 51 畑(1)5区の畑
 ① 5区畑全景(上方が北)
 ② 5区1・2号畑(上方が北)
 ③ 5区畑確認状態(北東から)
 ④ 5区畑全景(東から)
 ⑤ 5区畑断面(南から)
- PL. 52 畑(2)4区の畑
 ① 4区畑全景
 ② 4区1号畑断面(南西から)
 ③ 4区2号畑確認状態(南東から)
 ④ 4区3号畑(南東から)
 ⑤ 4区3号畑断面(南西から)
- PL. 53 畑(3)2区の畑
 ① 2区東側畑全景(2・3号)
 ② 2区西側(新)畑(上方が北)
 ③ 2区西側(旧)畑(上方が南)
 ④ 2区1号畑断面(東から)
 ⑤ 2区3・4号畑(南東から)
- PL. 54 畑(4)1区・3区の畑
 ① 1区畑全景(南東から)
 ② 3-2区畑上面(上方が北)
 ③ 3-2区畑下面(上方が北)
 ④ 3-2区3号畑(東から)
 ⑤ 3-2区4号畑(南東から)
 ⑥ 3-2区5号畑(南から)
 ⑦ 3-1区南側調査区(東から)
 ⑧ 3-1区10号畑(北から)
- PL. 55 水田(1)
 ① 4区水田(A区画水田)全景(上方が北)
 ② 3-1区水田北側全景(東から)
 ③ 3-1区水田南側全景(北東から)
- PL. 56 水田(2)
 ① 3-2区水田(北東から)
 ② 3-2区水田内水路(南東から)
 ③ 3-2区水田(北東から)
 ④ 3-2区水田(南西から)
 ⑤ 2区30号住居掘り方内の水田痕跡(南から)
 ⑥ 4区13・14号溝(北西から)
 ⑦ 4区13号溝断面(南東から)
- PL. 57 溝(1)
 ① 1区6～8号溝(南東から)
 ② 2区21号溝(南東から)
 ③ 2区22号溝(東から)
 ④ 2区23号溝(北西から)
 ⑤ 2区23号溝(南東から)
 ⑥ 2区24号溝(北西から)
 ⑦ 2区25号溝(南西から)
 ⑧ 2区27号溝(南から)
- PL. 58 溝(2)
 ① 2区28号溝(南東から)
 ② 2区29号溝(南東から)
 ③ 3区2号溝(南東から)
 ④ 4区12号溝(北西から)
 ⑤ 2区1号遺物集中地点(南西から)
 ⑥ 2区3号遺物集中地点(南から)
 ⑦ 2区流路脇遺物集中地点遠景(南から)
 ⑧ 2区流路脇遺物集中地点A(北東から)
- PL. 59 1・2区出土遺物
 PL. 60 2区出土遺物
 PL. 61 2区出土遺物
 PL. 62 2区出土遺物
 PL. 63 2・4区出土遺物
 PL. 64 2・5区出土遺物
 PL. 65 3・4区住居出土遺物
 PL. 66 4区住居出土遺物
 PL. 67 4区住居出土遺物
 PL. 68 1区住居出土遺物
 PL. 69 1区住居出土遺物
 PL. 70 1区住居出土遺物
 PL. 71 1区住居出土遺物
 PL. 72 1・2区住居出土遺物
 PL. 73 2区住居出土遺物
 PL. 74 2区住居出土遺物
 PL. 75 2区住居出土遺物
 PL. 76 2区住居出土遺物
 PL. 77 2区住居出土遺物
 PL. 78 2区住居出土遺物
 PL. 79 2区住居出土遺物
 PL. 80 2区住居出土遺物
 PL. 81 2区住居出土遺物
 PL. 82 2区住居出土遺物
 PL. 83 2区住居出土遺物
 PL. 84 3区住居出土遺物
 PL. 85 3区住居出土遺物
 PL. 86 3・4区住居出土遺物
 PL. 87 3・4区住居出土遺物
 PL. 88 4区住居出土遺物
 PL. 89 4区住居出土遺物
 PL. 90 4区住居出土遺物
 PL. 91 4区住居出土遺物
 PL. 92 4区住居・3区溝出土遺物
 PL. 93 溝・掘立・ピット・土坑・井戸出土遺物
 PL. 94 畑・溝・土器集中出土遺物
 PL. 95 土器集中・流路脇土器集中出土遺物
 PL. 96 流路脇土器集中出土遺物
 PL. 97 流路脇土器集中・遺構外出土遺物
 PL. 98 遺構外出土遺物
 PL. 99 花粉化石
 PL. 100 植物珪酸体
 PL. 101 種実遺体
 PL. 102 炭化物
 PL. 103 植物遺体(マイクロスコブ像)
 PL. 104 植物遺体(マイクロスコブ像・電子顕微鏡像)
 PL. 105 植物遺体(灰像)と分析試料採取地点
 PL. 106 種実遺体・灰状物質・灰像(1)
 PL. 107 種実遺体・灰状物質・灰像(2)
 PL. 108 灰状物質・灰像
 PL. 109 植物珪酸体
 PL. 110 種実遺体
 PL. 111 木材(1)
 PL. 112 木材(2)

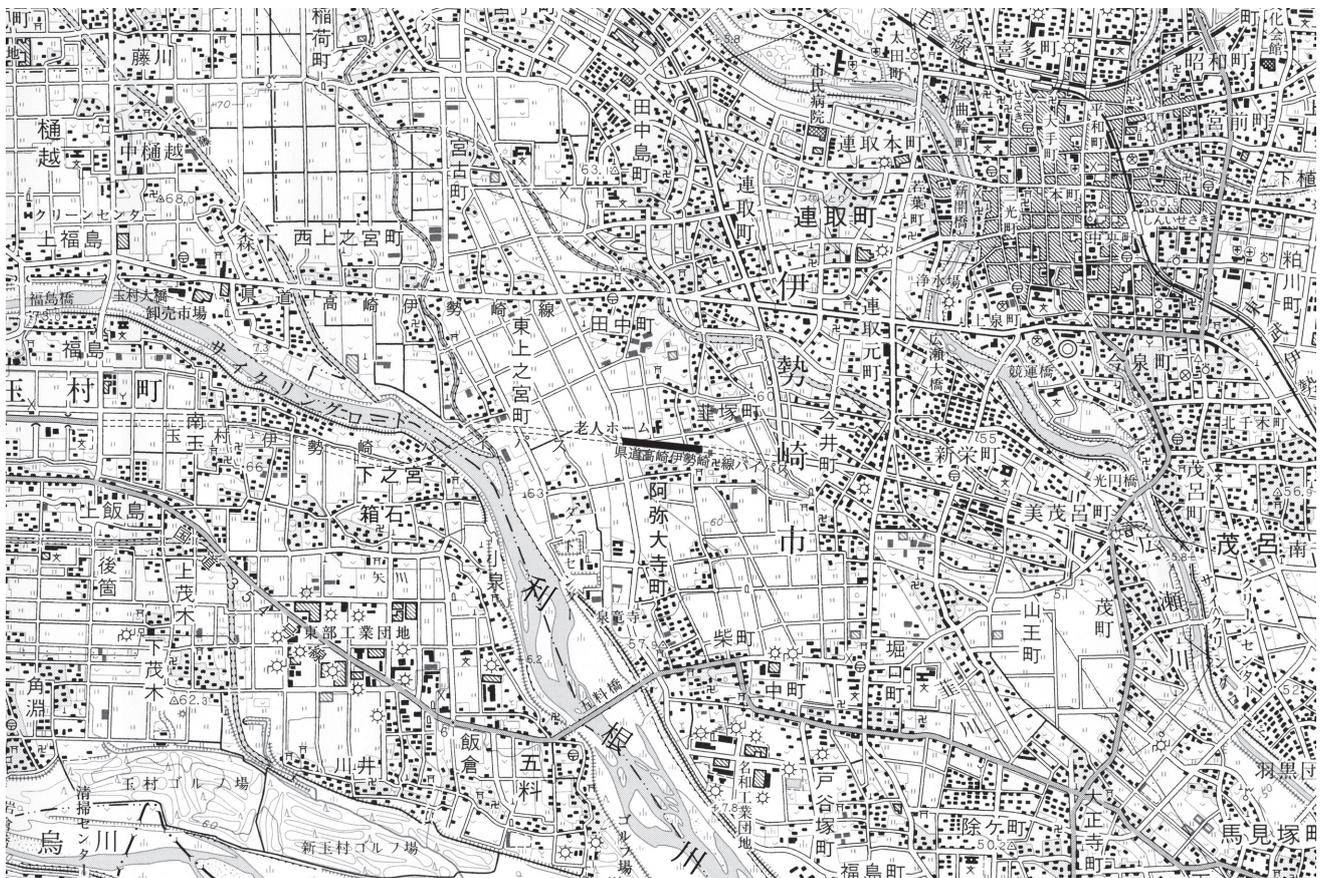
第 I 章 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経過

(1) 主要地方道高崎伊勢崎線(葦塚工区)

阿弥大寺本郷遺跡は伊勢崎市南西の田中町、葦塚町に所在する、古墳時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。本遺跡では平成22年11月から平成23年6月にかけて、主要地方道高崎伊勢崎線(葦塚工区)社会資本総合整備(地域住宅支援)(以下「高崎伊勢崎線(葦塚工区)」とする)に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されているが、本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

主要地方道高崎伊勢崎線(群馬県道24号線、以下「高崎伊勢崎線」と記す)は高崎市上滝町と伊勢崎市三和町を結ぶ幹線道路である。この路線の旧道は途中、佐波郡玉村町福島・上福島間に架橋された福島橋によって利根川を渡河する箇所がある。



第1図 阿弥大寺本郷遺跡位置図(使用 上:S=1/2000000 下:国土地理院「高崎」、S=1/50000)

第I章 発掘調査と遺跡の概要

本県の利根川は上流部と雖も川幅は広く、水量が豊富で渡河点もまた限定的である。昔日には渡し船が所々に配置されていたものの、今日、福島橋を含む伊勢崎市・玉村町の市町境付近では上述の福島橋と、高崎伊勢崎線の南側を並走するように在る一般国道354号線の玉村町五料・伊勢崎市柴町間を結ぶ五料橋の二か所のみが渡河点であり、そのため両橋は長く交通渋滞を抱えていた。

このうち福島橋は、平成13年(2001)12月に同橋の東側に県道40号藤岡大胡線のバイパス道路に伴う玉村大橋が完成して以来、交通渋滞も緩和の方向に向かってきているのであるが、本書執筆の平成24年5月現在、依然として五料橋の交通渋滞は解消されておらず、その解消は共に東毛広域幹線道路⁽¹⁾の一部に組み込まれる一般国道354号線玉村伊勢崎バイパスとこれに東接する高崎伊勢

崎線(葦塚工区)の竣工によって図られる計画となっている。

この五料橋の交通渋滞の解消に与すると期待される道路のうち高崎伊勢崎線(葦塚工区)は、伊勢崎市田中町(県道104号駒形柴町線交差点)から伊勢崎市葦塚町(高崎伊勢崎線バイパス供用部分交差点)に至る延長0.85kmの計画路線であるが、この道路は片側2車線の高規格道路として設計され、平成20年度から25年度にかけて事業が進められている。

註

(1)東毛広域幹線道路は地域間の連携、産業の立地、物流の効率化、生活圏の拡大等の地域発展に貢献する道路網の整備を目的として群馬県が建設を進めている広域幹線道路の一つで、高崎駅東口を基点として邑楽郡板倉町に到る延長58.6kmの高規格道路で、複数の事業を組み合わせる事業化されている。

(2) 埋蔵文化財の調査に至る経過

主要地方道高崎伊勢崎線住宅市街地基盤整備事業を進めるに当たり、群馬県中部県民局伊勢崎線土木事務所(以下「伊勢崎土木」とする)は平成21年5月8日、県土整備部監理課建設政策室経由で群馬県教育委員会文化財保護課(以下「保護課」)に照会した。これを受け保護課は同年6月8日に当該事業用地が周知の遺跡である阿弥大寺本郷遺跡の隣接地にあるため試掘調査が必要である旨を回答した。伊勢崎土木は同年10月5日に保護課に対し試掘調査を依頼し、保護課は同年12月に当該地域の試掘調査⁽¹⁾を実施した。

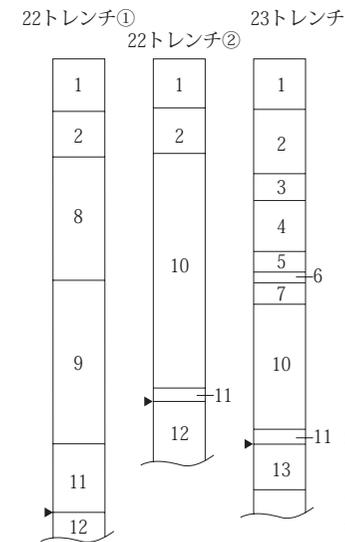
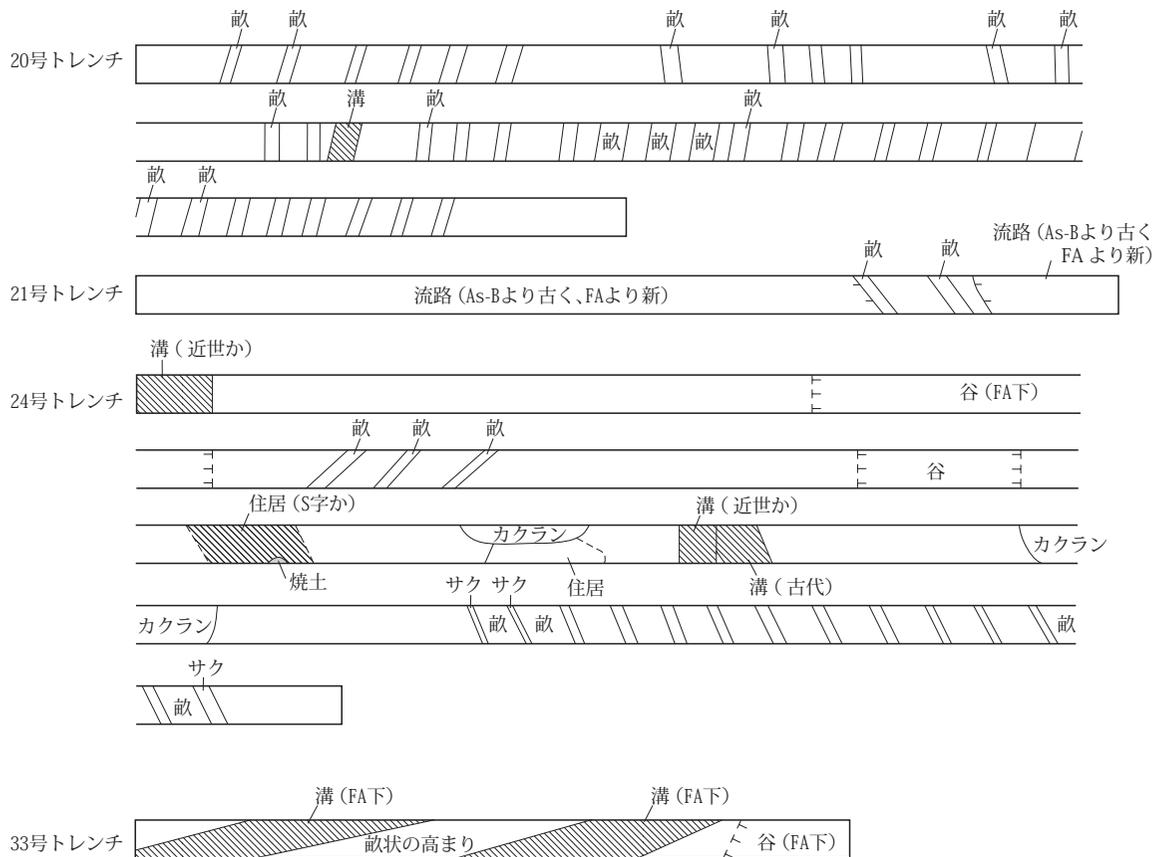
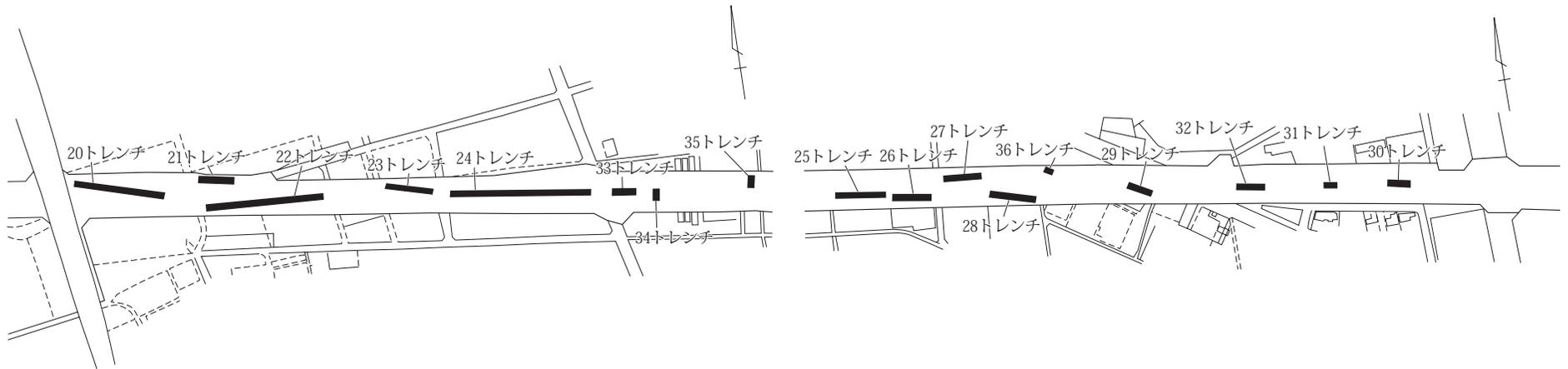
この試掘調査はトレンチ掘削による方法で実施され、高崎伊勢崎線(葦塚工区)域では、建設予定地の中程に、路線方向に沿うものを基本として20~36と番号が付された17本のトレンチが掘削された。このうち最西端の20トレンチではHr-F A被覆の畠が確認され、その東の21・22トレンチでAs-Bより古くHr-F Aより新しい時期の流路、23トレンチではAs-B・Hr-F A被覆面、24と33トレンチではHr-F A被覆の畠と4世紀とみられる住居址、34トレンチではHr-F A以前の谷が確認された。また35トレンチ以東では新旧の流路に削られて、遺構は確認できなかった。このため高崎伊勢崎線(葦塚工区)に於いては西端の20トレンチから中程の35

トレンチの西側までを遺跡地として認定したが、即ちこれが本遺跡である。尚、35トレンチ以東と20トレンチ以西も300m程の間は遺跡地の認定はなされなかった。

平成22年1月20日、保護課はこの試掘調査の結果を伊勢崎土木及び伊勢崎市教育委員会(以下「伊勢崎市教委」とする)に通知し、事業地での埋蔵文化財の調査の必要と埋蔵文化財包蔵地登録のことなどを伝えた。これを受けて伊勢崎市教委では群馬県教育委員会あてに事業地を阿弥大寺本郷遺跡の範囲の変更によって周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれることとなったことを通知(同年2月24日)し、同年3月5日、伊勢崎土木より伊勢崎市教委に文化財保護法第94条による発掘通知が提出された。その後調整が行われ、同年9月16日、保護課は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)による調査を通知して同月22日事業団はこれを受諾したのを受け、伊勢崎土木は同30日、事業団に対し発掘調査の委託を行い、ここに当事業団による発掘調査が実施されることになったのである。

註

(1)平成21年度(主)高崎伊勢崎線住宅地盤整備事業および(国)354号(玉村伊勢崎バイパス)道路改築事業(国道・円滑)として実施している。両事業共に東毛広域幹線道路を構成する事業である。



- 1 表土
- 2 灰～褐灰色砂質土、圃場整備時の客土
- 3 褐色土。やや砂質
- 4 褐～灰褐色砂質土
- 5 暗褐色砂質土。As-B混入
- 6 As-B軽石
- 7 褐灰色粘質土
- 8 暗灰色砂礫
- 9 灰～灰褐色砂
- 10 にぶい黄褐色～褐灰色シルト
- 11 黄褐色～灰褐色シルト、FA泥流層
- 12 灰～灰褐色シルト
- 13 暗灰～灰白色粘質土

第2図 試掘調査図(位置図：伊勢崎都市計画図使用、S=1/2000 トレンチ平面図：S=1/200 土層柱状図：S=1/30)

2 発掘調査の経過

発掘調査は平成22年11月1日より開始し、平成23年6月30日に完了した。発掘調査は当初平成23年3月31日に完了する計画であったが、この間、平成22年12月から1月にかけて1・2・4・5区で試掘調査で確認したのを上回る遺構面が確認された。このため伊勢崎土木・保護課・事業団による協議が行われ、平成23年1月28日に計画変更を確認し、平成23年3月31日に調査期間を4月1日から6月30日とする平成23年度の発掘調査委託が伊勢崎土木から事業団になされている。

主な調査経過等は以下のとおりである。

【平成22年】

- 11月1日 調査担当2名着任。発掘調査準備着手。
- 10日 発掘調査事務所設置。工事工程に鑑みて西側からの着手となり、5-1区表土掘削・遺構確認開始。
- 11日 発掘機材搬入。
- 12日 伊勢崎土木事務所栗原主幹来跡。
- 16日 5-2区南西部掘削・遺構確認開始(人力)。
- 17日 4-1区表土掘削開始。5-2区記録化開始。伊勢崎土木事務所栗原主幹来跡。
- 18日 4-1区表土掘削開始。5-1区記録化開始。
- 19日 5-2区表土・遺構掘削開始(人力)。
- 22日 5-1区中位含む遺構掘削、記録化開始。
- 25日 伊勢崎土木事務所排土搬出開始。
- 26日 4-1区1面遺構掘削開始。
- 12月1日 調査担当2名着任。5-2区表土掘削に建設機械導入可能となる。
- 2日 1区表土掘削開始、4-1区1面記録化開始。伊勢崎土木事務所栗原主幹等来跡。
- 6日 1区1面遺構掘削、記録化開始。
- 7日 1区中・東部試掘トレンチ掘削。
- 8日 2区表土掘削・遺構確認開始。文化庁林正憲調査官、保護課洞口補佐、深沢指導主事来跡。
- 9日 伊勢崎郷土文化研究協議会原正氏来跡。
- 10日 遺構掘削開始。1区トレンチ測量開始。
- 17日 2区遺構の記録化開始。
- 21日 1区2面へ掘り下げと遺構確認開始。
- 22日 岡山理科大学小林博昭教授来跡。

- 24日 4-1区1面、5-1・5-2区空中写真撮影(～25日)。高澤考古学研究所高階氏来跡。
- 27日 平成22年調査終了。

【平成23年】

- 1月5日 平成23年調査開始(再開)。
- 6日 1区2面遺構掘削
- 7日 1区2面写真撮影・測量。同終了。伊勢崎市教育委員会出浦主査来跡。保護課桜井主幹来跡。
- 12日 1区3面へ掘削開始、遺構確認。
- 13日 1区3面遺構掘削開始。伊勢崎土木事務所排土搬出開始(～1月27日)。
- 14日 火山灰考古学研究所早田氏来跡。
- 18日 4-1区西部、4-2区表土掘削開始。
- 19日 4-1区西部・4-2区遺構確認。5-1区東部表土掘削開始。
- 20日 5-1区東部表土遺構確認開始。
- 21日 2区1面空中写真撮影。5-1区東部トレンチ調査、測量、写真撮影。
- 24日 5-1区東部Hr-FA下面へ掘削。
- 25日 5-2区埋め戻し開始。毛野考古学研究所和久氏、宮本氏来跡。
- 26日 2区2面遺構確認始。5-1区記録化開始。
- 27日 2区2面遺構掘削、実測開始。4-1区西部表土掘削完了。5-1区調査終了。
- 28日 4-1区西部Hr-FA面写真撮影。
- 31日 発掘調査担当2名離任。
- 2月1日 4-1区2面へ掘削開始。5-2区調査完了。
- 4日 1区3面、2区2面上位空中写真撮影。
- 14日 1区遺構調査に並行し下位面試掘開始。
- 23日 2区2面下位・4-1区2面空中写真撮影。3-1区表土掘削・遺構確認開始。
- 24日 3-1区遺構掘削開始。4-1区3面掘り下げ・遺構確認・掘削開始・実測開始。
- 25日 2区3面への掘削・遺構確認。4-1区写真記録作成開始。

- 3月2日 3区1面遺構確認。
- 8日 3-1区1面空中写真撮影。
- 9日 3-2区1面・4-1区2面空中写真撮影。
3-1区2面へ掘削・遺構確認、3-2区1面表土剥ぎ・遺構確認。
- 10日 2区3面遺構確認、測量。
- 11日 3区遺構掘削・測量開始。調査準備開始。
- 15日 3-2区As-B除去。4-1区3面下位層の遺構確認。
- 17日 3-2区3面へ掘り下げ、遺構掘削開始。
- 22日 3-1区2面空中写真撮影、遺構確認。3-2区2面、4-1区3面空中写真撮影。
- 24日 4-1区調査終了。
- 25日 残務作業(～31日)。
- 31日 平成22年度調査終了。担当2名離任。
- 4月1日 担当2名着任。平成23年度調査開始。
- 6日 2区3面掘削トレンチ・3-1区1面遺構確認・3-2区2面作業再開。
- 7日 3-2区2面調査終了。保護課洞口補佐、桜井主幹他2名来跡。
- 11日 3-2区2面下位への掘り下げ・遺構確認・遺構掘削・遺構記録作成開始。
- 13日 2区3面測量、写真撮影。前橋文化財研究所三浦氏、榛名町史編纂員会戸山氏来跡。
- 14日 3-2区3面(As-C混水田)掘削。伊勢崎土木事務所下山副主幹来跡。
- 18日 3-2区3面測量、写真撮影。
- 20日 3-1区1面調査終了。
- 21日 3-1区2面下げ、遺構確認・掘削開始。
- 22日 保護課桜井主幹、深沢指導主事来跡
- 26日 3-1区2面写真撮影、測量。
- 5月9日 3-1区2面下位面トレンチ掘削、測量。
- 10日 伊勢崎土木事務所下山氏副主幹来跡。
- 13日 3-1区プラントオパールサンプル採取。
- 16日 3-1区2面下位遺構確認・掘削・測量。
- 19日 2区3面空中写真撮影。2区下位面への試掘調査開始。
- 22日 3-1区2面調査終了。
- 23日 2区最終トレンチ掘削。
- 25日 3-1区3面へ掘り下げ、遺構確認開始。
- 26日 3区3面遺構記録作成開始。
- 31日 3-2区遺構掘削。奥州市埋蔵文化財調査センター伊藤氏来跡。
- 6月3日 3区調査終了。
- 7日 保護課洞口補佐、桜井主幹来跡。
- 8日 2区調査終了。
- 9日 残務処理・撤収準備開始。
- 23日 出土遺物・記録類・資材搬出。
- 28日 事務所撤去。
- 30日 調査担当離任。調査完了。

3 整理業務の経過と方法

整理業務は平成24年4月1日より開始し、平成25年1月31日に完了した。

概要は以下の通り。

遺物整理に関しては土器・陶磁器類の接合を平成24年4月から6月に行い、遺物選定を同5月末と6月末の間に随時実施し、復元作業を同6月から7月に実施した。また金属器は報告書掲載遺物の選定を行った上で、平成24年9月にエックス線撮影、錆落としを実施した。また

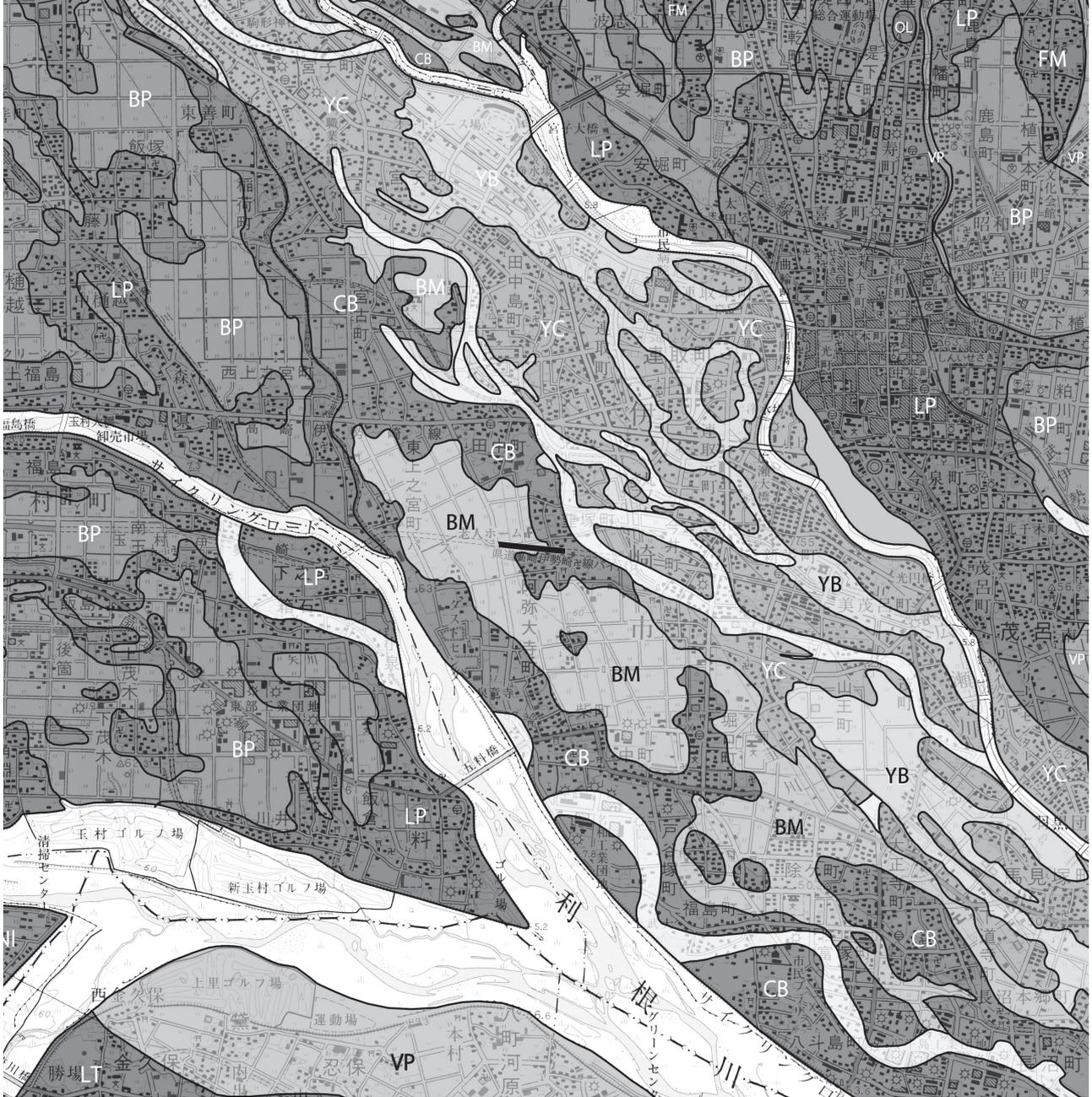
石器、石製品を含む出土遺物の実測を同7月から9月、実測図のトレースを同9月から平成25年1月にかけて実施し、この間平成24年7月と8月に写真撮影を実施した。

遺構図に関しては原図整理を平成24年4月から8月、トレースを同9月から12月に実施した。

また発掘調査報告書に拘る作業では、遺物図の版下作製を平成24年10月から平成25年1月、遺構図の版下作製を平成24年10月から平成25年1月、写真版下作製を平成24年10月から平成25年1月に実施し、報文執筆を平成24年9月から平成25年12月、遺物観察表の作成を平成24年9月から11月に実施した。

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

1 遺跡の位置と地形



- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| OL 溶岩円頂丘（カルデラ形成前） | VP 谷底平野 |
| FM 扇状地 | YC 広瀬川低地帯の旧中州 |
| LP 前橋・伊勢崎台地上の微高地 | BM 河成段丘（後背湿地） |
| LT 本庄台地 | VP 利根川低地 |
| CB 河成段丘（旧中州） | YB 広瀬川低地帯の後背湿地 |
| NI 自然堤防 | 〇 旧河道 |
| BP 前橋・伊勢崎台地上の後背湿地 | |

第3図 遺跡周辺地質図（国土地理院「高崎 1:50000」と群馬県史通史編第1巻に加筆）

阿弥大寺本郷遺跡は群馬県のうち、中毛と称される中南部の一角、伊勢崎市域南西部の阿弥大寺町、田中町及び蕪塚町地内に所在する。伊勢崎市西南部は利根川に境して西に佐波郡玉村町に接し、南は埼玉県本庄市と接する。また本遺跡は群馬県庁(前橋市大手町)の南西14km、伊勢崎市役所の西南西2.6km、佐波郡玉村町役場の東方4.8km、埼玉県本庄市役所の北北西7.2kmに位置する。尚、今次調査区は田中町、蕪塚町地内に在る。

本遺跡は北側や東側で都市化の波が近付きつつあるものの、平成24年現在、周辺地域には圃場整備の済んだ水田や畑地が広がり、広桃用水に属する農業用水路が縦横に敷設されている。また調査区の北東には蕪塚の集落が隣接し、南には阿弥大寺の集落が近接する。近隣集落内には小規模な工場や商店も散在するが、3区の北側には大きな老人ホームが隣接している。また阿弥大寺町の東寄りには大己貴命(おおなむちのみこと)を祭神とする薬王神社、その東には臨済宗円覚寺派の真光寺(伊勢崎市今井町)がある。

本遺跡周辺の土地は比較的平坦な地形を呈しているが、南西方向に極緩やかに傾斜しており、標高は63m程を測る。近隣の河川を見ると、本遺跡の西北西でその走行を東南東から南東方向に転じた利根川が調査区の西方1.2kmから南方2.7km付近を流下し、南南東3.7km付近で東流してきた烏川と合流して東南東方向に下っている。また調査区の東側1kmには蕪川、4kmには大川、6.2kmには広瀬川が在って、何れも南東方向に流下している。

一方、交通路について見ると調査区の西端には県道104号駒形柴町線が南北に走っているが、北側1.0kmに県道40号高碓伊勢崎線が、南側1.5mには一般国道354号線が大凡東西方向に走り、南西1.7kmには国道354号線の利根川架橋である五料橋、南南東5.1kmには一般国道462号線の利根川渡河橋で伊勢崎市八斗島と埼玉県本庄市沼和

田を繋ぐ坂東大橋が在る。また調査区の北側4kmにはJR両毛線が南東方向に、東側4.4kmには東武伊勢崎線の軌道が北北西方向に走って、前者に後者が接する処、調査区の北東3.4km地点にJR・東武伊勢崎駅が位置している。

さて本遺跡の北方27km程には上毛三山の一つである赤城山がある。赤城山は50～3万年前に噴火活動のあった火山であるが、その南斜面裾部には大間々扇状地(FM)が形成され、2.0～2.4万年前の浅間山の山体崩壊に伴う泥流が形成した前橋台地(LP・BP、広瀬川低地帯以西)がその前面を覆っている。また1万年前になると前橋台地上の東部大間々扇状地寄りに伊勢崎砂層が堆積して伊勢崎台地(LP・BP、広瀬川低地帯以東)を形成している。その後、利根川は赤城山に近い前橋・伊勢崎台地上を流下してこれを削り、西寄りに河成段丘(CB・BM)、東寄り広瀬川低地帯(YC・YB)を形成した。更に広瀬川低地帯付近では旧河道が網目状に複雑に交差して、その痕跡が残されている(第3図)。

さて本遺跡はこの中で河成段丘上に立地しているが、調査区のうち概ね東側の1区はその旧中洲(CB)、2区から西端の5区にかけてはその後背湿地(BM)に当たり、後述するように旧中洲の区域で集落が確認されている。

【参考文献】

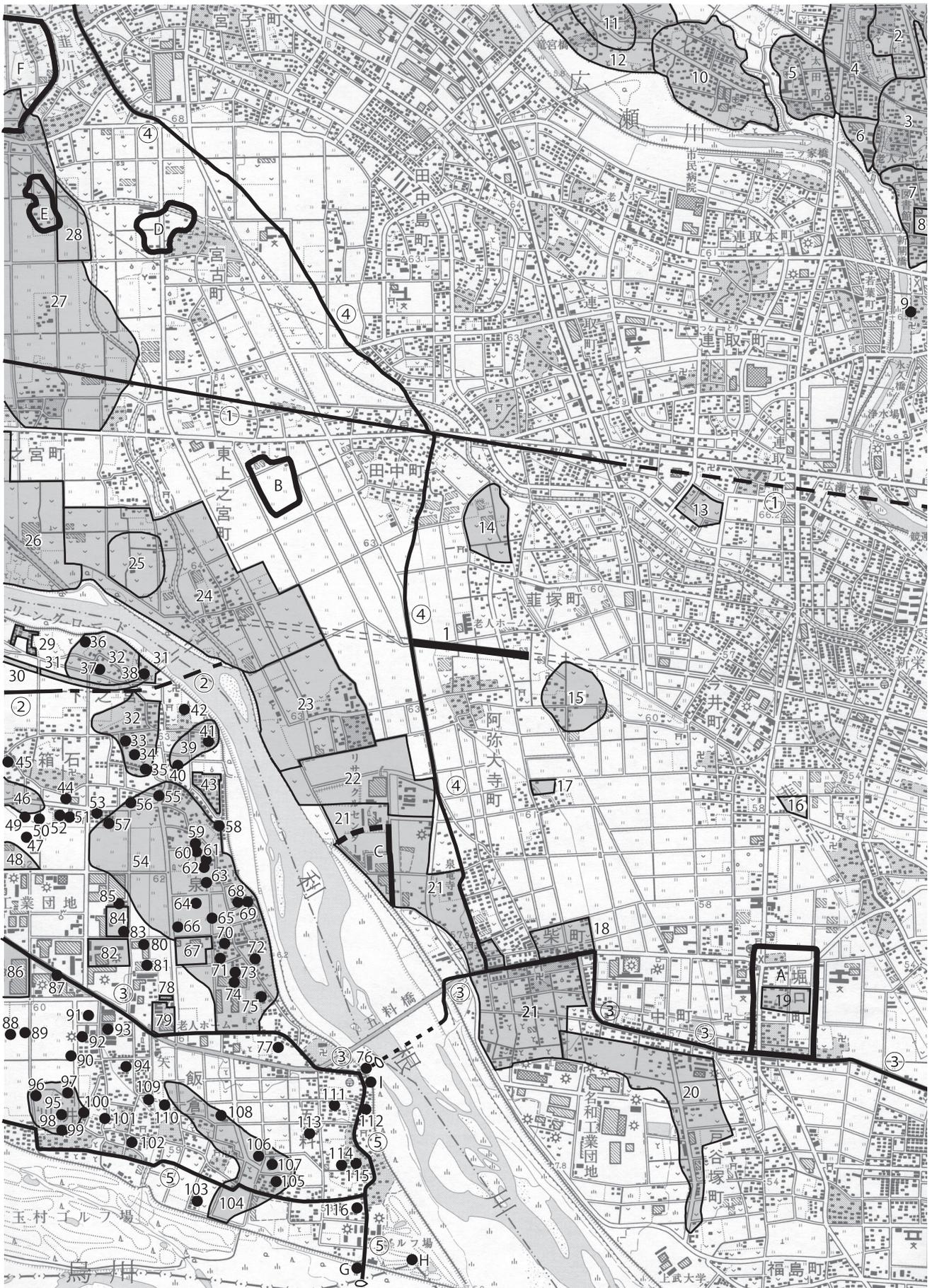
新井房夫監修・群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万分の1地質図』内外地図株式会社
群馬県史編纂室(1990)「付図2 群馬県内主要地域の地形分類図」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県
国土庁地理局及び計画・調整局監修(1979)『日本の自然土地利用 Ⅲ 関東』85-86、社団法人全国国土調査協会・株式会社武揚堂

2 周辺遺跡

本遺跡の在る伊勢崎市南西部は伊勢崎市域に在って、発掘調査件数が他の地域に比べ少ない地域である。従って周辺遺跡の様相も正確に把握し得ないのであるが、隣接地域の状況も踏まえてその概要を述べたいと思う。

【旧石器・縄文時代】

伊勢崎市域に於いて旧石器時代、縄文時代の遺跡は大間々扇状地の区域に集中して在り、伊勢崎台地や河成段丘、広瀬川低地帯地域では、旧石器時代の遺跡の分布は認められず、縄文時代の遺跡もその分布は薄い。こうし



第4図 遺跡分布図(国土地理院「伊勢崎」使用) S=1/25000

表1-1 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
1	阿弥大寺本郷遺跡	IS178				○	○	○		○	○	○	本遺跡
2	太田本郷遺跡	IS052		○	○				○	○			
3	喜多町遺跡	IS057	○			○	○	○			○		平成18年度伊勢崎市教育委員会発掘調査
4	宮下遺跡	IS050		○	○				○				平成17年度伊勢崎市教育委員会試掘調査
5	薬師遺跡	IS054			○				○	○			
6	タネンブチ遺跡	IS058	○										
7	伊勢崎城跡	IS201										○	
8	北小校庭遺跡	IS200			○								平成18年度伊勢崎市教育委員会発掘調査
9	金蔵院古墳	IS210			○								
10	南欠塚遺跡	IS056	○		○								
11	御富士山南古墳群	IS070			○								昭和32年度群馬大学、43・44年度伊勢崎市教育委員会発掘調査
12	西太田遺跡	IS055		○	—		○	○	○	○	○		昭和58年伊勢崎市教育委員会発掘調査
13	下ノ前遺跡	IS192			○				○	○			
14	西本郷遺跡	IS177			○				○	○			
15	真光寺古墳群	IS187			○								
16	上原遺跡	IS181			○				○	○			
17	一号塚遺跡	IS180			○				○	○			
18	今井遺跡	IS183			○				○	○			
19	城内遺跡	IS185			○				○	○			
20	戸谷塚遺跡	IS184										○	
21	柴遺跡	IS182										○	平成12～17年度伊勢崎市教育委員会発掘調査
22	宮柴前遺跡	IS179											平成8・11年度伊勢崎市教育委員会発掘調査
23	宮柴遺跡	IS186	○						○	○		○	
24	東上之宮遺跡	IS191					○		○	○	○		平成23・24年度事業団発掘調査
25	若宮古墳群	IS194			○								
26	西上之宮遺跡	IS190										○	
27	稲荷山古墳群	IS193			○								
28	松原遺跡	IS189			○				○	○			
29	玉村町No. 207遺跡	27										○	
30	下之宮中沖遺跡	705								○	○	○	平成22・23年度事業団発掘調査
31	下之宮高俣遺跡	704				○				○	○	○	平成22～24年度事業団発掘調査
32	玉村町No. 212遺跡	212			○				○	○	○	○	
33	玉村町No. 196遺跡	196			○								
34	玉村町No. 197遺跡	197			○								
35	玉村町No. 198遺跡	198			○								平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
36	玉村町No. 201遺跡	201			○								
37	玉村町No. 202遺跡	202			○								
38	玉村町No. 208遺跡	208										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
39	玉村町No. 213遺跡	213			○				○	○	○	○	
40	玉村町No. 200遺跡	200			○								
41	玉村町No. 210遺跡	210										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
42	玉村町No. 199遺跡	199			○								昭和36年航空写真
43	玉村町No. 211遺跡	211										○	平成3年度玉村町教育委員会試掘調査
44	玉村町No. 209遺跡	209								○			平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
45	少林山古墳	195					○	○					
46	玉村町No. 214遺跡	214							○	○			
47	玉村町No. 431遺跡	431			○								昭和36年航空写真
48	玉村町No. 427遺跡	427							○	○			
49	玉村町No. 429遺跡	429			○								昭和36年航空写真
50	玉村町No. 430遺跡	430			○								昭和36年航空写真
51	玉村町No. 494遺跡	494								○		○	平成元年度玉村町教育委員会試掘調査
52	玉村町No. 510遺跡	510										○	平成4年度玉村町教育委員会試掘調査
53	玉村町No. 457遺跡	457								○		○	平成元・2年度玉村町教育委員会試掘調査
54	玉村町No. 215遺跡	215			○				○	○	○	○	
55	玉村町No. 489遺跡	489			○								
56	玉村町No. 433遺跡	433			○								
57	玉村町No. 432遺跡	423			○								昭和36年航空写真。古墳？
58	玉村町No. 465遺跡	465										○	平成元年度玉村町教育委員会試掘調査
59	玉村町No. 434遺跡	434			○								
60	玉村町No. 436遺跡	436			○								小泉古墳群
61	玉村町No. 435遺跡	435			○								
62	玉村町No. 437遺跡	437			○								昭和36年航空写真
63	玉村町No. 438遺跡	438			○								
64	玉村町No. 439遺跡	439			○								
65	玉村町No. 440遺跡	440			○								
66	玉村町No. 441遺跡	441			○								昭和36年航空写真。二本櫓古墳？

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
67	小泉大塚越遺跡	454			○						○	○	平成6年・12年度玉村町教育委員会発掘調査
68	玉村町No. 466遺跡	466										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
69	玉村町No. 467遺跡	467										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
70	小泉長塚遺跡	455					○				○	○	平成2年度玉村町教育委員会発掘調査
71	玉村町No. 442遺跡	442			○								昭和36年航空写真、小泉古墳群
72	玉村町No. 468遺跡	468										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
73	玉村町No. 469遺跡	469										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
74	玉村町No. 686遺跡	686										○	平成19年度玉村町教育委員会試掘調査
75	玉村町No. 470遺跡	470										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
76	五料関所跡	453										○	
78	玉村町No. 460遺跡	460										○	平成元年度玉村町教育委員会試掘調査
79	往来遺跡	535										○	平成7年・19年度玉村町教育委員会発掘調査
80	玉村町No. 459遺跡	459										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
81	玉村町No. 543遺跡	543										○	平成7年度玉村町教育委員会試掘調査
82	沖遺跡	562										○	平成10年度玉村町教育委員会発掘調査
83	稲荷木2号墳	491		○									昭和52年発掘調査
84	玉村町No. 458遺跡	458										○	平成元年度玉村町教育委員会試掘調査
85	玉村町No. 685遺跡	685										○	平成16年度玉村町教育委員会試掘調査
86	御道南遺跡	456		○					○			○	平成2年度玉村町教育委員会発掘調査
87	茶釜山古墳	400		○									
88	芝根村第12号墳	443		○									
89	芝根村第18号墳	444		○									昭和44年群馬大学発掘調査
90	川井稲荷山古墳	445				○	○						昭和43年群馬大学発掘調査
91	玉村町No. 499遺跡	499							○				
92	玉村町No. 497遺跡	497							○				平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
93	玉村町No. 462遺跡	462										○	昭和63年度玉村町教育委員会試掘調査
94	玉村町No. 463遺跡	463										○	昭和63年度玉村町教育委員会試掘調査
95	玉村町No. 473遺跡	473		○									
96	二ツ山古墳	448		○									芝根村第5号墳
97	芝根村第14号墳	449		○									昭和43年群馬大学発掘調査
98	芝根村第16号墳	450		○									昭和44年群馬大学発掘調査
99	芝根村第6号墳	475		○									川井古墳群
100	芝根村第15号墳	451		○									昭和44年群馬大学発掘調査
101	玉村町No. 476遺跡	476		○									昭和36年航空写真
102	玉村町No. 484遺跡	484						○	○				
103	玉村町No. 481遺跡	481										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
104	玉村町No. 474遺跡	474		○				○	○	○	○		平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
105	玉村町No. 479遺跡	479		○									平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
106	玉村町No. 477遺跡	477		○									
107	玉村町No. 478遺跡	478		○									昭和36年航空写真
108	玉村町No. 480遺跡	480										○	平成3年度玉村町教育委員会試掘調査
109	玉村町No. 464遺跡	464										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
110	玉村町No. 452遺跡	452		○									
111	玉村町No. 472遺跡	472										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
112	玉村町No. 615遺跡	615	○									○	平成13年度玉村町教育委員会試掘調査
113	玉村町No. 482遺跡	482										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
114	玉村町No. 485遺跡	485						○	○				
115	玉村町No. 483遺跡	483										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査
116	玉村町No. 486遺跡	486		○				○	○				
127	玉村町No. 471遺跡	471										○	平成2年度玉村町教育委員会試掘調査

た傾向は西接する玉村町域に於いても同様である。これは当該地域にロームの遺存が極めて限定的で、往時に於いて土地が安定していなかったためと考えられる。

第4図に示した範囲では本遺跡の西方、伊勢崎台地上の伊勢崎市太田町の喜多町遺跡(3)で前・中期の竪穴住居、同町タネンブチ遺跡(6)と同市上之宮町の宮柴遺跡(23)で縄文時代中期の土器片等が得られている。玉村町五料では後・晩期の土器片が採集されている。

【弥生時代】

弥生時代に至っても遺跡分布の希薄な状態に特段の変化はなかった。

第4図中では、伊勢崎市西太田遺跡(12)で中・後期の遺物が得られているが、同遺跡では茨城県の十王台式土器が出土している。

【古墳時代】

こうした前時代までの遺跡分布状態に対して、古墳時

表1-2 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
A	那波城									○			
B	上ノ宮要害									○			
C	小泉城									○			
D	雉子屋敷									○			
E	今村環濠遺構群										○		
F	今村城									○			
G	川井河岸										○		
H	新河岸										○		
I	五料河岸										○		
①	東山道駅路							○	○				牛堀・矢ノ原ルート
②	鎌倉街道									○			
③	例幣使街道										○		
④	例幣使街道脇往還										○		
⑤	佐渡奉行街道										○		

代になると遺跡数は著しく増加する。その増加は前橋台地上(第4図左寄り)や伊勢崎台地上(同右上方)に顕著であるが、利根川低地帯及び河成段丘上の地域では旧中洲や利根川の旧流路に挟まれた微高地上に集落が営まれ、その数は多くないものの、本遺跡(1)や宮柴遺跡(23)などに集落が確認されている。尚、利根川低地帯以西の地域に周知の遺跡が少ないことについては従来利根川の変流によって集落が流出した可能性や利根川の流路が一定しなかったため安定した生産基盤が求めにくかったなどの要因が考えられていた(伊勢崎市1987)が、本遺跡で1m数十cm、本遺跡西方の利根川の対岸に当たる下之宮高俣遺跡(31)で3m厚の堆積層が遺跡を被覆していたことに鑑みれば、一定量の遺跡地が包蔵されている可能性が想定される。

このうち前期の集落は本遺跡(1)や伊勢崎台地上の伊勢崎市喜多町の喜多町遺跡(3)、前橋台地上の玉村町の下之宮高俣遺跡(31)で確認され、中期の集落は伊勢崎台地上の喜多町遺跡(3)や伊勢崎市太田町の西太田遺跡(12)、前橋台地上の玉村町小泉の小泉長塚遺跡(70)で確認されている。後期の集落は伊勢崎台地上の喜多町遺跡(3)や西太田遺跡(12)の他、河成段丘の微高地上に立地する本遺跡(1)や本遺跡の西方に在る伊勢崎市上之宮町の東上之宮遺跡(24)で確認されている。尚、本遺跡では6世紀初頭の榛名山噴火に伴う火山灰で被覆した畠跡が確認されているが、その後の榛名山系からの泥流に被覆された畠跡も確認されている。

また古墳は、前橋台地上の玉村町小泉の利根川沿いの小泉古墳群(60・71)、烏川沿いの同町川井(旧芝根村域)の川井古墳群(88・89・97～100)や、伊勢崎台地上の伊

勢崎市安堀町の御富士山南古墳群(11)、河成段丘上の伊勢崎市稲荷町の稲荷山古墳群(27)、同市東上之宮町の若宮古墳群(25)、同市今井町の真光寺古墳群(15)といった古墳群が分布する。また発掘調査された古墳のうち中期古墳では玉村町川井の川井稲荷山古墳(90)(芝根村7号墳、「松塚」とも称す)の新旧2段階のうち三角縁神獣鏡を出土した旧段階の古墳や、同じく川井の芝根村(漏)第16号墳(98)、後期古墳では単鳳環頭大刀などの出土した玉村町小泉の芝根小学校建設に伴って発掘調査された小泉大塚越遺跡(67)内の大塚越古墳、また群集墳では玉村町川井の芝根村第15号墳(100)、同18号墳(89)がある。

【奈良・平安時代】

律令期に入ると集落遺跡が前橋台地、伊勢崎台地に集落を展開するが、本遺跡(1)や東上之宮遺跡(24)内の東上之宮本郷遺跡(24)など河成段丘、広瀬川低地帯にもその広がりが確認される。

また平安時代末期の天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴う軽石で被覆した水田址や畠跡が玉村町地域を中心に確認されている。前橋台地の地域を中心として、現代に至るまで広く条里方眼に依拠するとみられる東西南北走行の地割が確認されており、これらの遺構群もこうした条里制に基づいた土地区画の元に耕作されていた。しかし一方で、実際の遺構は土地の傾斜方向である南東方向にも配慮されたものとなっており、細部に於いては条里制に基づいた土地区画を施しながらも、これと自然地形とを折衷した区画割がなされていることも確認されている。

さて律令期に入って本遺跡付近は変流前の利根川右岸、利根川支流の烏川左岸に在って、那波(なわ)郡に属することになったが、平安時代の「倭名類聚抄」に照らせ

ば、本遺跡東側に葦塚地名の残る荒東(にらつか)郷(里)か本遺跡の北東方向にその名を冠した神社の残る倭文(しどり)郷(里)に含まれていたと思慮される。また本遺跡の北方910m付近を東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)①が東南東方向に走っていたと想定されている。

【中世】本稿で述べる中世は浅間山の噴火で当地域が壊滅的被害を受けた天仁元(1108)年以降、天正18(1590)年の徳川家康の関東入封迄の間を指す。

天仁元年の浅間山噴火の時点で当地域は藤原姓の那波氏の勢力下にあったと想定される。噴火災害からの復旧で、玉村町内には玉村御厨が成立し伊勢神宮内宮御厨として荘園化され、第4図右上の広瀬川左岸の佐位郡域は佐位荘として仁和寺法金剛院領となっている。また本遺跡周辺を含む玉村御厨以外の那波郡域は国衙領のままであったが、ここには秀郷流藤原氏の一系が入って那波氏を称し勢力を持つこととなる。しかし藤原姓那波氏は源平合戦で平家に与して没落し、代わって大江姓那波氏が入って付近を治めたと見られるものの、周辺地域に鎌倉期の遺跡は確認されていない。尚、現在の利根川の対岸となる玉村町箱石・下之宮付近には推定鎌倉街道の一つが走行していた②と比定されている。

さて室町時代に入るとこの地域を大きな変化が本遺跡周辺を襲う。利根川の西遷である。15世紀初頭まで利根川伊勢崎台地縁辺の現在の広瀬川付近を流れていたが、応永34(1427)年に起きた大洪水を契機として利根川が現位置に変流したものである。この変流は榛名山水系の中小河川を介して行われており、応永34年だけで完了したとする所見もあるが、報告者は完全な利根川西遷は16世紀末頃まで掛ったのではないかと考えている。本遺跡調査区の西端近くでは利根川西遷の影響が大規模な流水の痕跡も見られた。

この時期の本遺跡周辺の遺跡は少ないが、前橋台地や河成段丘の旧中洲の上に那波氏の居城と目される那波城(A)、その枝城と見られる今村城(F)、鎌倉公方足利成氏と環頭管領山内上杉房顕が争った享徳の乱中の康政2年に足利成氏に攻略された上ノ宮要害(B)がある。また本遺跡(1)でも室町時代後半期の屋敷遺構が調査され、現利根川の対岸に在る下之宮高俣遺跡(31)では虎口を城塞化した15世紀段階の1町以上の館址が発見、調査されている。

【近世】近世にあって本遺跡付近は概ね前期に厩橋藩(後に前橋藩)領、その後は伊勢崎藩領となっている。領主は雅楽頭酒井氏であり、酒井氏の伊勢崎藩は前橋藩、後に姫路藩の枝藩的性格を持っていた。

本遺跡の1.5km南には日光例幣使街道が通り、現在の五料橋の南寄りに利根川を渡る渡船場があった。その玉村町側には五料の関所(I)や五料宿、水運に係る五料河岸があった。一方対岸の伊勢崎市側には芝宿があり、この芝宿から北に折れて日光例幣使街道の脇往還が伸びるが、そのルートは現在の県道104号駒形柴町線に半ば重なっていて、本遺跡西端をかすめている。

本遺跡周辺は田中、葦塚、阿弥大寺といった集落名を冠する村があって、居住域と耕作地の関係も近代までと大きな変化はなく、水田耕作を中心とした耕作が行われていたようである。

一方、調査遺跡は天明3(1783)年の浅間山噴火に伴う被災関連遺跡が殆どである。本遺跡付近にも降灰や軽石の降下があったが、特に玉村町域では軽石で被覆した耕作跡が広い範囲で発掘されており、利根川や烏川に近い区域は泥流被害もあったため、ときに1m厚の泥流で被覆した耕作地跡が分布し、下之宮高俣遺跡(31)では屋敷跡も発見され、同遺跡や近接する下之宮中沖遺跡(30)では耕地復旧のための天地返しを行ったときの溝・土坑群も見られた。また後者ではこれに先立つ寛保2(1742)年のものと見られる耕地復旧溝群も確認されている。

〔参考文献〕

- 伊勢崎市(1987)『伊勢崎史 通史編 1 原始古代中世』
- 群馬県(1991)『群馬県史 通史編 5 近世2』
- 群馬県教育委員会(1978)『日光例幣使街道』
- 群馬県教育委員会(1983)『鎌倉街道』
- 群馬県教育委員会(1983)『日光への脇往還』
- 群馬県教育委員会『群馬県文化財情報システム』
- <<http://www2.wagamachi-guide.com/gun>> 2012年4月1日参照
- 群馬県立歴史博物館(2001)『古代のみちーたんけん! 東山駅路ー』
- 玉村町教育委員会(1992)『玉村町の遺跡』
- 玉村町誌編集委員会(1992)『玉村町誌 通史編 上巻』
- 中澤貞治(1988)「伊勢崎市における考古学研究の動向」『伊勢崎市史研究6』109-136、伊勢崎市史編さん専門委員会
- 前橋市(1975)『前橋市史 第三巻』

第Ⅲ章 調査の方法と 遺跡の概要

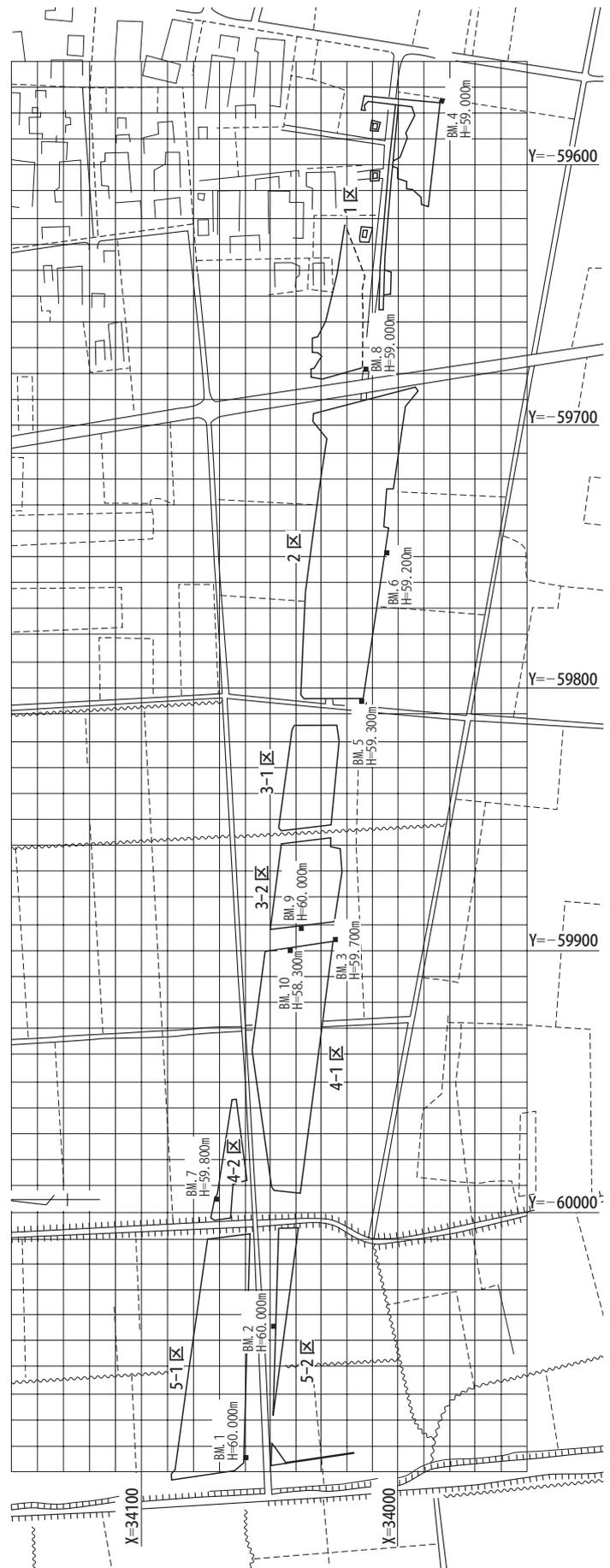
1 調査の方法

(1) 調査区及びグリッドの設定

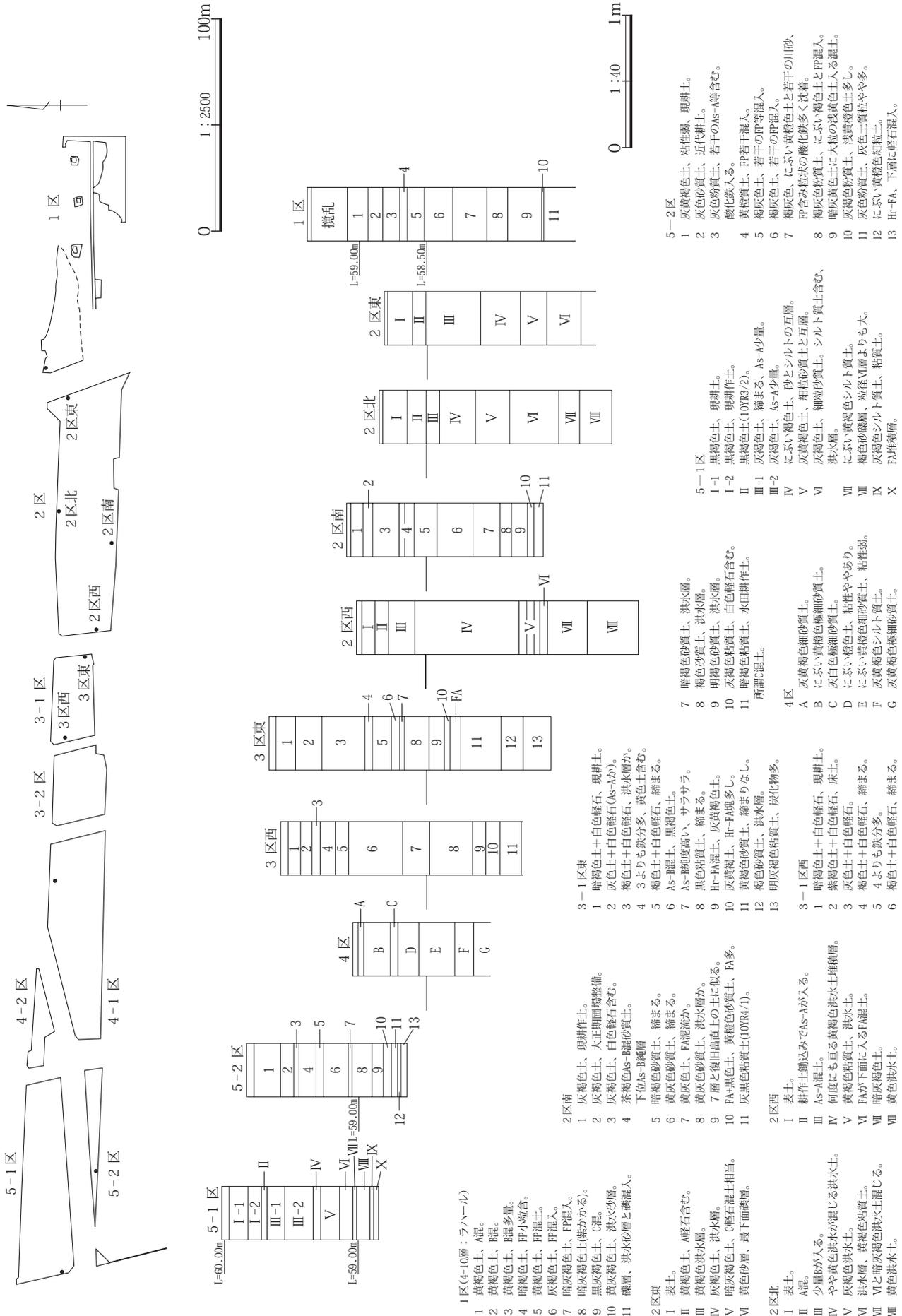
本遺跡では凡そ100m毎に設置される南北走行の舗装された公道或いは幅50cm以上の水路に区画される区画によって1～5区と呼称する調査区を設定した(第5図)。尚、高崎伊勢崎線(葦塚工区)は西側を起点としているため、本来は東から区番号を付すべきであったが、同じ東毛幹線道路関連事業で西接する国道354号高崎玉村バイパス・同玉村伊勢崎バイパス事業に係る文化財調査が全線を包括する日本測地系に基づくグリッド設定を行ない、それに伴って区呼称も東側より行っていたためこれに準拠し、本遺跡も東より順次呼称することとしたものである。

また、3～5区は東西走行の公道、或いは小型の水路で画されていたため、3区は南北走行の小水路と畦道によって区画される東側を3-1区、西側を3-2区とした。また4・5区は東西走行の公道で区画されていたが、それぞれ面積の広い区画を上位として4区は南側を4-1区、北側を4-2区、5区は逆に広い北側の区域を5-1区、南側を5-2区とした。

グリッドは上述の国道354号バイパス関連遺跡で行った大中小のグリッド設定は行わず、東経139度50分、北緯36度0分を座標系の原点とする世界測地系による平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)IX系に基づく1m四方の区画を1単位として設定したが、その呼称は国道354号バイパス関連遺跡に準拠して南東隅の位置名称を以てグリッド名称とした。従って、例えば3-1区に在る「X=34030」・「Y=-59870」を東南隅とするグリッドであれば、その呼称は+ーに関係なくそれぞれの下3桁をハイフオンでつないだ「030-870」と表記した。ちなみに本遺跡はX=33985m・



第5図 阿弥大寺本郷遺跡調査区とグリッド(S=1/2500)



第6図 各区の土層堆積状況

Y=-59575m ~ X=34085m・Y=-60100mの範囲内に在るので、記載されるグリッド名称は985 ~ 085-575-100の範囲内に限られている。

(2) 基本土層

前述したように、本遺跡は河成段丘上に立地しており、更に古墳時代から中世にかけても度々洪水被害を受けているため、堆積土層の形成過程は複雑で、同一区内に在っても位置によって土層の状態は一様ではなかった。従って、第6図に示したように観察された土層の実測図も地点々々で分層数やその記載記述内容に違いのあるものであった。従ってここでは自然堆積層を平均化したものを以て標準土層(第7図)として記すこととする。

尚、4区西部から5区東部にかけては古墳時代の谷地形が形成され、5区北部では中世後期の利根川の変流時のものの可能性のある砂利層の厚い堆積も認められた。加えて5区を中心に褐灰色砂(10YR6/1)による噴砂痕も見られた。

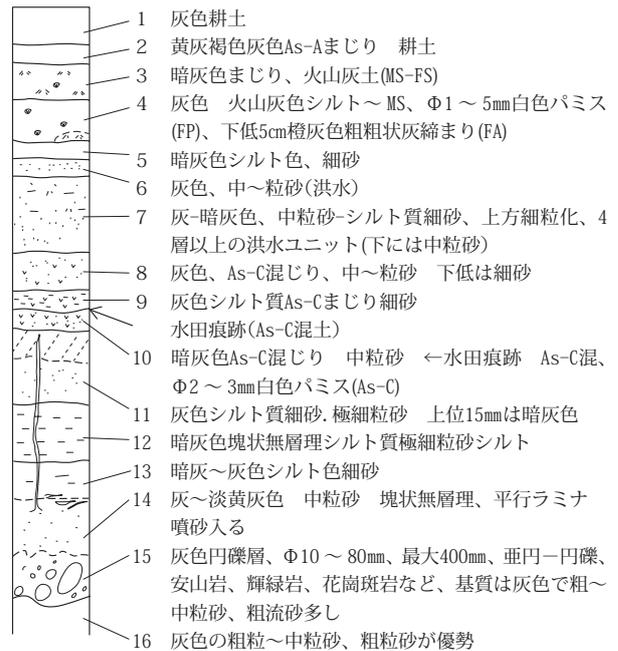
【I層】表土であり、褐灰色を中心とする暗色系の色調をなした土壌である。全体にふかふかした砂質土で、下位に乾田耕作に伴う酸化鉄凝縮層などがみられる箇所もあった。近現代の土層である。

【II層】I層よりはやや明るい灰褐色、調査区東部では黄褐色を呈する砂質の土壌であり天明3(1783)年の浅間山の噴火に伴って降下したAs-A軽石を混入する。概ね江戸時代後期から近代にかけての土層である。

【III層】灰褐色や褐色を呈する。やや砂質で砂礫を含むものもあり、2~3層以上に分層可能な洪水層土壌群である。主に3区以西に確認され、1・2区では確認されない。時期は中世から近世中期と幅広く、時期的に中世の利根川西遷に絡む土層の残存も考慮される。

【IV層】灰黄褐色、黒褐色などを呈し、As-B軽石を混入する。3区以東に明瞭で、西部ではやや不明瞭である。As-B降下後中世までの層と認識するが、III層が洪水の影響があったとみられることから、或いは利根川の変流の初年とされる応永34(1427)年頃までとできると思われる。

【V層】天仁元(1108)年の浅間山の噴火に伴って降下したAs-B軽石層。遺存状態は良好とはいえず、2~4区で確認されている。



I	褐灰色土(10YR4/1) : 現耕土
II	灰褐色土(7.5YR4/2) : As-A混入
III	灰褐色土(7.5YR5/2)
IV	灰黄褐色土(10YR4/2) : As-B混入
V	As-B
VI	黒褐色粘質土(10YR3/1)
VII	褐灰色土(7.5YR5/1) : Hr-FA混入
VIII	にぶい橙色土(7.5YR6/4) : Hr-FA混入
IX	Hr-FA(黄褐色土 : 10YR7/6)
X	褐灰色粘質土(10YR5/1)
XI	黒褐色土 : As-C混入
XII	灰褐色細砂質土(7.5YR5/2) : 洪水層
XIII	砂礫層



第7図 4-1区の土層堆積状況と標準土層

【VI層】黒褐色粘質土だが、4区では褐灰色を呈する。天仁元年段階の表土層土である。上限は不明だが、噴砂が現れないので平安時代後期の所産と想定される。

【VII層】褐灰色等の淡い色をなし、1区では黄褐色を呈す。Hr-FAを混入する。川砂等を含み4層以上に分層が可能な箇所もある。榛名山系起源の洪水層群と見做される。

尚、VII層は下位のVIII層と明確に区分しにくい場合が多く、Hr-FAが目立つものの、Hr-FA降下後から平安時代までの層として一括して把握できるものである。

【Ⅷ層】にぶい橙色土で1区では黄褐色や灰褐色を成す。4層以上に分層可能な箇所があり、粘質土、砂質層土などが含まれる。榛名山系から発した洪水層群と見做される。

Ⅷ層の項で述べたようにⅦ層とⅧ層は明確に分離できるものではない。

【Ⅸ層】H r - F A 火山灰層である。色調は黄褐色、あるいはにぶい橙色を呈する箇所もある。6世紀初頭頃に榛名山ニッ岳の噴火で噴出した火山灰である。

【Ⅹ層】褐灰色粘質土で色調の暗いものもあるが、H r - F A 降下時の表土層土である。概ね5世紀の土壌と判断される。

【Ⅺ層】A s - C を含んだ黒褐色・暗褐色を呈する土壌で、所謂「C混黒」と呼ばれる土壌である。A s - C 降下後の4・5世紀の土壌と認識される。

【Ⅻ層】細かい分層が可能である。灰褐色や灰黄色などを呈する土層群で、細砂質のものが多く、砂層も含まれる。時期は弥生時代以前とできるだけ不特定。

【Ⅼ層】砂礫層。本遺跡の基盤層と言える層で、完新世の利根川流路に関連するものと推定される。

尚、4区西部から5区東部にかけては古墳時代の谷地形が形成され、5区北部では中世後期の利根川の変流時のものの可能性のある砂利層の厚い堆積も認められた。また2・5区を中心に褐灰色砂(10YR6/1)による噴砂痕も見られた。

(3) 調査面

試掘調査によって示された遺構確認面は区によって異なるが全体としてはA s - B 下面とH r - F A 面の2面であった。その後その中間層や下位層での遺構も確認されてきたため、特に1～4区に於いては1)Ⅳ層上面(中世面)、2)Ⅵ層上(A s - B 下面)、3)Ⅵ・Ⅶ層中(古墳時代後期一律令期耕作層)、4)Ⅹ層上面(H r - F A 下面)、5)Ⅼ層上面(古墳時代前期)を設定した。

尚、Ⅵ・Ⅶ層面は3面程に分割されて調査されたケースがある一方、地点ごとに遺構の遺存状態に相違があるため、全ての調査面に対して調査が実施できた訳ではない(本節(2)基本層序参照)。

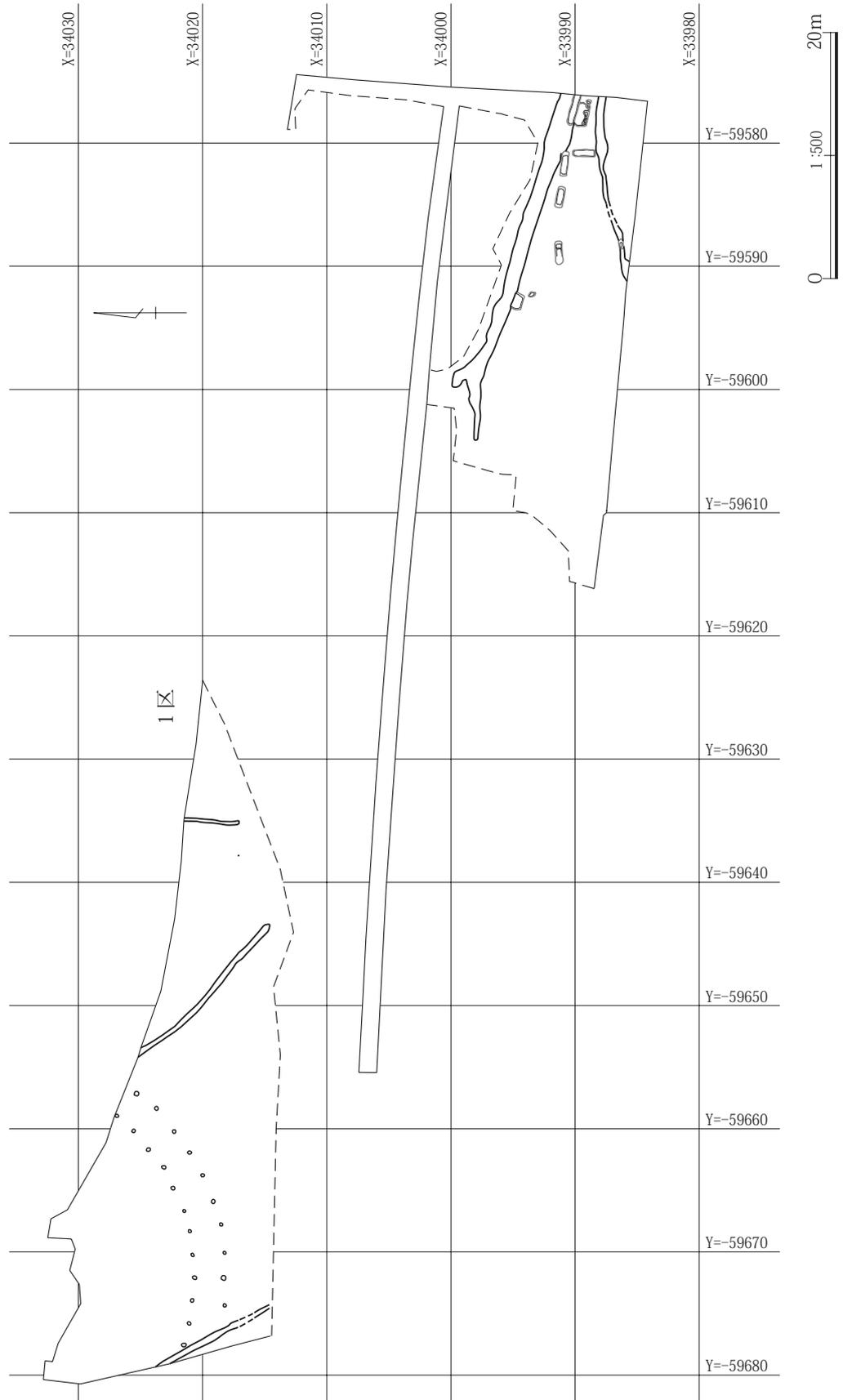
(4) 発掘調査方法

各面までは表土層或いは間層を建設機械(バックホー)を用いて掘削し、人力にて遺構確認面の表出や火山テフラや洪水層土を除去して遺構面の表出を行った。火山テフラや洪水層土で被覆したものを除く遺構は、その中央を基本に随時土層断面観察位置を設定し、掘削し、また遺構の半裁、ベルトの設定或いは湧水対策用の溝掘削に伴って土層観察を行った。

掘削した遺構は記録保存の資料とするため、適宜平・断面図の測量、或いはデジタル写真とブローニー版によるモノクロ写真撮影、及び空中写真撮影を実施した。

第IV章 中世の遺構と遺物

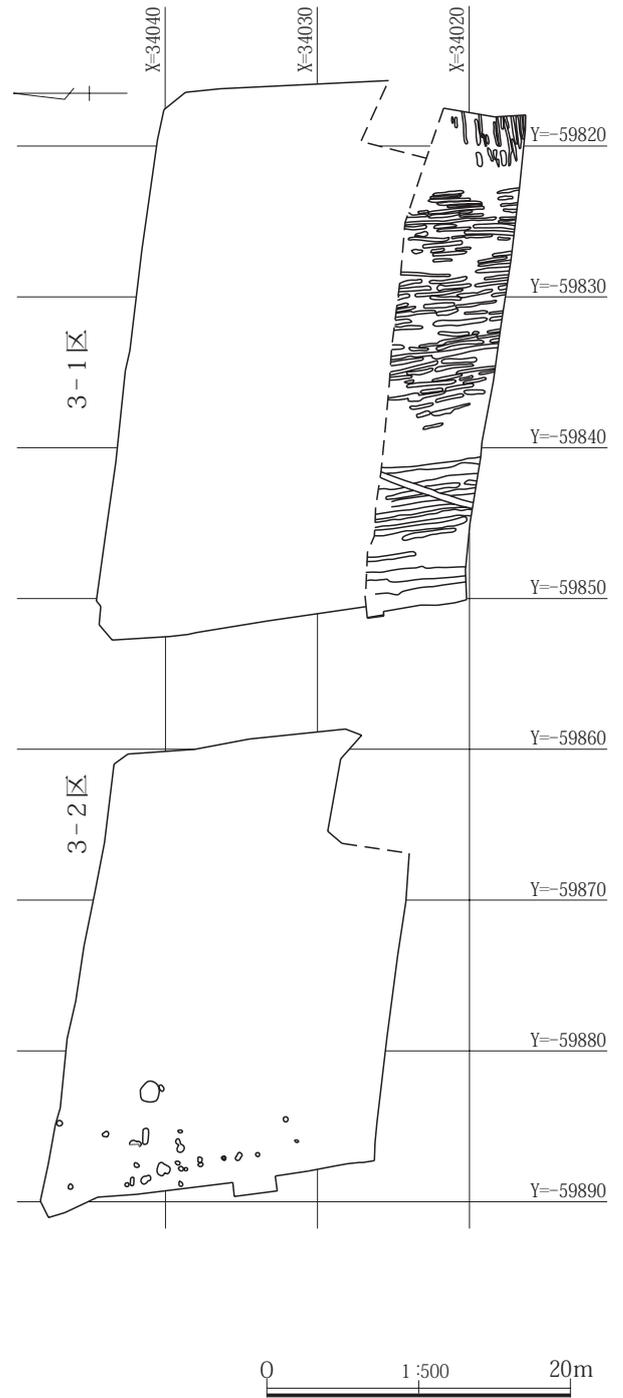
1 概要



第8図 1区1面全体図



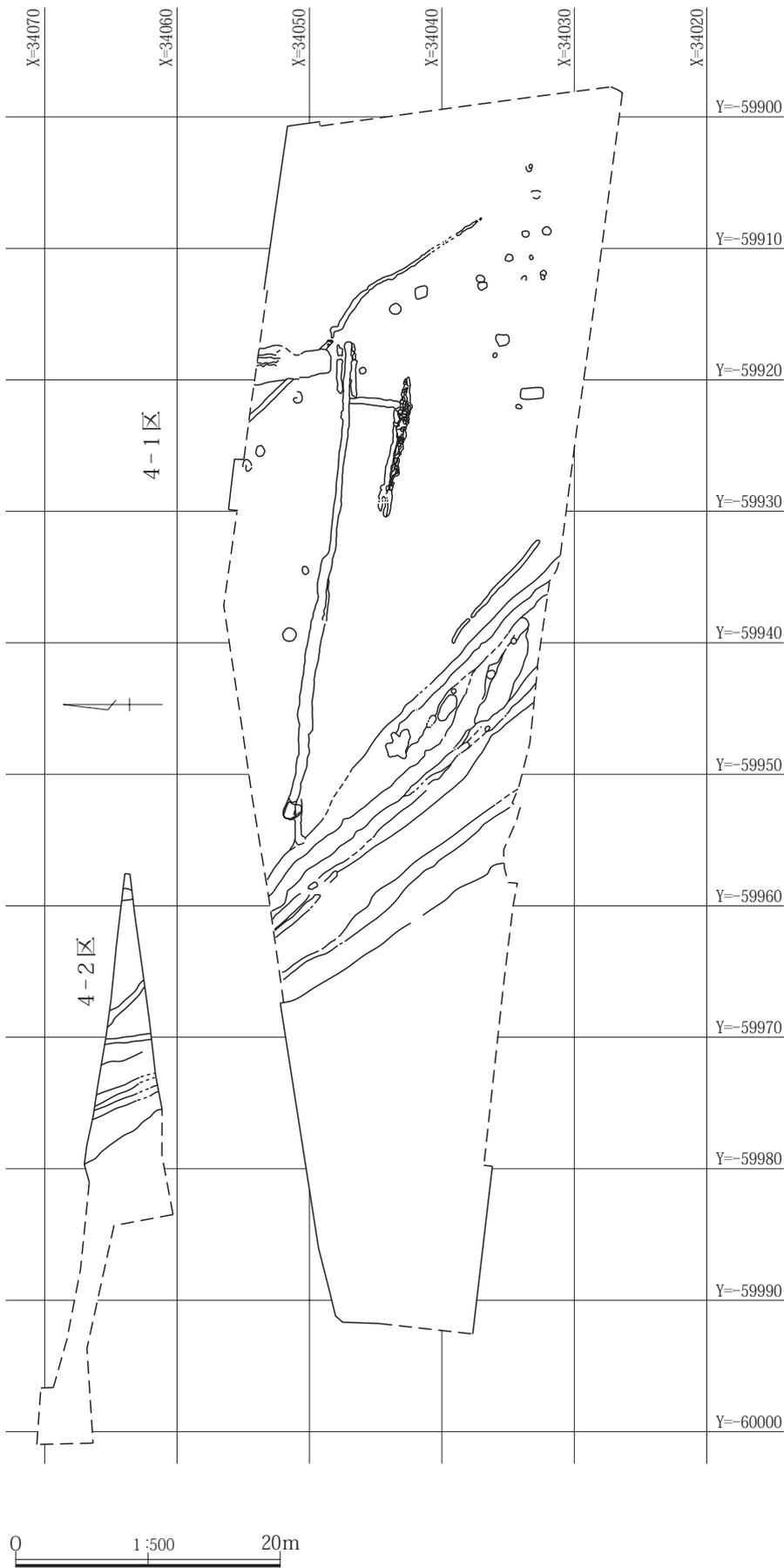
本遺跡では中世に属し、或いは中世を含む時期の所産の可能性を持つ遺構の分布が1～5区全体に見られた。このうち1区の中程と3区東半部、及び4区西部から5区にかけては低地部に、また他の区域は微高地であった。



第9図 2・3区1面全体図



1 概要

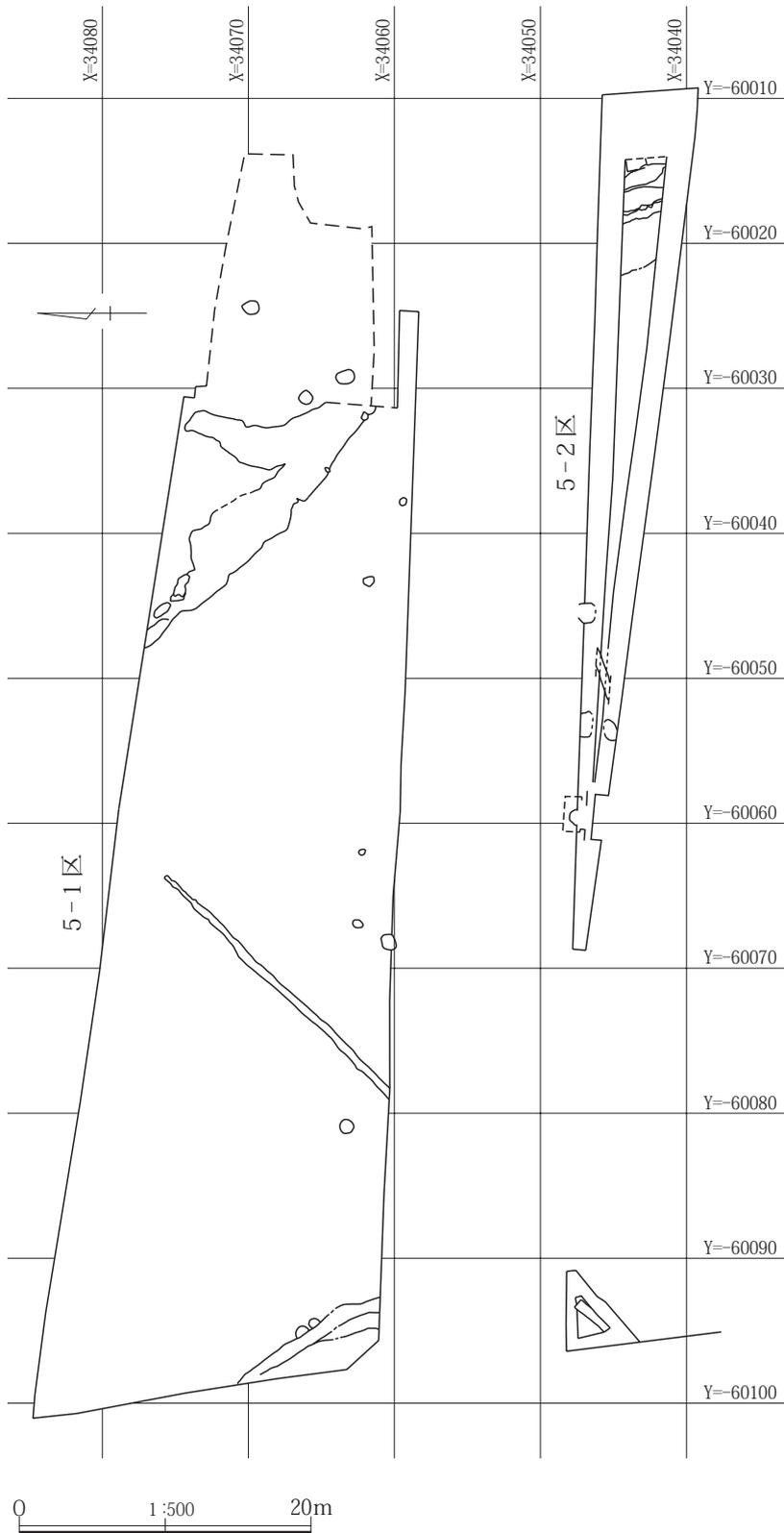


第10図 4区1面全体図

低地部のうち3区東半部には
 畠の跡が確認された。また4区
 西部の東側、微高地際には第87
 図に示した地籍図に描かれた用
 水堀の前身と見られる溝群が確
 認された。5区には比較的大型
 の薬研堀などの溝遺構や井戸な
 どが粗く分布していたが、5区
 の東部には河川跡があり、多量
 の砂礫が見られたことから、応
 永34年(1427)の洪水を契機とし
 て現在の広瀬川の位置から利根
 川の位置に変流した、利根川西
 遷の過程で埋没した可能性をも
 つ谷跡も確認された。尚、1区
 の低地部での遺構の検出は見ら
 れなかった。

一方、微高地では全体にピッ
 トや土坑や溝の分布もあったが、特に2区中・東部と3区西
 端部から4区南東部に遺構の集
 中域があった。

この中で2区では調査区内で
 コ字状に確認された堀(1号溝)
 を伴う屋敷遺構が確認された。
 この屋敷遺構は南辺が80m規模
 を測る大型の屋敷遺構で、第87
 図に示した地籍図では現れてこ
 ない未周知の遺構である。この
 屋敷遺構は東側に内堀が掘削さ
 れている。郭内の遺構は屋敷の
 東寄り3/5の区域に限定され、
 西寄り2/5の区域が広場とし
 て使用されたものと思慮され
 る。屋敷内に確認された遺構
 には竪穴建物、ピット、土坑、溝、
 井戸があるが、掘立柱建物を抽
 出することはできなかった。ま
 た溝には本屋敷に伴わないもの
 も確認されている。また外堀際



第11図 5区1面全体図

2.3mは遺構の分布が少なく、低土居の設置が想定されるが、塀を伴って屋敷内を圍繞していたものと想定される。

屋敷の時期は明確には捉えられなかったが、出土遺物から推して、凡そ室町時代の所産と想定される。

一方、外郭側では外堀の南縁の東側延長上に16号溝が掘削されており、外郭側の遺構はこの溝以南で16号溝の東端ライン以西から屋敷の中程までに集中して分布している。こうした分布範囲の限定は屋敷遺構に伴うものと判断されるもので、城下町的役割が屋敷南の区画には求められていたものと思慮される。

この分布域にはピットを中心に、土坑、井戸などの遺構の分布が見られたが、東部、中部、西部に分布域が分割されるまとまりのある分布が見られた。このうち東部と中部に遺構の多くが分布しており、ピット群からは中部で1棟、西部で2棟の掘立柱建物が抽出されている。尚、西側の2号掘立柱建物と近接する9号溝とは、その軸方向の違いから屋敷に直接関係しない可能性を持つ。

出土遺物は中国産の陶器や常滑産陶器甕片、或いは在地系土器の皿、片口鉢、内耳鍋などの土器・陶器片や、板碑、五輪塔などの石製品の出土も見られたが、4区の溝遺構からは延文二(1357)年銘の入った板碑片の出土もあった。

2 1区の遺構と遺物

(1) ピット群

1区のパット群(第12・13図 PL. 4)

概要 1区北西隅部には1~22号パットが分布する。

位置 表2に記した。

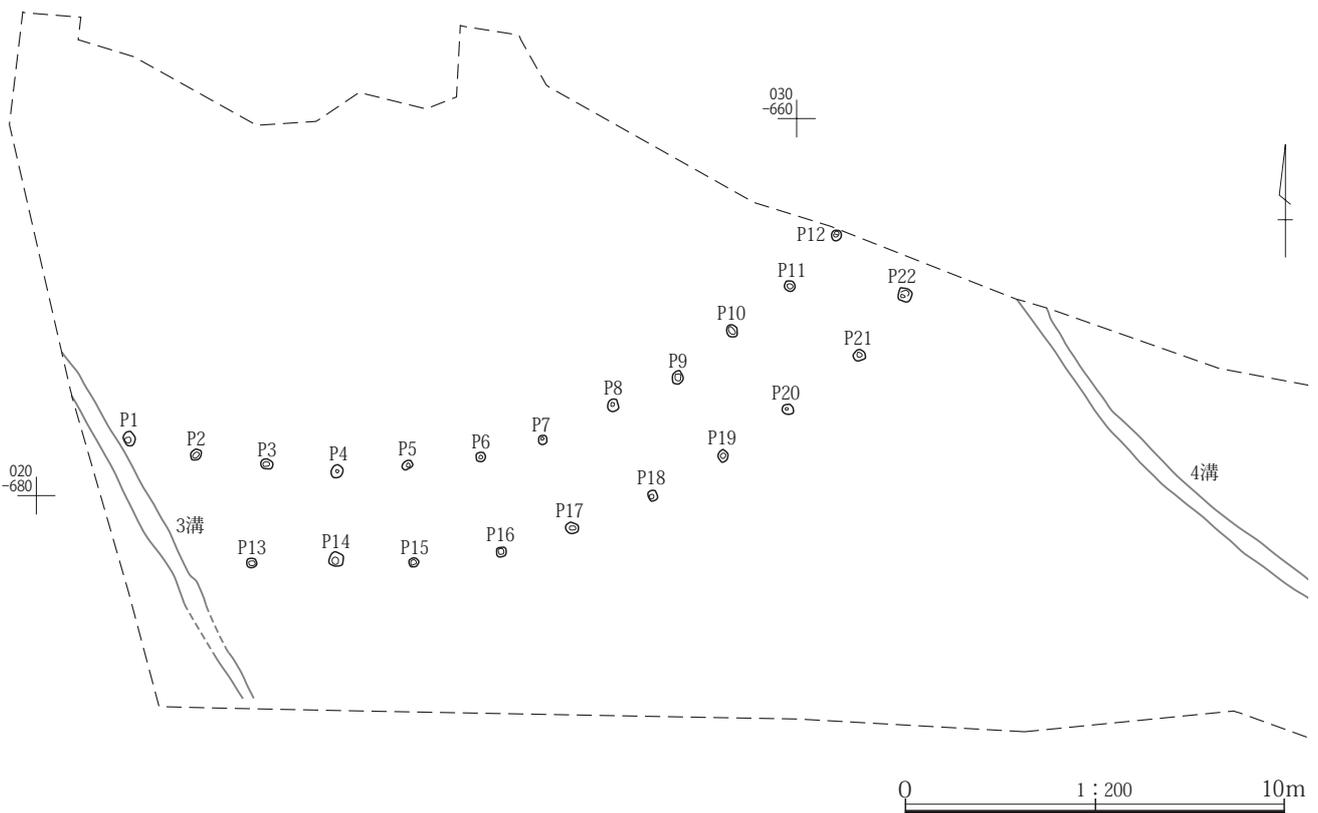
規模形態 表2に記載した。

この中では1~3・5・10号パットは楕円形、4・10・11号パットは円形のプランを呈する他は方形のプランを成しているが、何れも長短軸の比率は1に近い。

また掘削位置は1~12号パットを内側、13~22号パットを外側として、内側が半径16.25m程、外側が半径17.25m程の平行した弧状のライン上に掘削される。柱間は凡そ1間(1.8m)ほどである。

第2表 1区パット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	備考	挿図	写真
1	021-677	楕円	38×30×51		12.13	PL.4
2	020-675	楕円	29×28×36		12.13	PL.4
3	020-673	楕円	32×25×50		12.13	PL.4
4	020-671	円形	35×31×41		12.13	PL.4
5	020-670	楕円	28×21×48		12.13	PL.4
6	020-668	方形	23×23×39		12.13	PL.4
7	021-666	方形	25×23×39		12.13	PL.4
8	022-664	方形	33×30×63		12.13	PL.4
9	022-662	方形	36×30×35		12.13	PL.4
10	024-661	楕円	31×27×14		12.13	PL.4
11	025-660	円形	29×28×31		12.13	PL.4
12	026-658	円形	29×27×43		12.13	PL.4
13	018-674	方形	28×27×36		12.13	PL.4
14	018-671	方形	38×37×43		12.13	PL.4
15	018-669	方形	26×25×33		12.13	PL.4
16	018-667	方形	26×25×22		12.13	PL.4
17	018-665	方形	33×29×44		12.13	PL.4
18	019-663	方形	28×22×43		12.13	PL.4
19	020-661	方形	32×28×38		12.13	PL.4
20	022-660	方形	30×27×49		12.13	PL.4
21	023-658	方形	31×29×32		12.13	PL.4
22	025-656	方形	34×33×38		12.13	PL.4



第12図 1区パット群配置図

埋没土 何れのパットもA s - Bを含んでいる。

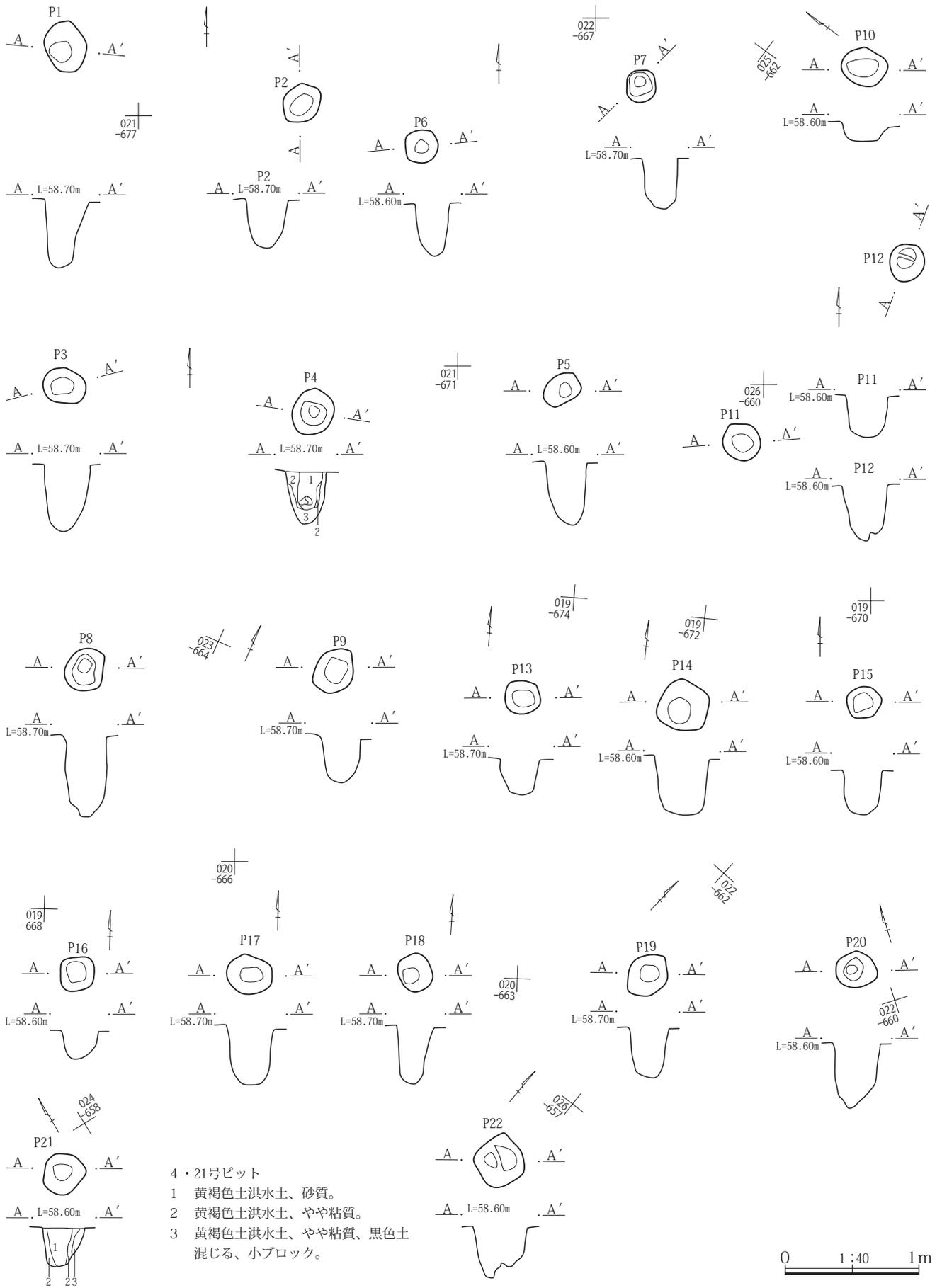
方位 表2に記した。

その他 上述のような掘削位置、規模から推して1~22号パットは一群のものとして捉えられる。

遺物 何れのパットからも出土遺物は見られなかった。

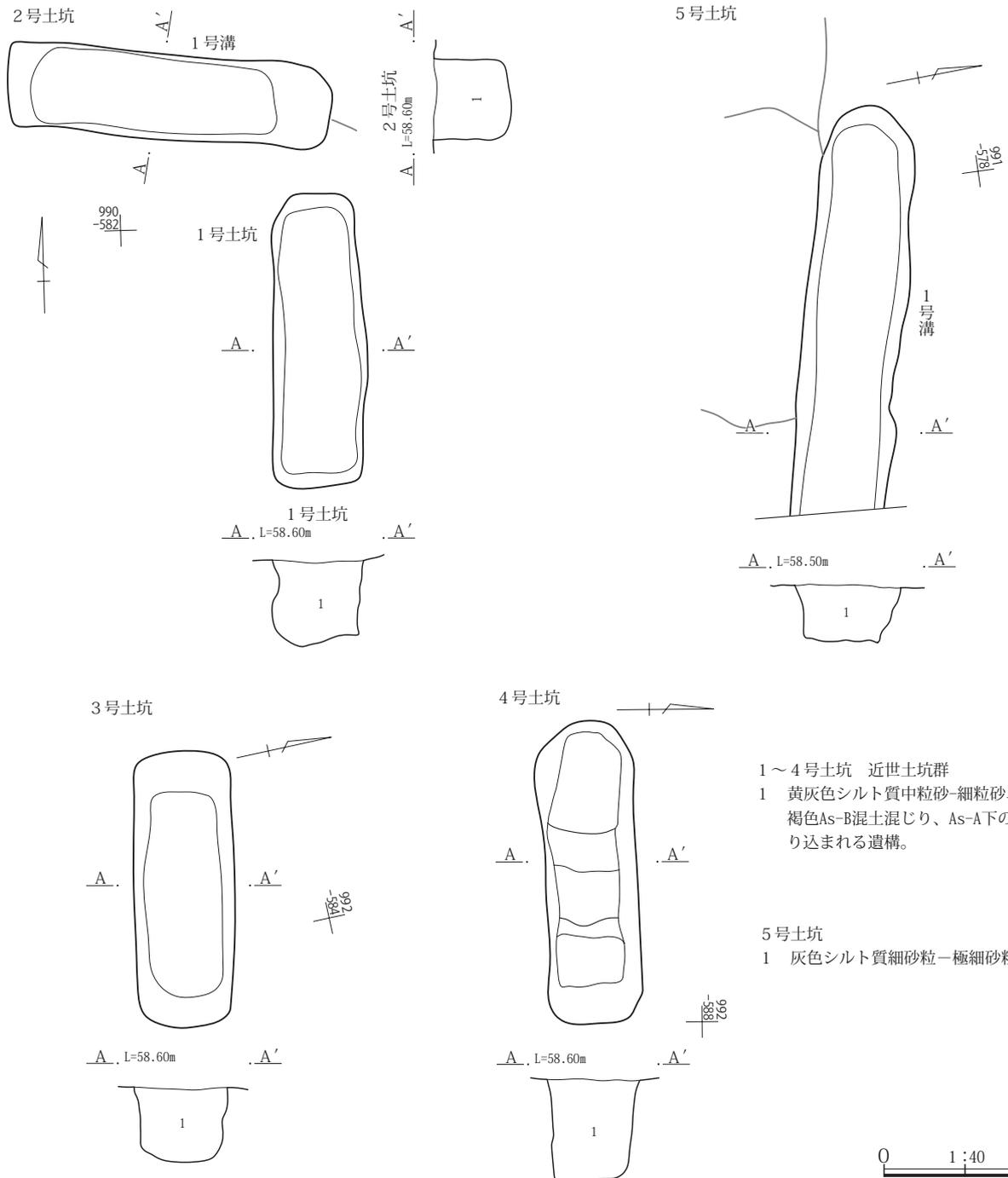
所見 上述のように1~22号パットは2列の弧状のプラン上に掘削されるもので、弧状の区画を画するものであるが、道路を示すものか、二重の柵を形成するものと思慮される。

第IV章 中世の遺構と遺物



- 4・21号ピット
 1 黄褐色土洪水土、砂質。
 2 黄褐色土洪水土、やや粘質。
 3 黄褐色土洪水土、やや粘質、黒色土混じる、小ブロック。

第13図 1区ピット群



1～4号土坑 近世土坑群
 1 黄灰色シルト質中粒砂-細粒砂、径10-30mm
 褐色As-B混土混じり、As-A下の耕土から切り込まれる遺構。
 5号土坑
 1 灰色シルト質細砂粒-極細砂粒。

第14図 1区土坑群

(2) 土坑

1区の土坑群(第14図 PL. 6)

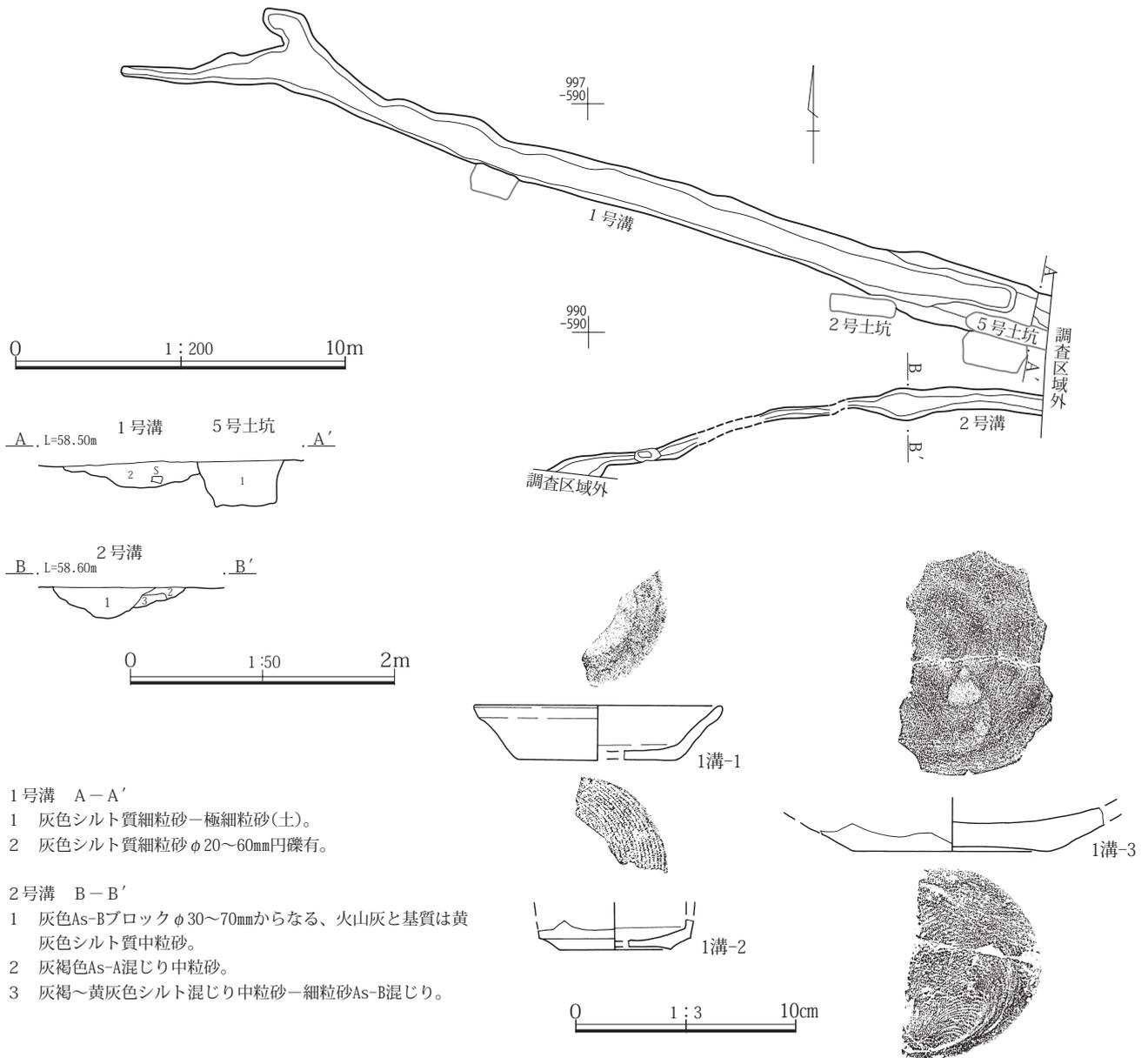
概要 1区には1区1～5号土坑の5基の土坑が在り、分布域は区の東端近くに限定される。

位置 表3に記した。

重複 表3に記した。

第3表 1区土坑一覧

No.	挿図 写真	位置 形状	長軸×短軸×深さ(cm)	遺物と埋没土	備考
			軸方向		
1	図14 PL-6	988-580G 隅丸方形	183×59×54 N-0°	黄灰色 シルト	
2	図14 PL-6	990-580G 隅丸方形	200×54×48 N-82° W	黄灰色 シルト	
3	図14 PL-6	990-583G 隅丸方形	172×63×51 N-78° W	黄灰色 シルト	
4	図14 PL-6	990-587G 隅丸方形	188×56×89 N-89° E	黄灰色 シルト	
5	図14 PL-6	989-576G 隅丸方形	[253]×61×39 N-75° W	灰色 シルト	1号溝と重複



1号溝 A-A'

- 1 灰色シルト質細粒砂—極細粒砂(土)。
- 2 灰色シルト質細粒砂 φ20~60mm円礫有。

2号溝 B-B'

- 1 灰色As-Bブロック φ30~70mmからなる、火山灰と基質は黄灰色シルト質中粒砂。
- 2 灰褐色As-A混じり中粒砂。
- 3 灰褐~黄灰色シルト混じり中粒砂—細粒砂As-B混じり。

第15図 1区1・2号溝および出土遺物

規模形態 表3に記載した。

この中では1~5号土坑は凡そ隅丸方形の細長いプランを呈し、箱形のしっかりした掘り込みを成している。

埋没土 何れの土坑もAs-Bを含んでいる。

方位 表3に記した。

その他 屋敷遺構など中近世に多い掘削形態を呈している。

遺物 何れの土坑からの出土遺物も見られなかった。

所見 何れの土坑も掘削形態と覆土から概ね中世の所産と判断されるが、細かい時期の特定はできなかった。

(3) 溝

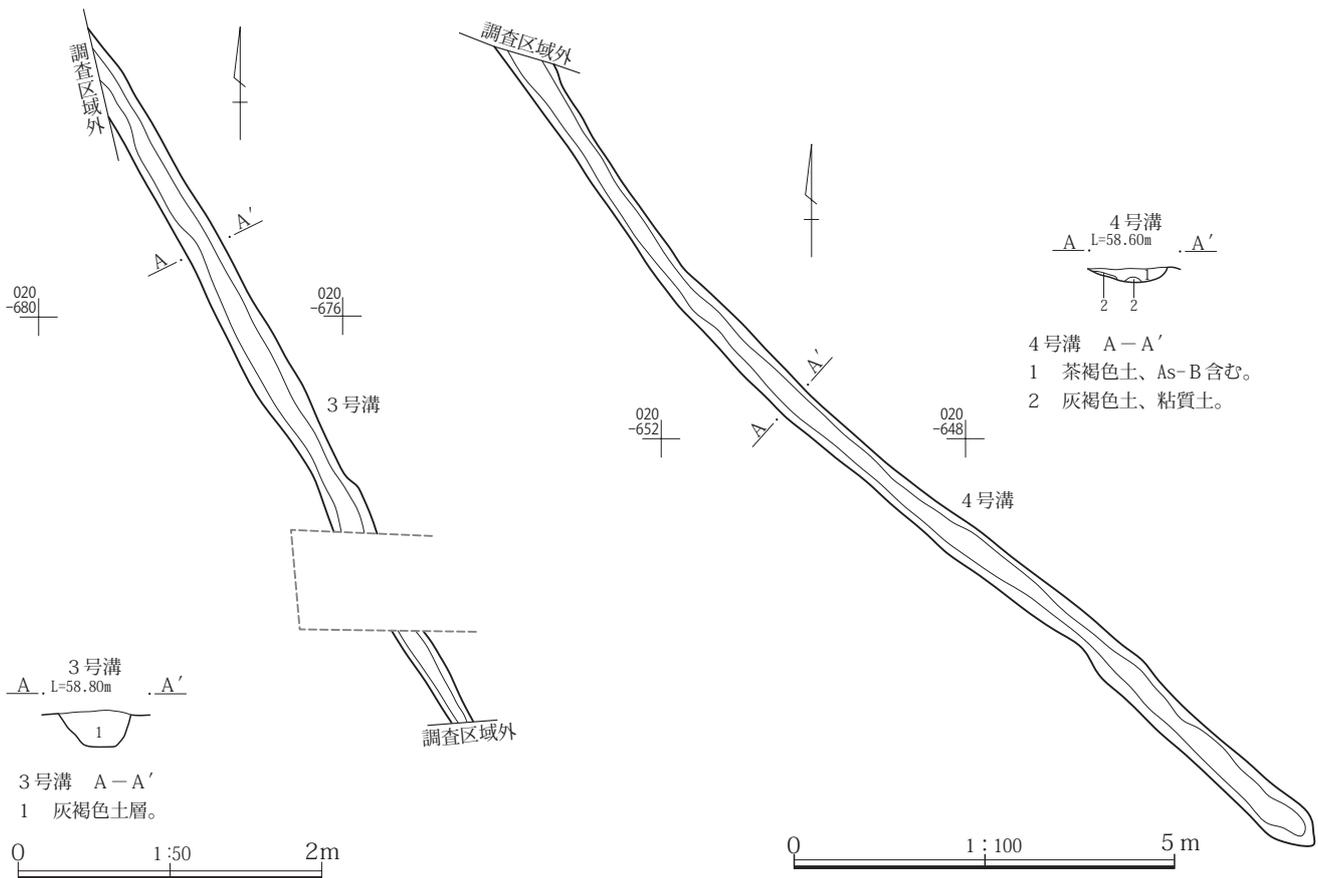
1区1号溝(第15図 PL. 11、59 遺物観察表402頁)

概要 本溝は1区北東部に位置する。凡そ西北西—東南東方向に走行するが、西端近くで北北西に短く分岐する。東側は調査区外に出ていて全容は把握できなかった。

位置 989~999-576~604グリッドに在る。

重複 1区2・5号土坑等と重複し、5号土坑には切られるが、2号土坑等との新旧関係は特定できなかった。

規模形態 直線的なプランを呈し、掘削形態は壁面の開く箱堀状を呈する。上述のように西端近くで北北西に短く分岐し、分岐点以西は狭くなって失われている。長さ



第16図 1区3・4号溝

29m、幅34～200cm、深さ20cmを測る。

埋没土 灰色シルト質土。

方位 N-89°W。N-70°W。

その他 流水の痕跡は確認できない。

遺物 中世と近世前期の在り系土器(1・3)や近世以降の陶器片(2)の出土が見られた。

所見 本溝の掘削意図等は特定できなかった。また時期は特定できなかったが近世以降の可能性を有する。

1区2号溝(第15図)

概要 本溝は1区北東部に位置する。凡そ西南西-東北東方向に走行するが、西側は調査区の南側に、東側は調査区の東側に出ていて全容は把握できなかった。

位置 985～988-576～591グリッドに在る。

重複 ピット1基と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模形態 北北西側に極緩やかに膨らむ弧状のプランを呈し、掘削形態は壁面の開く船底形を呈する。調査区内

の長さ14.69m、幅27～98cm、深さ25cmを測る。

埋没土 灰色土。一部As-Aも含むが、As-Bがブロック状に混入。

方位 N-76°E。

その他 流水の痕跡は確認できない。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の掘削意図等は特定できなかった。またその時期は近世後期以降の可能性を有する。

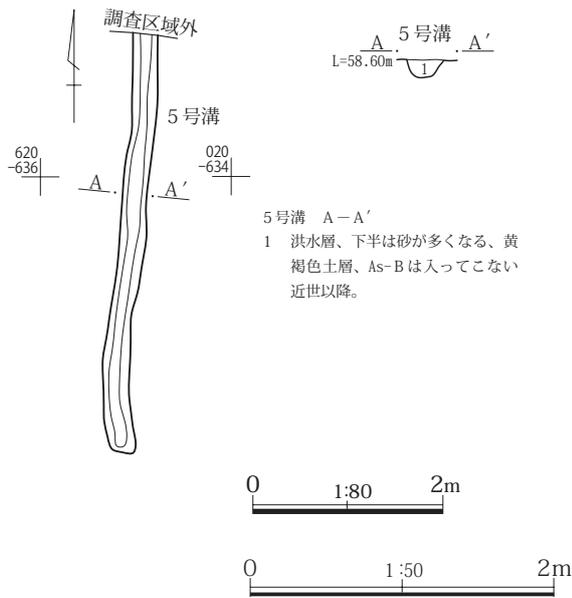
1区3号溝(第16図 PL.11)

概要 本溝は1区西端部に位置する。凡そ北北西-南南東方向に走行するが、北側は調査区外に出ており、南側は失われていて全容は把握できなかった。

位置 015～023-674～679グリッドに在る。

重複 本溝と他の遺構との重複は見られなかった。

規模形態 本溝は直線的なプランを呈し、掘削形態は箱堀状を呈する。長さ9.94m、幅30～60cm、深さ21cmを測る。



第17図 1区5号溝

埋没土 灰褐色土。

方位 N-30°W。

その他 流水の痕跡は認められない。

遺物 出土遺物は見られなかった。

所見 本溝の掘削意図は確認できなかった。また時期も特定できなかった。

1区4号溝(第16図 PL.11)

概要 本溝は1区中北部に位置する。凡そ北西-南東方向に走行するが、北側は調査区外に出ている全容は詳らかにできなかった。

位置 014 ~ 025-643 ~ 654グリッドに在る。

重複 本溝は何れの遺構との重複も見られなかった。

規模形態 南西側に緩やかに膨らむ弧状のプランを呈し、掘削形態は壁面の開く箱堀状を呈する。調査区内の長さ15m、幅56cm、深さ8cmを測る。

埋没土 灰色土。一部As-Aも含むが、As-Bがブロック状に混入。

方位 N-45°W。

その他 灰褐色土で、流水の痕跡は確認できない。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の掘削意図は不特定。時期は確認層位から概ね中近世以降とできるに過ぎない。

1区5号溝(第17図)

概要 本溝は1区中北部に位置する。南北方向に走行するが、北側は調査区外に出て全容は把握できなかった。

位置 017 ~ 021-635・635グリッドに在る。

重複 本溝と他の溝との重複は見られなかった。

規模形態 本溝は直線的なプランを呈し、掘削形態は箱堀状を呈する。長さ4.46m、幅22~30cm、深さ12cmを測る。

埋没土 黄褐色土で下半は砂が多くなる。

方位 N-4°E。

その他 砂が堆積し、流水の痕跡が認められる。

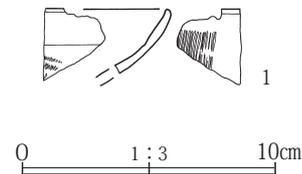
遺物 出土遺物は見られなかった。

所見 本溝は水路の可能性を有する。また時期は特定できなかった。

(4) 遺構外

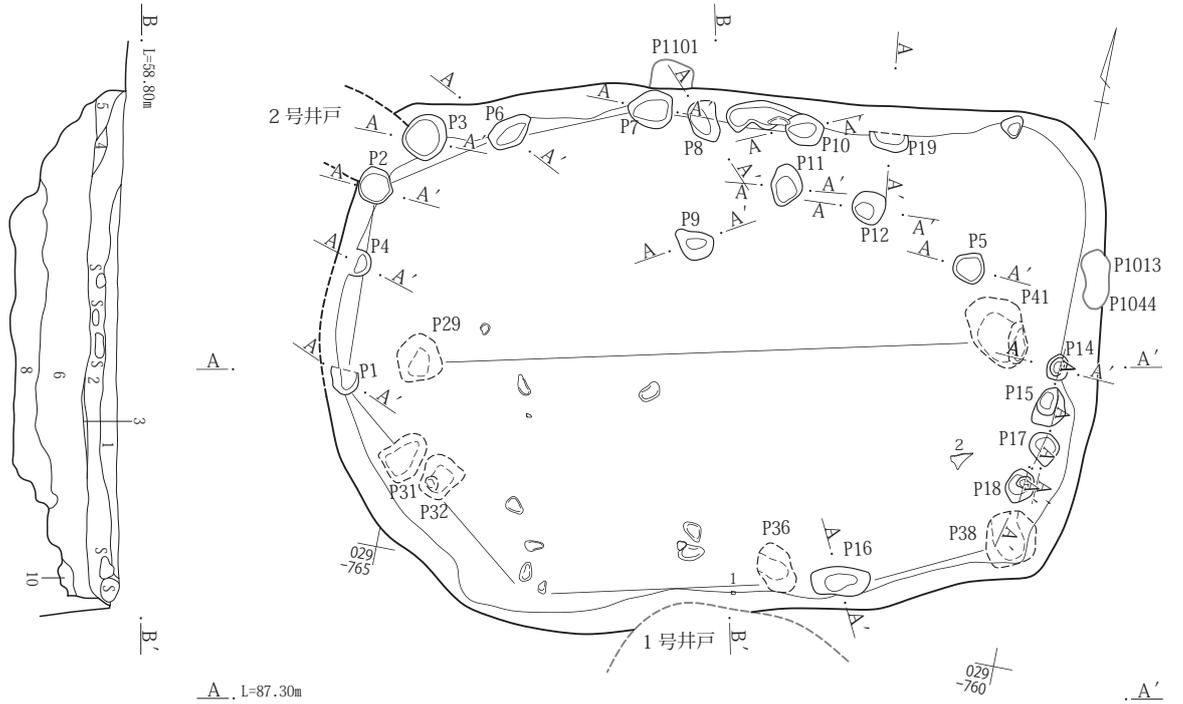
1区の遺構外の遺物(第18図 PL.59 遺物観察表402頁)

遺物 同安窯系青磁(1)の出土が見られた。



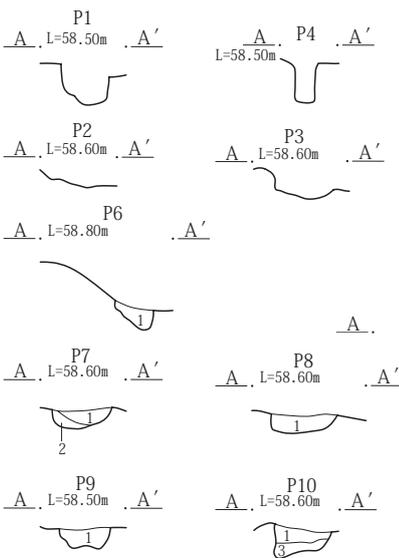
第18図 1区遺構外出土遺物

3 2区の遺構と遺物



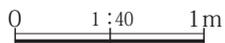
1号堅穴 A-A'・B-B'

- a 灰褐色As-B混じり中粒砂(19号土坑)。
- 1 灰褐色As-B混じりシルト質極細粒砂、上位5cmにAs-B多く褐鉄鉱汚染帯。
- 2 灰色シルト、上位層厚10~8mm、白色シルト、レイヤー、2層、φ10~40mmブロック状にAs-B混濁灰色ブロック。
- 3 黄灰色中粒砂混じりシルト(床?)。
- 4 黄灰色ブロック状。床上。
- 5 暗灰色As-B混じり砂(中粒砂)、1号堅穴に切られる。床上。
- 6 暗黄灰褐色、As-B混じり火山灰土ブロック混じり中粒砂-細粒砂、φ10~50mmMaxx80mm、黄灰中粒砂、褐色As-B混土ブロック角礫、細礫が多く基質は少量。床があったかも知れない、凸凹がある。
- 7 灰褐色As-B混じりシルト質中粒砂。
- 8 灰~灰褐色As-B混じりブロック土層(基質は中粒砂-細粒砂)、φ10~30mm角礫混。
- 9 灰色As-B混じり中粒砂-細粒砂ラミナ入る、シルト互層。
- 10 暗灰色シルトブロック含有中粒砂、下の暗灰色シルトの礫多し。

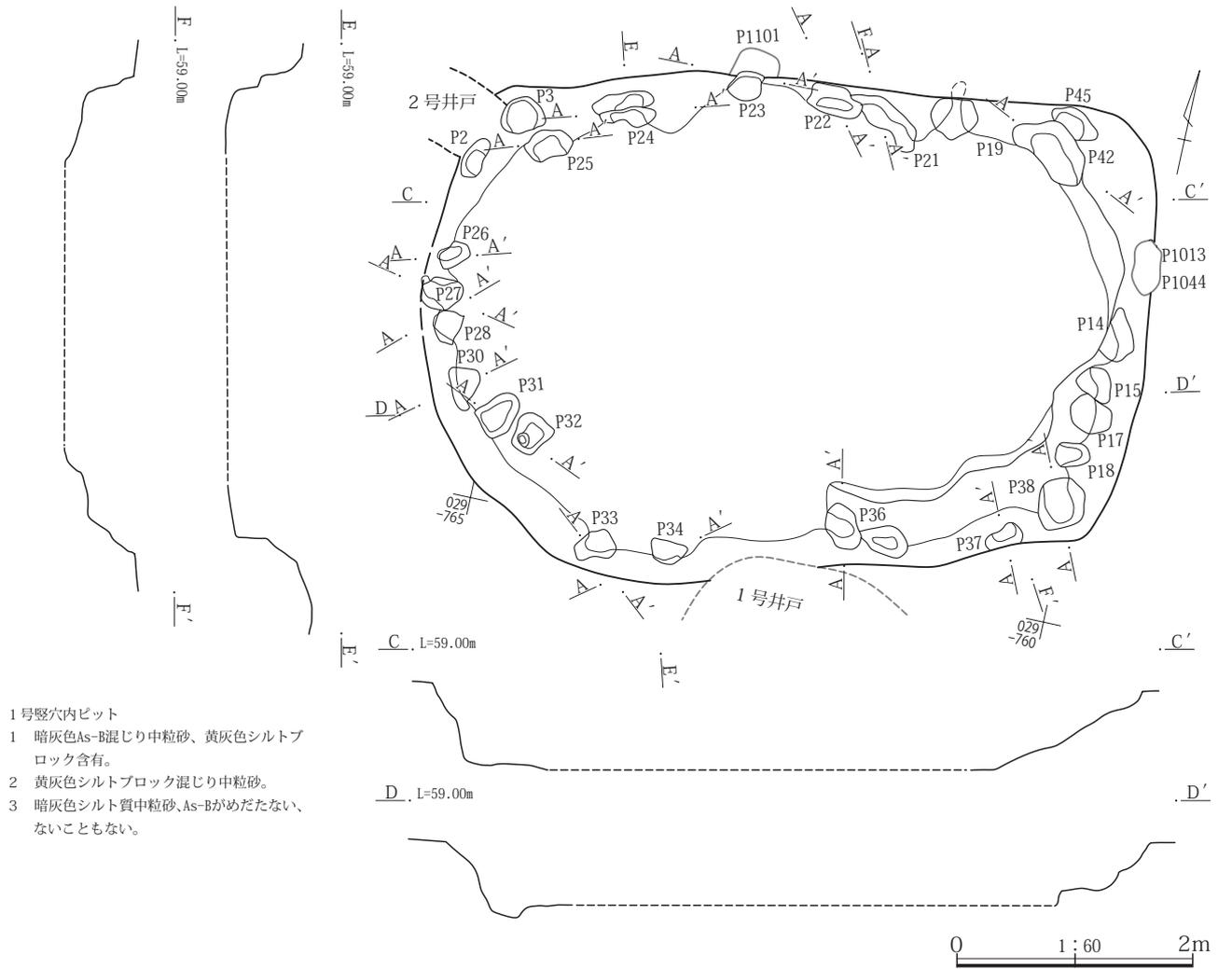


1号堅穴内ピット

- 1 暗灰色As-B混じり中粒砂、黄灰色シルトブロック含有。
- 2 黄灰色シルトブロック混じり中粒砂。
- 3 暗灰色As-B混じり中粒砂、φ10mm、黄灰色シルトブロック。

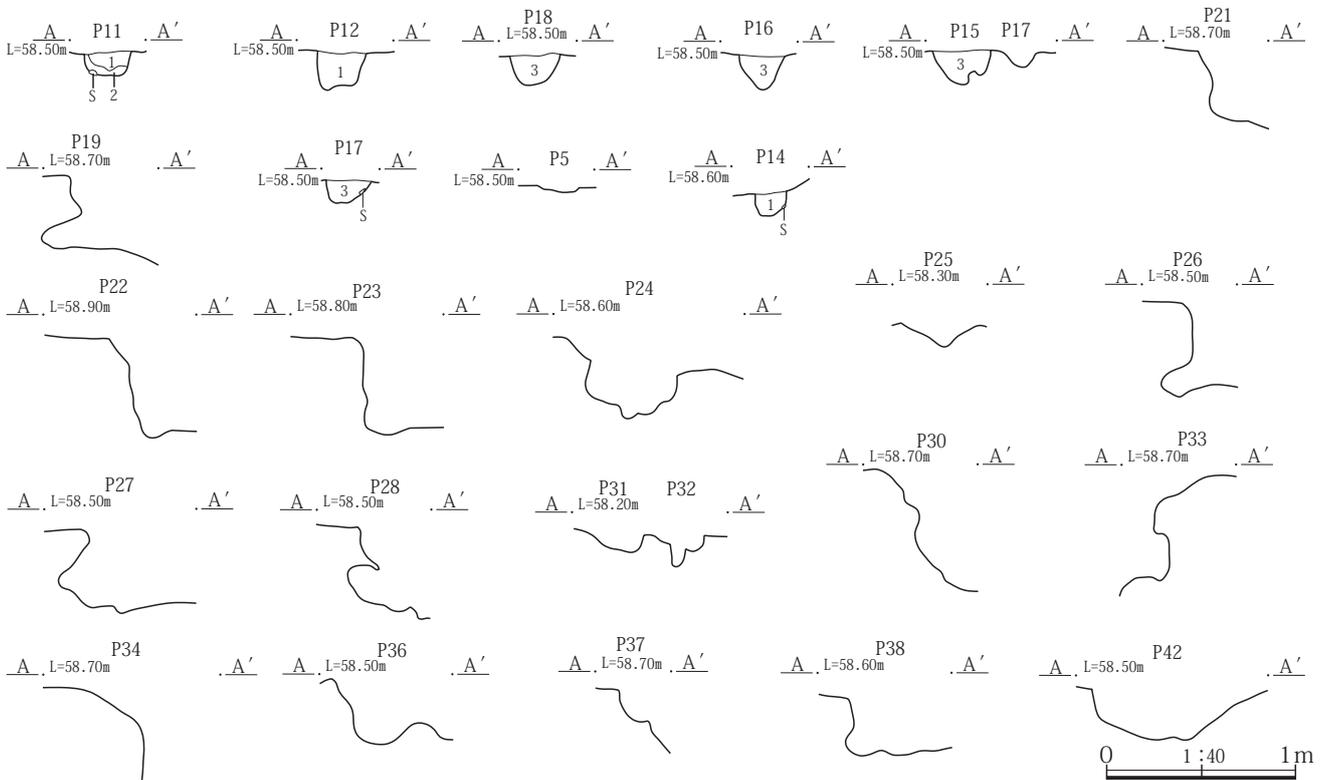


第19図 2区1号堅穴新段階平面図(上)、硬化面(下)

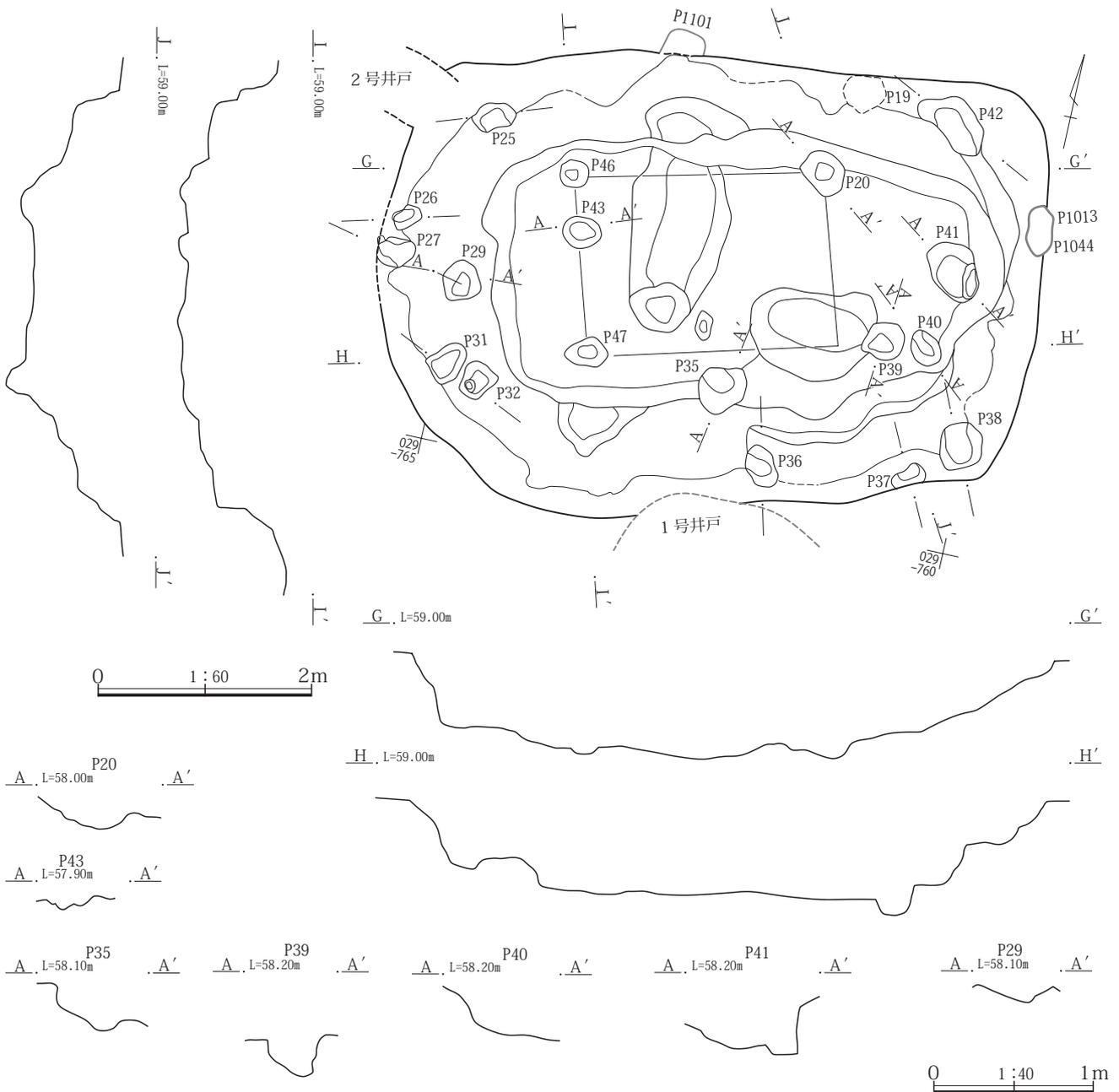


1号竖穴内ピット

- 1 暗灰色As-B混じり中粒砂、黄灰色シルトブロック含有。
- 2 黄灰色シルトブロック混じり中粒砂。
- 3 暗灰色シルト質中粒砂、As-Bがめだたない、ないこともない。



第20図 2区1号竖穴中段階



第21図 2区1号竪穴旧段階

(1) 竪穴

2区1号竪穴(第19～22図 PL. 3、59 遺物観察表402頁)

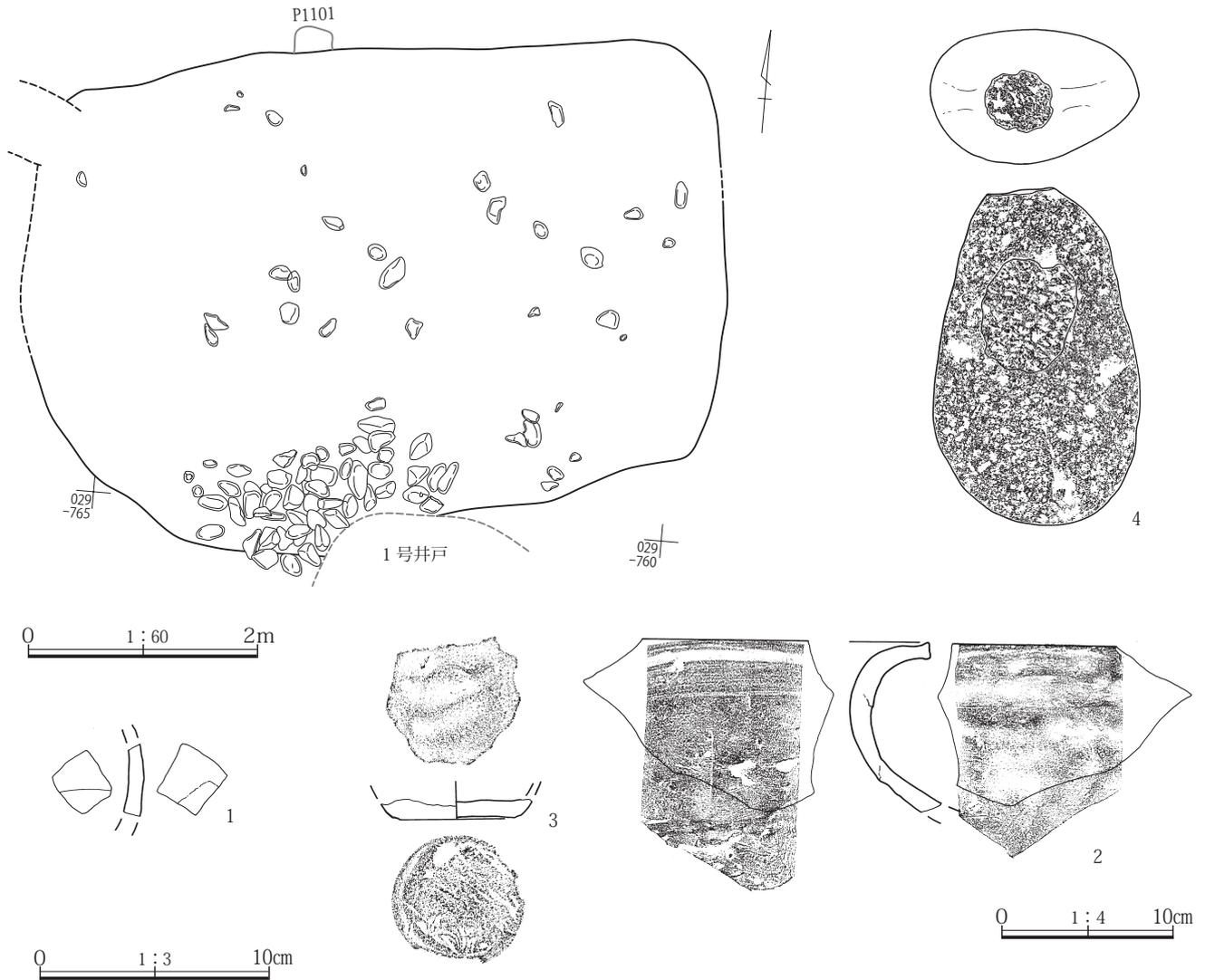
概要 本遺構は2区中北部西寄りに位置する。

位置 005～007-734～736グリッドに在る。

重複 本遺構は2区1号井戸、2区19号土坑、2区2号溝、1101・1013・1044号ピットと重複するが、1号井戸、19号土坑に切られるが、ピット及び2号溝との新旧関係は特定できなかった。

規模形態 本遺構は隅丸長方形プランを呈するもので掘

削底面は平底を成す。新旧3段階のものが重複しているが、古いものは4本柱を主柱穴とするもので側柱または壁柱穴と思われるピットが掘削されており、残存長500cm、残存幅276cm、深さ88cmを測る。中段階のものは東西に棟持柱を持つもので、壁柱穴が廻り、北東側に束柱に伴う可能性を持つピットを有し、長さ推定622cm、幅442cm、深さ68cmを測る。後段階のものは全体の規模規格は同じで壁柱穴を伴うが硬化した床面を伴い、深さは9cm程を測る。



第22図 2区1号竪穴遺物出土状態および出土遺物

埋没土 古段階のものはA s - B混入の灰～灰褐色土等で埋められて新段階のものの床面を形成する。中段階のものはA s - B混入の暗灰色土で埋め戻され、新段階の床が造られ、A s - B混入の灰褐色土で埋没するが、その途中で南側に1号井戸に伴う礫が投棄されている。

方位 N-10° E。 **面積** 4.37㎡

その他 上述のように3段階のものがあ、り、少なくとも3期に亘る使用が確認される。また古段階、中段階のものは中世の竪穴建物としては掘り込みが深い。覆土上位層南側を中心に礫の出土が多くあった。

遺物 中国製白磁碗(1)、在地系土器皿(3)、常滑産陶器甕(2)、石製品(4)、板碑片の出土があった。

所見 本竪穴は出土遺物から13世紀以降の所産と判断される。

2区3号竪穴(第23～27図 PL3、59・60

遺物観察表402～404頁)

概要 本遺構は2区中北部の屋敷遺構東部に位置する。本遺構は時期の異なる3基の大型土坑(南からa坑、b坑、c坑とする)から成り、全体として逆L字形を成す。a坑は概ね東西に主軸を持ち、b・c坑は概ね南北に主軸を持ち、前者の東と中・後者の南が重複しており、b坑はc坑の西寄りに重なっている。

本竪穴は2区1号溝(屋敷堀)と同14号溝の交差点の北西に近接し、a坑は南側の1号溝の北に1.5m程隔たってこれに並行に主軸を持ち、c坑の東辺は東の14号溝の西に1m隔たって平行に在る。

位置 023～030-740～748グリッドに在る。

重複 本遺構を構成する3基の土坑はc坑・a坑・b坑

の順に新しい。また a 坑は 2 区 8 号溝と、c 坑は 2 区 30・33号土坑・387b号ピットと重複しているが、a 坑は 8 号溝と 33号土坑には切られているが、30号土坑と 387b 号ピットとの新旧関係は把握できなかった。

規模形態 本坑全体としては逆 L 字形のプランを呈し、東西 396cm、南北 280cm を測る。

a 坑は隅丸長方形に近い楕円形のプランを呈し、掘削底面は平底であるが、底面の南寄りに長さ 507cm、幅 109cm、深さ 63cm を測る溝状の掘込が有る。長さ 394cm、幅 335cm、深さ 88cm を測る。

b 坑は隅丸台形プランを呈し、掘削底面は平底であるが、隅丸長方形プランの長さ 229cm、幅 150cm、深さ 40cm を測る箱状の掘込を有する。残存長 367cm、残存幅 316cm、深さ 98cm を測る。

c 坑は長方形に近い台形プランを呈し、掘削底面は平底である。残存長 516cm、幅 411cm、深さ 49cm を測る。

埋没土 坑は A s - B を含む灰～灰褐色土で、b 坑は A s - B をあまり含まない灰～黄灰色土、c 坑は A s - B を含む灰～暗灰色土で中砂～細砂質である。

方位 a 坑 N - 80°W。b 坑 N - 4°E。c 坑 N - 0°。

面積 33.98m²

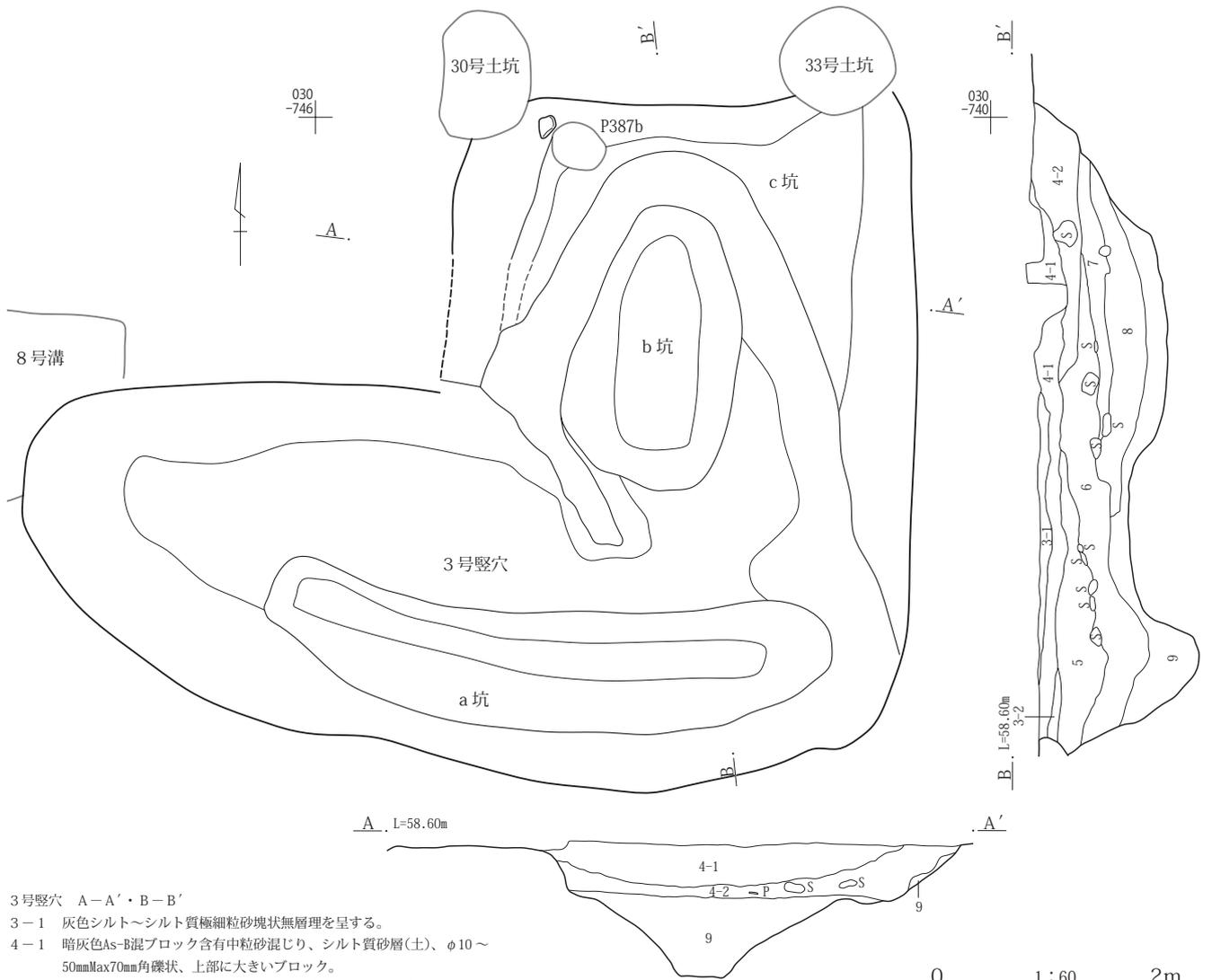
その他 本遺構の掘削意図は特定できなかったが、何れも大型で掘削の深い土坑で、2 区 1・14号溝の交点直近の内郭側に掘削されていることから屋敷に関連して、意識的に掘削された遺構と思慮される。

遺物 龍泉窯系青磁碗(1)、常滑陶器の甕と見られる物(2)、壺と見られるもの(3)、壺か甕(4)、在地系土器の皿(5～9)、片口鉢(10～14)、火鉢類(15)、火鉢類と見られるもの(16)、内耳鍋(17～40)、内耳焙烙(41・42)、国産焼締陶器片 3 点、在地系鍋片 110 点、釘か(43)、上白(50・51)、下白(52～54)、砥石(44・45)、石製品(55・56)、火打石(57)、板碑片(46～49)、古銭(58)の出土があった。

所見 本竪穴遺構は出土遺物から概ね 16 世紀の所産と判断される。

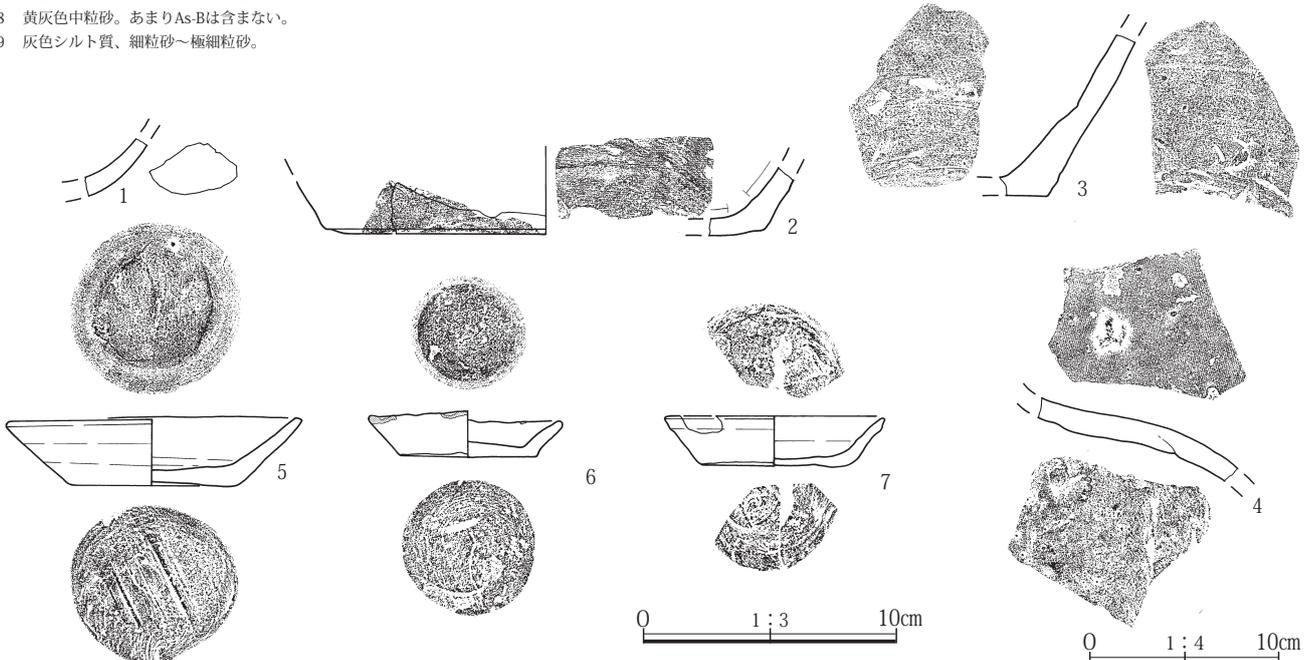
第 4 表 2 区 1 号竪穴内ピット一覧

No.	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	備考	挿図	写真
1	楕円形か	[20]×21×16	壁柱	19	-
2	楕円形	29×23×3	新・中段階壁柱	19・20	3
3	円形	38×32×6	新・中段階壁柱	19・20	3
4	円形か	[24]×21×21	新段階壁柱	19	-
5	台形	26×25×4		19	-
6	楕円形	37×24×27	新段階壁柱	19	-
7	楕円形	35×31×11	新段階壁柱	19	-
8	台形	35×21×11	新段階壁柱	19	-
9	台形	32×26×12		19	-
10	楕円形	30×25×15	新段階壁柱	19	-
11	台形	34×25×22		19	-
12	方形	27×26×22		19	-
14	方形か	21×16×16	新・中段階壁柱	19・20	3
15	方形か	27×25×19	新・中段階壁柱	19・20	3
16	楕円形	47×24×20	新段階壁柱	19	-
17	円形か	27×24×12	新・中段階壁柱	19・20	3
18	長方形	28×22×18	新・中段階壁柱	19・20	3
19	方形	31×24×16	新～古段階壁柱	19・20・21	-
20	楕円形	44×33×20	掘立柱建物	21	-
21	長円形	[70]×20×39	中段階壁柱	20	3
22	長方形	45×25×57	中段階壁柱	20	3
23	方形	30×25×50	中段階壁柱	20	3
24	楕円形	49×17×45	中段階壁柱	20	3
25	方形	42×23×9	中・古段階壁柱	20・21	3
26	楕円形	25×18×48	中・古段階壁柱	20・21	3
27	方形	34×27×46	中・古段階壁柱	20・21	3
28	方形	28×22×48	中段階壁柱	20	3
29	三角形	37×32×10	新段階棟持柱	19・21	-
30	盾形	38×25×43	中段階壁柱	20	3
31	台形	38×30×11	新・中段階壁柱	19・20・21	3
32	不整形	34×26×26	新・中段階壁柱	19・20・21	3
33	円形か	33×22×42	中段階壁柱	20	3
34	円形か	32×20×46	中段階壁柱	20	3
35	方形	46×43×29	古段階側柱	21	-
36	楕円形	38×26×33	新～古段階壁柱	19・20・21	3
37	楕円形	33×18×17	中・古段階壁柱	20・21	3
38	方形	42×39×29	新～古段階壁柱	19・20・21	3
39	方形	36×35×28	古段階側柱	21	3
40	楕円形	35×26×12	古段階側柱	21	-
41	楕円形	59×41×35	新段階棟持柱	19・21	-
42	長方形	58×24×20	中段階壁柱	20・21	3
43	楕円形	36×30×10	掘立柱建物	21	-
45	楕円形	44×[18]×12	中段階壁柱	20	3
46	方形	27×25×11	掘立柱建物	21	-
47	三角形	40×27×5	掘立柱建物	21	-

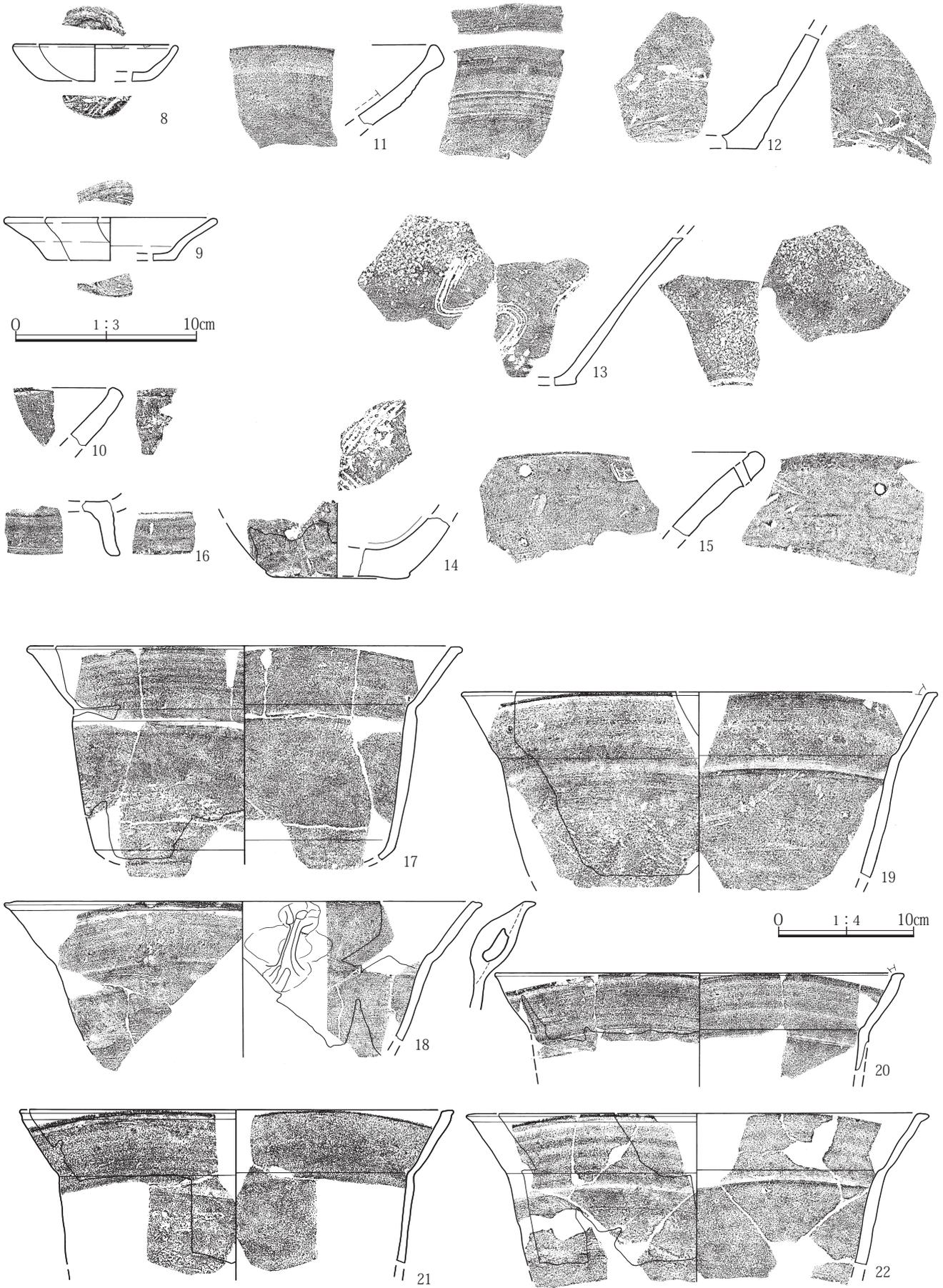


3号竖穴 A-A'・B-B'

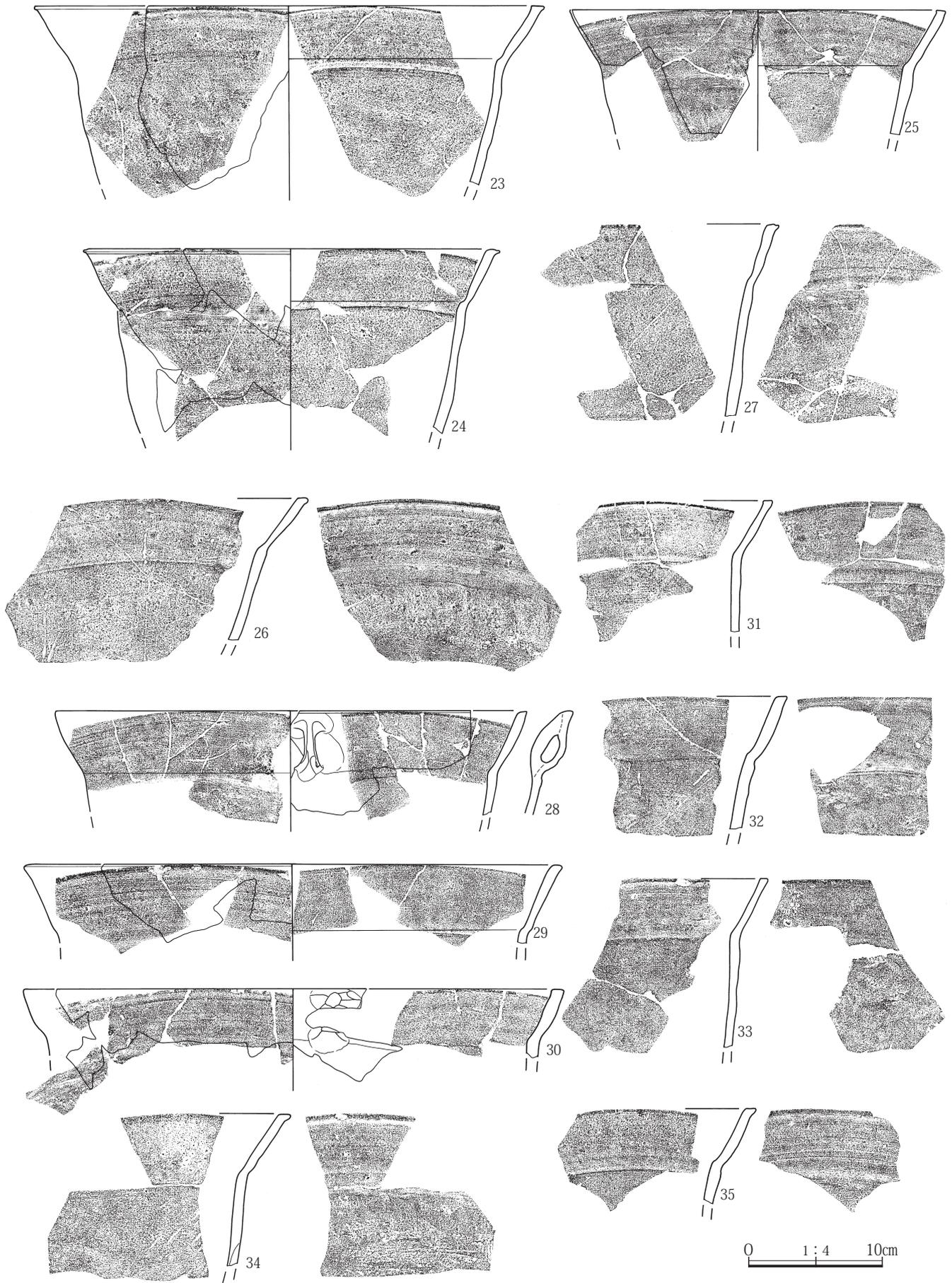
- 3-1 灰色シルト～シルト質極細粒砂塊状無層理を呈する。
- 4-1 暗灰色As-B混ブロック含有中粒砂混じり、シルト質砂層(土)、φ10～50mmMax70mm角礫状、上部に大きいブロック。
- 4-2 灰色シルト質細粒砂-中粒砂、φ0.5-2mm白色パミス(FP)含有。
- 5 灰色As-B混じり、シルト質細粒砂、底に円礫、φ50～200mm。
- 6 灰～灰褐色As-B混じり細粒砂-中粒砂シルト質、φ10～30mm褐色ブロック。
- 7 灰色シルト質細粒砂。あまりAs-Bは含まない。
- 8 黄灰色中粒砂。あまりAs-Bは含まない。
- 9 灰色シルト質、細粒砂～極細粒砂。



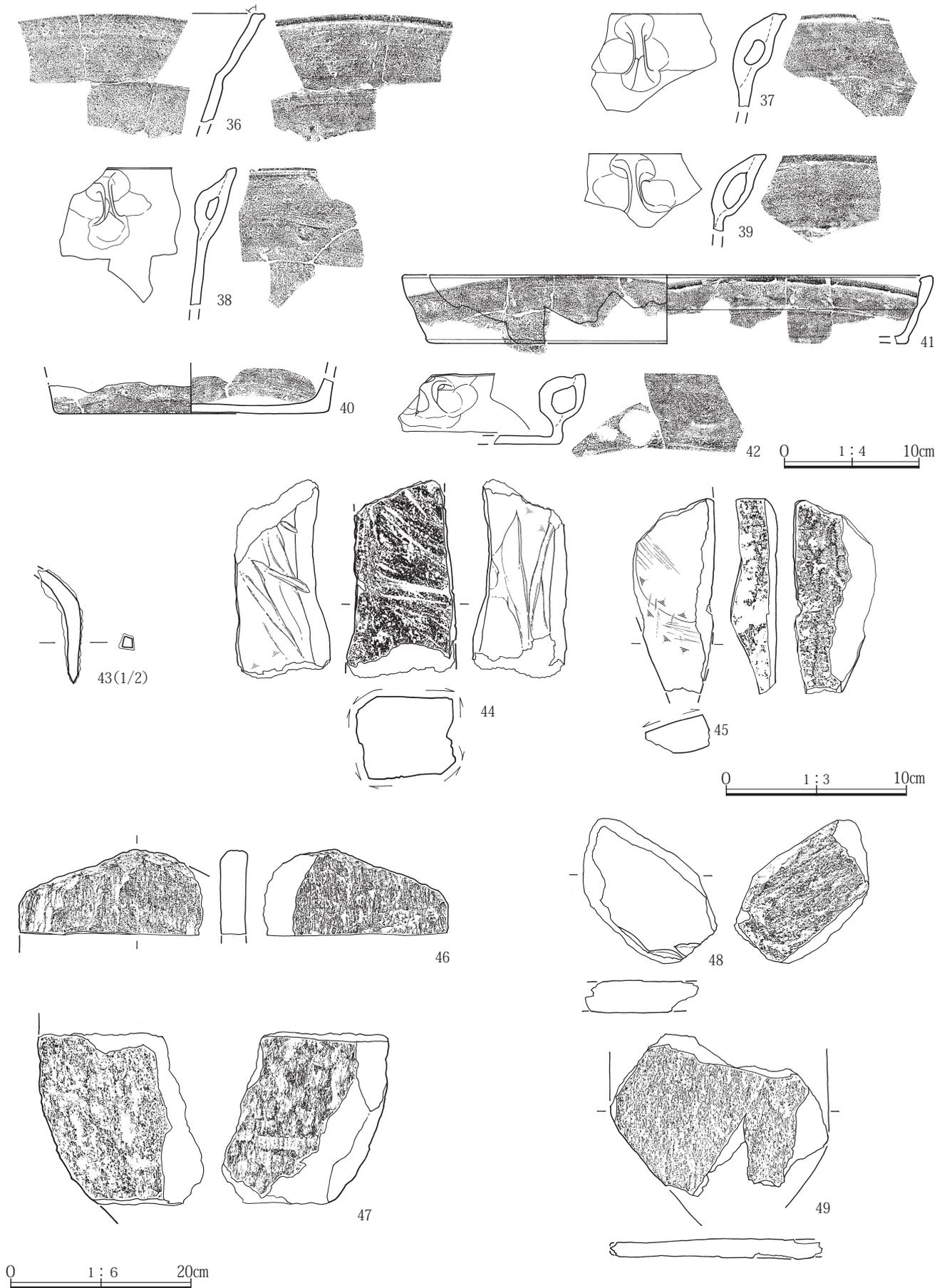
第23図 2区3号竖穴および出土遺物(1)



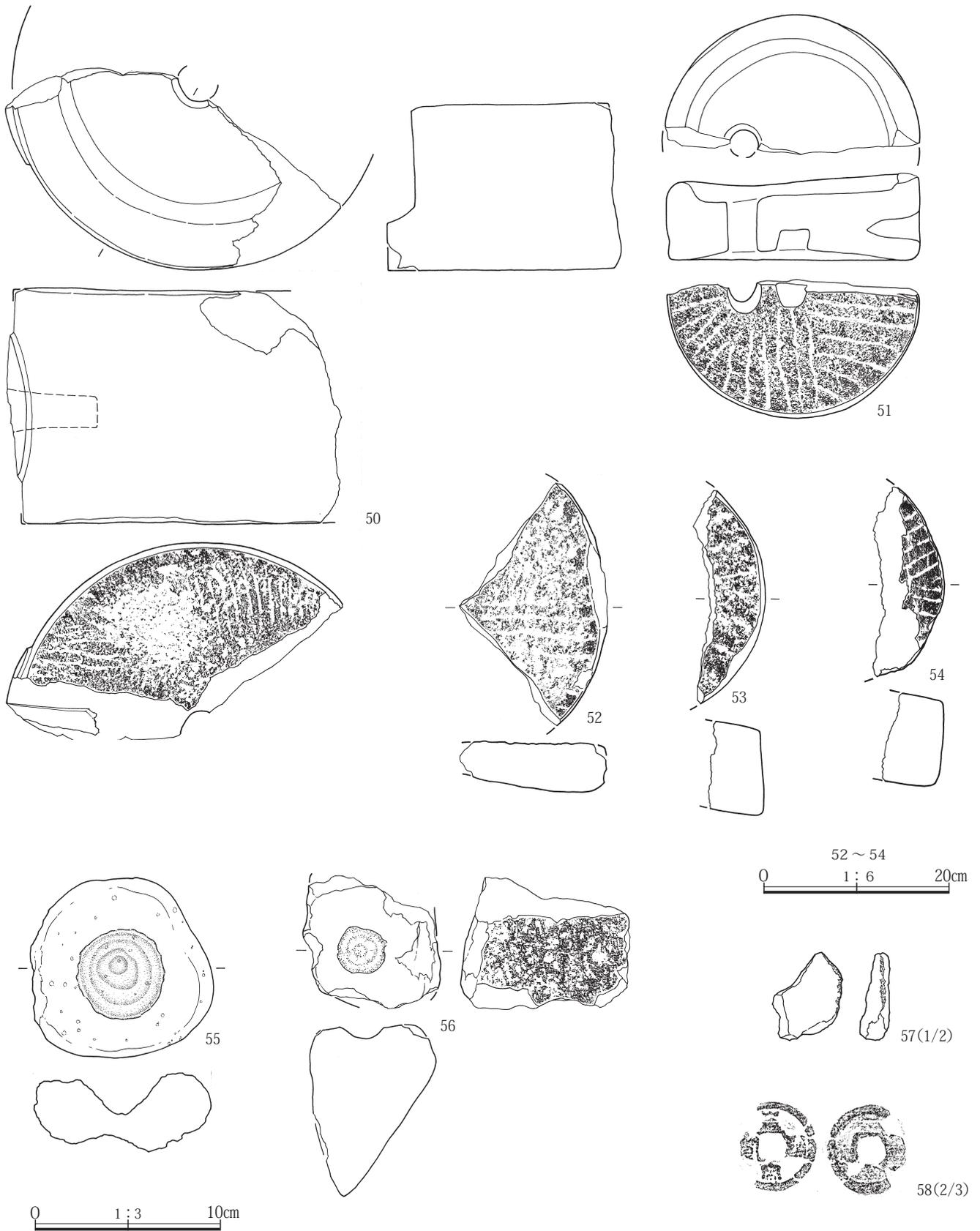
第24図 2区3号竖穴出土遺物(2)



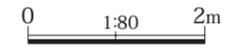
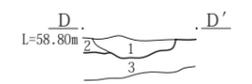
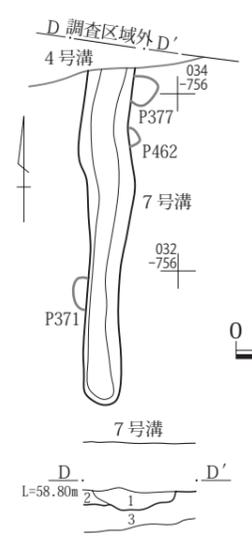
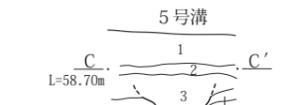
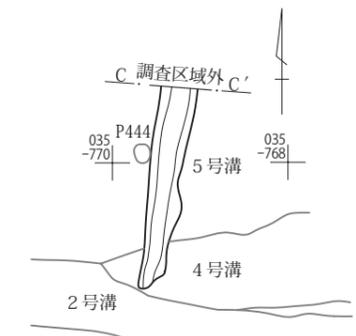
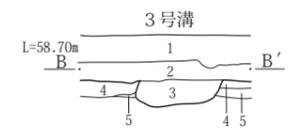
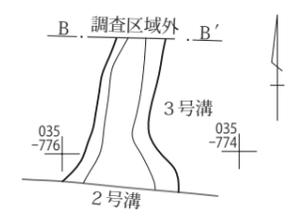
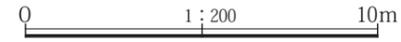
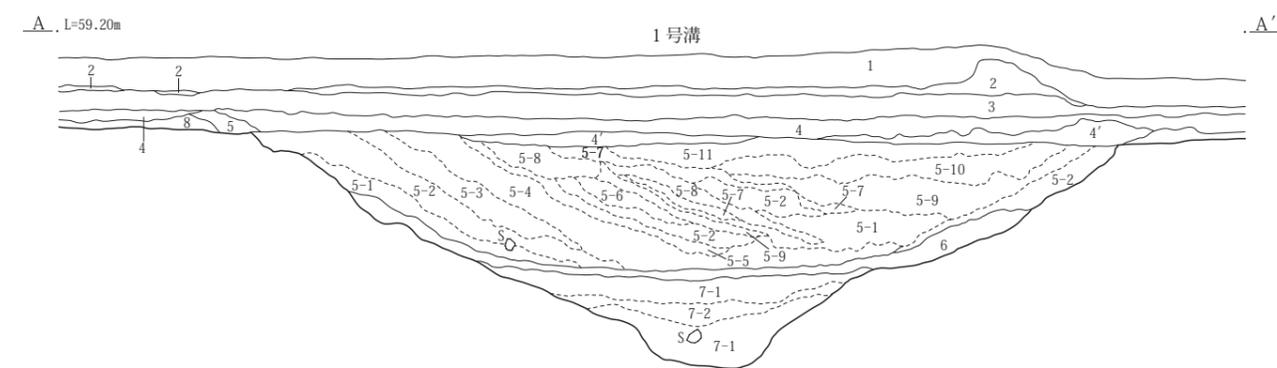
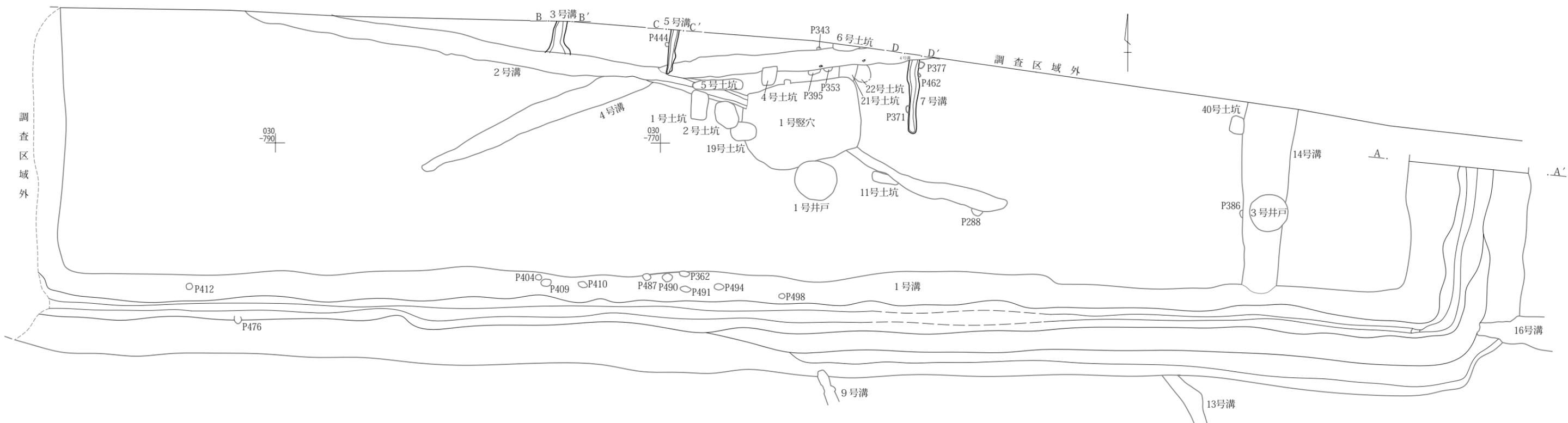
第25図 2区3号竪穴出土遺物(3)



第26図 2区3号竖穴出土遺物(4)



第27図 2区3号竪穴出土遺物(5)



- 1号溝 A-A'
- 1 灰色耕作土。(表土)
 - 2 灰色軽石混じり火山灰土 (As-A 混じり) 旧水田? 畦状のかたまり。
 - 3 灰褐色砂質火山灰土。
 - 4 灰色シルト質土。
 - 4' 暗灰色土や灰色火山灰ブロック (As-B 混じり火山灰土) を含む火山灰土 (整地土)。
 - 5 1号溝廃絶時の埋め土類。
東西に非対称の堆積状況を示し、西側からの成層状態が顕著であることから、土壘などの崩落土によって西側から埋積されたものと考えられる、5層の砂質土はすべて浅間Bテフラ混じりである。
 - 5-1 黄褐色シルトブロック混じり砂質土。
 - 5-2 暗灰色シルトブロック混じり砂質土。
 - 5-3 暗灰色シルトブロック混じり砂質土、シルトブロックが下位より多い。(崩落土)
 - 5-4 暗灰色シルトブロック混じり砂質土、シルトブロックが大きい。下底に多い。(崩落土)
 - 5-5 暗灰~黄褐色シルトブロック混じり砂質土、シルトブロック含む。(崩落土)
 - 5-6 暗灰色シルトブロック混じり砂質土、シルトブロック少ない。
 - 5-7 黄褐色シルトブロック混じり砂質土、シルトブロックが多い。(崩落土)
 - 5-8 黄褐色シルトブロック混じり砂質土、ブロックが少ない。
 - 5-9 暗灰色シルトブロック混じり砂質土、中部に細かいシルトブロックが多い。(崩落土)
 - 5-10 黄褐色シルトブロック混じり砂質土、カラフルな火山灰土やシルトブロックが多い。(崩落土? 整地土か)
 - 5-11 黄褐色シルトブロック混じり砂質土、カラフルな火山灰土やシルトブロックが多い。(崩落土? 整地土か) 4' と同一層。
 - 6 灰色砂質シルト (溝の廃絶時に下底に堆積した土壌)
 - 7 溝の使用時の堆積物。水流の影響を受けた細粒堆積物が多い。
 - 7-1 灰色砂質シルト。
 - 7-2 灰色シルト。
 - 8 灰褐色砂質土。

3号溝 B-B'

- 1 耕土。
- 2 灰褐色シルト質細粒砂。
- 3 灰褐色 As-B 混じりシルト質細粒砂—中粒砂 (土)。
- 4 暗灰色 As-B 混じり中粒砂 (Mb5a ~ b)。
- 5 暗灰色シルト (Mb6)、B 下黒色土。

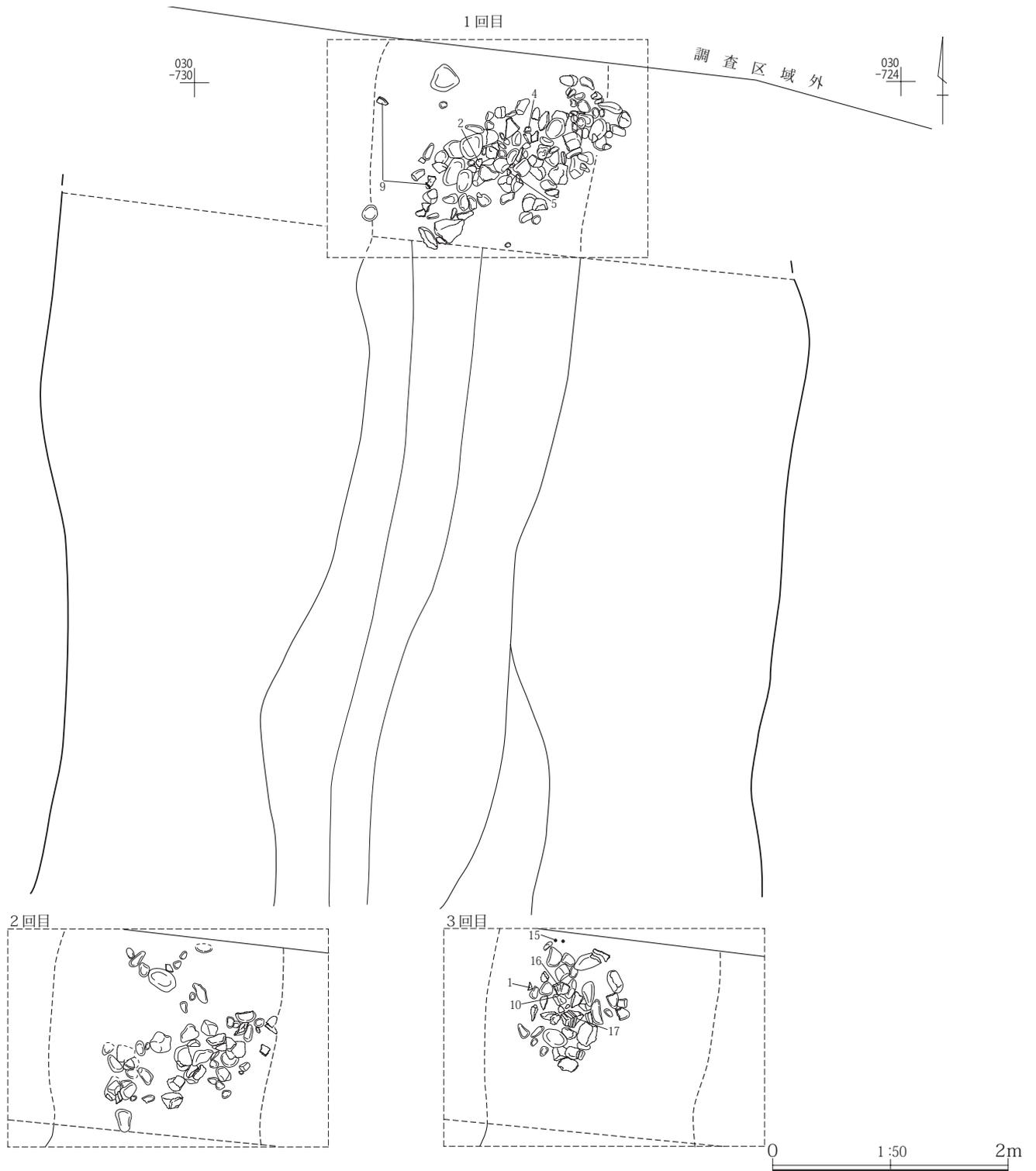
5号溝 C-C'

- 1 表土 (灰色耕土)。
- 2 黄灰色シルト質中粒砂。
- 3 灰褐色 As-B 混じりシルト質中粒砂—細粒砂 As-B ブロック状 (溝フク土)。
- 4 暗褐色 As-B 混じり中粒砂。

7号溝 D-D'

- 1 灰~暗灰色 As-B 混じり中粒砂 (土)。
- 2 暗灰色 As-B 混じり中粒砂 (B 混) Mb5b。
- 3 暗灰色 As-B 混じり中粒砂—細粒砂 (4 溝)。

第28図 2区 1・3・5・7号溝



第29図 2区1号溝遺物出土状態

(2) 区画溝

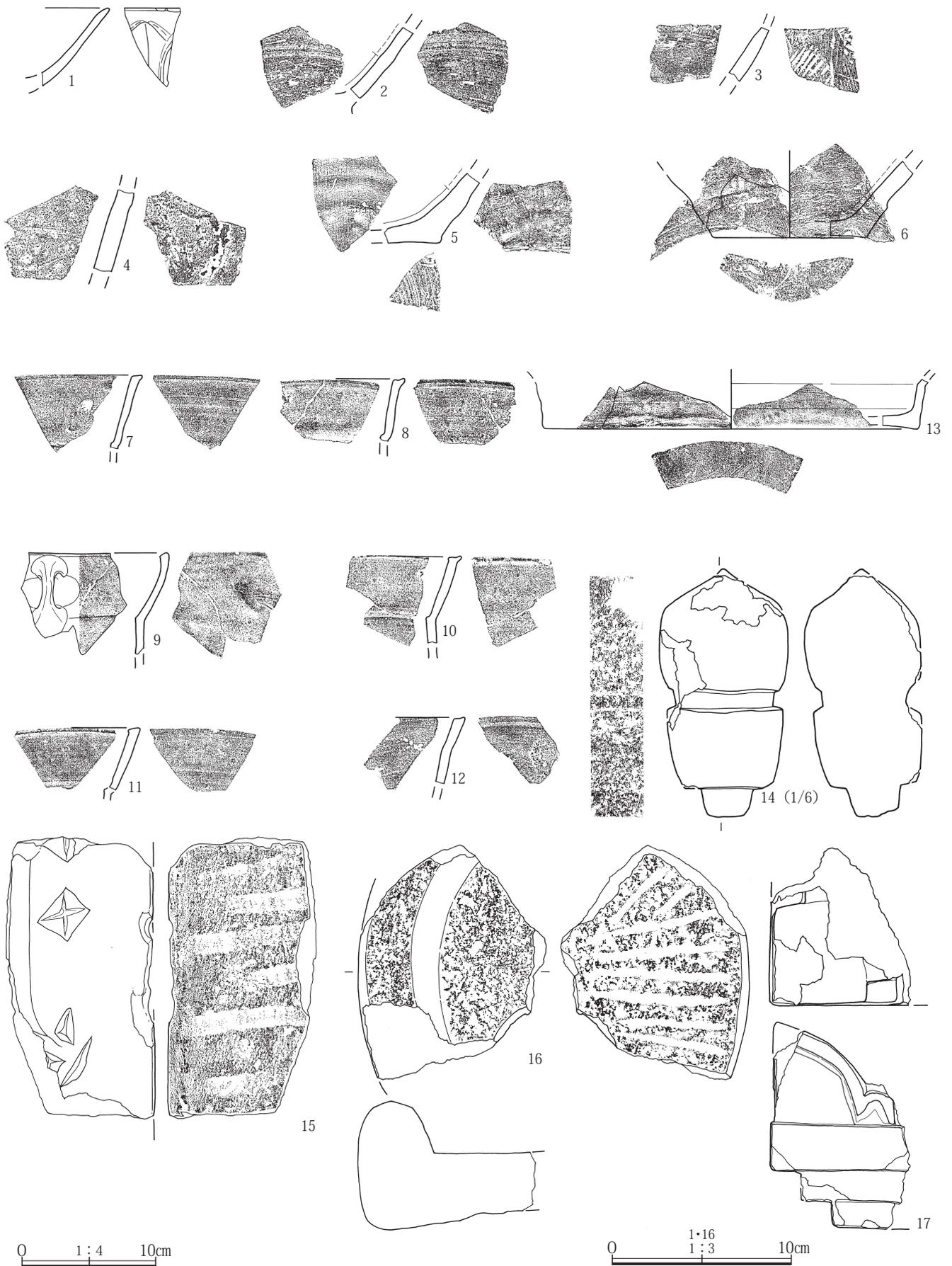
2区1号溝(第28～30図 PL. 11・12, 60 遺物観察表405頁)

概要 本溝は2区中・西部の北半に位置する屋敷遺構の堀(外堀)と認識される溝で、その南部が調査されたと想定される。

位置 016～036-724～802グリッドに在る。

重複 2区9・14・16号溝、P362等のピットと重複するが、何れに対しても新旧関係は特定できなかった。また底面で古墳時代の2区23・24号溝と重複し、やや凹凸が生じている。

規模形態 東西両側共に北側は調査区外に出ていて全容は詳らかにできなかったが、調査区内に於いて本溝はコ



第30図 2区1号溝出土遺物

字状のプランを呈する。また屋敷を圍繞する堀と認識され、周辺地域の屋敷遺構は方形単核を基本としていることから、本溝も本来は口字状のプランを持っていたものと想定される。一辺の溝のプランは直線的で、掘削形態は箱堀状を呈するが壁面は開き気味である。確認長95.25m、幅404～532cm、深さ125cmを測る。

埋没土 底面には水流の影響のある細粒堆積物が見られる7層群(灰色砂質シルト・シルト)が堆積し、その上の6層(灰色砂質シルト)は発掘調査時点で屋敷廃絶時の底面形成層だったと判断されている。その上には埋没土の多くを占めるAs-B混じりの砂質土の5層群が堆積するが、5層群は二つに分けられ、西下側の5-1～5-8層は内郭側からの崩落または埋没層、また東上側の5-9～5-11層はその後の自然堆積層と認められる。

方位 (南縁)N-88°W。

その他 本溝の底面には流水の痕跡を示す堆積物もあるが、屋敷遺構は河成段丘上の旧中洲(CB)上に立地することから常時滞水していた可能性は低く、乾田に通水に伴って季節的に水が入る基本的には空堀だったと認識される。

遺物 龍泉窯系青磁碗(1)、尾張陶器片口鉢(2)、渥美陶器甕か(3)、常滑陶器甕(4)、在地系土器の片口鉢(5・6)、内耳鍋(7～11)、鍋(12)、器種不詳(13)の出土が見られた他、国産焼締陶器1片、在地系鉢3片、同鍋11片、石臼(16)上臼、五輪塔空風輪(14)、宝篋印塔(17)、板碑片(15)、焼骨片、馬歯の出土があった。

所見 本溝は出土遺物等から15世紀末～16世紀中頃の所産と認識される。

2区3号溝(第28図 PL.12)

概要 本溝は2区西部調査区北端近くの屋敷西部に在り、北部は北側調査区外に出て、南部は2号溝と重複していて全容は詳らかにできなかった。本溝と屋敷との関連は不明だが、これに含まれる可能性を有する。

位置 034～036-774～775グリッドに在る。

重複 2区2号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。

規模形態 短い範囲を調査できたに過ぎないため形状は詳らかでないが、走行は東北東を向く直線的なプランを呈する。掘削形態は箱堀状で南端部で若干東側に開く。

確認長1.8m、幅56～138cm、深さ7cmを測る。

埋没土 As-Bを混入する灰褐色シルト質土等。

方位 N-10°E。

その他 流水の痕跡等は認められない。6m東に在って走行方向の近似する5号溝との関係も考慮される。

遺物 認められなかった。

所見 時期は特定できないが、概ね中世の所産と判断される。

2区5号溝(第28図 PL.12)

概要 本溝は2区西部の屋敷中・西部に在り、調査区北端近くに位置する。北部は調査区外に出ていて全容は不明である。本溝はまた走行方向から屋敷遺構に含まれる可能性を有する。

位置 033～035-769グリッドに在る。

重複 2区2・4号溝と重複するが2号溝より古く、4号溝より新しい。

規模形態 上述のように全容は把握できなかったが、走行は概ね南北方向に走行するが、北西側に極緩やかに張り出すプランを呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長2.4m、幅26～40cm、深さ11cmを測る。

埋没土 灰褐色シルト質土。As-Bを混入。

方位 N-9°E。

その他 流水の痕跡等は認められない。また走行方向の近似する6m西の3号溝と12.5m東の7号溝との関係も考慮される。

遺物 認められなかった。

所見 時期の特定はできなかったが、概ね中世の所産と認識される。

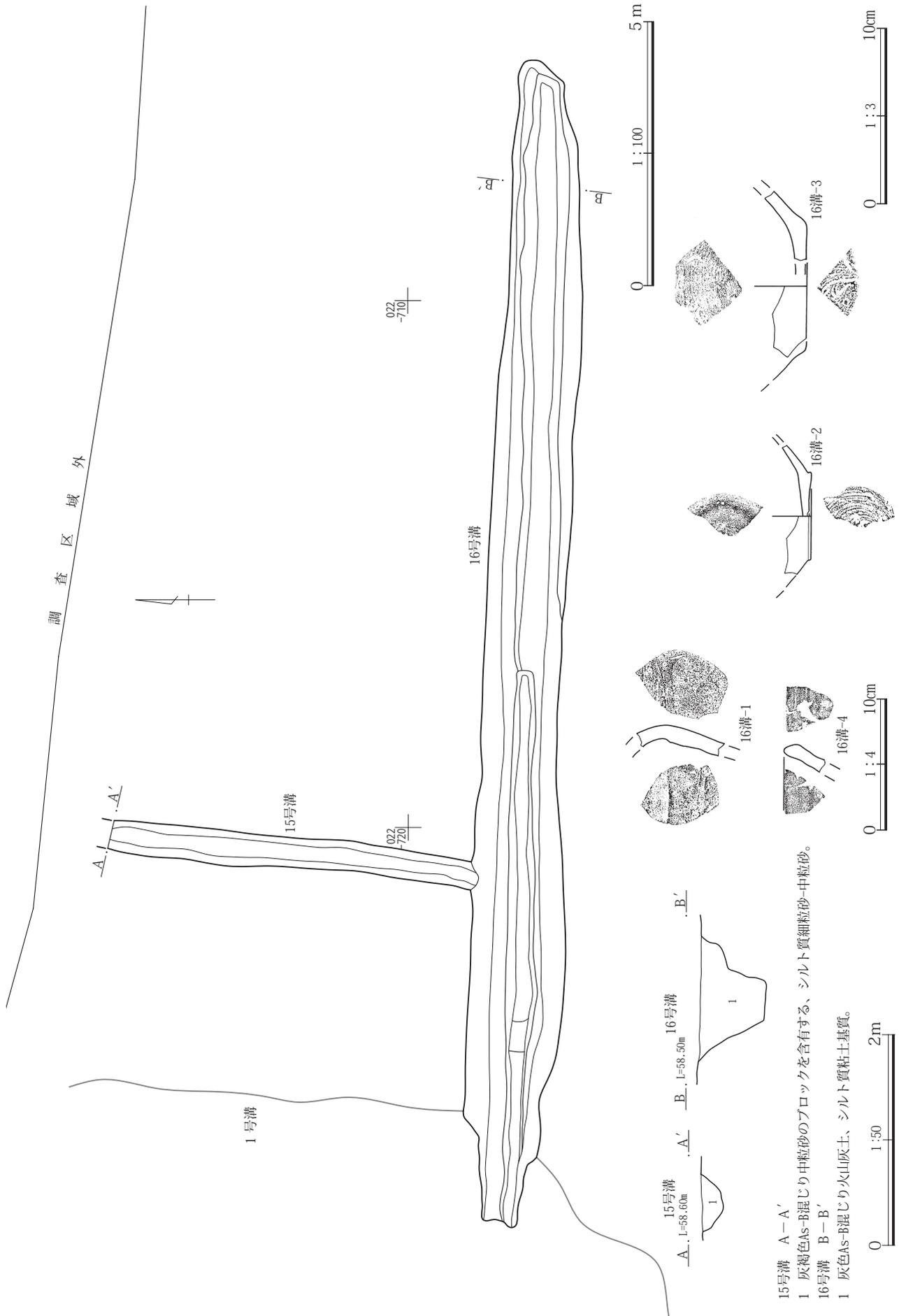
2区7号溝(第28図 PL.12)

概要 本溝は2区中北部の屋敷の東部に位置する。北側は調査区外に出ていて全容は不明。また走行の方向から推して屋敷遺構との関連が窺われる。

位置 030～034-756～757グリッドに在る。

重複 重複する2区4号溝よりは新しいものの、同371・375・376・462号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

規模形態 全容は把握できなかったが、走行は概ね南北方向に走行し、緩やかに蛇行するプランを呈する。掘削



15号溝 A-A' 1 灰褐色AS-B混じり中粒砂のブロックを含有する、シルト質細粒砂-中粒砂。
 16号溝 B-B' 1 灰色AS-B混じり火山灰土、シルト質粘土基質。

第31図 2区15・16号溝および出土遺物

形態は箱堀状を呈するが、底面は丸底気味である。確認長3.8m、幅35～70cm、深さ32cmを測る。

埋没土 暗灰色土。A s - Bを混入する。

方位 N - 1°W。

その他 流水の痕跡等は認められない。

遺物 認められなかった。

所見 時期の特定はできないが、包含される軽石から概ね中世の所産と認識される。

2区15号溝(第31図 PL. 14)

概要 本溝は2区北東部の屋敷遺構外郭側に位置する。北側は調査区外に在り、南側は2区16号溝に重複して全容は把握できなかったが16号溝以南には延伸しないと見られる。

位置 020～027-719～721グリッドに在る。

重複 本溝は2区16号溝と重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

規模形態 概ね南北方向に直線的に走行する。掘削形態は箱堀状を呈する。残存長7.0m、幅50～70cm、深さ18cmを測る。

埋没土 灰褐色シルト質土。A s - B混入。

方位 N - 6°E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は覆土にA s - Bを混入するため概ね中世の所産と思慮される。また2区16号溝に直交するように在り、2区1号溝の東側に6m程隔たって並走することから、屋敷存続期に外郭側の遺構として在り、16号溝の北側の区画の区画溝であったものと思慮される。

2区16号溝(第31図 PL. 14 遺物観察表405頁)

概要 本溝も2区北東部の屋敷遺構外郭側に位置する。西側は2区1号溝(屋敷堀)と重複して全容は把握できなかった。

位置 018～021-705～727グリッドに在る。

重複 本溝は2区1・15号溝と重複関係するが、何れに対しても新旧関係を特定することはできなかった。

規模形態 概ね東西方向に直線的に走行する。掘削形態は箱堀状を呈するが、全体としては(土地の傾斜方向とは逆の)西側へ落ち、途中2箇所段階状に数cmづつ落

ちる。残存長22.1m、幅86～189cm、深さ60cmを測る。

埋没土 灰色シルト質粘土。A s - B混入。

方位 N - 85°W。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 甕と見られる常滑陶器片(1)、在地系土器の皿(2・3)、片口鉢(4)の他、国産施釉陶器片1点の出土を見た。

所見 本溝は覆土にA s - Bを混入するため概ね中世の所産と思慮される。また2区1号溝の南側東西走行部分の延長線上に在ることから、屋敷存続期に外郭側の遺構として在り、底面の傾斜方向から推して1号溝と同時に在った可能性が考慮される。また、東部は途絶えるが、中世段階には生垣を以て障壁としているためか、屋敷遺構に於いて途中で途絶える堀も散見されることから、その端点から東或いは北に生垣を施して囲郭していた可能性も考慮される。

(3) 中世屋敷内ピット群

2区中世屋敷内のピット群(第32～36図 PL. 4)

概要 中世屋敷内には247・308・311～313・316～324・326～334・337～339・342・343・345・346・348～355・360～362・365～371・373・375～379・381～384・386・387・387b・389～397・400・402・404・409・410・412・421・422・441～449・451・452・456・458・459・461・462・463・476・487・490・491・494・498・1101・1013・1044号ピットが分布する。その分布域は屋敷内東半部に限る。

位置 表5に記した。

重複 表5に記した。

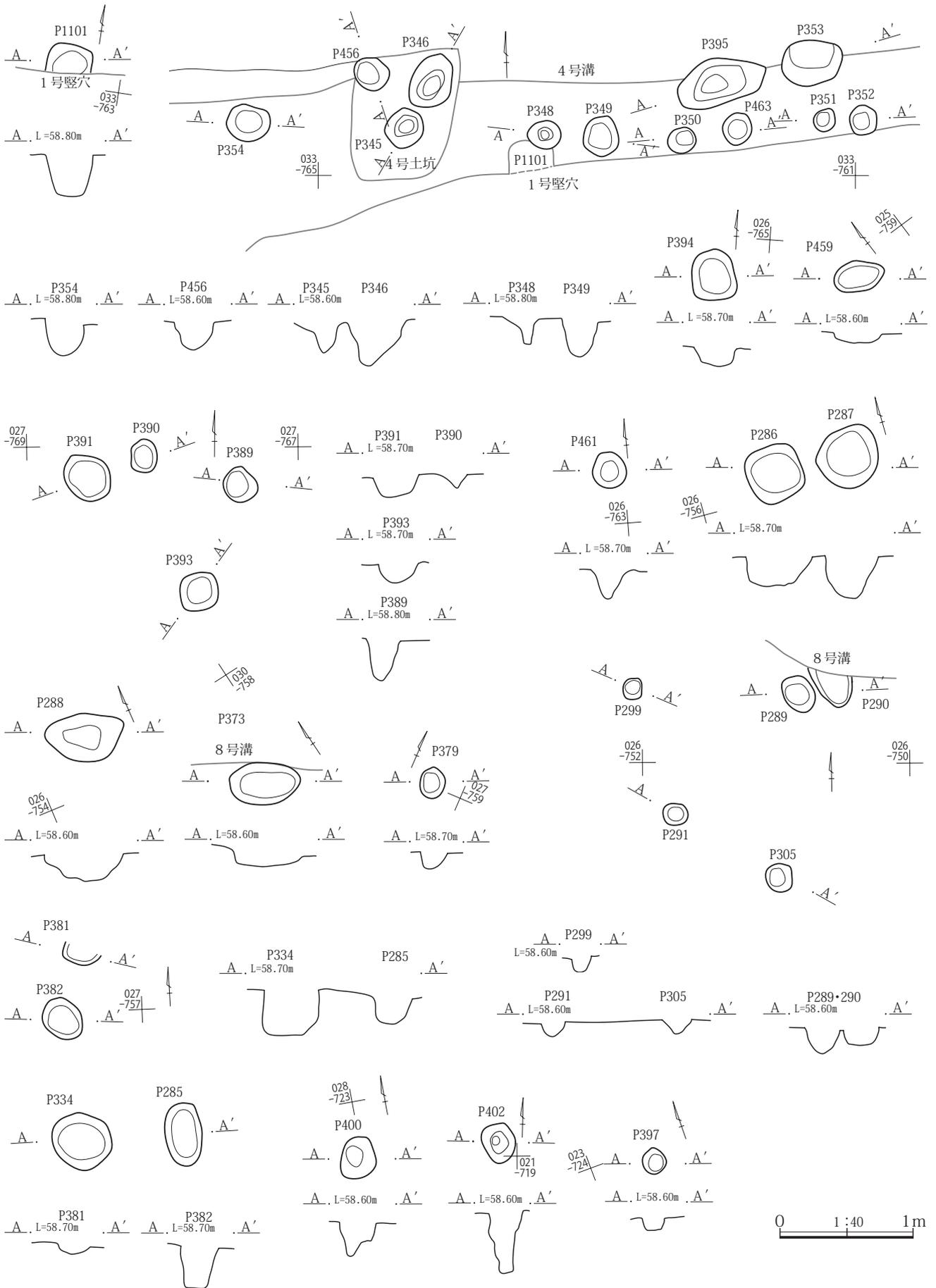
規模形態 表5に記した。

ピットの規模は径は15～68cm、平均28.67cm、深さは6～59cm、平均23.71cmを測った。またプランは想定されるものを含め方形66基、円形44基、楕円形51基、不定形1基、不明が2基であった。

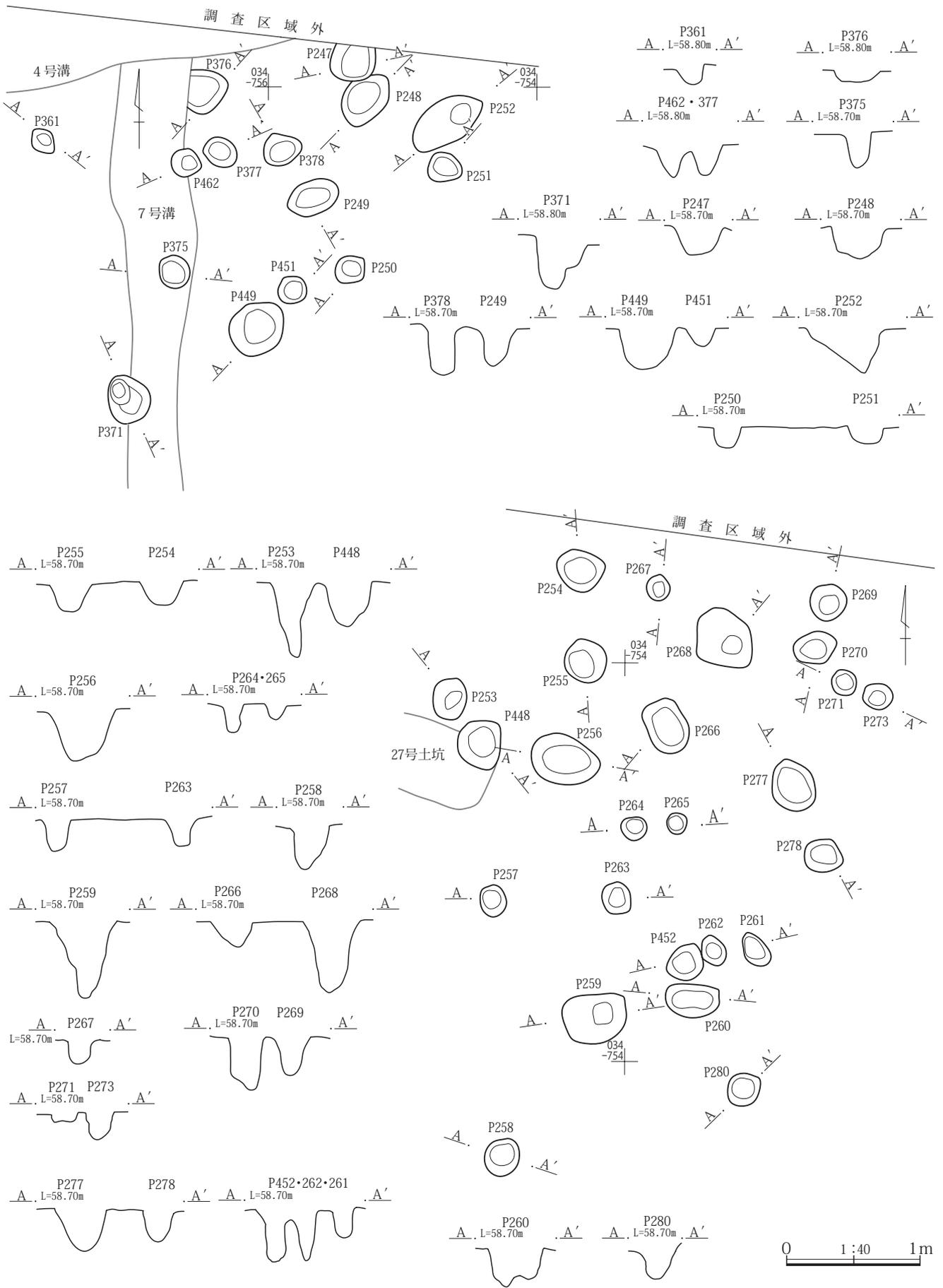
その他 これらのピットは中世の柱穴の規模を示すものが多かった。

遺物 何れのピットからも出土遺物は認められなかった。

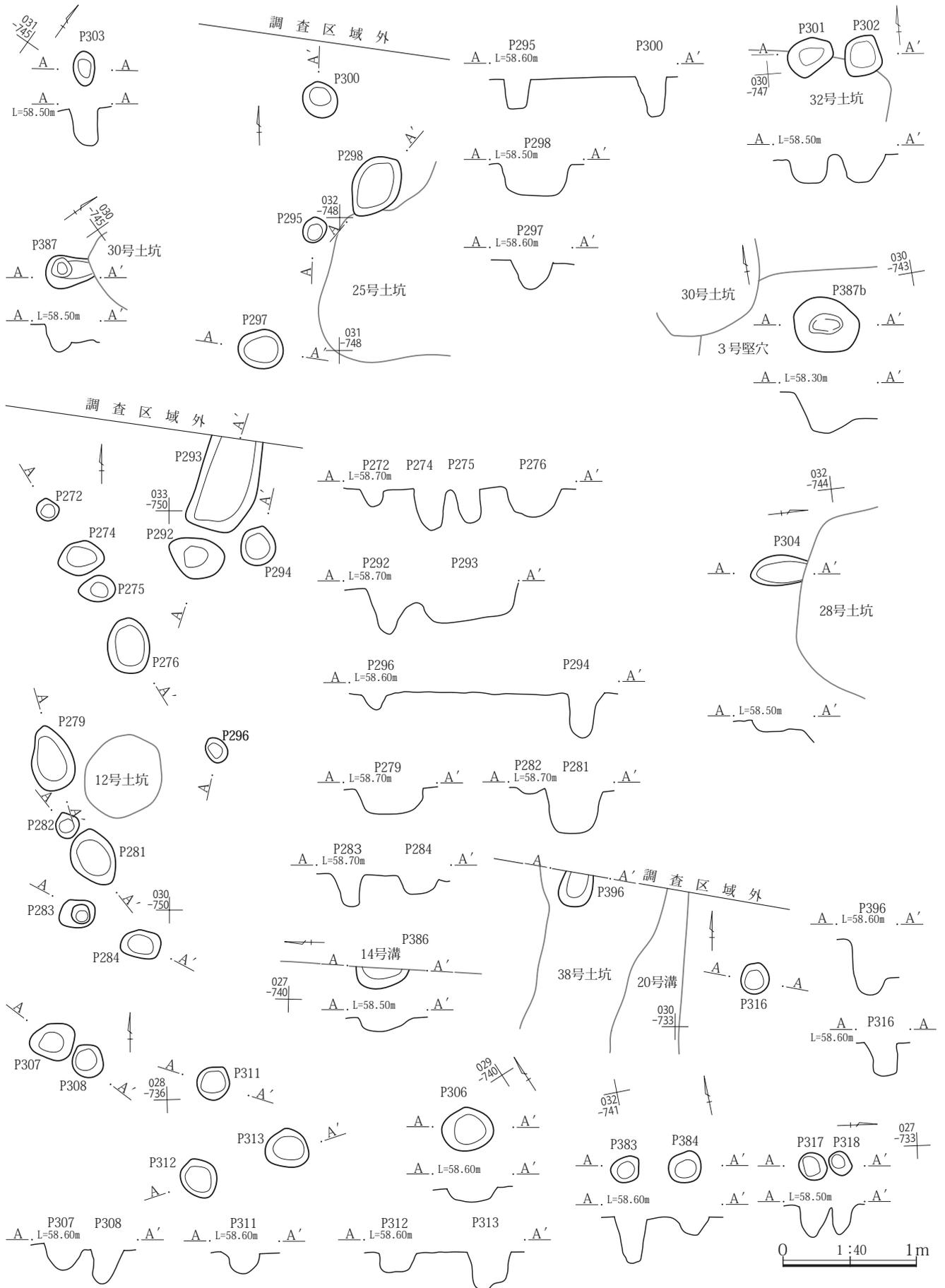
所見 本ピット群はピットの形態から概ね中世の柱穴と認識されるもので、屋敷遺構に伴うものと認識されるが、掘立柱建物等を抽出することができなかった。



第33図 2区中世屋敷内ピット群(2)

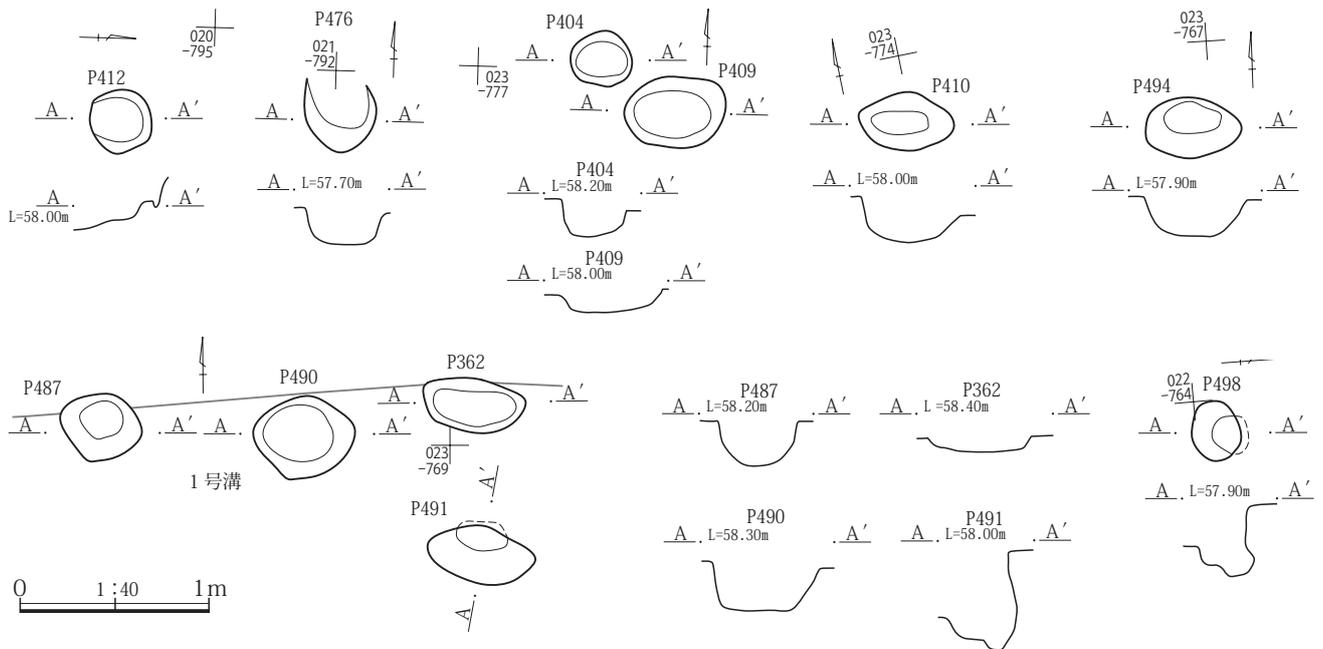


第34図 2区中世屋敷内ピット群(3)



第35図 2区中世屋敷内ピット群(4)

第IV章 中世の遺構と遺物



第36図 2区中世屋敷内ピット群(5)

第5表 2区中世屋敷内ピット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸× 深さ(cm)	備考	挿図	写真
247	033-755	方形?	不明×32×21		34	4
248	033-755	楕円	43×32×23	館内郭。	34	4
249	033-755	楕円	41×25×29		34	4
250	032-755	方形	径22×15		34	4
251	033-754	方形	径25×12	館内郭。	34	4
252	033-754	楕円	62×32×33	館内郭。	34	4
253	032-754	方形	32×26×57	館内郭。	34	4
254	033-753	方形	33×30×20	館内郭。	34	4
255	032-753	円形	径32×21	館内郭。	34	4
256	032-753	楕円	53×37×36	館内郭。	34	4
257	031-752	円形	23×20×24	館内郭。	34	4
258	029-753	円形	径28×33	館内郭。	34	4
259	030-753	方形	48×38×59	館内郭。	34	4
260	030-752	楕円	40×25×29	館内郭。	34	4
261	030-752	楕円	29×17×22	館内郭。	34	4
262	030-752	楕円	21×18×41	館内郭。	34	4
263	031-753	方形	26×22×21	館内郭。	34	4
264	031-752	円形	径19×20	館内郭。	34	4
265	031-752	円形	径16×12	館内郭。	34	4
266	032-752	方形	42×30×17	館内郭。	34	4
267	033-752	円形	径19×18	館内郭。	34	4
268	033-752	方形	径41×53		34	4
269	033-751	円形	径27×30		34	4
270	033-751	方形	33×25×34		34	4
271	032-751	円形	径19×8		34	4
272	032-750	円形	径17×11		35	4
273	032-751	円形	径22×21		34	4
274	032-750	楕円	35×25×31		35	4
275	032-750	楕円	28×20×25		35	4
276	031-750	楕円	42×32×21	館内郭。	35	4
277	032-751	楕円	41×34×32	館内郭。	34	4
278	031-751	方形	27×25×26	館内郭。	34	4
279	031-750	楕円	49×32×18		35	4
280	029-752	円形	径25×19	館内郭。	34	4
281	030-750	楕円	44×33×32	館内郭。	35	4
282	030-750	円形	径18×5	館内郭。	35	4
283	029-750	方形	26×20×25	館内郭。	35	4
284	029-750	方形	27×21×13	館内郭。	35	4
285	026-756	楕円	47×29×20		33	4
286	026-755	方形	径42×21	館内郭。	33	4
287	026-754	方形	48×45×33	館内郭。	33	4
288	026-753	楕円	58×36×25	館内郭。2溝と重複	33	4

No.	位置	形状	長軸×短軸× 深さ(cm)	備考	挿図	写真
289	026-750	楕円	29×23×20	館内郭。	33	4
290	026-750	楕円?	不明×30×13	館内郭。8溝と重複	33	4
291	025-751	方形	20×17×12	館内郭。	33	4
292	032-749	楕円	43×33×34	館内郭。	35	4
293	033-749	方形	不明×45×25		35	4
294	032-749	円形	28×26×32	館内郭。	35	4
295	031-748	円形	20×17×24	館内郭。	35	4
296	031-749	楕円	21×16×14	館内郭。	35	4
297	030-748	円形	34×30×21		35	4
298	032-747	楕円	51×35×23	館内郭。25土坑と重複。	35	4
299	026-752	方形	径15×14	館内郭。	33	4
300	032-748	円形	径27×33	館内郭。	35	4
301	030-746	方形	35×25×23	館内郭。32土坑と重複。	35	4
302	030-746	方形	29×26×22	館内郭。32土坑と重複。	35	4
303	031-744	楕円	27×17×27		35	4
304	031-743	楕円	不明×24×9	28土坑と重複。	35	4
305	025-750	方形	23×19×10	館内郭。	33	4
306	028-740	円形	39×33×11		35	4
307	028-736	方形	径30×19	館外郭。	35	4
308	028-736	円形	径25×26	館外郭。	35	4
311	028-735	方形	径25×14	館外郭。	35	4
312	027-735	円形	28×26×13	館外郭。	35	4
313	027-735	円形	33×29×29	館外郭。	35	4
316	030-732	円形	24×20×24	館外郭。	35	4
317	026-732	円形	22×20×24	館外郭。	35	4
318	026-732	円形	18×16×22	館外郭。	35	4
319	034-768	方形	37×26×28		32	4
320	034-768	方形	33×23×36	館内郭。	32	4
321	034-768	楕円	42×26×24	館内郭。	32	4
322	034-768	楕円	22×17×17	館内郭。	32	4
323	034-767	方形	28×23×12	館内郭。4溝と重複	32	4
324	034-767	円形	径33×33	館内郭。	32	4
326	035-767	方形	径25×21		32	4
327	034-766	楕円	36×24×29	館内郭。	32	4
328	034-766	楕円	27×18×20	館内郭。	32	4
329	035-766	方形	24×18×21	館内郭。	32	4
330	035-766	方形	径22×14	館内郭。	32	4
331	035-766	楕円	35×18×22		32	4

No.	位置	形状	長軸×短軸× 深さ(cm)	備考	挿図	写真
332	034-765	楕円	22×18×9	館内郭。	32	4
333	035-764	方形	18×14×18	館内郭。	32	4
334	026-757	円形	45×39×37	館内郭。	33	4
337	035-763	不定形	56×30×42	館内郭。	32	4
338	035-763	円形	径19×9	館内郭。P339 と重複	32	4
339	034-762	楕円	(16)×16× 不明	館内郭。P338 と重複	32	4
342	035-761	方形?	不明×30×32	館内郭。	32	4
343	034-761	円形	径21×29	館内郭。4溝と 重複	32	4
345	033-764	方形	径28×21	館内郭。4土坑 と重複	33	4
346	033-764	楕円	42×30×34	館内郭。4土坑 と重複	33	4
348	033-763	楕円	25×21×20	館内郭。	33	4
349	033-762	方形	30×26×28	館内郭。	33	4
350	033-762	円形	22×19×27	館内郭。	33	4
351	033-761	方形	径16×10	館内郭。	33	4
352	033-760	方形	径22×16	館内郭。	33	4
353	033-761	楕円	45×34×18	館内郭。4溝と 重複	33	4
354	033-765	方形	32×27×28	館内郭。	33	4
355	034-759	方形	30×24×34	館内郭。4溝と 重複	32	4
360	033-757	円形	径29×31	館内郭。	32	4
361	033-757	方形	径17×13	館内郭。	34	4
362	023-768	楕円	54×29×12	館堀上端。	36	4
365	031-758	円形	38×35×23	館内郭。7溝と 重複	32	4
366	031-758	円形	23×19×16	館内郭。	32	4
367	031-758	円形	径22×41	館内郭。	32	4
368	031-759	方形	40×27×16	館内郭。	32	4
369	031-759	楕円	35×21×15	館内郭。	32	4
370	030-759	方形	44×30×15	館内郭。	32	4
371	031-757	方形	38×33×43	館内郭。7溝と 重複	34	4
373	029-758	楕円	54×33×15	館内郭。8溝と 重複	33	4
375	032-756	円形	26×24×26	館内郭。	34	4
376	033-756	方形?	不明×不明× 10	館内郭。7溝と 重複	34	4
377	033-756	円形	26×21×24	館内郭。	34	4
378	033-755	楕円	30×25×34	館内郭。	34	4
379	027-759	円形	24×19×14	館内郭。	33	4
381	027-757	不明	不明×不明× 7	館内郭。	33	4
382	026-757	楕円	34×26×32	館内郭。	33	4
383	031-741	円形	径21×33	館内郭。	35	4
384	031-740	円形	径25×11	館内郭。	35	4
386	026-739	不明	不明×不明× 14	館内郭。14溝と 重複。	35	4
387	029-744	方形	不明×25×25	館内郭。30土坑 と重複	35	4

No.	位置	形状	長軸×短軸× 深さ(cm)	備考	挿図	写真
387b	029-743	方形	49×40×14	3竪穴と重複	35	4
389	026-767	方形	27×23×38	館内郭。	33	4
390	027-768	方形	26×19×14	館内郭。	33	4
391	026-768	方形	39×32×13	館内郭。	33	4
392	034-770	方形	径22×11	館内郭。	32	4
393	026-767	方形	径29×14	館内郭。	33	4
394	025-765	方形	39×32×12	館内郭。	33	4
395	033-761	楕円	68×34×45	4溝と重複	33	4
396	031-733	方形?	不明×25×22	館外郭。38号土 坑と重複。	35	4
397	022-723	円形	径18×11	館内郭。	33	4
400	027-723	方形	31×27×27	館内郭。	33	4
402	021-719	方形	30×24×46	館内郭。	33	4
404	022-776	円形	33×29×26	館堀上端。	36	4
409	022-775	楕円	54×38×28	館堀上端。	36	4
410	022-773	楕円	50×31×39	館堀上端。	36	4
412	022-794	円形	径33×12	館堀上端。	36	4
421	030-770	方形	径20×11	館内郭。	32	4
422	030-770	方形	径22×12	館内郭。	32	4
441	031-772	楕円	38×21×15	館内郭。	32	4
442	034-769	楕円	径29×43	館内郭。	32	4
443	034-769	楕円	径18×7	館内郭。	32	4
444	035-769	楕円	22×18×8	館内郭。	32	4
445	035-775	楕円	48×32×40	館内郭。	32	4
446	035-770	方形	21×15×9	館内郭。	32	4
447	035-771	方形	15×12×13	館内郭。	32	4
448	032-754	方形	36×33×31	館内郭。27土坑 と重複	34	4
449	032-755	方形	45×39×31	館内郭。	34	4
451	032-756	円形	径21×6	館内郭。	34	4
452	030-752	方形	30×27×40	館内郭。	34	4
456	033-764	方形	26×23×36	館内郭。4土坑 と重複	33	4
458	034-766	方形	23×19×28	館内郭。4溝と 重複	32	4
459	024-759	楕円	39×23×7	館内郭。	33	4
461	026-763	円形	径27×25	館内郭。	33	4
462	033-756	円形	径22×25	館内郭。7溝と 重複	34	4
463	033-761	円形	径21×14	館内郭。	33	4
466	031-758	円形	径25×40	館内郭。7土坑 と重複	32	4
476	020-791	楕円?	38×不明×29	館堀内。	36	4
487	023-770	方形	径37×32	館堀上端。	36	4
490	023-769	方形	径46×35	館堀上端。	36	4
491	022-768	楕円	58×30×54	館堀内上縁部付 近。	36	4
494	022-766	楕円	51×33×33	館堀内上縁部付 近。	36	4
498	022-763	楕円	32×25×38	館堀内上縁部付 近。	36	4
1101	033-763	方形	[23]×33×32	1面 1竪穴と 重複	33	4
1013	031-759	楕円	24×18×28	1面 1竪穴と 重複	32	4
1044	031-759	方形	[19]×17×21	1面 1竪穴と 重複	32	4

(4) 中世屋敷内土坑群

2区中世屋敷内の土坑群(第37~41図 PL. 6~8、61
遺物観察表405・406頁)

概要 中世屋敷内には1・2・4~9・11・12・19~
23・25・33・37・38・40・42・47号土坑が分布する。そ
の分布域は屋敷の東半部に在る。

位置 表6に記した。

重複 表6に記した。

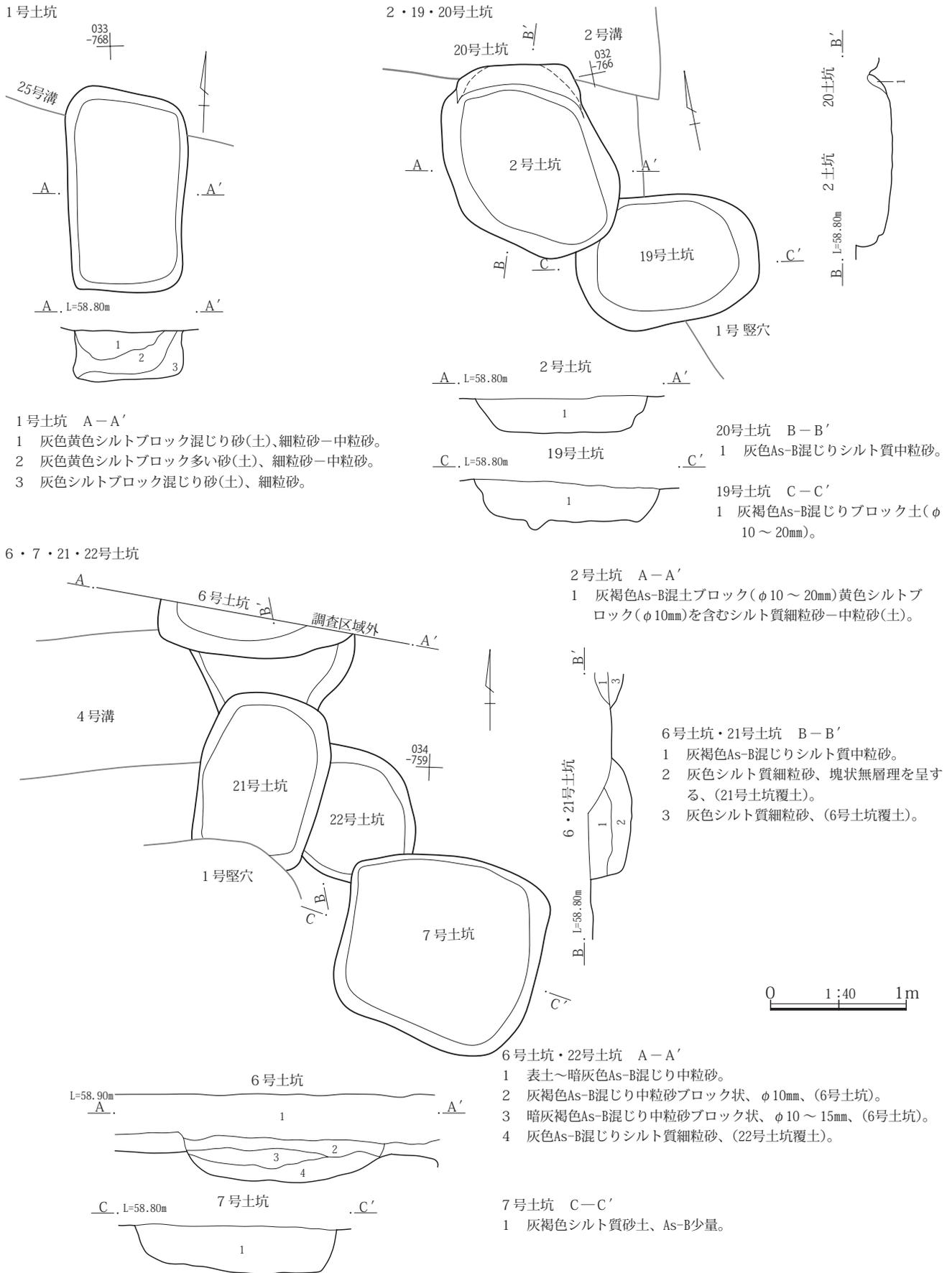
規模形態 表6に記した。

その分布域の西半に1・4・8・9・21・23・27号土坑
は隅丸長方形のプランを呈しており、このうち8号土坑
は方形に近く、23号土坑は短冊形にやや近いが、何れも
主軸線の方向は堀(2区1号溝)に近い。

埋没土 表6に記した。

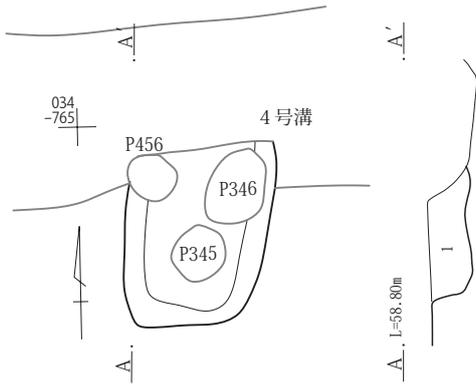
このうち2~9・19・20・23~33・40・42・47号土
坑にはAs-Bが混入し、1・11・12号土坑にはAs-B
を混入しないことを確認している。

第IV章 中世の遺構と遺物

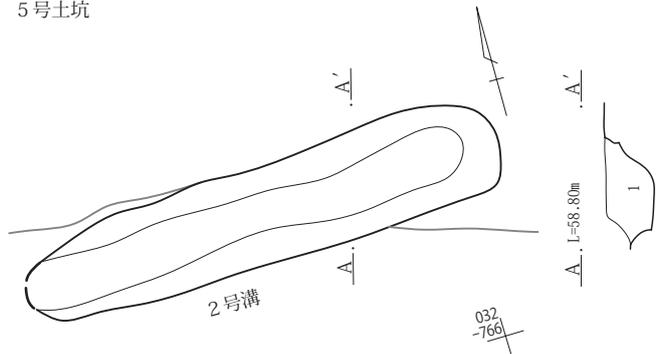


第37図 2区中世屋敷内土坑群(1)

4号土坑



5号土坑



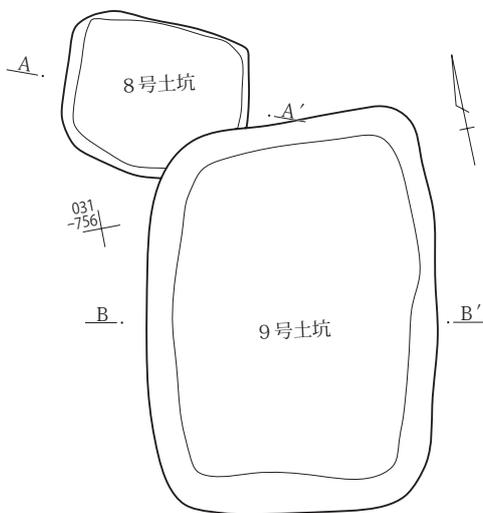
4号土坑 A-A'

1 灰褐色As-B混じりシルト質中粒砂、(4号土坑覆土)。

5号土坑 A-A'

1 灰褐色シルト質細粒砂(土)、(5号土坑覆土)。

8・9号土坑



8号土坑 A-A'

1

9号土坑 B-B'

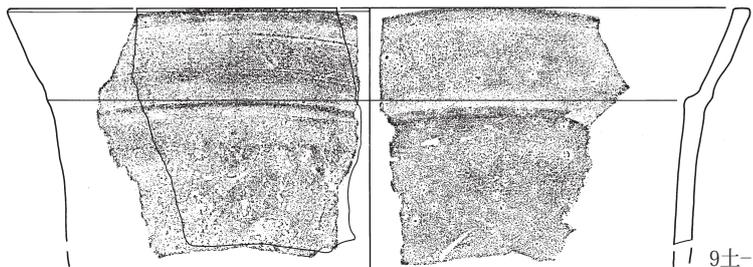
1

8号土坑 A-A'

1 灰褐色As-B混じり中粒砂。

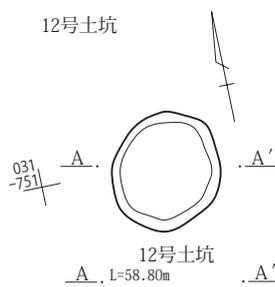
9号土坑 B-B'

1 灰褐色As-B混じり中粒砂、 ϕ 10~20mmブロック含有。



9土-1

12号土坑



12号土坑 A-A'

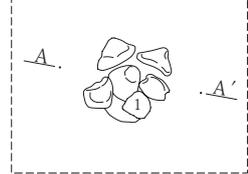
1



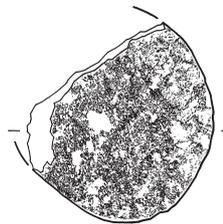
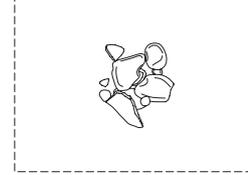
12号土坑 A-A'

1 灰色シルト質細粒砂、 ϕ 2~5mm白色パミス(FP)含む、As-Bなし。

1回目



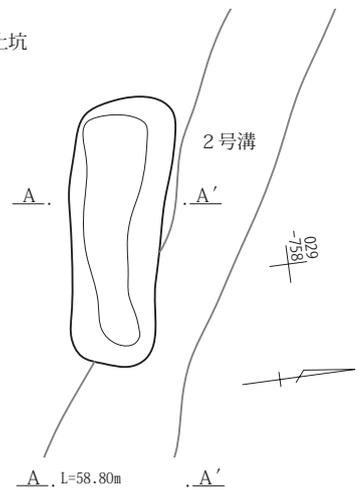
2回目



12土-1

0 1:6 20cm

11号土坑



11号土坑 A-A'

1



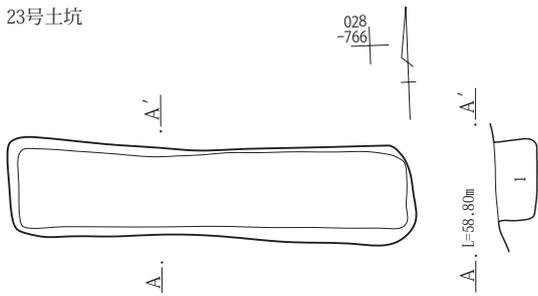
11号土坑 A-A'

1 灰色シルト質細粒砂、As-Bなし。

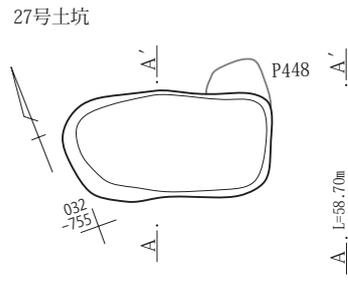
0 1:40 1m

第38図 2区中世屋敷内土坑群(2)および出土遺物

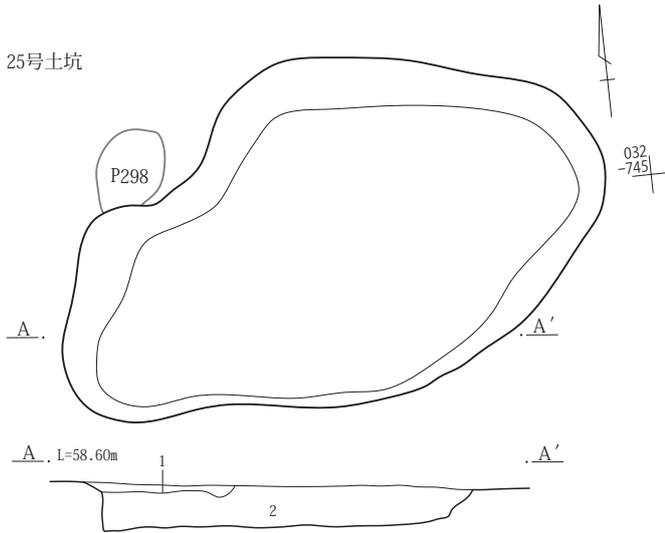
第IV章 中世の遺構と遺物



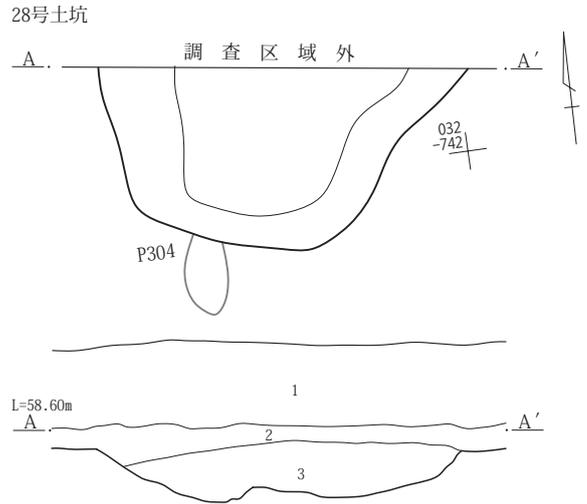
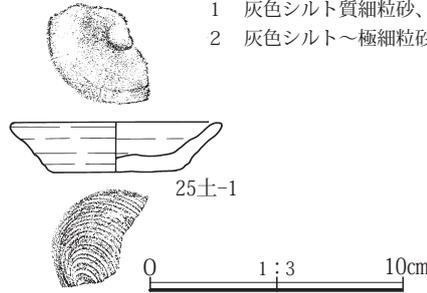
23号土坑 A-A'
1 暗灰色As-B混ブロック混じり砂、細粒砂-中粒砂。



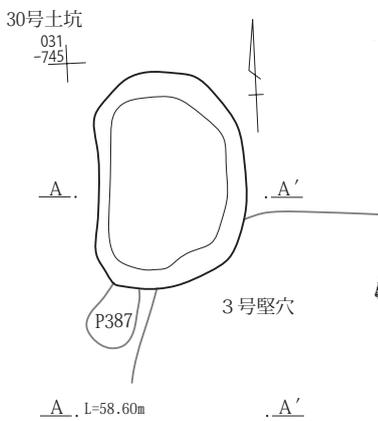
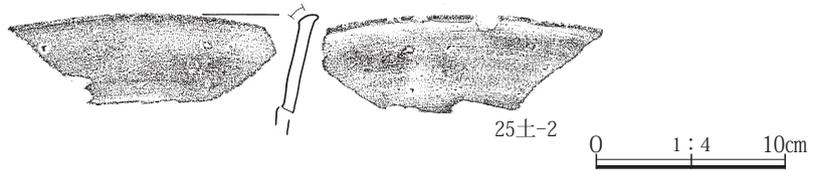
27号土坑 A-A'
1 As-B混じり中粒砂。



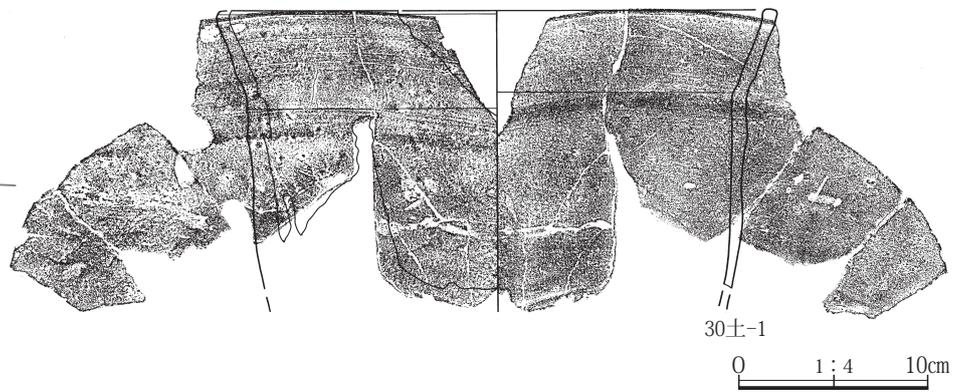
25号土坑 A-A'
1 灰色シルト質細粒砂、B混。
2 灰色シルト-極細粒砂、褐鉄鈣汚染帯、B混。



28号土坑 A-A'
1 灰色耕土-黄灰色シルト質細粒砂。
2 黄灰褐色シルト質細粒砂-中粒砂。
3 暗灰褐色As-B混じり中粒砂、下位にφ10~30mm黄灰シルト-As-B混ブロックを含有。

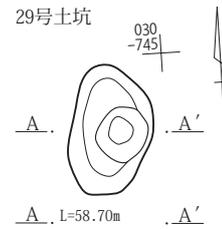
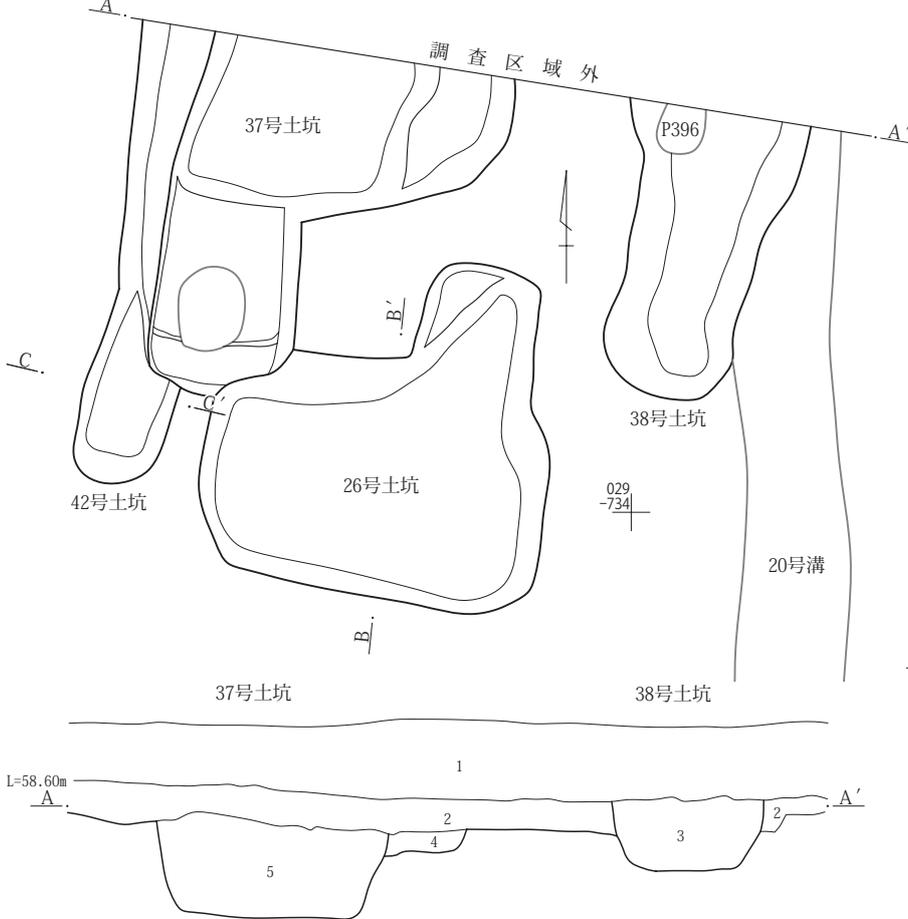


30号土坑 A-A'
1 灰褐色As-B混じり中粒砂。

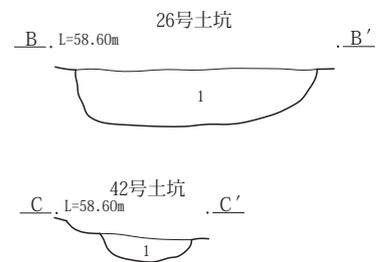


第39図 2区中世屋敷内土坑群(3)および出土遺物

26・37・38・42号土坑



29号土坑 A-A'
1 灰色As-B混じり中粒砂。



37・38号土坑 A-A'

- 1 灰色粘土～黄灰色シルト質中粒砂。
- 2 灰褐色シルト質細粒砂。
- 3 暗褐色As-Bブロック混じり中粒砂、φ10～20mmAs-B混。
- 4 暗灰色As-B混じり細粒砂、As-B少量。
- 5 暗灰色As-B混じり混じり細粒砂、壁は不明瞭。

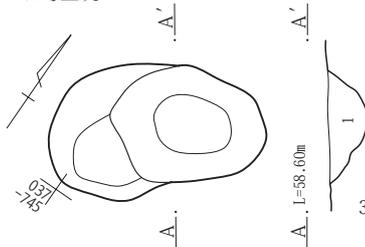
26号土坑 B-B'

- 1 暗灰色As-B混じり中粒砂、塊状無層理を呈する。

42号土坑 C-C'

- 1 暗灰色As-B混じりシルト質細粒砂。

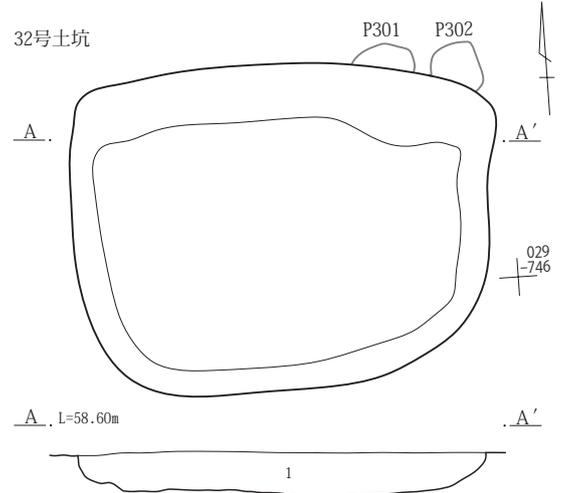
31号土坑



31号土坑 A-A'

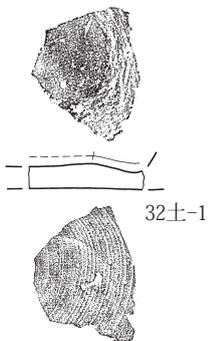
- 1 灰色As-B混じりシルト質中粒砂。

32号土坑



32号土坑 A-A'

- 1 灰色As-B混じりシルト質粘土(細粒砂)、φ5mm褐色As-B混ブロック含有。

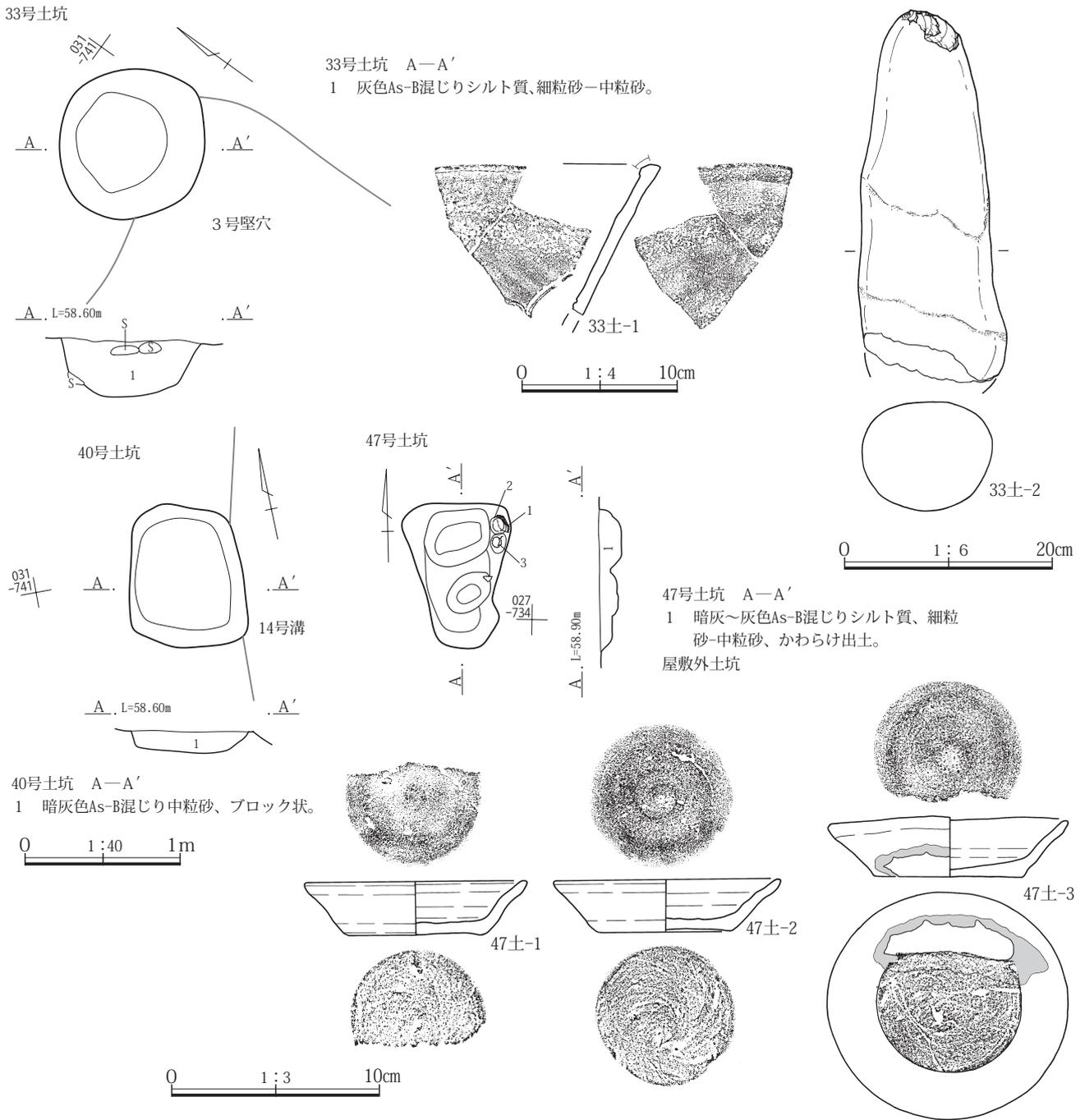


0 1:4 10cm

0 1:6 20cm

0 1:40 1m

第40図 2区中世屋敷内土坑群(4)および出土遺物



第41図 2区中世屋敷内土坑群(5)および出土遺物

方位 表6に記した。

その他 本土坑の掘削意図は確認できなかった。

遺物 1号土坑から時期不詳の土器片1点、6号土坑から在地系鍋の破片1点他、9号土坑から在地系土器内耳鍋(1)と鍋破片1点他、11号土坑から在地系鍋の破片1点、12号土坑からは五輪塔水輪(1)、25号土坑から在地系土器の皿(1)・内耳鍋(2)・鍋破片3点他、30号土坑から在地系土器の内耳鍋(1)、32号土坑から在地系土器片口鉢(1)・在地系鍋の破片1点・焙烙鍋の破片1

点、板碑(2)、33号土坑から在地系土器片口鉢(1)や敲石(2)、47号土坑から在地系土器皿(1~3)他の出土があった。

所見 出土遺物等から見ると時期の特定も難しく、一方本土坑群は屋敷内に在り、その形態は中世屋敷遺構に多く見られるもので、その軸線は堀(2区1号溝)とほぼ一致するため、屋敷と同時期の所産と判断されるものである。

第6表 2区中世屋敷内土坑一覧

No.	挿図 写真	位置	長軸×短軸×深さ(cm)	遺物と 埋没土	備考
		形状	軸方向		
1	図37 PL-6	031～032-767～768 G 隅丸方形	149×85×39 N-3° E		館内郭。2溝と重複。
2	図37 PL-6	031-766 G 方形	142×112×29 N-5° W		館内郭。2溝、19、20土坑と重複。
4	図37 PL-6	033-764 G 隅丸方形	不明×77×22 N-6° E		館内郭。P 345、P 346、P 456と重複。
5	図37 PL-6	032～033-765～768 G 長方形	262×55×27 N-0°		館内郭。2溝と重複。
6	図37 PL-6	034-760 G 不明	不明×不明×28 —		館内郭。2溝、22土坑と重複。
7	図37 PL-6	032-758 G 方形	145×148×35 N-79° W		22土坑、P 466と重複。
8	図37 PL-6	030-755 G 隅丸方形	98×83×10 N-68° W		館内郭。9土坑と重複。
9	図37 PL-6	029～031-754～755 G 隅丸方形	208×154×26 N-12° E	1	館内郭。8土坑と重複。
11	図37 PL-6	028-758 G 長方形	142×49×33 N-80° W		2溝と重複。
12	図37 PL-6	030-750 G 円形	64×57×50 N-35° E	1	
19	図37 PL-7	030-365 G 方形	134×96×32 N-82° W		2土坑と重複。
20	図37 PL-7	032-766 G 不明	不明×不明×16 —		2土坑と重複。
21	図37 PL-7	033-760 G 隅丸方形	[128]×94×34 N-11° E		館内郭。1竪穴、2溝、22土坑と重複。
22	図37	033-759 G 不定形	不明×98×17 N-28° W		館内郭。2溝、7土坑、21土坑と重複。
23	図39 PL-7	027-765～767 G 隅丸方形	213×50×28 N-87° W		
25	図39 PL-7	030～032-745～748 G 不定形	265×186×33 N-86° W	1・2	館内郭。P 298と重複。
26	図40 PL-7	028～030-734～736 G 不定形	183×35 N-7° W		館外郭。37土坑と重複。
27	図39 PL-7	032-754 G 隅丸方形	110×56×14 N-72° W		館外郭。北側は調査区域外。 P 448と重複。
28	図39 PL-7	032-743 G 不明	不明×不明×17 —		館内郭。北側は調査区域外。 P 304と重複。
29	図39 PL-7	029-745 G 楕円	65×44×22 N-22° E		館内郭。
30	図39 PL-8	030-744 G 長方形	114×64×15 N-3° E	1	館内郭。P 387、3竪穴と重複。
31	図40 PL-7	031-744 G 不定形	115×70×15～28 N-55° E		館内郭。
32	図39 PL-9	028～029-746～748 G 方形	220×174×21 N-0°	1・2	館内郭。P 301・302と重複。
33	図41 PL-8	030-741 G 円形	98×94×43 N-54° E	1・2	館内郭。3竪穴と重複。
37	図40 PL-8	029～031-734～736 G 方形?	不明×164×27～58 —		26土坑と重複。
38	図40 PL-8	030-733 G 長方形	不明×83×33 N-14° E		館外郭。北側は調査区域外。 P 396と重複。
40	図40 PL-8	030-740 G 方形	91×72×19 N-12° E		館内郭。14溝と重複。
42	図40 PL-8	029～031-736 G 長方形?	不明×50×17～33 N-18° E		館外郭。27土坑と重複。
47	図41 PL-8	027-734 G 不定形	94×65×15 N-1° W	1～3	

(5) 区画内井戸

2区1号井戸(第42図 PL.10、61・64
遺物観察表406頁)

概要 本井戸は2区中北部西寄りの屋敷内に位置する。発掘調査の途中までは3号土坑として処理したが、井戸と確認されたため1号井戸に変更した。

位置 027～028-761～762グリッドに在る。

重複 2区1号竪穴遺構と重複し、本井戸の方が新しいと判断された。

規模形態 本井戸は井筒朝顔形を呈するが、丸底を呈する。確認面から120～160cm付近に浅いアグリが形成される。径219×208cm、深さ209cmを測る。

埋没土 灰褐色砂質土等で埋められる。

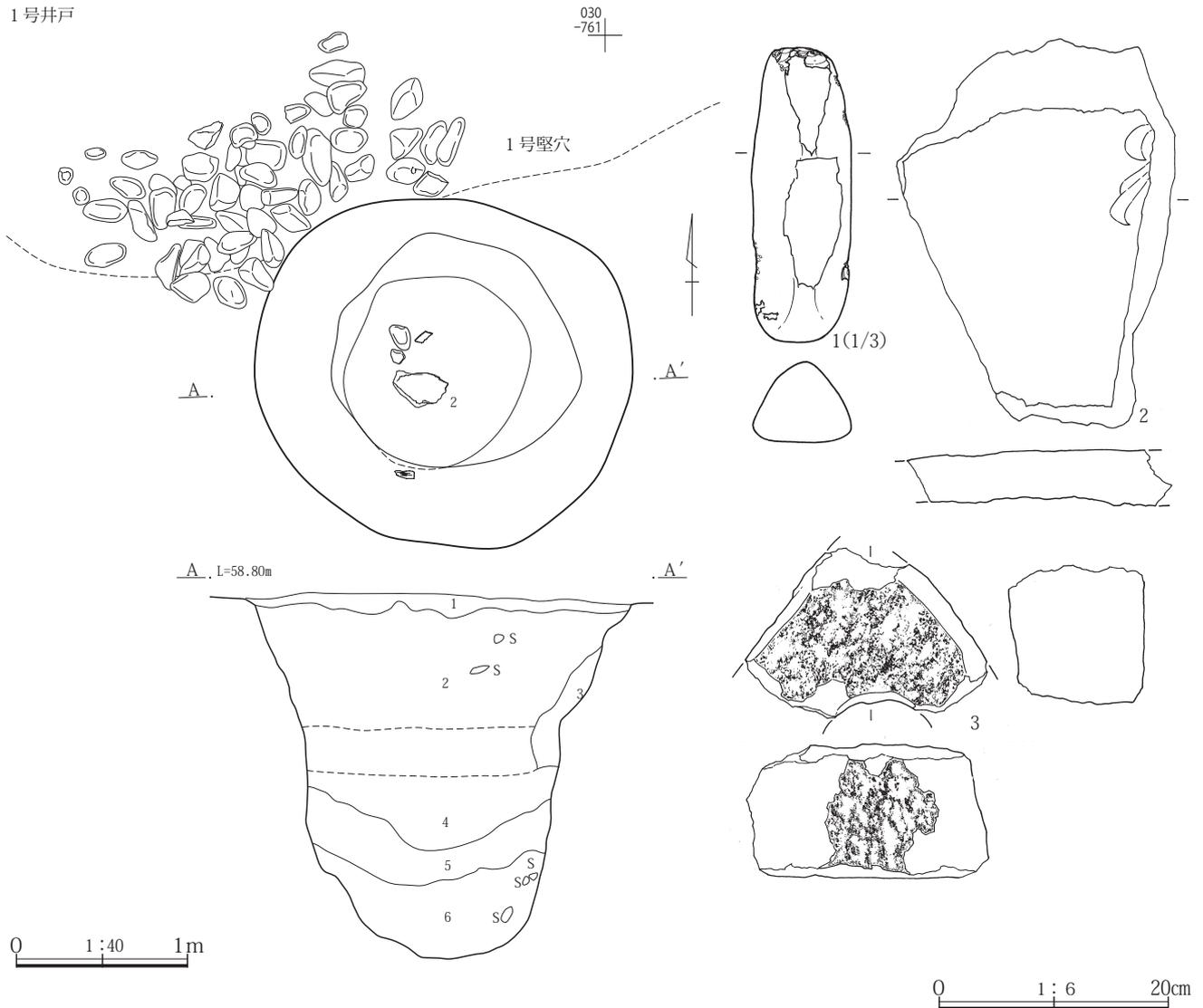
方位 N-84° E。

その他 杵材と判断される木材の出土があったが、腐食、粗造化が進んでおり、杵の形状等を復元することはできなかった。P L64に3点を示した。いずれも厚板状のクリ割材で一方の端部に切断したような形状が見られる。長さは30cm～51cm幅7～12cmの材である。尚、本井戸の湧水層の記録は残せなかった。

遺物 敲石(1)、板碑(2)、五輪塔の地輪(3)、曲物底板(4・5)、井戸杵(6)の出土が認められた。

所見 本井戸は出土遺物等から推して、概ね中世の所産と考えられる。

1号井戸



1号井戸 A-A'

- 1 灰褐色砂質シルト、渴鉄鉍汚染帯。
- 2 灰褐色パミス混じりシルト質細粒砂—極細粒砂、 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ 白色パミス(FP)。
- 3 灰褐色、黄灰シルトブロックの混じり細粒砂。
- 4 黄褐色土、EPを含む洪水層。(複数回に及ぶ互層)
- 5 灰褐色土、EPを微量含む。(複数回に及ぶ互層)
- 6 暗灰褐色土、黒色土混じる洪水層。(複数回に及ぶ互層)

第42図 2区1号井戸および出土遺物

2区3号井戸(第43図 PL.10、61 遺物観察表406頁)

概要 本溝は2区中北部東寄りの屋敷遺構内堀に当たる14号溝内に位置する。発掘調査段階では24号土坑としていたが、井戸と確認されたため3号井戸に変更した。

位置 025～026-758～759グリッドに在る。

重複 2区14号溝と重複するが、本井戸の方が新しい。

規模形態 本井戸は井筒朝顔形を呈するが、平底を呈する。アグリは認められない。径196×193cm、深さ237cmを測る。

埋没土 Hr-FP含む暗褐色土等で埋められる。

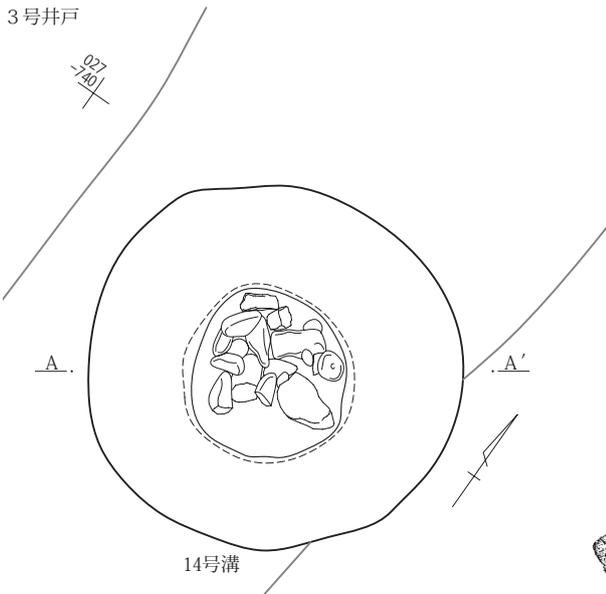
方位 N-84°E。

その他 本井戸の湧水層の記録は残せなかった。

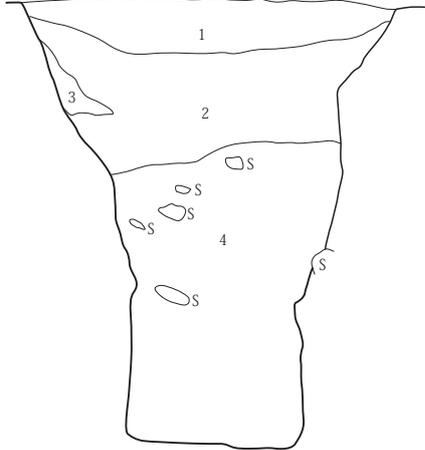
遺物 在地系土器片口鉢(1)、内耳鍋(2・3・4)、石臼上臼(7)、板碑(6)、礫(5)、台石(8)の出土が認められた。

所見 本井戸は出土遺物から推して、概ね15世紀後半以降の所産と考えられる。

3号井戸



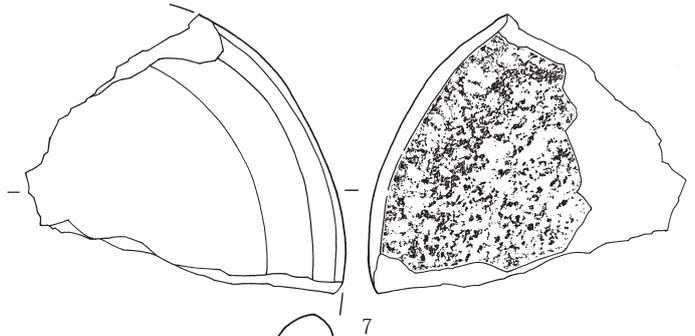
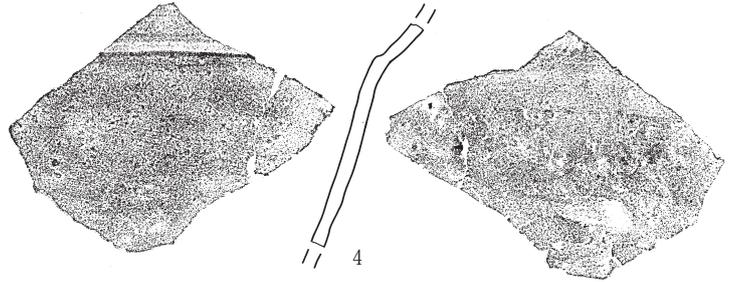
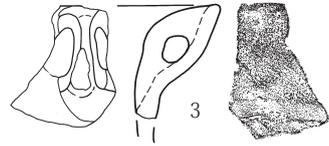
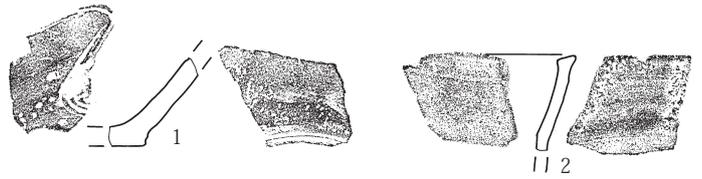
A . L=87.30m . A



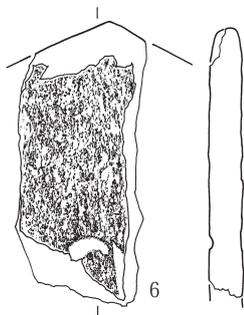
0 1:40 1m

3号井戸 A-A'

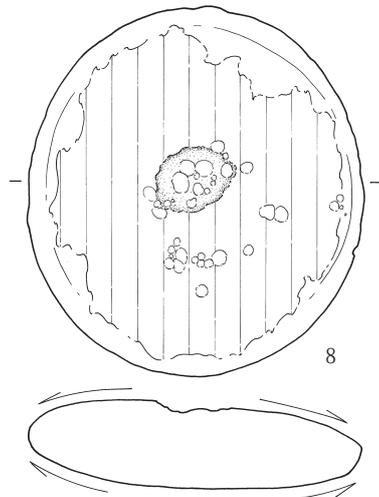
- 1 灰色As-B混じりシルト質細粒砂。
- 2 暗灰色As-B混じりブロック含有中粒砂-細粒砂、 ϕ 5~20mm、灰色シルト。
- 3 黄灰色シルト質細粒砂。
- 4 洪水層砂、互層、板碑出土。



0 1:4 10cm

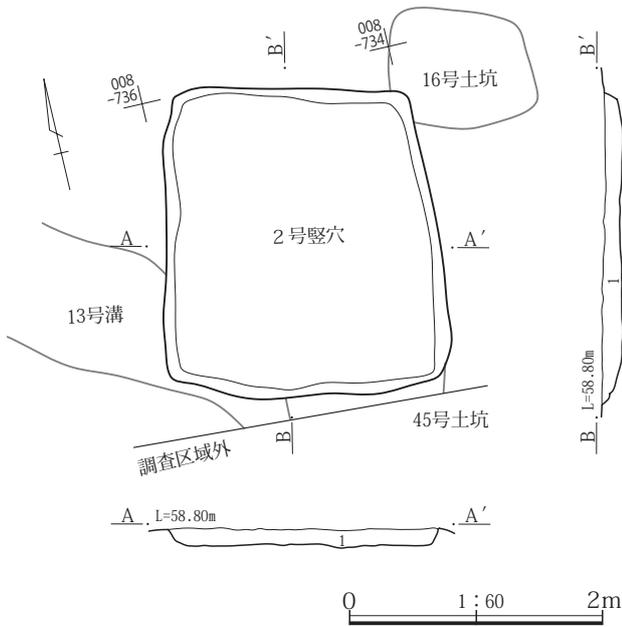


0 1:6 20cm



0 1:3 10cm

第43図 2区3号井戸および出土遺物



2号竖穴 A-A'・B-B'

1 灰褐色As-B混じり、中粒砂、φ5～10mm褐色ブロック入る、As-B混。

第44図 2区2号竖穴

(6) 区画外竖穴

2区2号竖穴(第44図 PL.3)

概要 本遺構は2区中南部に位置する大型の土坑状の遺構である。

位置 005～007-734～736グリッドに在る。

重複 本遺構は2区13号溝、16・45号土坑、507～509・525号ピットと重複し、13号溝と45号土坑を切ることを確認したものの、他の遺構との新旧関係は特定できなかった。

規模形態 本遺構は長方形に近い台形プランを呈し、掘削底面は平底である。長さ232cm、幅204cm、深さ17cmを測る。

埋没土 As-B混入の灰褐色土。

方位 N-10°E。 **面積** 4.37㎡

その他 本遺構の掘削意図は特定できなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本竖穴は覆土にAs-Bを混入するため概ね中世の所産と思慮される。

(7) 掘立柱建物

2区1号掘立柱建物(第45図 PL.3)

概要 本建物は2区中南部、屋敷遺構外郭側に位置し、2区1～12号ピットから成る。9号溝で西側を画されるピット群の西端近くに在る。

位置 007～013-746～753グリッドに在る。

重複 北西隅部で2号掘立柱建物と、またP45等と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模形態 本建物は南北方向に棟方向を取る、母屋は東西743cm、南北572cmを測る2×3間の横長総柱の掘立柱建物である。柱間は梁間は352～367cm、平均359.25cmで桁間は144～222cm、平均181.1cmを測る。

柱筋は概ね通っているが、中列南から2番目の柱穴P7は南に寄っている。

方位 N-2°E。 **面積** 39.35㎡

柱穴 P1～P12の12基から成る。(柱穴の規模・形態は第7表参照)

その他 柱間は概ね現代尺と同等の規格で建てられている。

遺物 認められなかった。

所見 本建物の時期は不明だが、検出層位と柱穴規模に照らして中世頃の所産と認識される。全国的にみると中世の掘立柱建物は6.5尺が基本であるが、往時佐位郡に属した伊勢崎市の波志江中屋敷西遺跡で発掘調査された中世屋敷の掘立柱建物と同様、1号掘立柱建物も6尺規格で建てられている。

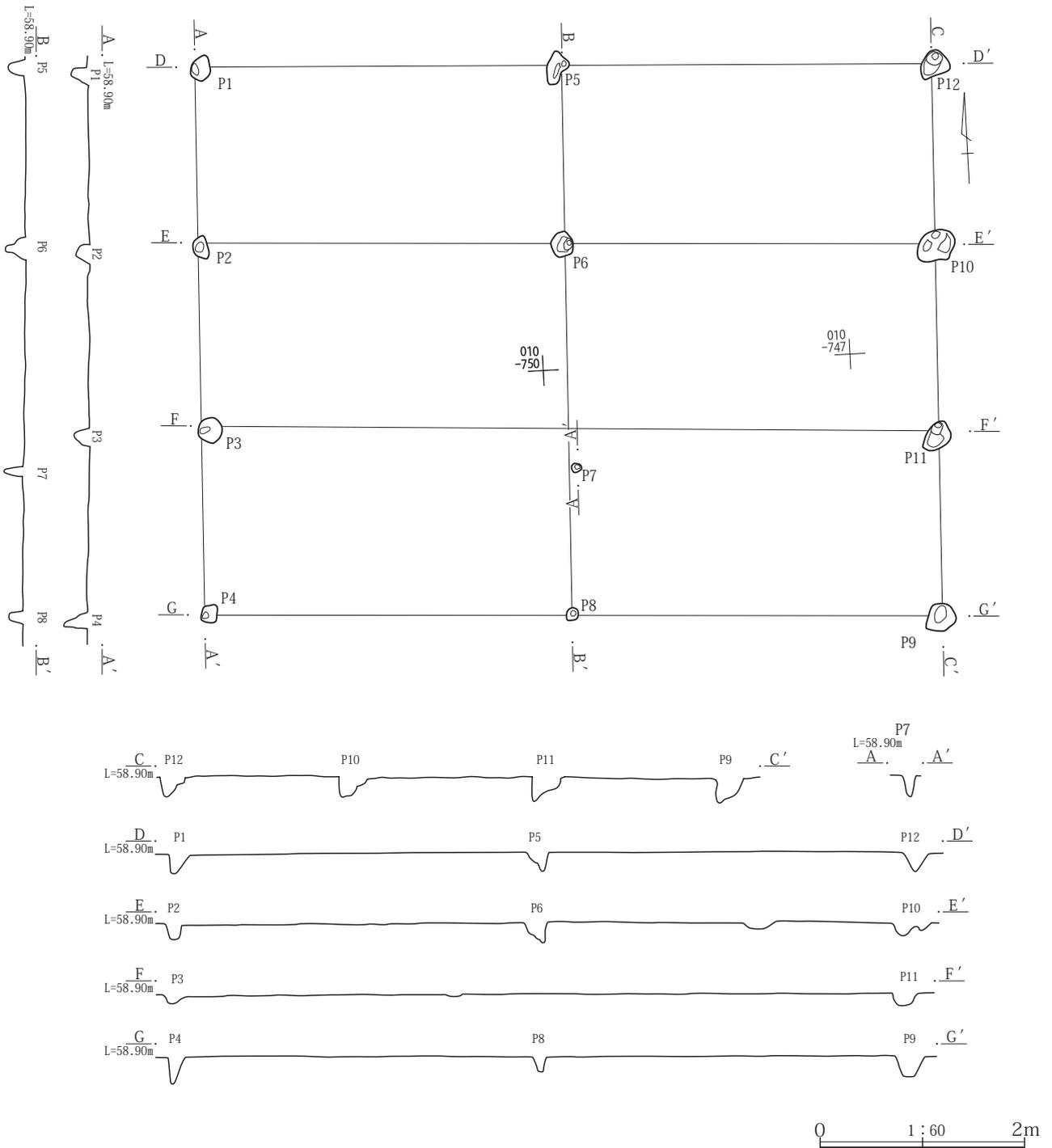
2区2号掘立柱建物(第46・47図 PL.3)

概要 本建物も2区中南部の屋敷遺構外郭側、9号溝で西側を画されるピット群の西端近くに位置する。2区20・21・24・25・27・31・35・36・38・39・41・43～45・57・127・132・203・227・314・335・541号ピットから成る。

位置 011～017-751～758グリッドに在る。

重複 南東隅部で1号掘立柱建物と、またP40等と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模形態 本建物は棟方向を南北方向に取る、母屋は東西440cm、南北583cmを測る2×3間の総柱の掘立柱建物である。柱間は梁間は192～214cm、平均202.13cm



第45図 2区1号掘立柱建物

で桁間は162～215cm、平均183.11cmを測る。また北側のP203と南側のP335は張出しの棟持ち柱と見られ、前者は72cm、後者は96cm張り出している。

本建物は東・南・西に下屋を有しておりその幅は55～110cm、平均86cmを測る。

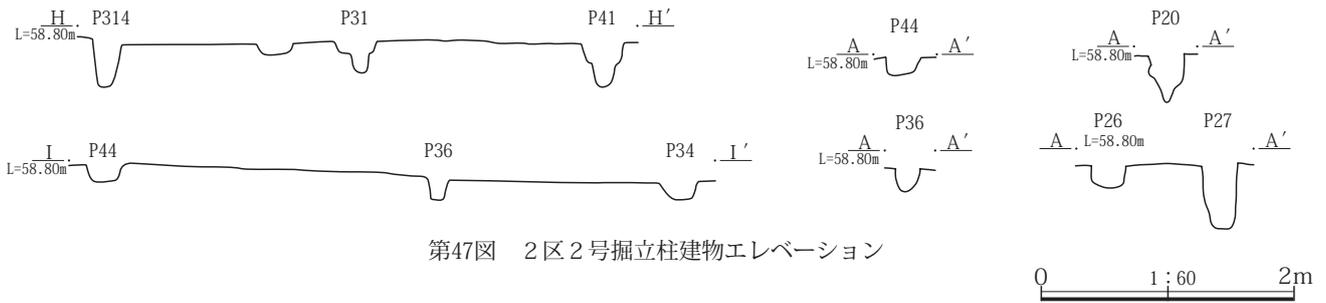
側柱の柱筋は概ね通っているが、中列の中側の柱は南北にそれぞれ寄っている。

方位 N-9°W。面積 45.89㎡ 母屋 25.65㎡

柱穴 母屋はP21・27・31・35・38・41・43・45・57・132・314・541の12基、張出しの棟持ち柱(P203・335)を加えれば14基から成る。また下屋の柱穴はP20・24・25・36・39・44・127・227の8基が確認された。(柱穴の規模・形態は第7表参照)

その他 柱間は概ね現代尺の6尺半規格で建てられている。

遺物 出土遺物は認められなかった。



第47図 2区2号掘立柱建物エレベーション

所見 本建物の時期も不明だが、1号掘立柱建物同様概ね中世の所産と認識される。しかし棟方向が屋敷の軸方向と異なるため、屋敷に伴う時期のものとは認め難い。尚、その建築規格は凡そ6.5尺であり全国基準に準拠している

2区3号掘立柱建物(第48図)

概要 本建物は2区中南部の屋敷遺構外郭側に分布するピット群のうち、中央の集中域内に位置する。本建物は2区60・70・73・96・106・109・356号ピットから成っている。

本建物も2区中南部の屋敷遺構外郭側、9号溝で西側を画されるピット群の西端近くに位置する。

位置 009～014-733～737グリッドに位置する。

重複 P72等と重複するが、何れに対しても新旧関係は特定できなかった。

規模形態 本建物は棟方向を南北方向に取り、東西449cm、南北572cmを測る1×3間の典型的な梁間1間型の掘立柱建物である。柱間は梁間が402～413cm、平均407.07cmで桁間は193～212cm、平均203.6cmを測る。南東隅の柱穴は確認できなかった。

側柱の柱筋は概ね通っているが、東列は南側が若干開く。

方位 N-7°E。 **面積** 21.65㎡

柱穴 柱穴はP60・70・73・96・106・109・356から成り、上述のように南東隅の柱穴は確認できなかった。(柱穴の規模・形態は第7表参照)

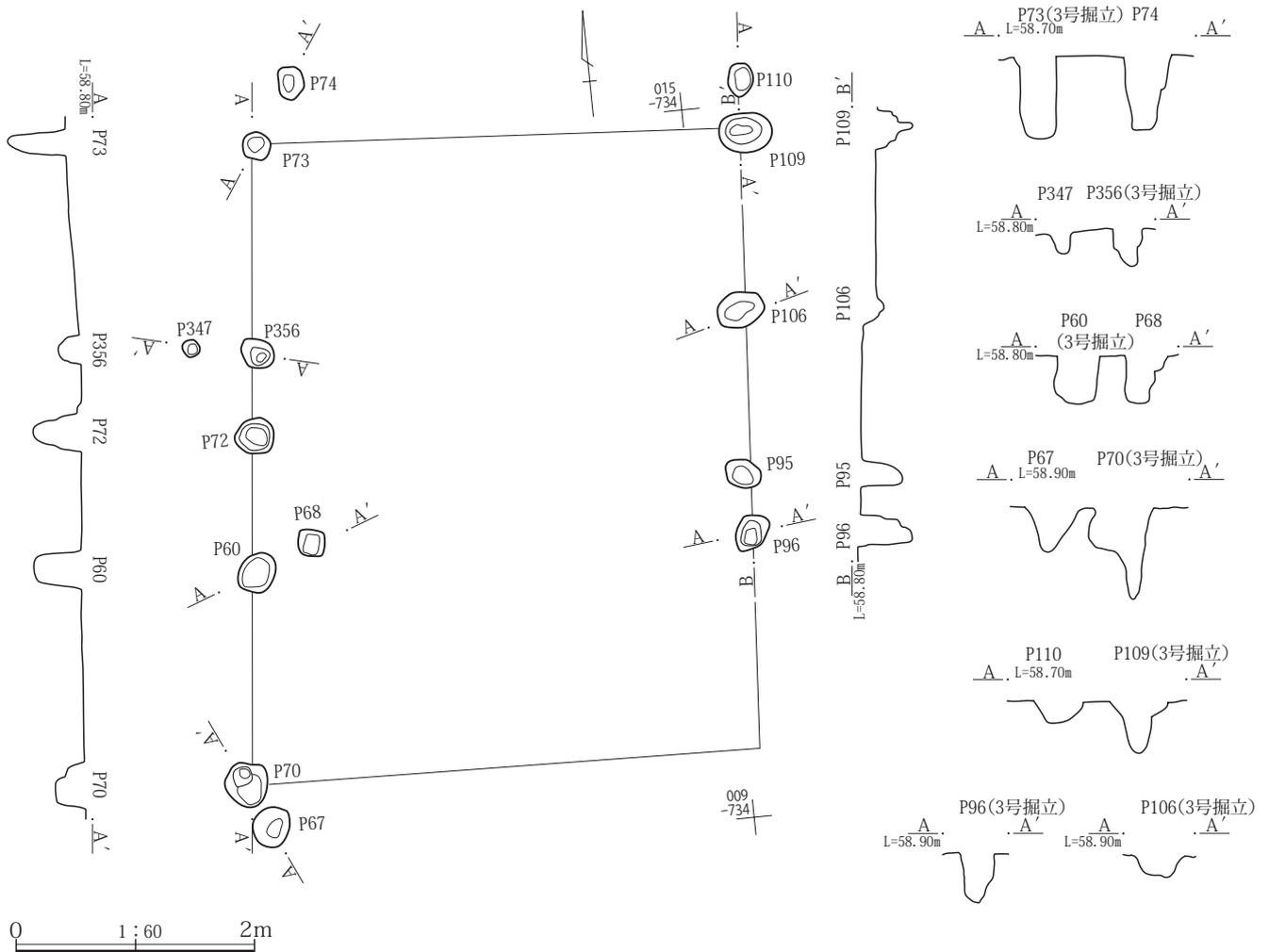
その他 柱間は概ね現代尺の6尺半強の規格で建てられている。

遺物 認められなかった。

所見 本建物の時期も特定できなかったが、柱穴の規模と梁間1間型の建物であることから、凡そ中世の所産と判断される。

第7表 2区2号掘立柱建物

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ(cm)	備考	挿図	写真
1	013-753	楕円	24×19×19	1掘立	45	3
2	011-753	楕円	24×15×15	1掘立	45	3
3	009-753	楕円	25×23×18	1掘立	45	3
4	007-753	方形	径16×26	1掘立	45	3
5	012-749	楕円	29×16×20	1掘立	45	3
6	011-749	方形	径23×21	1掘立	45	3
7	021-666	方形	25×23×39	1掘立	45	3
8	007-749	円形	径12×15	1掘立	45	3
9	007-746	楕円	径27×26	1掘立	45	3
10	010-746	不定形	34×29×21	1掘立	45	3
11	009-746	方形	31×22×26	1掘立	45	3
12	012-746	楕円	28×23×19	1掘立	45	3
20	010-757	円形	径26×38	2掘立	46.47	3
21	013-756	楕円	27×23×44	2掘立	46	3
24	015-758	長方形	36×29×6	2掘立	46	3
25	016-758	楕円	31×22×8	2掘立	46	3
27	011-754	方形	径30×53	2掘立	46.47	3
31	017-755	円形	32×27×25	2掘立	46.47	3
35	013-752	方形	29×23×49	2掘立	46	3
36	014-752	楕円	22×17×20	2掘立	46.47	3
38	015-753	方形	径24×41	2掘立	46	3
39	015-752	方形	31×23×16	2掘立	46.47	3
41	017-753	方形	径32×35	2掘立	46.47	3
43	015-755	方形	41×33×68	2掘立	46	3
44	011-751	方形	40×30×15	2掘立	46.47	3
45	012-752	方形	38×35×54	2掘立	46.47	3
57	015-757	方形	26×18×24	2掘立	46	3
60	011-737	方形	35×30×40	3掘立	48	—
70	009-738	楕円	40×37×54	3掘立	48	—
73	015-737	方形	径24×48	3掘立	48	—
96	011-733	方形	35×25×63	3掘立	48	—
106	013-733	楕円	40×30×18	3掘立	48	—
109	014-733	楕円	45×33×31	3掘立	48	—
127	013-757	円形	26×18×不明	2掘立	48	3
132	013-754	方形	径40×66	2掘立	48	3
203	018-755	楕円	23×19×23	2掘立	46	3
227	015-758	楕円	25×21×34	2掘立	46	3
314	016-757	円形	24×22×35	2掘立	46.47	3
335	010-754	方形	26×17×不明	2掘立	46	3
356	013-737	楕円	27×25×33	3掘立	48	3
541	011-756	楕円	35×29×44	2掘立	46	3



第48図 2区3号掘立柱建物

2区1号柵跡(第49図)

概要 本柵跡は2区中南部の屋敷遺構外郭側に分布するピット群のうち、東寄りの集中域内に所在する145・196・200・206・219・229・336号ピットから成る。

位置 004～008-712～719グリッドにある。

規模形態 本柵は7本の柱から成り、全長657cm、柵の長さ634cmを測り、柱間は86～123cm、平均109.83cmを測る。

方位 N-63°W。

柱穴 柱穴の規模・形態は第8表参照。

その他 本柵は凡そ現代尺の1尺を単位として設置されている。また建物の一部という可能性は否定できない。

遺物 認められなかった。

所見 本柵の時期は特定できなかったが、確認層と柱穴の形態から概ね中世頃の所産と判断される。

2区2号柵跡(第49図)

概要 本柵跡は2区中南部の屋敷遺構外郭側に分布するピット群のうち、中央の集中域内の東端部に所在するピットのうち341・344・560・561号ピットから成る。

位置 006～010-707～710グリッドにある。

規模形態 本柵は4本の柱から成り、全長507cm、柵の長さ482cmを測り、柱間は141～185cm、平均160.67cmを測る。

方位 N-25°E。

柱穴 柱穴の規模・形態は第8表参照。

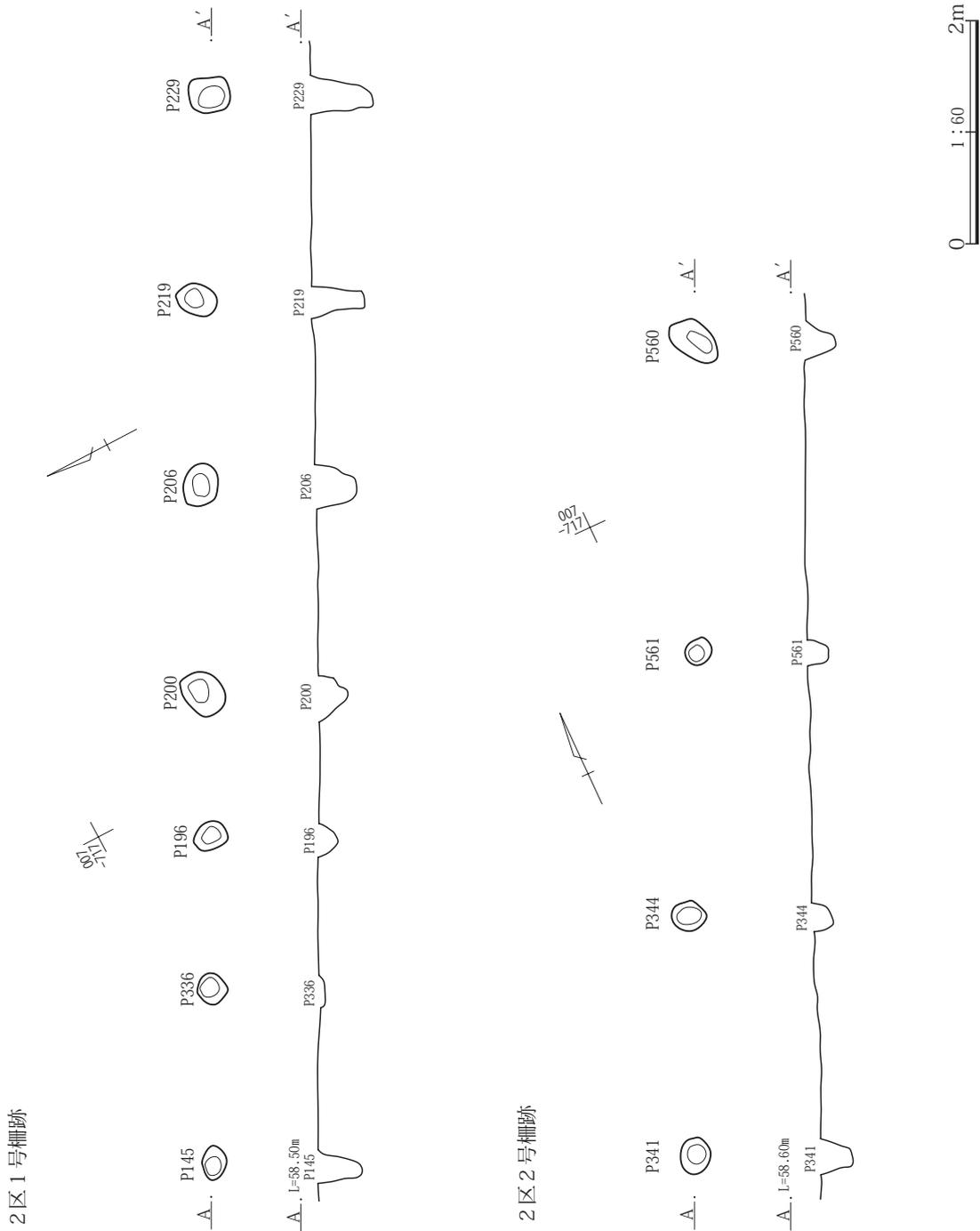
その他 本柵も凡そ現代尺の1尺を単位として設置されている。また建物の一部という可能性は排除されない。

遺物 認められなかった。

所見 本柵も概ね中世頃の所産と思慮されるが、時期特定は叶わなかった。

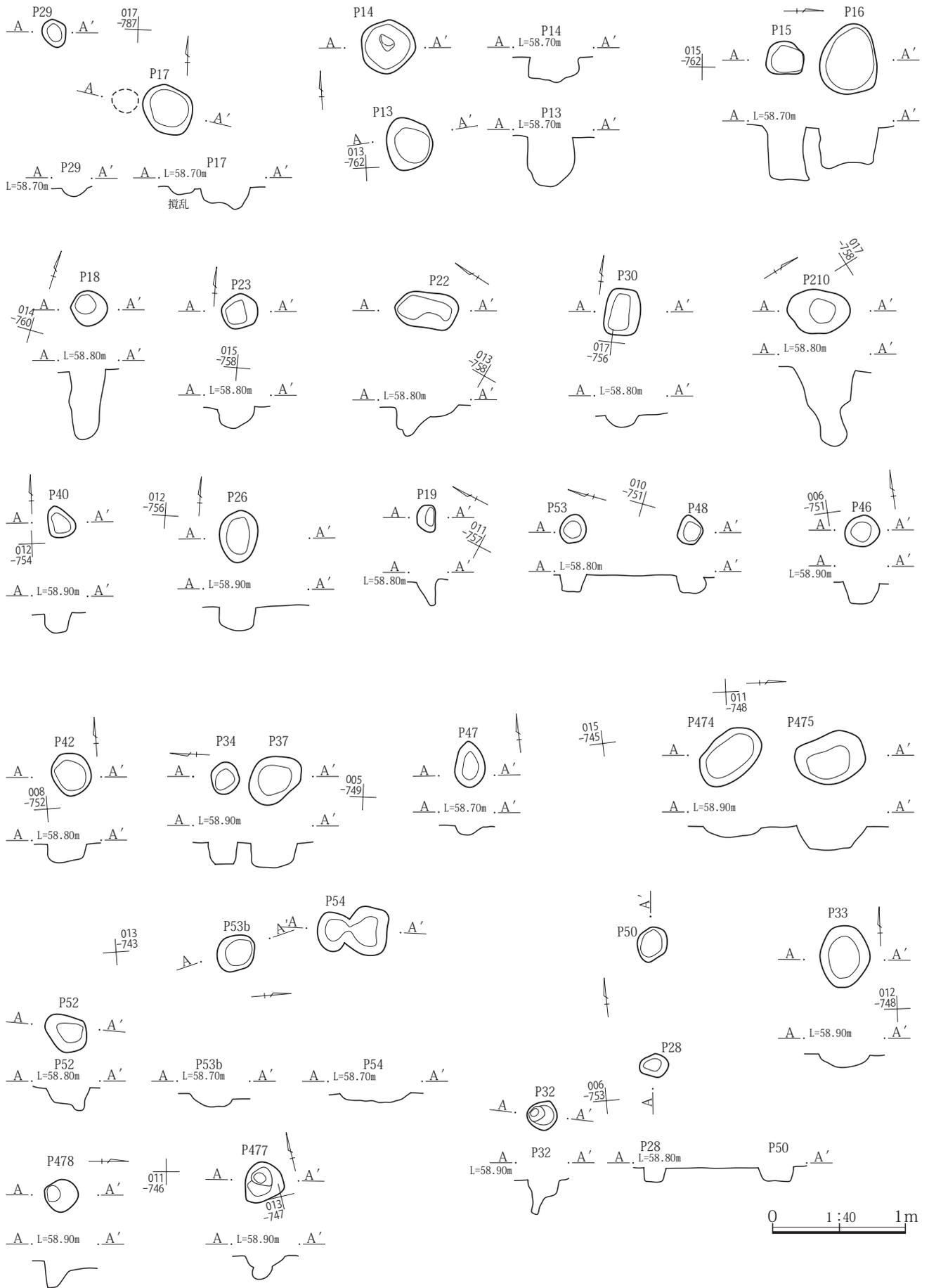
第8表 2区柵跡一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ(cm)	備考	挿図	写真
145	007-719	円形	20×16×26	1柵列	49	—
196	006-717	方形	21×17×12	1柵列	49	—
200	005-716	方形	29×23×19	1柵列	49	—
206	005-715	方形	27×21×25	1柵列	49	—
219	004-714	方形	24×19×32	1柵列	49	—
229	004-713	方形	26×21×36	1柵列	49	—
336	006-718	方形	径18×3	1柵列	49	—
341	006-710	円形	22×19×21	2柵列	49	—
344	007-709	楕円	22×19×13	2柵列	49	—
560	010-708	楕円	34×20×18	2柵列	49	—
561	009-708	円形	17×15×14	2柵列	49	—

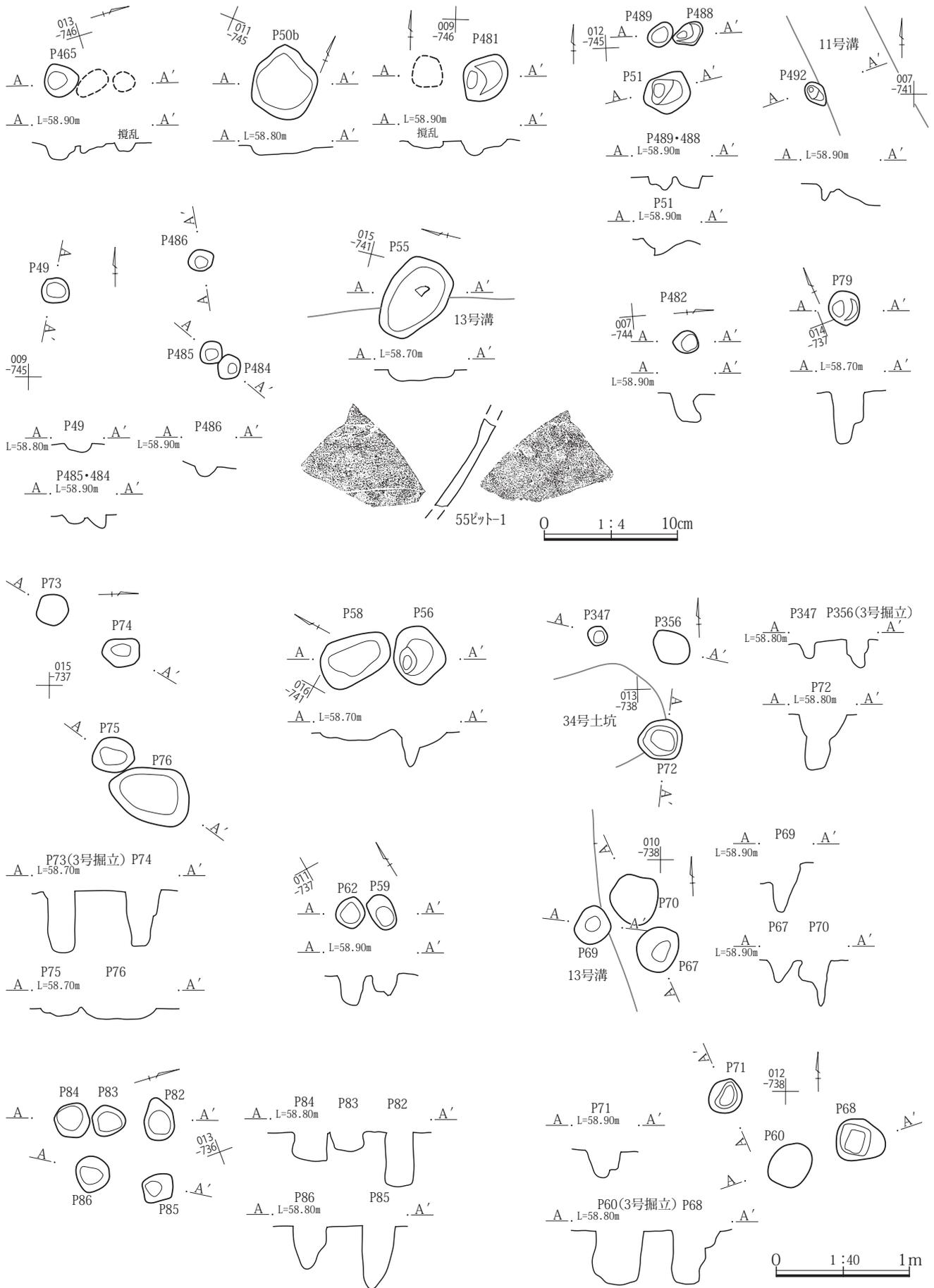


第49図 2区1・2号柵跡

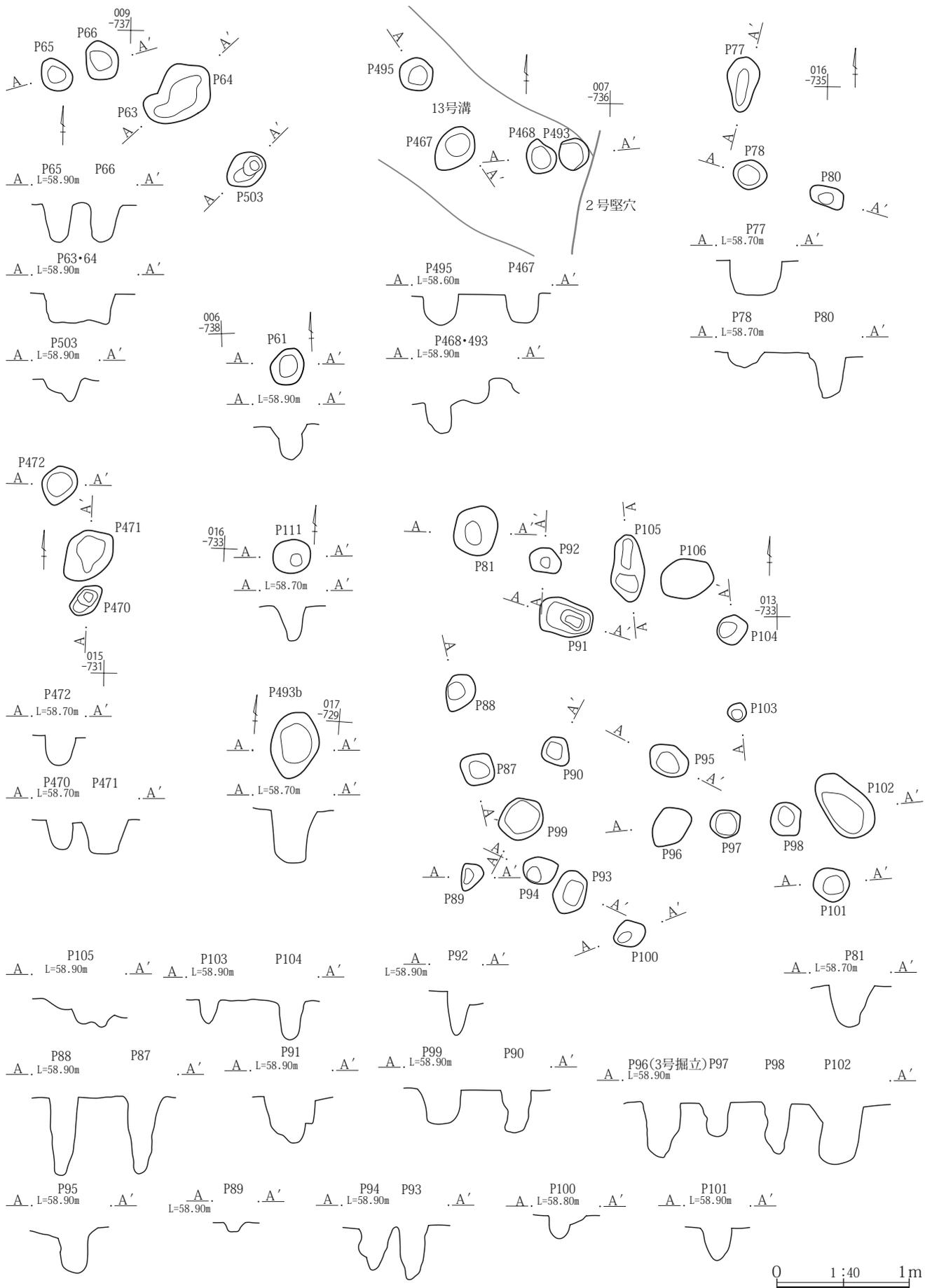
第IV章 中世の遺構と遺物



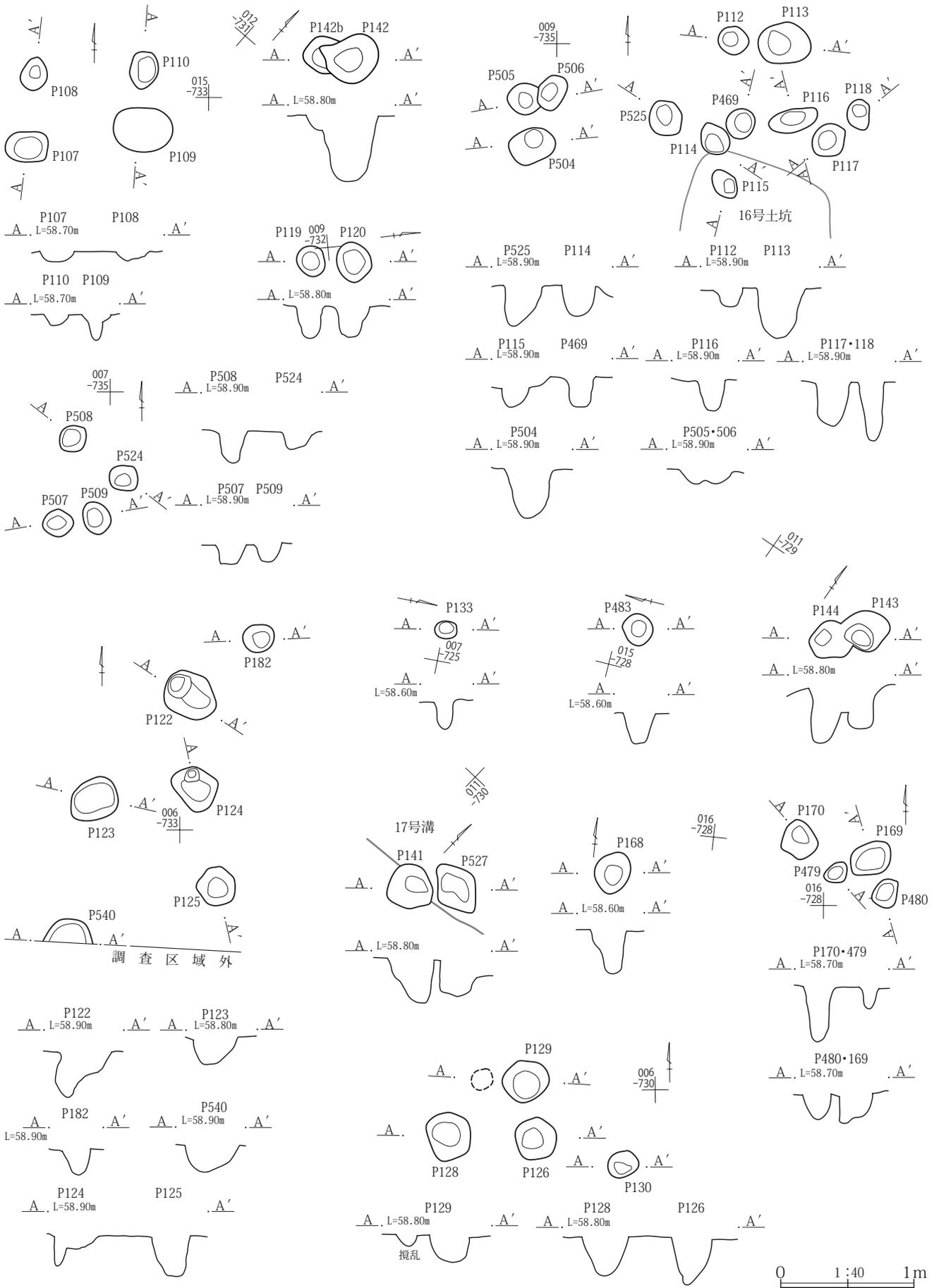
第50図 2区中世屋敷外ピット群(1)



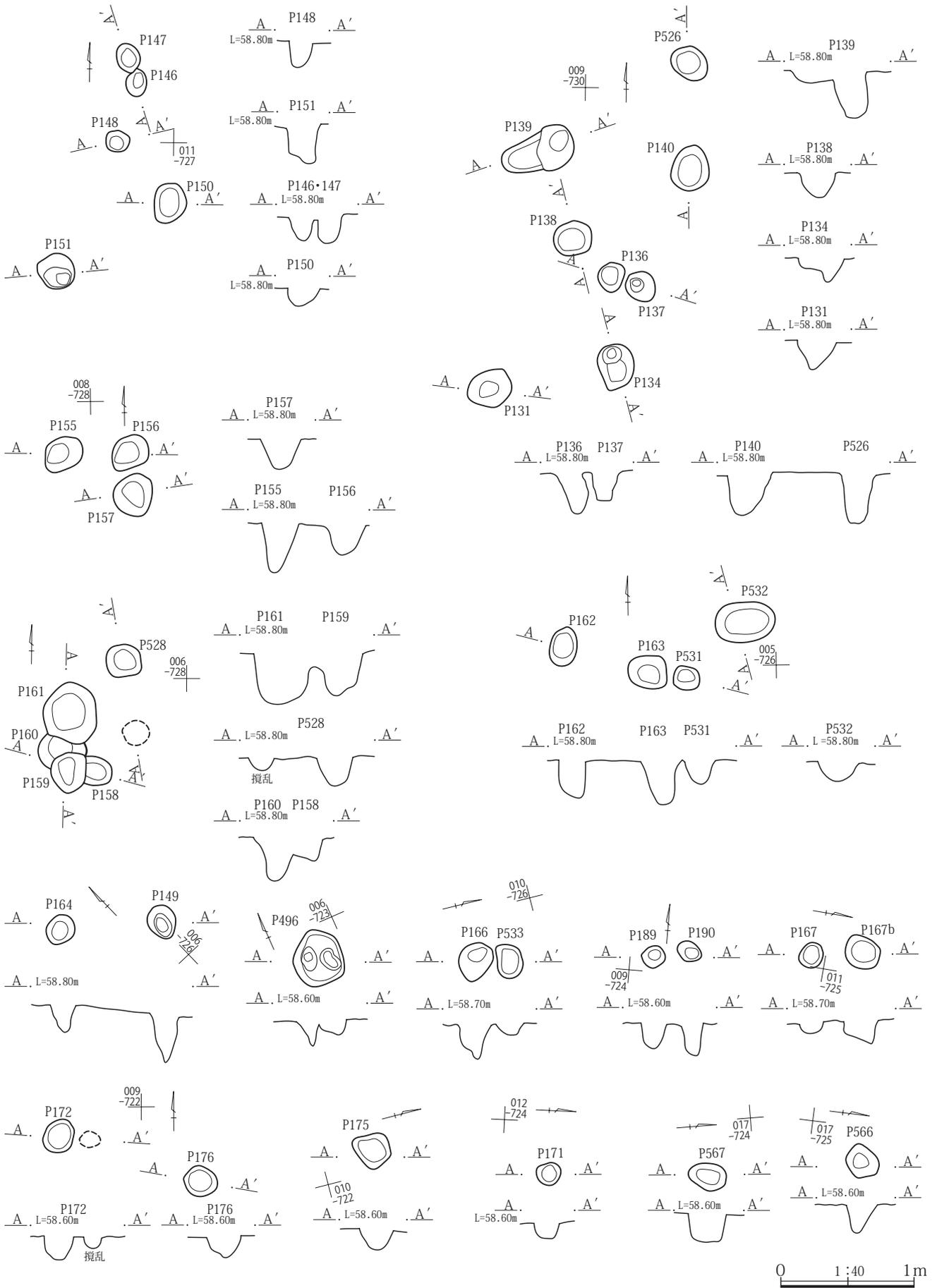
第51図 2区中世屋敷外ピット群(2)および出土遺物



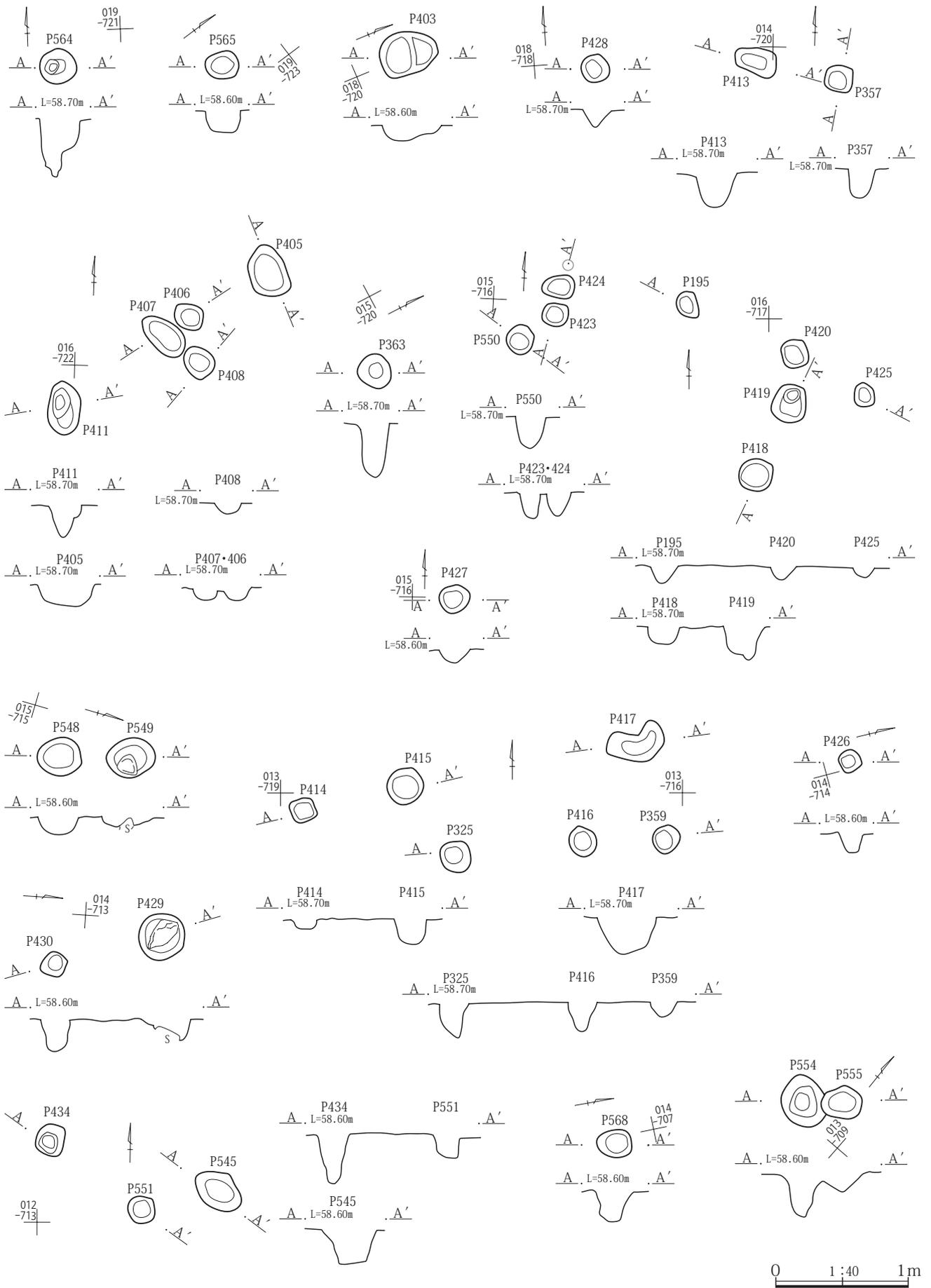
第52図 2区中世屋敷外ピット群(3)



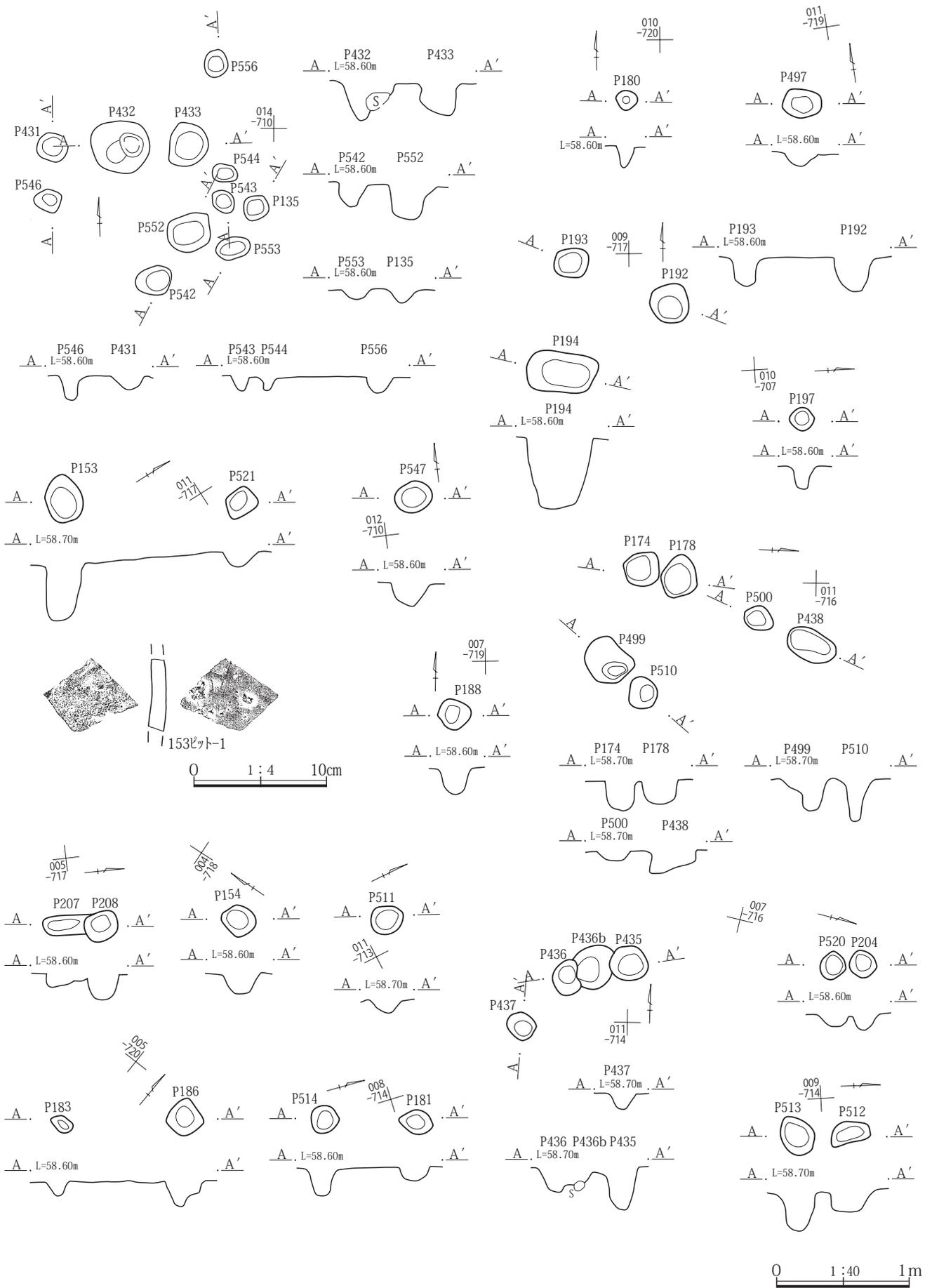
第53図 2区中世屋敷外ピット群(4)



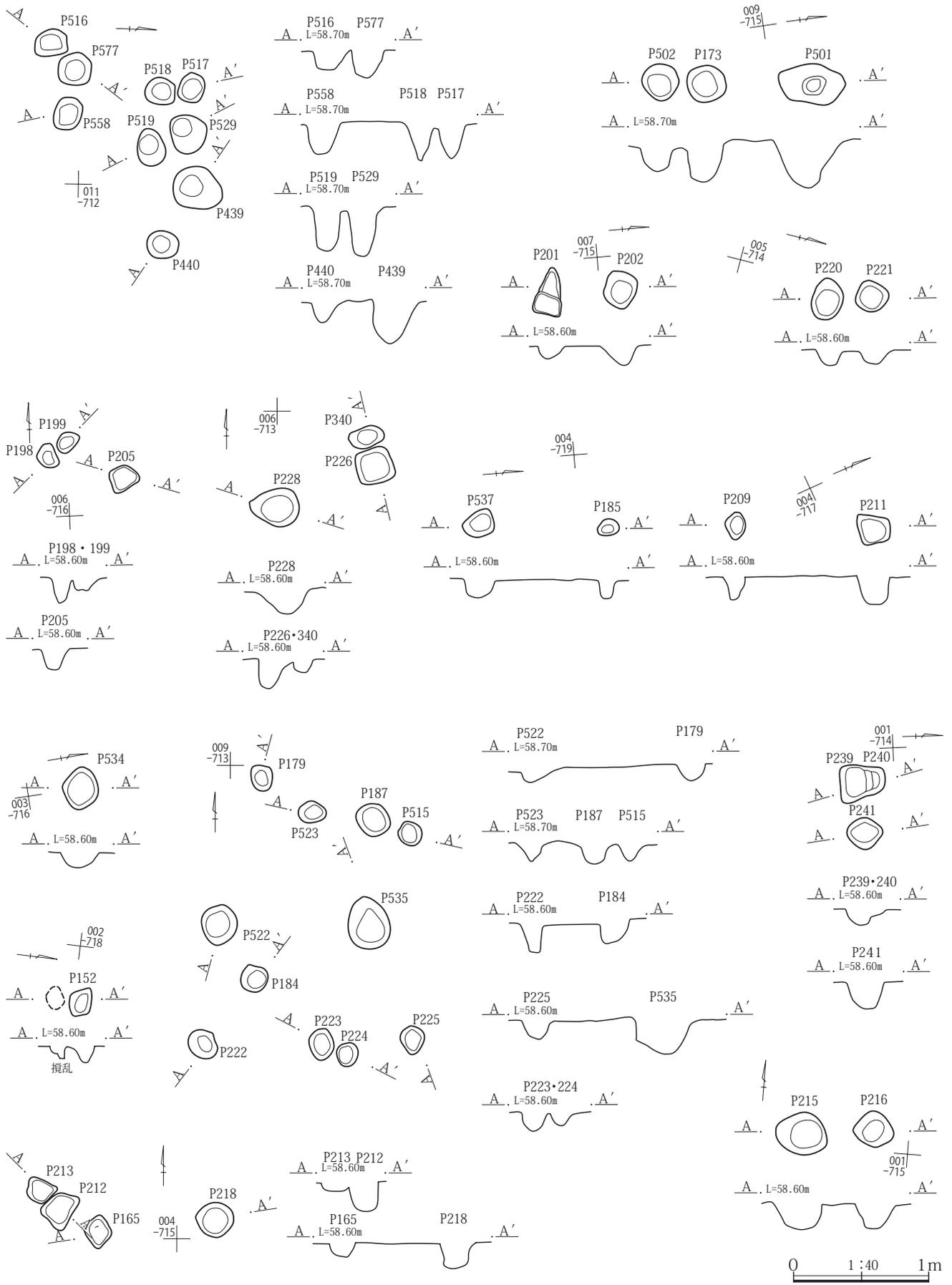
第54図 2区中屋敷外ピット群(5)



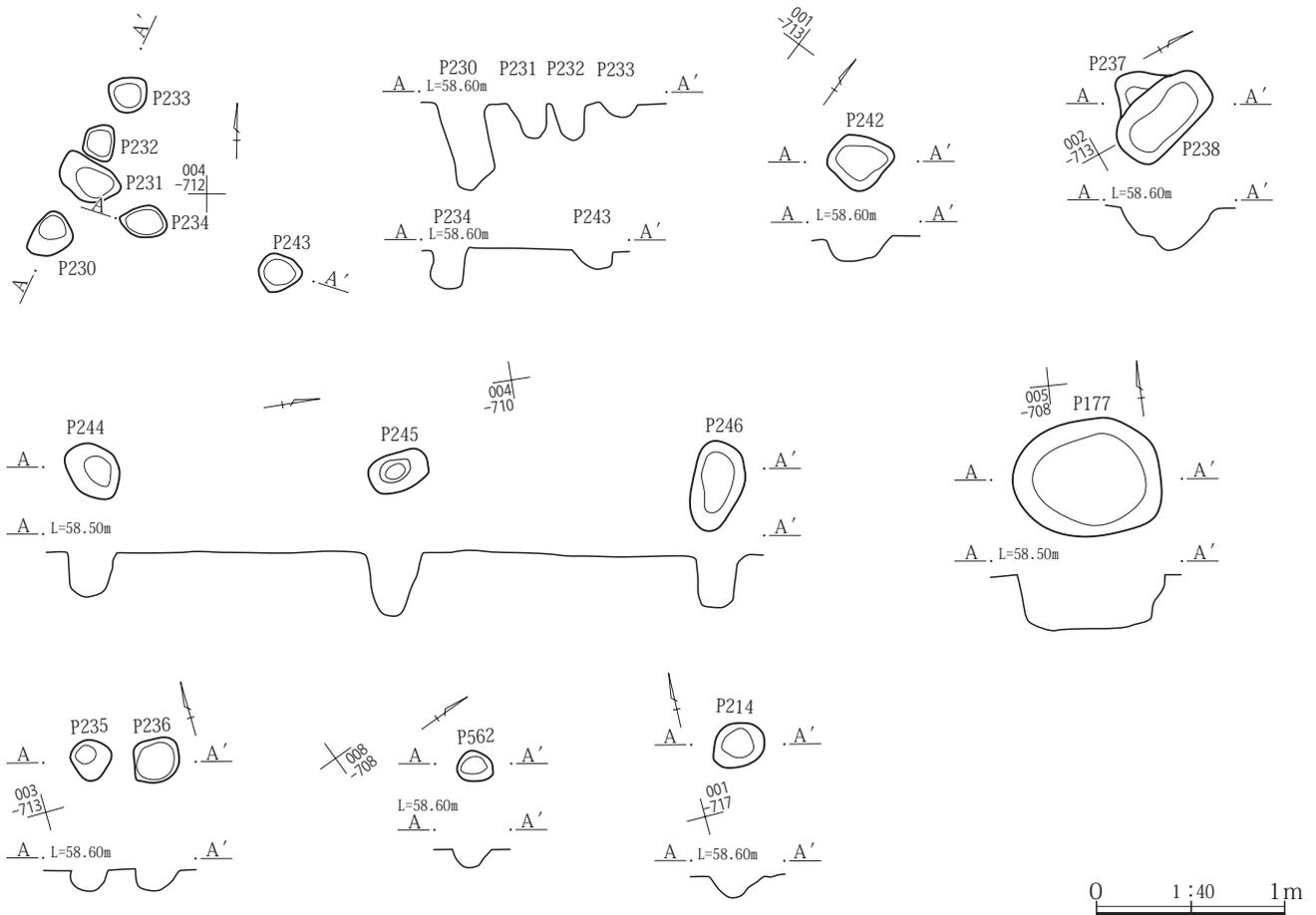
第55図 2区中屋敷外ピット群(6)



第56図 2区中世屋敷外ピット群(7)および出土遺物



第57図 2区中世屋敷外ピット群(8)



第58図 2区中世屋敷外ピット群(9)

(8) 中世屋敷外ピット群

2区中世屋敷外のピット群(第50～58図 PL. 4

遺物観察表407)

概要 中世屋敷内には13・19・22・23・26・28・30・32・34・37・40・42・46・50・50b・51・53・53b・54・56・58・59・61・69・71・72・74・105・107・108・110・120・122・126・128・131・133・142・142b・143・144・146・167・167b・168・195・197・199・201・202・204・205・207・216・218・220・226・228・230・246・263・278・325・340・347・357・359・363・403・405・408・411・413・420・423・436・436b・437・440・465・468・469・472・474・475・477・486・488・489・492・493b・495・497・499・529・531・535・537・540・542・556・558・562・563・568・577号ピットが分布する。その分布域は16号溝東端ラインから9号溝までの間にほぼ集中するが、中程その中で東寄りに分布の濃い区域が見られる。

位置 表9に記した。

重複 表9に記した。

規模形態 表9に記した。

ピットの規模は径は11～78cm、平均26.21cm、深さは5～67cm、平均21.10cmを測った。またプランは想定されるものを含め方形153基、長方形14基、円形74基、楕円形81基、不定形2基、不明が、1基であった。

その他 本ピット群も中世の柱穴の規模を示すものがあった。

遺物 55・153号ピットから常滑焼甕のものと見られる陶器破片(55ピット-1、153ピット-1)と125・403号ピットから時期不詳の土器片1点ずつの出土が見られた。

所見 本ピット群はピットの形態・規模から概ね中世の柱穴と認識されるもので、一部を除く分布域には1～3号掘立柱跡も確認され、城下に関連する柱穴群と認識されるものである。

第9表 2区中世屋敷外ピット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	柱痕	遺物	備考	挿図	写真
13	013-761	方形	40×34×27				50	4
14	013-761	円形	径40×16				50	4
15	015-761	方形	27×24×41				50	4
16	016-761	楕円	53×44×29				50	4
17	016-786	方形	40×35×14				50	4
18	014-759	円形	径26×49				50	4
19	011-757	楕円	22×13×20				50	4
22	013-757	長方形	46×26×19				50	4
23	014-758	方形	径27×16				50	4
26	011-755	楕円	39×29×18				50	4
28	006-752	楕円	22×18×12				50	4
29	016-787	円形	22×18×6				50	4
30	017-755	長方形	37×26×11				50	4
32	005-753	円形	24×22×29				50	4
33	012-748	楕円	47×38×10				50	4
34	006-748	円形	23×21×17				50	4
37	005-748	方形	43×33×19				50	4
40	012-753	楕円	25×24×14				50	4
42	008-751	円形	32×29×15				50	4
46	005-750	円形	26×24×16				50	4
47	014-746	楕円	35×23×7			館外郭。	50	4
48	010-751	方形	20×18×13				50	4
49	009-744	方形	径20×5				51	4
50	007-752	方形	28×23×14				50	4
50b	010-744	方形	49×46×8				51	4
51	011-744	方形	36×28×14				51	4
52	012-742	方形	35×28×12				50	4
53	010-750	円形	23×19×14				50	4
53b	013-742	方形	32×26×5				50	4
54	014-742	不定形	52×37×8				50	4
55	014-741	長方形	64×45×9		1	13溝と重複	51	4
56	015-740	方形	41×36×27				51	4
58	015-740	長方形	54×34×8				51	4
59	010-736	楕円	28×19×13				51	4
61	005-737	方形	28×24×26				52	4
62	010-736	方形	径22×23				51	4
63	008-736	円形	不明×不明×22			P 64と重複	52	4
64	008-736	方形	不明×不明×不明			P 63と重複	52	4
65	008-737	楕円	28×23×19				52	4
66	008-737	方形	29×25×30				52	4
67	009-738	円形	35×30×26				51	4
68	011-737	方形	38×30×40				51	4
69	009-738	円形	径26×22			13溝と重複	51	4
71	011-738	円形	28×24×22				51	4
72	012-737	円形	径30×43			34土坑と重複	51	4
74	015-737	方形	28×22×43				51	4
75	015-736	円形	33×27×6				51	4
76	015-736	長方形	60×42×9				51	4
77	016-735	楕円	42×26×27				52	4
78	015-735	円形	径23×12				52	4
79	014-736	円形	径25×39				51	4
80	015-734	方形	26×15×33				52	4
81	013-735	方形	39×32×33				52	4
82	012-736	楕円	33×23×43				51	4
83	012-736	円形	径24×14				51	4
84	012-736	円形	径27×21				51	4
85	012-735	方形	径21×48				51	4
86	012-736	円形	径26×31				51	4
87	011-735	方形	径24×67				52	4
88	012-735	方形	28×23×60				52	4
89	011-735	楕円	22×16×8				52	4
90	011-734	方形	24×22×32				52	4
91	012-734	長方形	42×28×35				52	4
92	013-734	方形	25×18×34				52	4
93	010-734	長方形	32×24×37				52	4
94	011-734	方形	27×22×33				52	4
95	011-733	方形	32×23×32				52	4
97	011-733	方形	径22×26				52	4
98	011-732	方形	26×23×39				52	4
99	011-734	方形	34×30×26				52	4
100	010-734	方形	26×20×21				52	4
101	010-732	方形	径27×26				52	4
102	011-732	楕円	55×34×46				52	4
103	012-733	円形	径14×20				52	4
104	012-733	円形	径21×29				52	4
105	013-734	楕円	51×26×22				52	4
107	014-734	楕円	32×22×9				53	4
108	015-734	方形	25×21×10				53	4
110	015-733	楕円	28×22×13				53	4
111	015-732	方形	29×27×26				52	4
112	009-733	円形	径22×15				52	4
113	009-733	楕円	40×31×37				53	4
114	008-733	方形	23×21×24			16土坑と重複	53	4
115	007-733	方形	25×18×17			16土坑と重複	53	4
116	008-733	楕円	38×19×24				53	4
117	008-732	方形	径25×34				53	4
118	008-732	方形	23×18×41				53	4
119	008-731	円形	径22×25				53	4
120	009-731	方形	31×26×23				53	4
122	007-732	方形	42×33×35				53	4
123	006-733	楕円	35×31×21				53	4
124	006-732	方形	33×29×24				53	4
125	005-732	方形	径29×30				53	4
126	005-730	方形	径31×35				53	4
128	005-731	方形	36×32×30			底面	53	4
129	006-730	円形	34×30×21				53	4
130	005-730	方形	23×19×17				53	4
131	006-730	方形	35×28×24				54	4
133	007-725	方形	18×14×24				53	4
134	006-729	方形	34×28×18				54	4
135	013-710	方形	径19×9				56	4
136	007-729	方形	径22×32				54	4
137	007-729	方形	23×18×22				54	4
138	007-730	方形	29×25×20				54	4
139	008-730	楕円・ 方形	56×33×35				54	4
140	008-729	楕円	35×29×32				54	4
141	010-729	方形	径34×35			17溝と重複	53	4
142	012-730	方形	40×32×50			抜柱か？	53	4
142b	012-730	方形	26×不明×13			P 142と重複	53	4
143	011-728	方形	不明×31×33			P 144と重複	53	4
144	011-728	方形	不明×28×42			P 143と重複	53	4
146	011-727	方形	21×16×18				54	4
147	011-727	方形	23×18×21				54	4
148	011-727	円形	径18×18				54	4
149	006-726	楕円	28×22×40			底面	54	4
150	010-727	楕円	31×25×13				54	4
151	010-727	方形	径28×29				54	4
152	002-717	楕円	20×16×14				57	4
153	010-717	楕円	36×29×42			1	56	4
154	005-718	円形	径23×16				56	4
155	007-728	方形	29×23×36				54	4
156	007-727	方形	29×23×21				54	4
157	007-727	楕円	径32×23				54	4
158	005-728	楕円	不明×22×13			P 158～P 161 重複	54	4
159	005-728	楕円	29×27×34				54	4
160	005-728	円形？	36×不明×11				54	4
161	005-728	方形	45×40×39				54	4
162	005-727	長方形	30×20×28				54	4
163	004-726	方形	29×25×34				54	4
164	006-726	円形	23×20×32				54	4
165	004-715	方形	径19×9				57	4
166	009-725	方形	29×24×31			底面	54	4
167	011-725	円形	27×25×19				54	4
167b	010-725	方形	20×17×11				54	4
168	015-726	楕円	33×27×32				53	4
169	016-727	方形	30×23×22				53	4
170	016-728	方形	29×25×42				53	4
171	012-723	円形	19×17×11				54	4
172	008-722	楕円	27×22×17				54	4
173	008-714	方形	径29×31				57	4

第IV章 中世の遺構と遺物

No.	位置	形状	長軸×短軸 ×深さ(cm)	備考	挿図	写真
174	009-716	方形	径26×23		56	4
175	010-722	方形	径24×15		54	4
176	008-721	円形	径24×15		54	4
177	004-707	楕円	径25×20		58	4
178	009-716	円形	径28×18		56	4
179	008-712	方形	19×15×11		57	4
180	009-720	円形	径16×18		56	4
181	008-713	楕円	径20×12		56	4
182	007-732	円形	43×35×35		53	4
183	004-720	楕円	17×11×13		56	4
184	007-712	方形	径20×13		57	4
185	003-718	楕円	16×12×15		57	4
186	004-719	方形	径26×20		56	4
187	008-711	方形	25×23×14		57	4
188	006-718	楕円	径22×21		56	4
189	009-723	円形	17×15×18		54	4
190	009-723	方形	18×15×26		54	4
191	013-717	円形	径19×21		55	4
192	008-716	円形	径30×27		56	4
193	008-717	方形	25×21×23		56	4
194	008-717	楕円	52×31×50		56	4
195	016-717	楕円	21×16×12		55	4
197	010-706	円形	径17×17		56	4
198	006-716	楕円	19×14×18		57	4
199	006-715	楕円	19×13×11		57	4
201	006-714	楕円	35×20×9		57	4
202	007-714	方形	27×22×16		57	4
204	007-715	方形	径19×13		56	4
205	006-715	方形	径19×16		57	4
207	004-716	楕円	不明×15×9		56	4
208	005-716	方形	25×22×19		56	4
209	003-717	楕円	18×16×17		57	4
210	016-757	楕円	47×32×62		50	4
211	004-716	方形	23×19×30		57	4
212	004-715	方形	24×20×22		57	4
213	004-715	方形	径18×7		57	4
214	001-715	方形	27×24×12		58	4
215	001-715	方形	36×32×19		57	4
216	001-716	楕円	径27×不明		57	4
218	004-714	円形	径27×20		57	4
220	005-713	方形	30×21×11		57	4
221	006-713	方形	径22×9		57	4
222	006-713	楕円	24×20×22		57	4
223	006-712	楕円	22×18×9		57	4
224	006-712	方形	18×16×12		57	4
225	006-711	方形	径18×14		57	4
226	005-712	方形	径27×24		57	4
228	005-712	円形	34×30×18		57	4
230	003-713	円形	25×20×46		58	4
231	004-712	楕円	32×21×20		58	4
232	004-712	方形	径17×20		58	4
233	004-712	方形	径20×7		58	4
234	003-712	楕円	23×16×21		58	4
235	003-712	円形	径20×13		58	4
236	003-712	方形	径24×13		58	4
237	002-713	不明	不明×不明×14	P 238と重複	58	4
238	002-713	長方形	57×30×22	P 237と重複	58	4
239	000-713	長方形	不明×24×12	P 240と重複	57	4
240	000-713	楕円	不明×16×13	P 239と重複	57	4
241	000-713	方形	径22×10		57	4
242	000-712	方形	径30×12		58	4
243	003-711	楕円	径22×11		58	4
244	001-709	楕円	34×26×25		58	4
245	003-709	楕円	32×21×34		58	4
246	005-709	楕円	50×28×29		58	4
325	012-717	円形	径24×22		55	4
340	006-712	楕円	25×15×11		57	4
347	013-738	円形	径15×21		51	4
357	013-739	方形	径21×22		55	4
359	012-716	方形	径21×11		55	4
363	014-719	円形	27×23×41		55	4
403	018-720	楕円	45×32×11		55	4
405	016-720	楕円	41×29×16		55	4

No.	位置	形状	長軸×短軸 ×深さ(cm)	備考	挿図	写真
406	016-721	方形	径21×9		55	4
407	016-721	楕円	39×22×10		55	4
408	016-721	方形	25×21×7		55	4
411	015-722	楕円	40×25×25		55	4
413	013-720	長方形	32×19×26		55	4
414	012-718	方形	径18×5		55	4
415	013-778	円形	径27×19		55	4
416	012-716	方形	径21×22		55	4
417	013-716	不定形	45×21×30		55	4
418	014-717	円形	径26×13		55	4
419	015-716	方形	29×25×26		55	4
420	015-716	方形	径21×10		55	4
423	014-715	方形	20×17×18		55	4
424	015-715	方形	25×17×16		55	4
425	015-716	方形	17×15×8		55	4
426	014-714	方形	径17×15		55	4
427	015-713	方形	径22×10		55	4
428	018-717	方形	径22×12		55	4
429	014-712	円形	径35×17		55	4
430	013-712	円形	径18×23		55	4
431	013-711	円形	23×20×9		56	4
432	013-711	円形	43×39×30		56	4
433	013-710	方形	32×29×24		56	4
434	012-712	方形	24×21×36		55	4
435	011-714	方形	29×27×33		56	4
436	011-714	円形	25×不明×19	P436bと重複	56	4
436b	011-714	円形	34×不明×11	P436と重複	56	4
437	010-714	円形	22×19×12		56	4
438	010-715	楕円	39×23×18		56	4
439	010-711	円形	38×33×32		57	4
440	010-711	円形	径22×15		57	4
465	012-745	円形	径24×14		51	4
467	006-737	楕円	39×27×34	13溝と重複	52	4
468	006-736	方形	26×24×44	13溝と重複	52	4
469	008-733	円形	径22×23		53	4
470	015-731	方形	29×19×23		52	4
471	015-731	方形	47×34×26		52	4
472	016-731	方形	28×24×21		52	4
474	010-747	楕円	53×34×8		50	4
475	011-747	長方形	52×38×20		50	4
477	013-747	方形	径29×18		50	4
478	010-745	円形	径24×13		50	4
479	016-727	楕円	19×15×16		53	4
480	016-727	方形	22×18×18		53	4
481	008-745	方形	36×33×12		51	4
482	007-743	円形	径18×23		51	4
483	014-427	円形	24×22×23		53	4
484	009-743	円形	19×17×9		51	4
485	009-743	円形	径17×7		51	4
486	009-743	円形	径17×10		51	4
488	012-744	方形	20×16×10		51	4
489	012-744	円形	21×16×7		51	4
492	007-741	楕円	22×14×16	11溝と重複	51	4
493	006-736	楕円	径23×18	13溝と重複	52	4
493b	016-729	方形	52×36×41		52	4
495	007-736	方形	径25×26	13溝と重複	52	4
496	015-723	方形	42×38×21		54	4
497	010-719	方形	29×21×6		56	4
499	009-715	楕円	36×30×25		56	4
500	010-715	方形	24×19×8		56	4
501	009-714	方形	49×30×35		57	4
502	008-714	方形	径26×18		57	4
503	007-736	楕円	32×26×19		52	4
504	008-735	楕円	35×26×37		53	4
505	008-735	円形	不明×23×10		53	4
506	008-735	円形	28×20×10		53	4
507	006-735	方形	24×20×9	2竪穴と重複	53	4
508	006-735	方形	径20×25	2竪穴と重複	53	4
509	006-735	方形	25×20×16	2竪穴と重複	53	4
510	009-715	方形	25×22×34		56	4
511	011-713	円形	径23×9		56	4
512	009-713	楕円	30×15×17		56	4
513	008-713	楕円	32×22×30		56	4

No.	位置	形状	長軸×短軸 ×深さ(cm)	備考	挿図	写真
514	007-713	方形	径21×21		56	4
515	008-711	方形	径18×14		57	4
516	009-713	方形	23×20×21		57	4
517	010-712	楕円	22×18×27		57	4
518	010-712	円形	径21×28		57	4
519	010-712	円形	28×19×33		57	4
520	007-715	円形	21×18×9		56	4
521	011-716	楕円	24×20×10		56	4
522	007-513	方形	30×27×7		57	4
523	008-712	方形	22×16×14		57	4
524	006-734	方形	22×19×15	2竪穴と重複	53	4
526	009-729	方形	30×23×40		53	4
527	010-729	方形	径31×21	17溝と重複	53	4
528	006-728	方形	径26×20		54	4
529	010-712	円形	29×27×37		57	4
531	004-726	方形	径19×16		54	4
532	005-726	楕円	45×30×13		54	4
533	009-725	長方形	26×20×12		54	4
534	003-716	方形	径27×11		57	4
535	013-710	楕円	26×17×8		57	4
537	003-719	方形	24×19×13		57	4
540	005-733	楕円?	不明×37×22		53	4
542	012-710	方形	26×21×17		56	4

No.	位置	形状	長軸×短軸 ×深さ(cm)	備考	挿図	写真
543	013-710	円形	20×16×10		56	4
544	013-710	楕円	20×11×9		56	4
545	012-711	楕円	40×30×24		55	4
546	013-711	円形	20×18×18		56	4
547	012-709	楕円	28×22×18		56	4
548	015-714	楕円	33×30×14		55	4
549	014-714	楕円	36×30×5		55	4
550	014-715	円形	径21×24		55	4
551	012-712	方形	径21×16		55	4
552	013-710	長方形	32×28×25		56	4
553	008-712	楕円	40×31×28		56	4
554	013-709	方形	38×34×31	P 555と重複	55	4
555	013-709	楕円	30×24×13	P 554と重複	55	4
556	014-710	方形	径19×13		55	4
558	009-712	方形	24×20×23		57	4
562	008-708	楕円	20×18×10		58	4
563	014-718	楕円	21×17×13		55	4
564	018-721	方形	径27×44		55	4
565	018-723	楕円	25×20×17		55	4
566	017-724	円形	26×22×20		54	4
567	016-723	楕円	28×21×20		54	4
568	013-706	方形	27×22×22		55	4
577	009-712	方形	78×62×31		57	4

(9) 中世屋敷外土坑群

2区中世屋敷外の土坑群(第39図 PL. 6～8)

概要 中世屋敷外には2区10・15・16・34～36・41・45号土坑が在る。分布域は当該区域のピットの分布域と同じ2区中南部に在り、40号土坑が東寄り、10号土坑が西寄りにある以外は005～014-733～741グリッドの間に集中する。

位置 表10に記した。

重複 表10に記した。

規模形態 表10に記載した。

この中では10・34号土坑が中世の屋敷遺構に多く見ら

れる細長い隅丸長方形のプランを呈しており、細長い楕円形プランの35・36号土坑と併せて東西に近い方向に長軸線を持っている。

埋没土 何れの土坑もAs-Bを含んでいる。

方位 表10に記した。

その他 個々の土坑の掘削意図は確認できなかった。

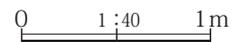
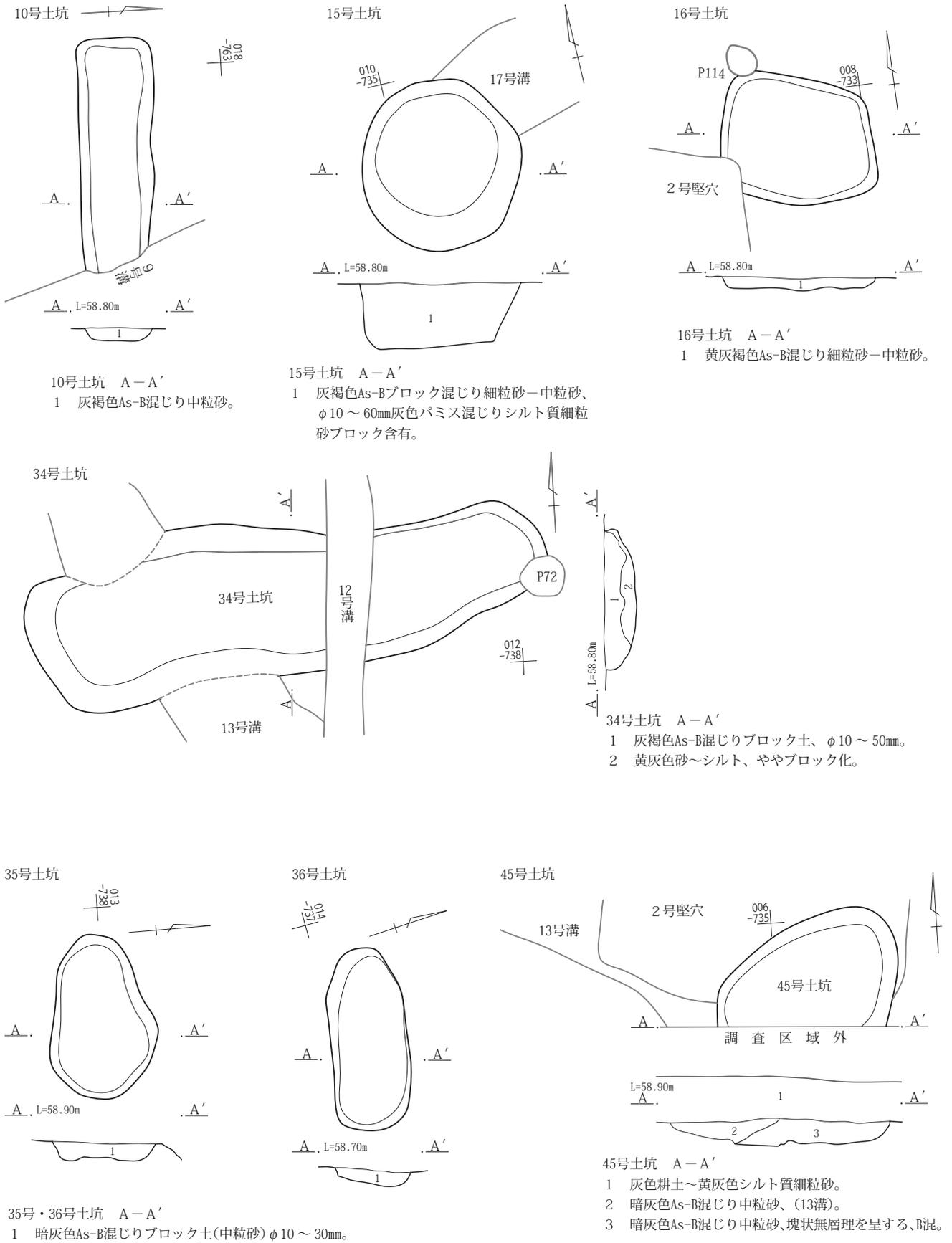
遺物 何れの土坑からの出土遺物も見られなかった。

所見 これらの土坑群は覆土から概ね中世の所産と考えられるが、10号土坑は軸線の方向から屋敷遺構と同時期の所産と認識され、また他の土坑もピット群と分布域が重なることから屋敷遺構に近い時期の所産の可能性が考慮される。

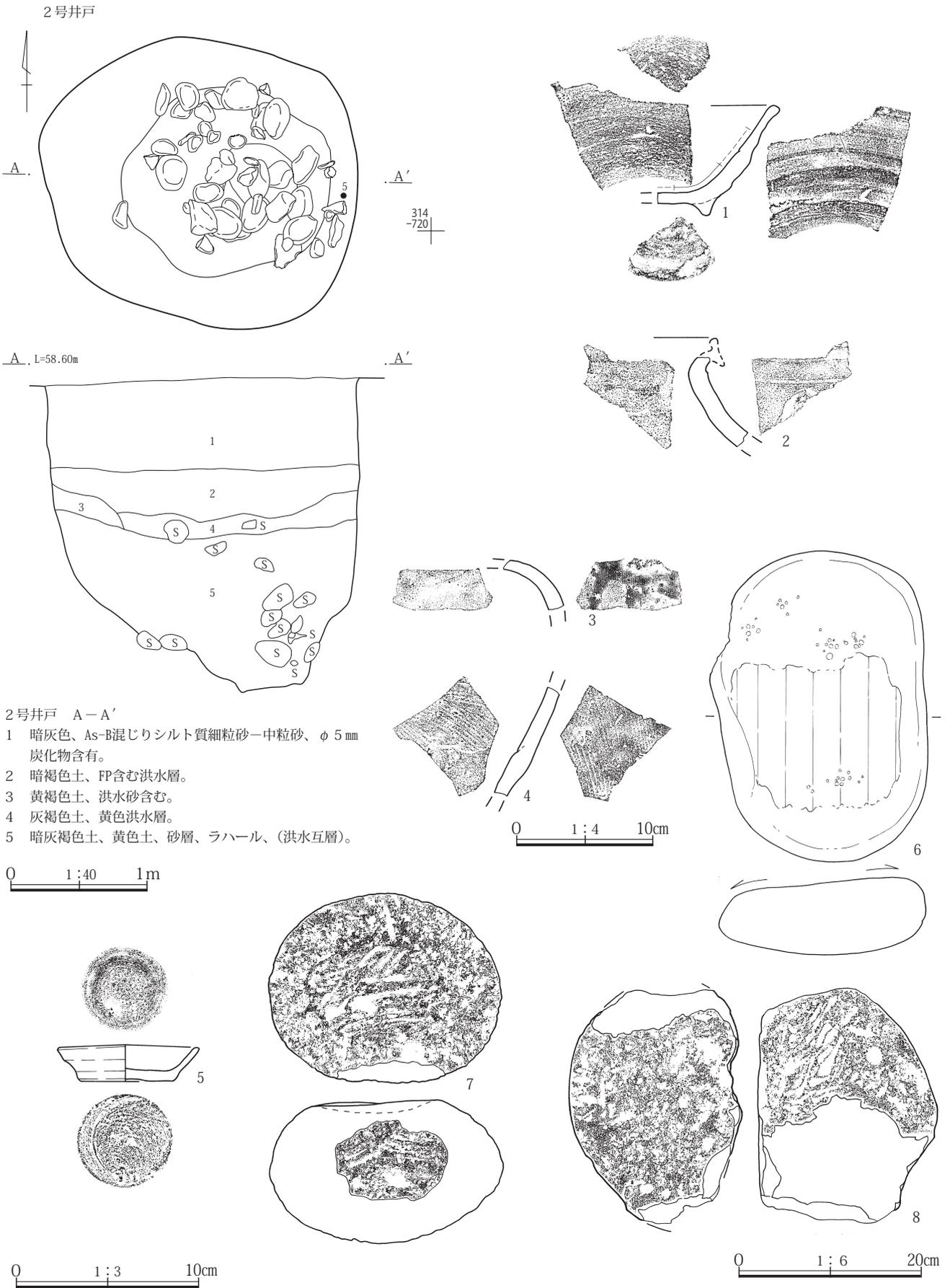
第10表 2区中世屋敷外土坑一覧

No.	挿図 写真	位置	長軸×短軸×深さ(cm)	遺物と埋 没土	備考
		形状	軸方向		
10	図59 PL-6	017-762 G 長方形	不明×56×12 N-90° E	As-B混	9溝と重複
15	図59 PL-7	009-734 G 円形	124×116×48 N-34° E	As-B混	17溝の西隅に重複。
16	図59 PL-7	007-733 G 方形	112×96×9 N-77° W	As-B混	2竪穴、P 114、P 115と重複
34	図59 PL-8	011～013-737～741 G 隅丸方形	380×108×23 N-81° E	As-B混	12溝、13溝、P 72と重複
35	図59 PL-8	012-737 G 楕円形	120×79×13 N-85° W	As-B混	
36	図59 PL-8	014-736 G 隅丸方形	135×58×13 N-72° W	As-B混	
45	図54 PL-8	005-734 G 不明	不明×122×17 不明	As-B混	2竪穴と重複

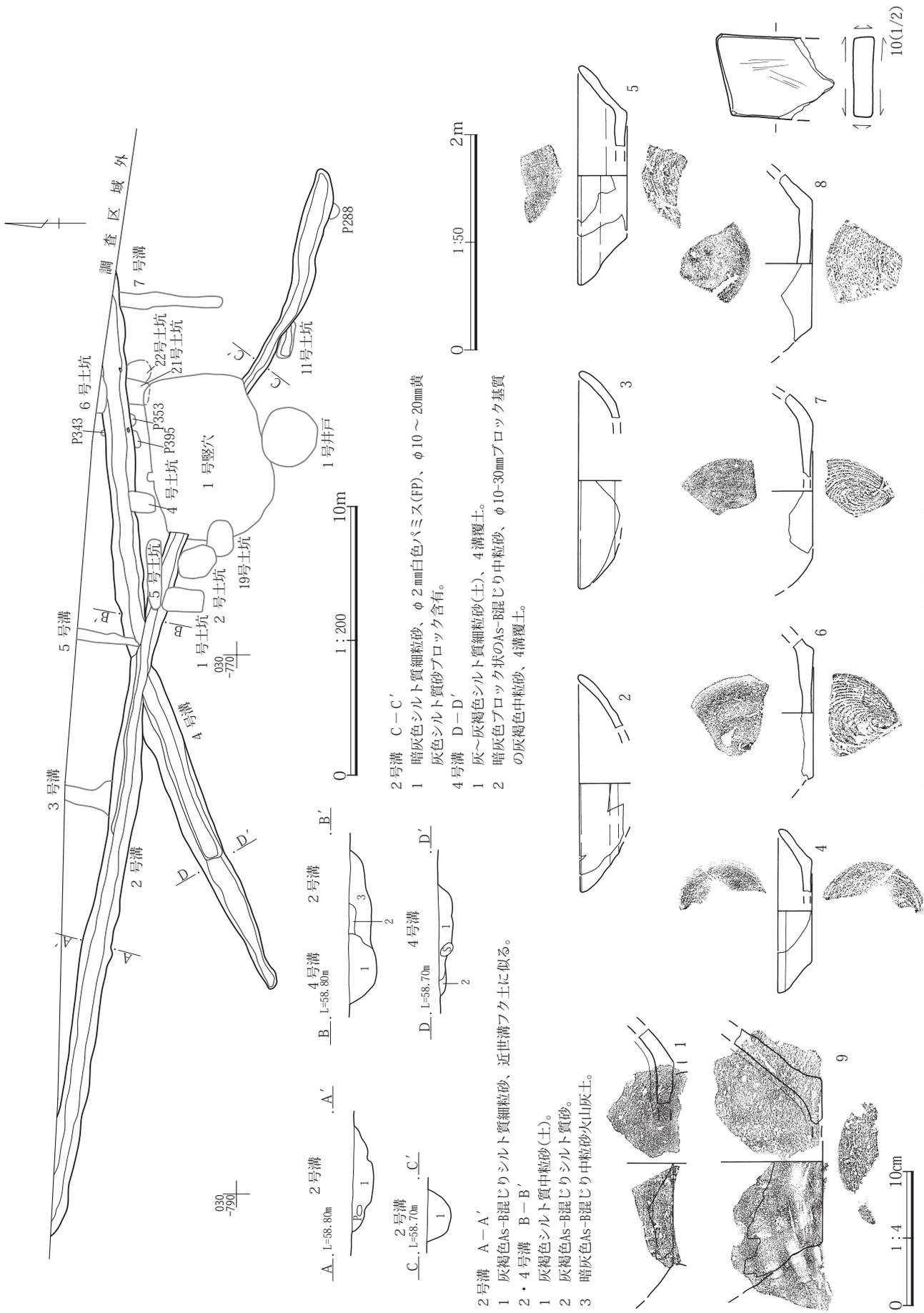
第IV章 中世の遺構と遺物



第59図 2区中世屋敷外土坑群



第60図 2区2号井戸および出土遺物



2号溝 C-C'
 1 暗灰色シルト質細粒砂、φ 2mm白色パミス(FP)、φ 10~20mm黄灰色シルト質砂ブロック含有。
 4号溝 D-D'
 1 灰~灰褐色シルト質細粒砂(土)、4溝覆土。
 2 暗灰色ブロック状のAs-B混じり中粒砂、φ 10-30mmブロック基質の灰褐色中粒砂、4溝覆土。

2号溝 A-A'
 1 灰褐色As-B混じりシルト質細粒砂、近世溝フク土に似る。
 2・4号溝 B-B'
 1 灰褐色シルト質中粒砂(土)。
 2 灰褐色As-B混じりシルト質砂。
 3 暗灰色As-B混じり中粒砂火山灰土。

第61図 2区・4号溝および2号溝出土遺物

(10) 井戸

2区2号井戸(第60図 PL. 10、62 遺物観察表407頁)

概要 本井戸は2区中東部中央寄りに位置する。発掘調査段階では41号土坑としたが、井戸と確認されたため2号井戸として報告する。

位置 013～015-720～722グリッドに在る。

重複 本井戸は単独で在る。

規模形態 本井戸は井筒朝顔形で、丸底を呈し、東寄りで円形に落ち込みが見られる。アグリの形成は認められない。径232×215cm、深さ234cmを測る。

埋没土 Hr-FP含む暗褐色土等で埋められる。

方位 N-87°E。

その他 本井戸の湧水層の記録は残せなかった。

遺物 尾張陶器片口鉢(1)、常滑陶器甕(2・3・4)、在地系土器皿(5)、台石(6)、五輪塔水輪(7)、石製品(8)の出土が認められた。

所見 本井戸は出土遺物から推して、概ね中世の所産と考えられる。

(11) 溝

2区2号溝(第61図 PL. 12、62 遺物観察表407頁)

概要 本溝は2区中・西部の調査区北端近くの屋敷内に位置し、西部は調査区北側に出ていて全容は不詳。本溝と屋敷との関連は認められない。

位置 026～036-751～791グリッドに在る。

重複 2区4・5号溝より新しいが、2区1号竪穴、3号溝、1・5・2・11号土坑、288号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

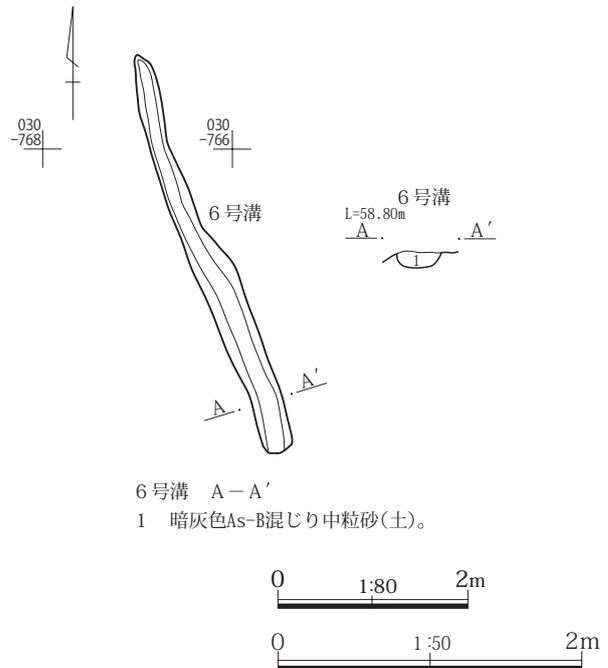
規模形態 走行の方向は過半が西北西-東南東方向を向くが、東部は若干南に傾き、西端部は北に傾く。調査区内に於いては比較的直線的なプランを呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長40.9m、幅70～117cm、深さ20cmを測る。

埋没土 灰褐色シルト質土。覆土注記に近世溝覆土に似るという記載とAs-B混入との記載がある。

方位 N-80°E～N-73°E。

その他 流水の痕跡等は認められない。

遺物 尾張陶器片口鉢(1)、在地系土器皿(2～8)や片口鉢(9)、国産焼締陶器1片、在地系の鍋13片、皿5片、



第62図 2区6号溝

砥石(10)の出土があった。

所見 時期は特定できないが、出土遺物等から中世の所産と認識される。

2区4号溝(第61図 PL. 12)

概要 本溝は2区西部の調査区北端近くの屋敷中・西部に在り、東部は北側調査区外に出ていて全容は確認できなかった。走行方向から推して本溝と屋敷との関連は無いものと認められる。

位置 028～034-755～782グリッドに在る。

重複 重複する2区2・5号溝には切られるが、2区7号溝よりは古く、同4・6・21・22号土坑、323・343・346・353・355・395・456・458号ピットとの新旧関係を特定することはできなかった。

規模形態 全容は把握できなかったが、走行は概ね東北東-西南西方向を向くが、北に張り出す極緩やかな弧状のプランを呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長27.4m、幅47～144cm、深さ35cmを測る。

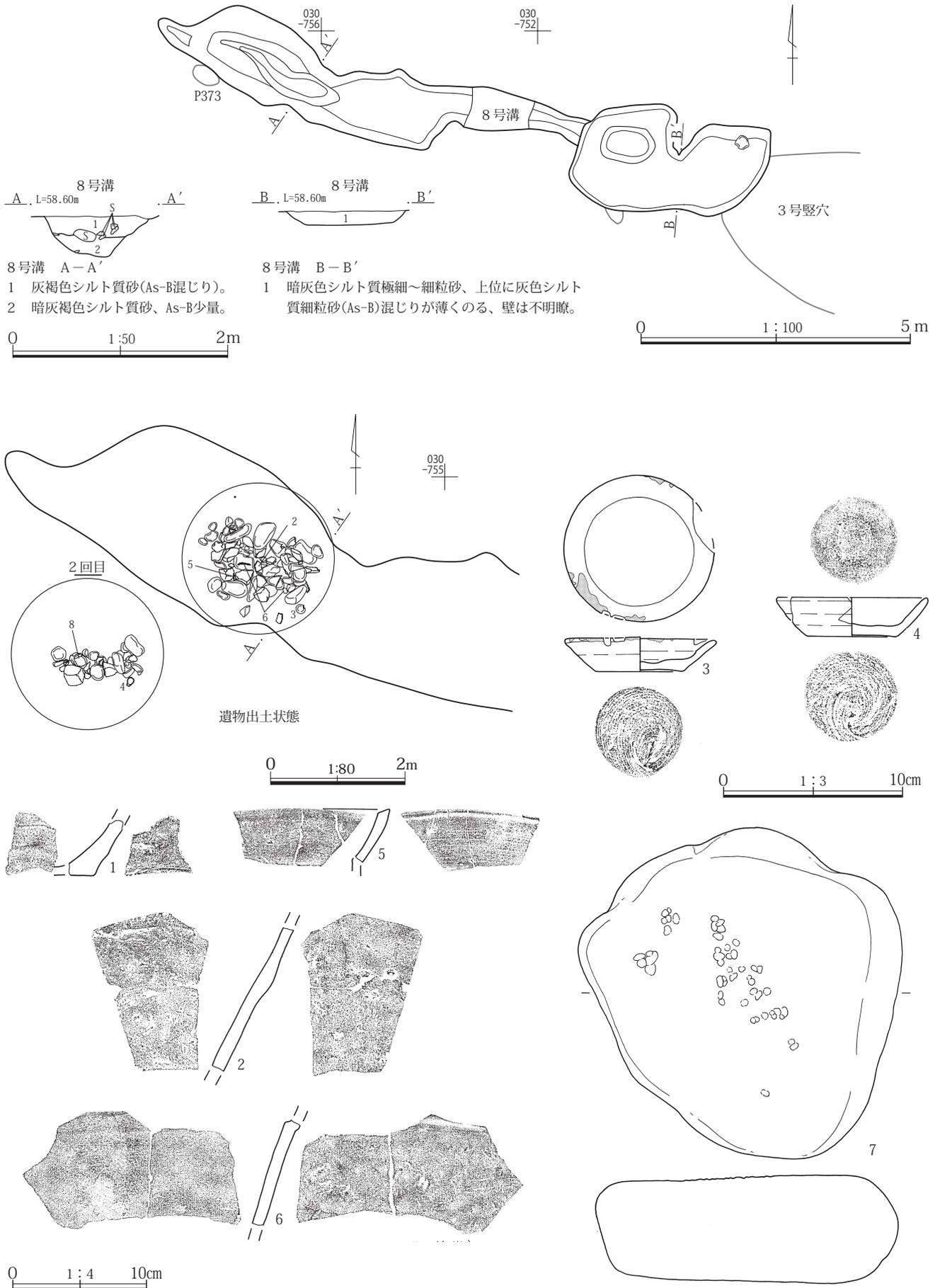
埋没土 灰～灰褐色シルト質土。一部にAs-B混入。

方位 N-65～85°E。

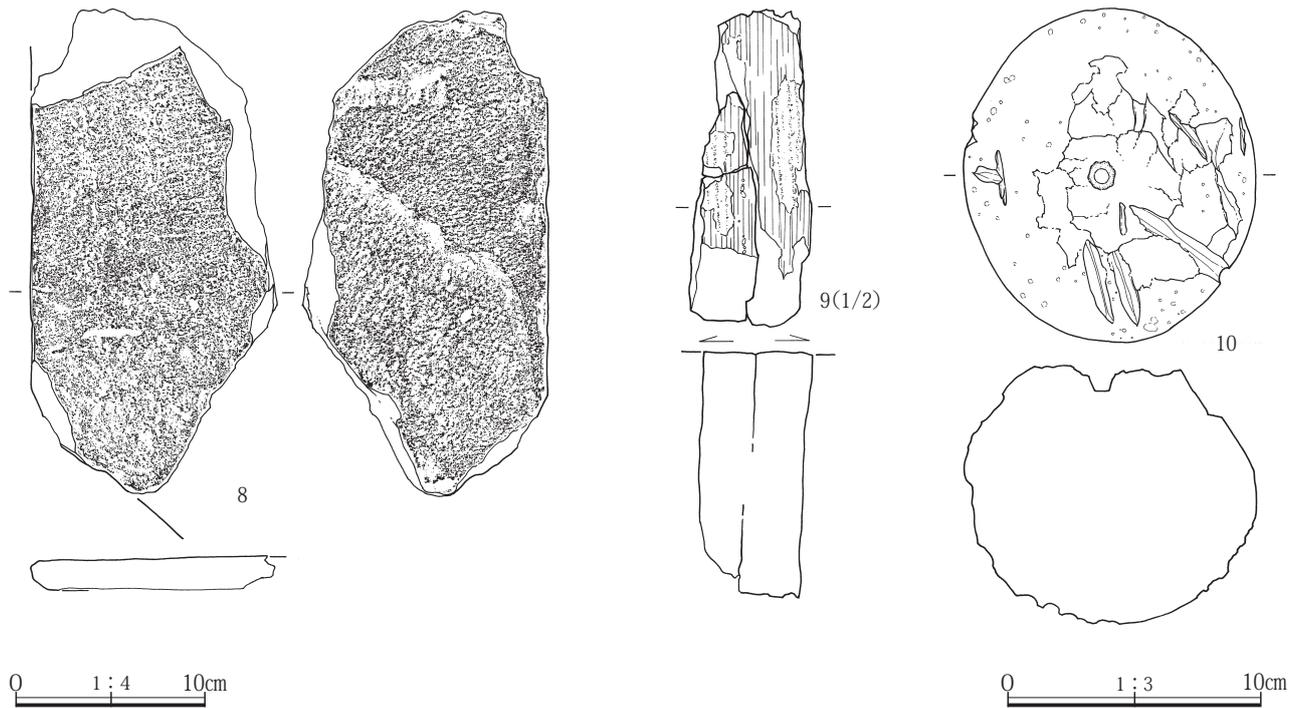
その他 流水の痕跡等は認められない。

遺物 認められなかった。

所見 時期特定は難しいが、概ね中世の所産と認識される。



第63図 2区8号溝および出土遺物(1)



第64図 2区8号溝出土遺物(2)

2区6号溝(第62図 PL.12)

概要 本溝は2区北西部の屋敷中・西部に位置する。北部は北側調査区外に出ていて全容は確認できなかった。また走行方向から推して本溝と屋敷との関連は無いものと認められ、南側屋敷外の9号溝と同一の可能性を有する。

位置 027～031-755～757グリッドに在る。

規模形態 全容は把握できなかったが、走行は概ね東北東-西南西方向を向くが、北に張り出す極緩やかな弧状のプランを呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長4.5m、幅19～45cm、深さ7cmを測る。

埋没土 灰～灰褐色シルト質土。一部にAs-B混入。

方位 N-26°W。

その他 流水の痕跡等は認められない。

遺物 認められなかった。

所見 時期特定は難しいが、概ね中世の所産と認識される。

2区8号溝(第63・64図 PL13、62)

遺物観察表407・408頁)

概要 本溝は2区中北部の屋敷内の東よりに位置する。本溝はその走行方向から推して屋敷遺構との関連は認め

られない。

位置 026～030-747～759グリッドに在る。

重複 本溝は2区3号竪穴と重複するが、本溝の方が新しい。

規模形態 概ね西北西-東南東方向に緩やかなS字状に走行する。掘削形態は箱堀状を呈するが、幅狭の溝を中心に掘削され、部分的に幅広になる。長さ11.6m、幅37～147cm、深さ45cmを測る。

埋没土 暗灰色シルト質土。As-Bを混入する。

方位 N-77°W。

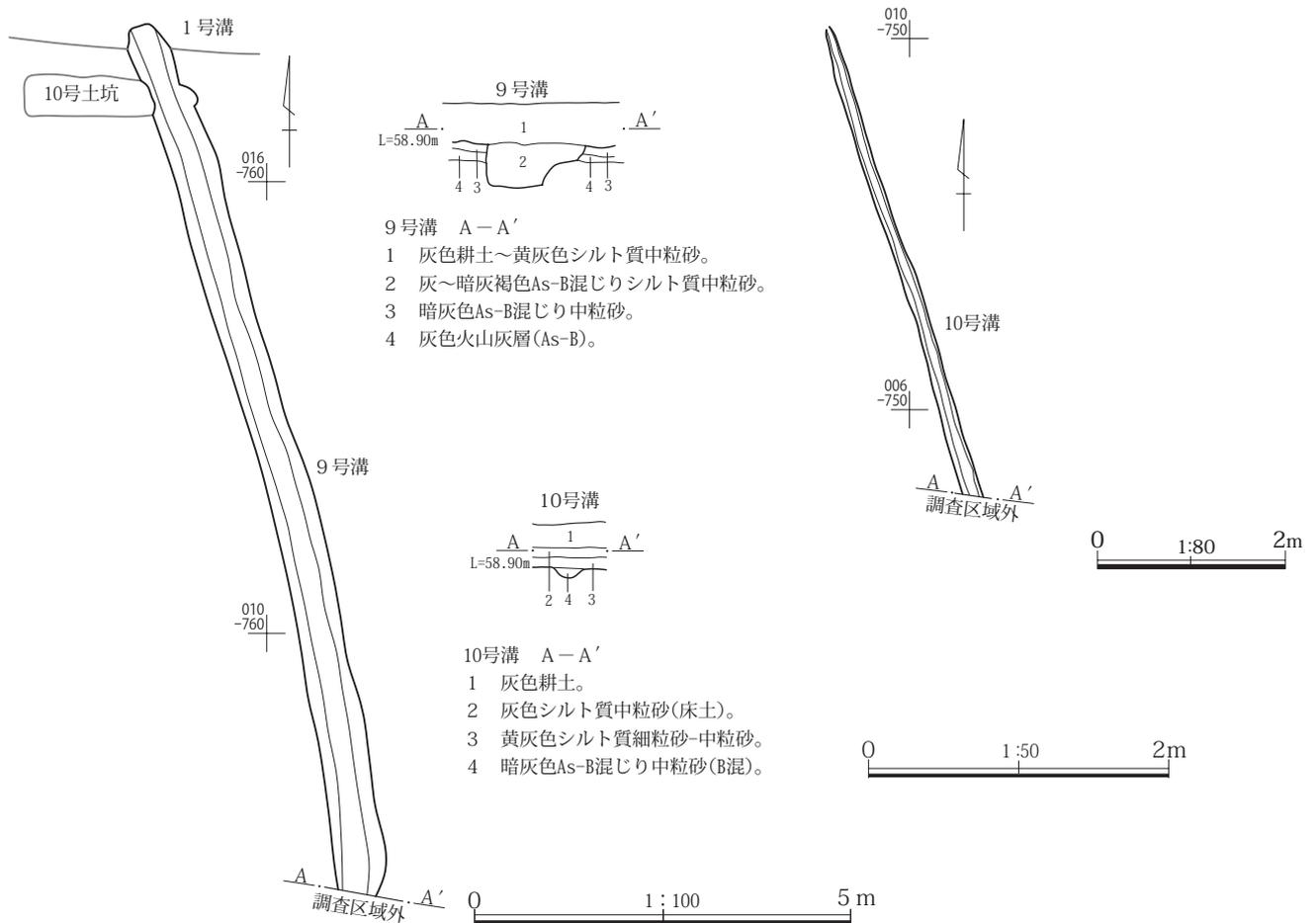
その他 流水の痕跡は認められなかった。

遺物 常滑陶器の甕と思われるもの(1・2)、国産焼締陶器片1点、在地系土器の皿(3・4)、内耳鍋(5・6)、鍋片7点、台石(7)、石製品(9・10)、板碑片(8)の出土が見られた。

所見 本溝は出土遺物から推して概ね15世紀中頃の所産と認識される。

2区9号溝(第65図 PL.13)

概要 本溝は2区中南部西寄り、屋敷外に在り、南側は調査区外に出ていて全容は把握できなかった。本溝はその走行方向と掘削位置から屋敷内に位置する6号溝と同



第65図 2区9・10号溝

一の溝遺構と認識される。

位置 006～018-758～762グリッドに在る。

重複 本溝は2区10号土坑と重複するが新旧関係は確認できなかった。

規模形態 概ね北北西-南南東方向に直線的に走行する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長12.1m、幅50～68cm、深さ23cmを測る。

埋没土 灰色～暗灰色土。As-Bを混入する。

方位 N-13°W。

その他 流水の痕跡は認められなかった。また本溝は軸方向に近いことから東側1.8m(1間)の位置に在る2区2号掘立柱建物跡と関係する可能性を有し、同じく軸方向の近い8.5m東の10号溝、16.5m東の11号溝と関係する可能性を有する。

遺物 認められなかった。

所見 時期は特定できないが、As-Bを包含することから概ね中世のものと認識される。

2区10号溝(第65図 PL.13)

概要 本溝は2区中南部に位置する。南側が調査区外に出ているため、全容は把握することはできなかった。

位置 005～010-749～751グリッドに在る。

重複 本溝は2区2号掘立柱建物と重複関係にあるが、新旧を特定することはできなかった。

規模形態 概ね北北西-南南東方向に直線的に走行する。掘削形態は箱堀状を呈する。確認長5.3m、幅23cm、深さ5cmを測る。

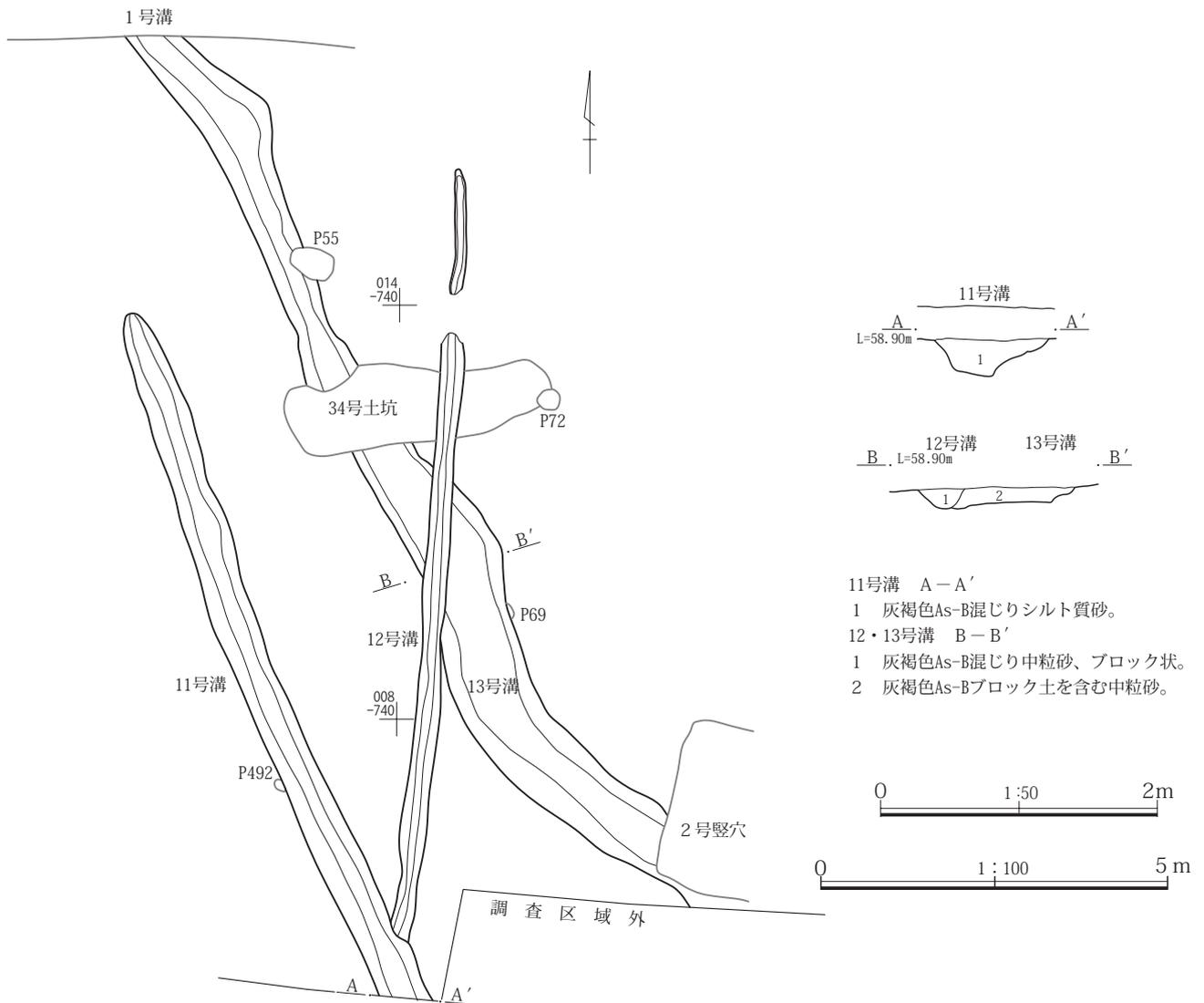
埋没土 不明。

方位 N-17°W。

その他 本溝は軸方向の近い8.5m西の9号溝、8m東の11号溝との関係が考慮される。

遺物 認められなかった。

所見 確認層位から概ね中世の所産と認識できるだけである。



第66図 2区11・12・13・号溝

2区11号溝(第66図 PL. 13)

概要 本溝は2区中南部に位置する。本溝も南側が調査区外に出ているため、全容は把握できなかった。

位置 003～013-739～744グリッドに在る。

重複 本溝は2区12号溝と重複関係にあり、本溝の方が新しい。

規模形態 概ね北北西-南南東方向にく字状のプランで、掘削形態は箱堀状を呈する。確認長10.8m、幅48～68cm、深さ18cmを測る。

埋没土 As-B混じりの灰褐色シルト質土。

方位 N-20°W・N-25°W。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。また軸方向が近似するため西側8mの10号溝との関連も考慮される。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は覆土にAs-Bを混入することから概ね中世の所産と認識できるだけで、明確な時期を特定することはできなかった。

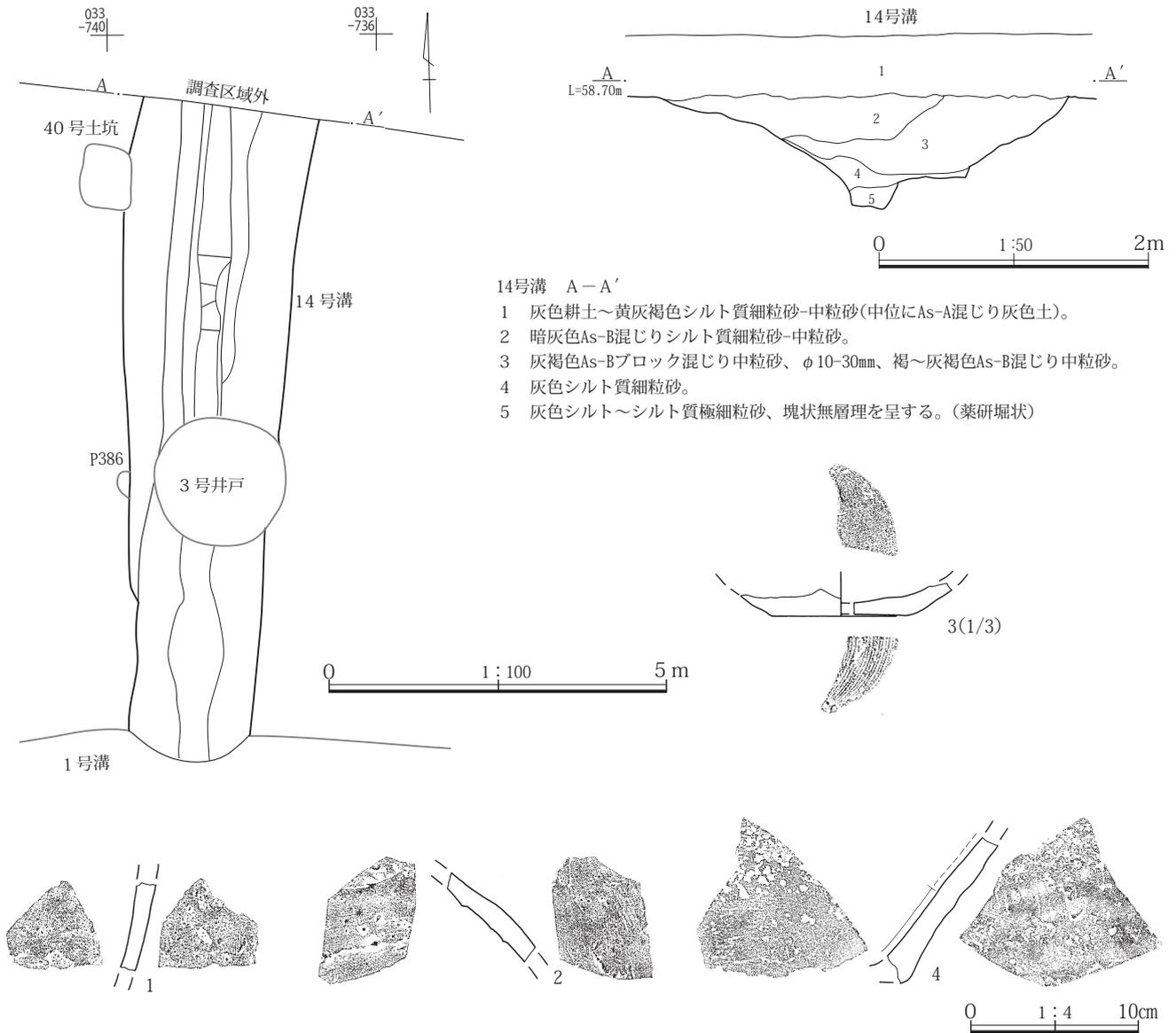
2区12号溝(第66図 PL. 13)

概要 本溝は2区中南部に位置する。北側で途中60cm程途切れ、南側は2区11号溝と重複して確認できない。

位置 004～016-739～740グリッドに在る。

重複 本溝は重複関係にある2区11号溝より古く、2区13号溝より新しいが、2区34号土坑との新旧関係は確認できなかった。

規模形態 概ね南北方向に直線的に走り、横断面形状に掘削される。残存長(途切れ部分含む) 11.2m、幅16～



第67図 2区14号溝および出土遺物

36cm、深さ17cmを測る。

埋没土 灰褐色土。As-B混入。

方位 N-5°E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は覆土にAs-Bを混入することから概ね中世の所産と認識されるが、屋敷と同時期の可能性が高い。また屋敷遺構内の2区14号溝(堀)の東部延長線上に在るため、屋敷存在時の外郭遺構と認識される。

2区13号溝(第66図 PL.14)

概要 本溝も2区中南部に位置する。北側は2区1号溝(屋敷堀)で切られ、南側は調査区外に出ていて全容を明

らかにすることはできなかった。

位置 005～017-734～743グリッドに在る。

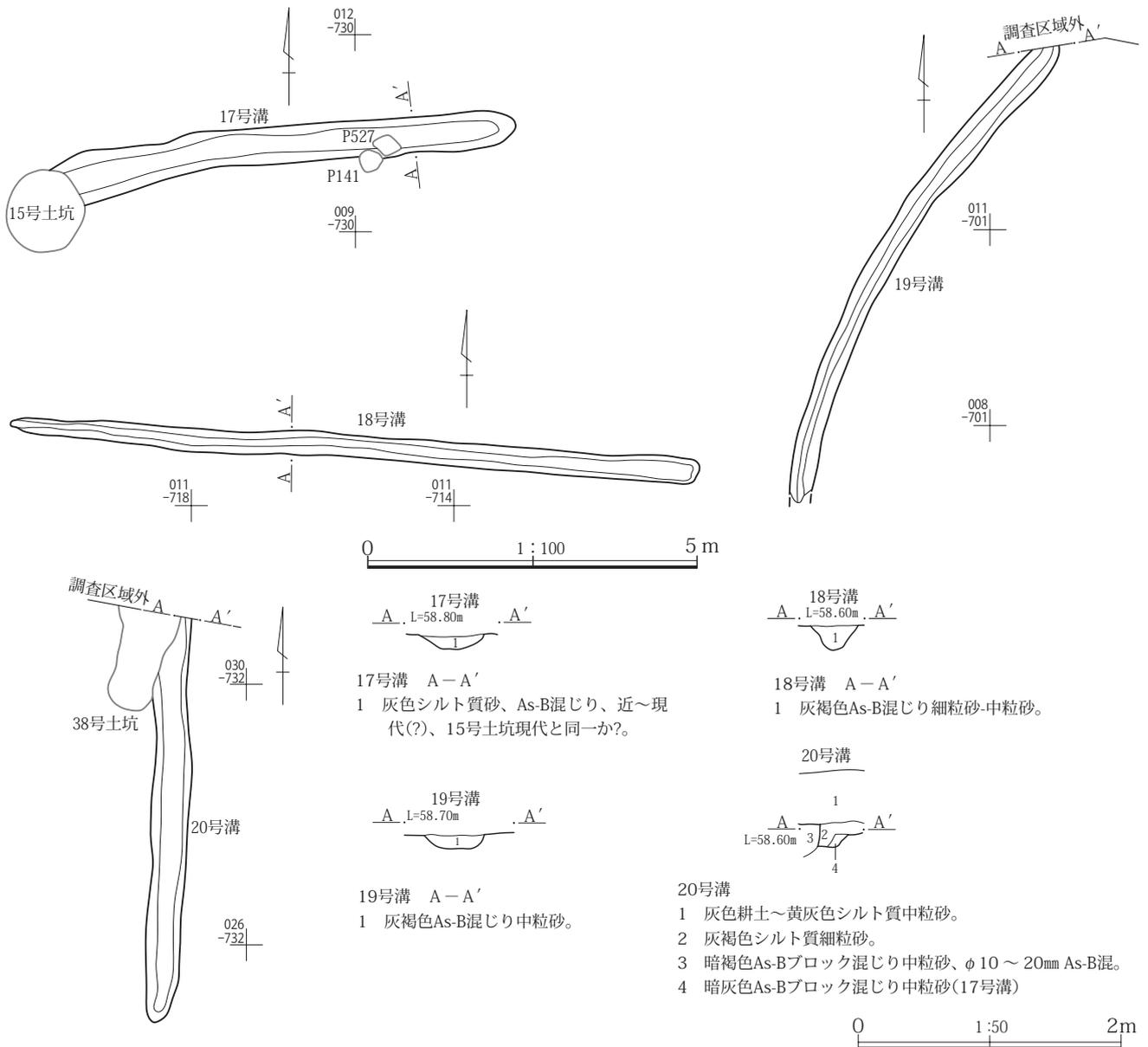
重複 本溝は2区2号竪穴・12号溝・34号土坑・55・69・492・495・467・468・507・509号ピットと重複関係にあるが、2号竪穴・12号溝よりは古く、他の遺構との新旧関係は特定できなかった。

規模形態 概ね北西-南東方向に走行するが、南端部で東南東方向に走行を変ずる緩やかに蛇行するプランを呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。残存長19.2m、幅48～119cm、深さ18cmを測る。

埋没土 灰褐色土。As-Bを混入する。

方位 N-23°W・N-45°W。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。またそ



第68図 2区17・18・19・20号溝

の形状から2区1号溝北側の2区2号溝または、8号溝に接続する可能性を有する。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は覆土にAs-Bを混入するため概ね中世の所産と思慮される。

2区14号溝(第67図 PL.14 遺物観察表408頁)

概要 本溝も2区中北部東寄りの、屋敷の内郭側東寄りに位置する。北側は調査区外に出ていて、恐らくは長い溝の南端近くの一部を調査できたに過ぎなかったと判断される。

本溝は屋敷の堀遺構である2区1号溝のうち南側の東

西走行部分に重複しているが、一方1号溝のうち東側の南北走行部分の西側に6m程隔たって在り、屋敷に伴う遺構であると認識される。

位置 022～032-737～739グリッドに在る。

重複 本溝は2区1号溝と3号井戸(24号土坑)、40号土坑及び386号ピットと重複関係にあるが、3号井戸よりは古いことが確認されるものの、1号溝及び386号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

規模形態 概ね南北方向に直線的に走行するが、掘削形態は葉研堀状を呈する。壁面はやや開き気味だが東側壁面に対し西側壁面の方が傾斜角がきつい。また3号井戸を境にして南側底面に対して北側底面は20cm程低くなっ

ている。残存長9.8m、幅170～262cm、深さ101cmを測る。

埋没土 灰色・黄灰色シルト質土等。A s - B混入。

方位 N - 3° E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められない。

遺物 常滑陶器甕か(1・2)、在地系土器皿(3)、片口鉢(4)、鍋4片の出土が見られた。

所見 本溝は出土遺物と覆土にA s - Bを混入することから概ね中世の所産と思慮される。また本溝は屋敷の区画溝である可能性を有すると共に、本溝の掘削形態が薬研堀であり屋敷堀である1号溝が箱堀であることに鑑みれば1号溝の中に過半が重複するものとして、1号溝以前の(外)堀であった可能性を有するものである。また虎口が通常の屋敷遺構と同様に南側に据えられていたとするならば、後者の可能性が高い。

2区17号溝(第68図)

概要 本溝は2区中南部の東よりの屋敷遺構外郭側に位置する。

位置 009～010-727～734グリッドに在る。

重複 本溝は2区15号土坑、141・527号ピットと重複するが、何れに対しても新旧関係は特定できなかった。

規模形態 概ね東西方向に直線的に走行するが、西端でやや南に折れるものの2区15号土坑との重複で西端部の形状は詳らかでない。掘削形態は箱堀状を呈するが、底面の横断面径はやや丸みを持つ。残存長7.1m、幅52～84cm、深さ11cmを測る。

埋没土 灰色シルト砂質。A s - B含む。

方位 N - 84° E・N - 73° E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は覆土にA s - Bを混入するため概ね中世の所産と思慮されるが、土の質から近・現代の所産の可能性も残される。

2区18号溝(第68図 PL.14)

概要 本溝は2区南東部に位置する。

位置 011～012-710～720グリッドに在る。

重複 本溝に他遺構との重複関係は認められなかった。

規模形態 概ね東西方向に直線的に走行する。掘削形態は薬研堀状を呈し、底面の横断面径はやや丸みを持つ。

残存長10.5m、幅23～40cm、深さ7cmを測る。

埋没土 灰褐色土。A s - B混入。

方位 N - 85° W。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の時期は明瞭にできなかったが、覆土にA s - Bを含むことから概ね中世の所産として把握される。また本溝は2区16号溝の南に7m隔たってほぼ並走するため、中世屋敷存続期の郭外遺構として有り、区画溝であった可能性も考慮される。

2区19号溝(第68図 PL.14)

概要 本溝は2区南東部に位置する。北側は調査区外に出ていて全容を把握することはできなかった。

位置 006～013-699～704グリッドに在る。

重複 他の遺構との重複は認められなかった。

規模形態 本溝は概ね北東方向から入って北西方向に膨らみを持つ弧を描いて南方向に走行している。掘削形態は箱堀状を呈する。残存長8.3m、幅34～47cm、深さ17cmを測る。

埋没土 灰褐色土。A s - Bを混入する。

方位 N - 42° E～N - 15° E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の時期も特定できなかったが、覆土にA s - Bを含むことから概ね中世の所産として把握される。また掘削意図は把握できなかった。

2区20号溝(第68図 PL.14)

概要 本溝は2区中北部に位置し、北行する1号溝(外堀)の西1.7mに並走する。北側が調査区外に出ていて全容は確認できなかった。

位置 024～031-733グリッドに在る。

重複 本溝は38号土坑との重複が見られたが、38号土坑の方が新しい。

規模形態 概ね南北方向に直線的に走行する。掘削形態は箱堀状を呈する。残存長6.23m、幅50～60cm、深さ23cmを測る。

埋没土 灰褐色土。

方位 N - 0°

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

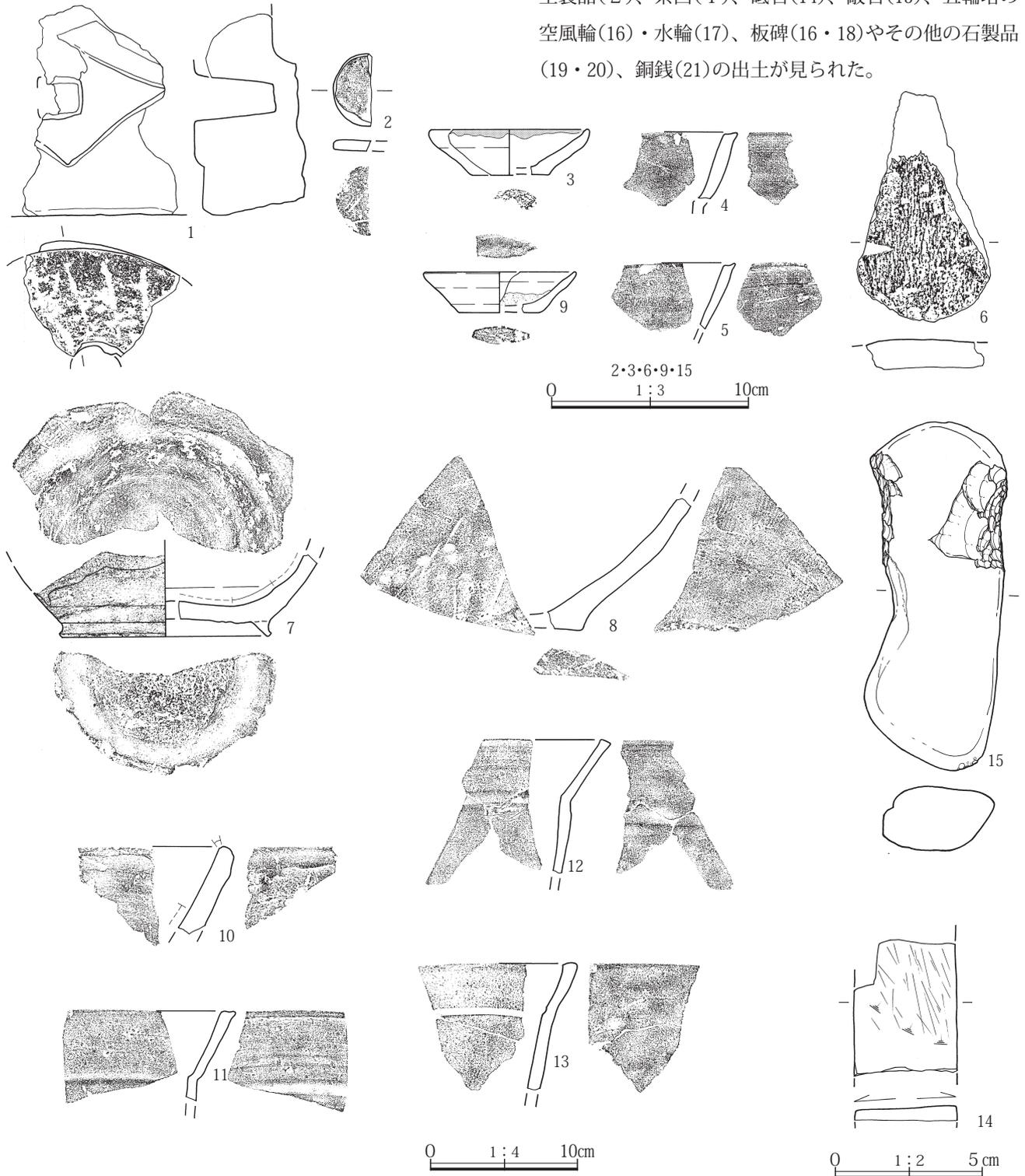
所見 本溝の時期は明瞭にできなかったが、屋敷遺構の堀である1号溝に並走して在ることから、屋敷の時期の所産として把握される。

(12) 遺構外

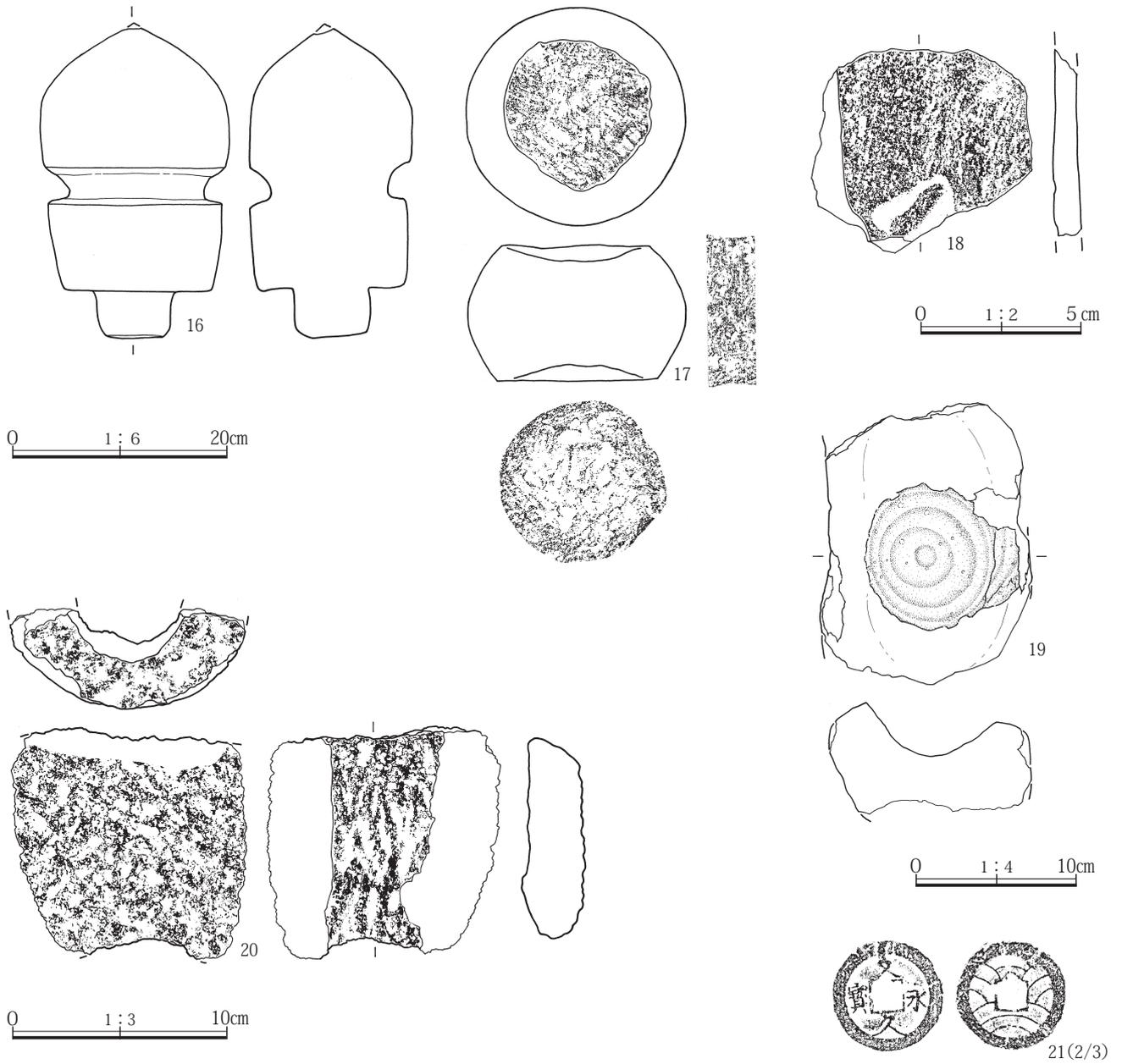
2区の遺構外の遺物(第69・70図 PL. 62・63

遺物観察表408・409頁)

遺物 尾張陶器片口鉢(7)、常滑陶器甕(8)、在地系土器皿(3・9・10)・内耳鍋(4・5・11~13)、円盤状土製品(2)、茶臼(1)、砥石(14)、敲石(15)、五輪塔の空風輪(16)・水輪(17)、板碑(16・18)やその他の石製品(19・20)、銅銭(21)の出土が見られた。

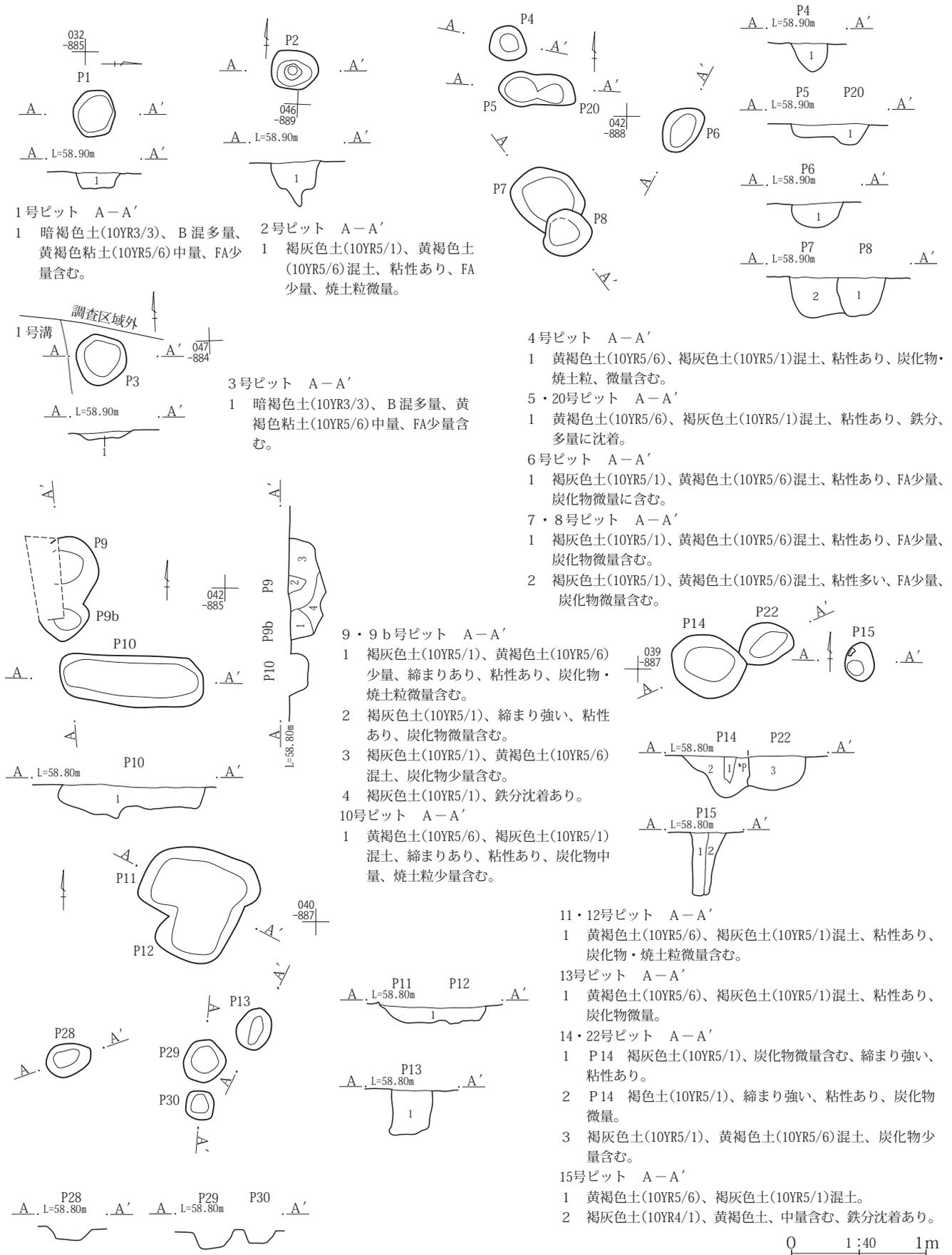


第69図 2区遺構外出土遺物(1)



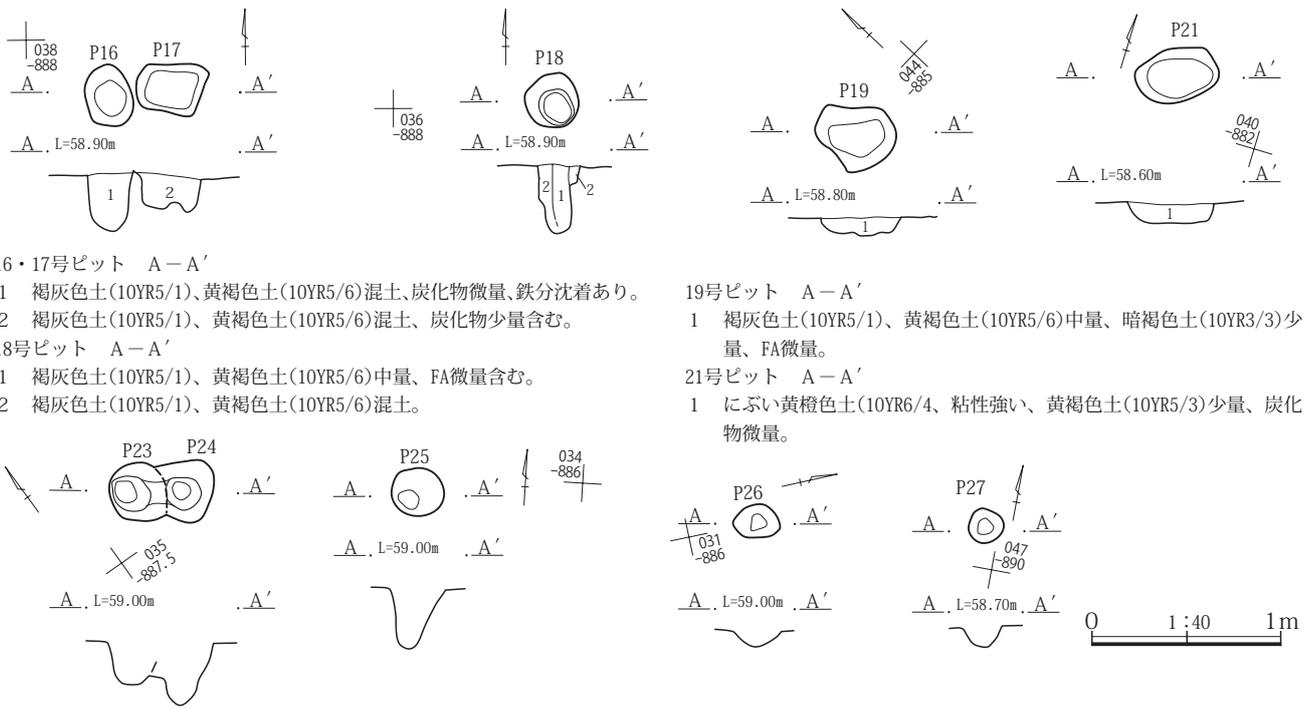
第70図 2区遺構外出土遺物(2)

4 3区外の遺構と遺物



第71図 3-2区ピット群(1)

第IV章 中世の遺構と遺物



16・17号ピット A-A'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)、黄褐色土(10YR5/6)混土、炭化物微量、鉄分沈着あり。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)、黄褐色土(10YR5/6)混土、炭化物少量含む。

18号ピット A-A'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)、黄褐色土(10YR5/6)中量、FA微量含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)、黄褐色土(10YR5/6)混土。

19号ピット A-A'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)、黄褐色土(10YR5/6)中量、暗褐色土(10YR3/3)少量、FA微量。

21号ピット A-A'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/4)、粘性強い、黄褐色土(10YR5/3)少量、炭化物微量。

第72図 3-2区ピット群(2)

第11表 3区ピット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	備考	挿図	写真
1	031-884	方形	35×30×22		71	-
2	046-888	方形	34×29×33		71	-
3	046-884	方形	39×37×8		71	-
4	042-888	方形	27×26×21		71	-
5	042-888	楕円	(33)×25×10	P20と重複。	71	-
6	041-887	楕円	35×27×16		71	-
7	041-888	方形	(50)×46×29	P8と重複。	71	-
8	040-888	方形	36×(34)×28	P7と重複。	71	-
9	041-885	方形	54×不明×18	P9bと重複。	71	-
9b	041-886	楕円	不明×37×20	P9と重複。	71	-
10	041-885	長方形	106×40×18		71	-
11	040-887	長方形	80×(60)×14	P12と重複。	71	-
12	039-887	方形	(55)×46×13	P11と重複。	71	-
13	039-887	楕円	30×26×36		71	-
14	038-886	楕円	56×44×29	P22と重複。	71	-
15	038-885	円形	29×22×48		71	-
16	037-887	楕円	30×24×33		72	-
17	037-887	方形	34×25×22		72	-
18	035-886	楕円	28×27×37		72	-
19	043-885	不定形	42×34×11		72	-
20	042-888	楕円	(32)×23×15	P5と重複。	71	-
21	040-882	楕円	41×29×11		72	-
22	039-885	楕円	35×33×26	P14と重複。	71	4
23	035-886	方形	(35)×31×24	P24と重複。	72	4
24	034-886	円形	33×(30)×34	P23と重複。	72	4
25	033-886	円形	28×27×33		72	4
26	031-886	方形	25×16×9		72	-
27	047-890	円形	19×19×11		72	-
28	038-888	楕円	35×25×10		71	-
29	038-887	方形	31×30×14		71	-
30	038-887	方形	21×20×10		71	-

(1) ピット

3区ピット群(第71・72図 PL. 4)

概要 本ピット群は31基のピットから成り、3-2区西

部に在る。3・21号ピットを除いて1号溝以西に位置する。

位置 表11。

重複 5・20号ピット、7・8号ピット、9・9b号ピット、11・12号ピット、14・22号ピット、23・24号ピットが重複するが、5・20号ピット、23・24号ピットは新旧関係が特定できなかったが、他のピットは8・9・11・14号ピットが新しい。

規模形態 表11に記した。

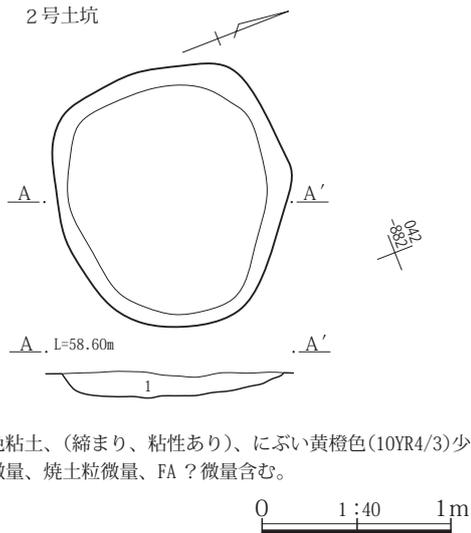
本ピット群のプランは方形が13基、長方形が2基、円形が4基、楕円形が11基、不定形が1基であった。また径は16～37cmで平均は33.15cm、深さは8～48cm、平均21.39cmを測った。

埋没土 1・3号ピットがAs-Bを多く含む暗褐色土で、他は黄褐色土か褐灰色土等で被覆されていた。

その他 断面観察から14・15・18号ピットは掘立柱の柱穴と判断されるが、掘立柱建物や柵等を想定することはできなかった。また他のピットの掘削意図は特定できなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝はAs-B混土が多く入ることから1・3号ピットは中世前期の可能性を残すが、ピットの規模は中世のものと同認められるので、全体として大凡中世頃の所産と判断されるものであった。



2号土坑

1 にぶい黄橙色粘土、(締まり、粘性あり)、にぶい黄橙色(10YR4/3)少量、炭化物微量、焼土粒微量、FA?微量含む。

第73図 3-2区2号土坑

第12表 3区土坑一覧

No.	挿図写真	位置 形状	長軸×短軸×深さ(cm) 軸方向	遺物と埋 没土	備考
2	図73 PL-8	040-882G 円形+隅丸 方形	139×120×13 N-69.5° W	にぶい黄 橙色粘土	1面

(2) 土坑

3区2号土坑(第73図 PL.8)

概要 本土坑は3-2区西部に位置し、南側に3区21号ピットが近接する。遺存状態は良好ではない。

位置 040~041-881~883グリッドに在る。

重複 本土坑と他の遺構との重複関係は見られない。

規模形態 本土坑は東半が円形、西半が隅丸方形のプランを呈し、掘削形態は箱形で概ね平底状を呈する。径139×120cm、深さ13cmを測る。

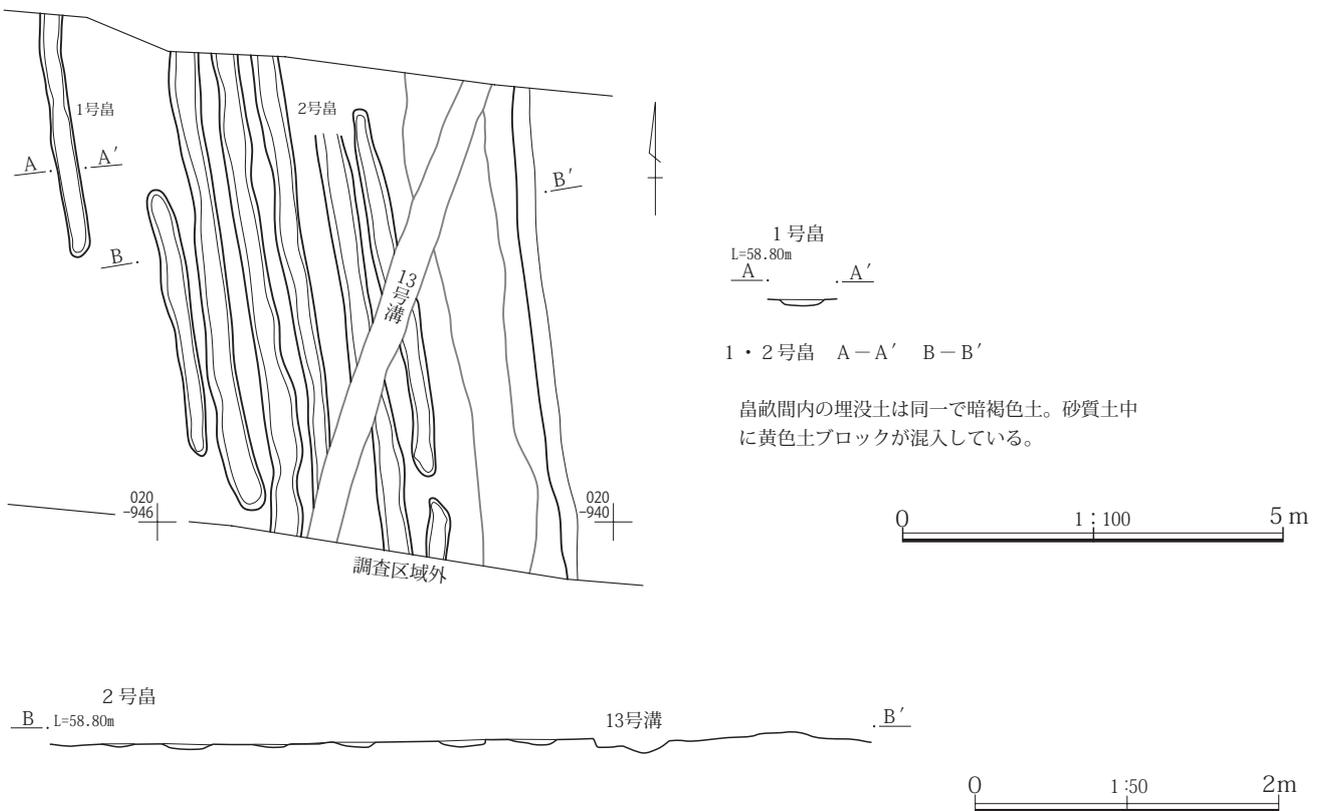
埋没土 不明。

方位 N-70°W。

その他 本土坑の掘削意図は確認できなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、概ね中世以降の所産と認識される。



第74図 3-1区1・2号畠



3・4号島 A-A' B-B'
 島畝間内の埋没土は同一で暗褐色土。砂質土中に黄色土ブロックが混入している。

第75図 3-1区3・4号島

(3) 畠

3-1区は中・北部を調査し、その後、土運搬用道路として確保していた南部を調査した。中・北部の調査に当たっては確認面をAs-B堆積層付近に取っていたのであるが、後述する3区13号溝の断面を調査区北壁断面中に確認したため、南部の調査に当たっては中世面の表出を図ることとした。

この中世面の表出によって5面の畠遺構を確認したが、上述のようにその確認範囲は区南部の幅6、7mに限られ、且つ後述の12号溝以東に限られている。

3区1号畠(第74図)

概要 本畠は3-1区南西部に位置し、1条の畝間が確認できたに過ぎなかった。本遺構は上述のように北側を確認することはできなかった。

位置 023～026-846～847グリッドに在る。

重複 本畠と他遺構との重複関係は見られなかった。

規模 畝間1条を確認したに過ぎないので、全体の形状等は不明である。畝間は長さ1.3m、幅23cm、深さ5cmを測る。ほぼ直線的に走行するが、確認範囲の北端で若干時計回りに屈曲する。

方位 N-7°W。

所見 本畠は3-1区の2～4号畠と同様、確認位置から推して古代末～中世の所産と思慮される。

3区2号畠(第74図)

概要 本畠は3-1区南西部に位置する。上述のように北側を確認することはできず、南側は調査区の外に出ていたため、全容は詳らかにできなかった。尚、本畠の直ぐ東側は5cmの比高差で一段落ちている。

位置 019～026-840～846グリッドに在る。

重複 本畠は3区13号溝と重複し、これに切られている。

規模 9条の畝間を確認した。長さ7.7m、幅4.6mを測る。

畝間方向 N-9°W。

畝・畝間 畝間の長さは3.60～6.55m、平均5.61m、幅は35～108cm、平均49.43cm、深さ3～6cm、平均3.86cmを測り、隣接する畝間の中心と中心の距離は50～100cm、平均65cm、畝上幅は23～50cm、平均32cmを測る。

所見 本畠は確認層位等から推して大凡中世の所産と思慮される。

3区3号畠(第75図)

概要 本畠は3-1区中西部から中東部に位置し、3-1区の他の畠と同様に北側を確認することはできず、南側は調査区の外に出ていたため、全容は詳らかにできなかった。本畠は畝の方向の違いからa・b・cの3区画に分かれ。西端寄りの区画a、東端寄りの区画cと、その間にある過半を占める区画bに区分される。尚、本畠は西側の2号畠とは2.2m離れて在り、東側の4号畠とは1.5m離れている。

位置 本畠のうち区画aは018～025-834～838グリッド、区画bは016～025-825～836、区画c畠は016～024-822～825に在る。

重複 本畠は他の遺構との重複関係は認められない。

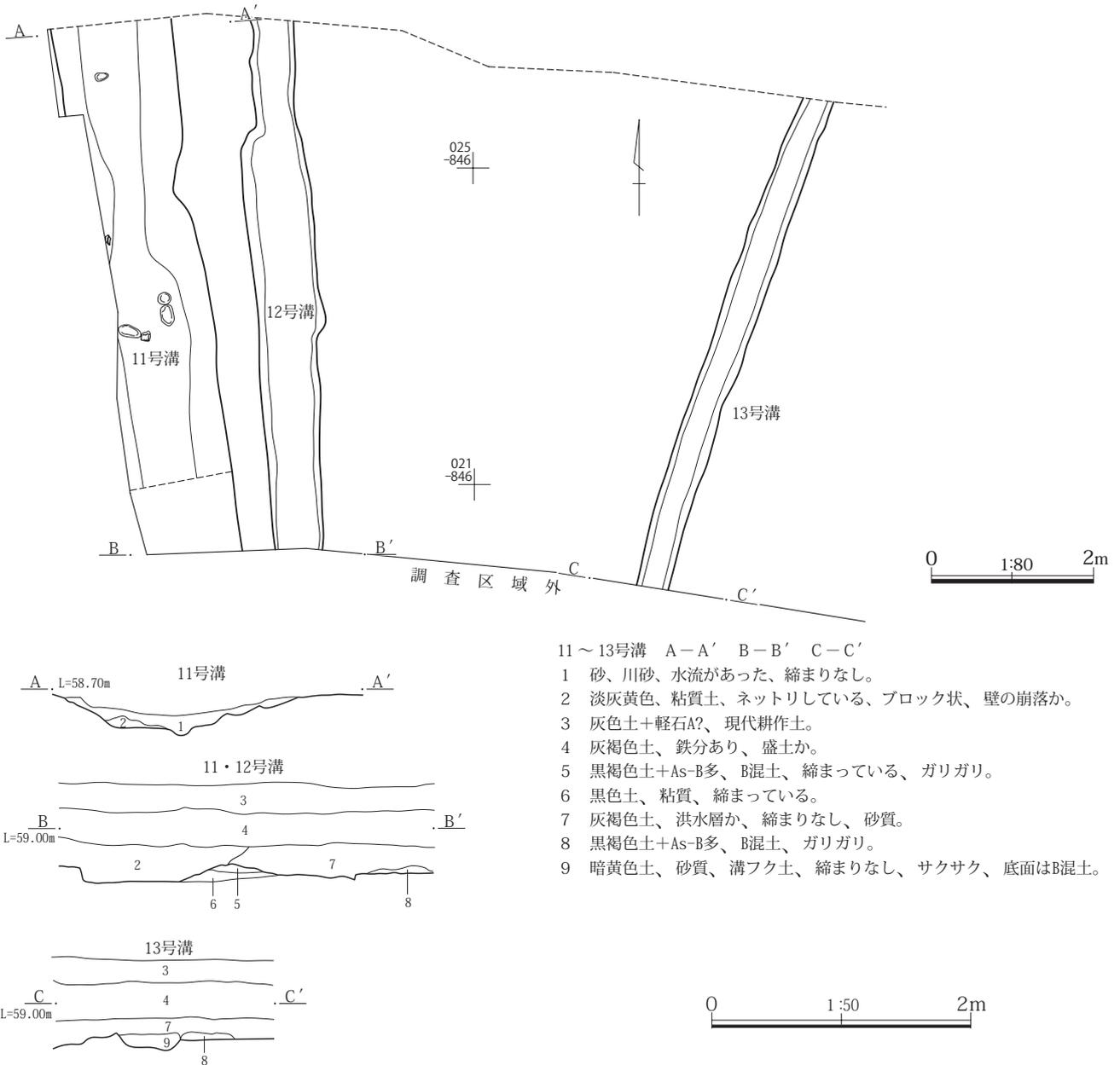
規模 区画aでは11条の畝間を確認し長さ7.3m、幅4.3mを測り、区画bでは50条の畝間を確認して畠の規模は長さ9.3m、幅13.5mを測り、区画cでは15条の畝間を確認し、長さ8.0m、幅9.7mを測った。

畝間方向 区画a N-15°W。区画b N-5°W。

区画c N-4°W。

畝・畝間 区画aでは畝間の長さは1.3～3.8m、平均2.06m、幅は20～55cm、平均25.09cm、深さ1～4cm、平均2.45cmを測り、隣接する畝間の中心と中心の距離は25～80cm、平均34.5cm、畝上幅は23～50cm、平均19.3cmを測り、区画bでは畝間の長さは0.6～6.05m、平均1.87m、幅は15～39cm、平均23.80cm、深さ1～5cm、平均3.22cmを測り、隣接する畝間の中心と中心の距離は25～210cm、平均62.44cm、畝上幅は8～183cm、平均38.61cmを測る。区画cでは畝間の長さは0.8～3.30m、平均2.25m、幅は13～27cm、平均21.27cm、深さ1～7cm、平均3.93cmを測り、隣接する畝間の中心と中心の距離は20～240cm、平均56.07cm、畝上幅は7～215cm、平均46.64cmを測る。

所見 本畠も確認層位等から推して大凡中世の所産と思慮される。



第76図 3-1区中世11・12・13号溝

3区4号畠(第75図)

概要 本畠は3-1区東部に位置する。3-1区2・3号の畠と同様に北側は確認できず、南側は調査区外に出ている、全容は詳らかにできなかった。本畠は西側の3号畠(区画c)と1.5m離れている。

位置 016～021-817～821グリッドに在る。

重複 本畠は他の遺構との重複関係は認められない。

規模 12条の畝間を確認した。畠の規模は長さ3.75m、幅4.0mを測る。

畝間方向 N-80°E。

畝・畝間 畝間の長さは0.8～3.3m、平均2.16m、幅

は14～27cm、平均21.75cm、深さ1～7cm、平均4cmを測り、畝間は中心で15～90cm、平均14.55cm、畝上幅は0～73cm、平均6.36cmを測る。

所見 本畠も確認層位等から推して大凡中世の所産と認識される。

(4) 溝

3区11号溝(第76図 PL.15)

概要 本溝は3-1区南西隅部に位置する。北側が失われ、南側が調査区外に出ている。

位置 020～026-849～851グリッドに在る。

重複 本溝は3区12号溝の西側に近接するが、本溝が切っている。

規模形態 調査区内に於いて北北西—南南東方向に直線的なプランを見せる。箱堀状を呈し、調査区やや北寄りやや狭まっている。確認長5.78m、幅94～145cm、深さ27cmを測る。

埋没土 川砂、淡灰黄色粘質土、灰褐色砂質土。

方位 (南縁) N-10° W。

その他 本溝は流水の痕跡が認められ、水路であった可能性を有する。また上述の狭まった箇所は堰等の痕跡の可能性を有する。

遺物 認められなかった。

所見 時期等の特定はできなかったが、A s - B混土層上面にあることから中世以降の所産と認識される。

3区12号溝(第76図 PL. 15)

概要 本溝は3-1区南西隅部に位置する。本溝も北側が失われ、南側が調査区外に出ているため全容は把握できていない。

位置 020～026-847～848グリッドに在る。

重複 調査区南端で西接する3区11号溝に切られている。

規模形態 調査区内に於いてほぼ南北方向に直線的に走行する。箱堀状を呈する。確認長6.63m、幅49～83cm、深さ5cmを測る。

埋没土 淡灰黄色粘質土。

方位 (南縁) N-3° W。

その他 本溝に明確な流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝はA s - B混土層上面にあることから中世以降の所産と認識されるが、時期等の特定はできなかった。

3区13号溝(第76図 PL. 15)

概要 本溝は3-1区南西部に位置する。本溝も北側が失われ、南側が調査区外に出ているため全容は把握できなかった。

位置 019～025-841～844グリッドに在る。

重複 本溝は3区2号畠を切っている。

規模形態 調査区内にあって北東—南東方向に直線的に走行している。箱堀状を呈する。確認長6.40 m、幅39

～47cm、深さ6cmを測る。

埋没土 暗黄色土砂質土。

方位 (南縁) N-18° E。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝はA s - B混土層上面にあるため、中世以降の所産と認識されるに過ぎない。

5 4区の遺構と遺物

(1) ピット

4区ピット群(第77図 PL. 4・5)

概要 本ピット群は11基から成り、8号ピットが北東部にある以外は南東部に位置し、後者のうち1・2号ピットを除いては集中して在る。

このうち南東部に位置する区域は調査の第1面次に於いて周囲より高くなっており、A s - Bの分布がこの微高地部分を北・東・南を巻くように分布し、微高地部分は取り残される状態となっていた。その範囲は東西10m程、南北8.5mを測るもので、西側から舌状に延びるもので、A s - Bの分布域に突き出すようにあった。4-1区南東部に分布するピット群はこの微高地を中心とする区域にあったが、A s - Bの分布によって知られる低地部との乾湿の差があり、実際の高低差に拠って、ここに集中して掘削された可能性が考慮される。

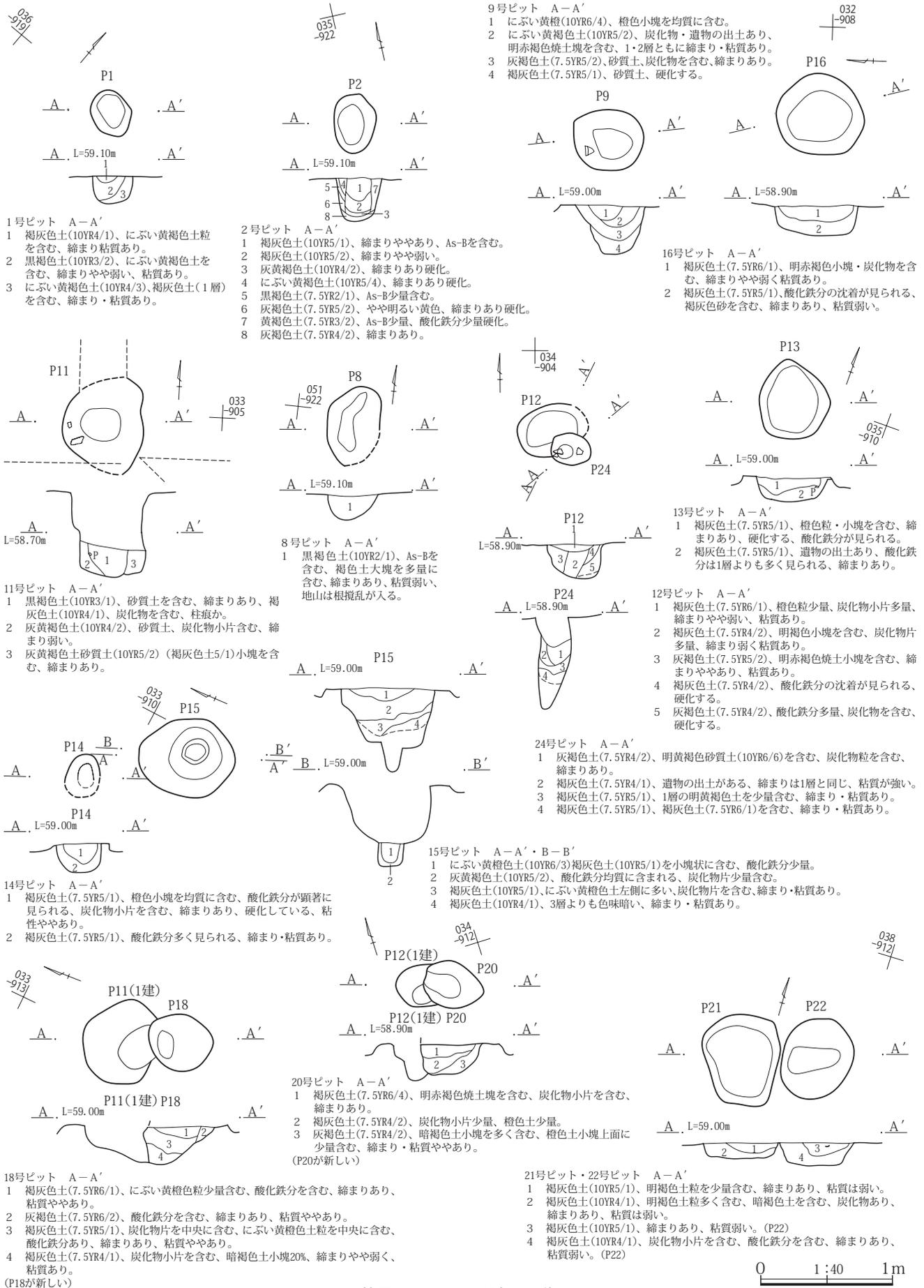
尚、この微高地部分の上位にA s - Bは確認できなかったが、古墳の埋没等の可能性も考慮して試掘溝を設定し、40cm程の深さまで試掘調査を実施した。その結果小規模な掘削は見られたものの、古墳の盛土等を確認することはできず、洪水層起源と思慮されるシルト質の土層のプライマリーな堆積が見られただけであったが、これらは外周部が下るような状態に塑性変形のものとして確認された。従ってこの舌状微高地は第七章に記す地震(弘仁9(818)年)に伴う側方流動で発生した可能性が考慮される。

位置 表13に記した。

重複 12・24号ピットが重複するが、新旧関係は特定できなかった。また18・20号ピットが1号掘立柱建物(17・19号ピット)と重複しこれを切っている。

規模形態 表13に記した。

第IV章 中世の遺構と遺物



第77図 4-1区ピット群

第13表 4区ピット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	備考	挿図	写真
1	035-917	楕円	35×32×24		77	4
2	033-921	楕円	44×32×33		77	4
8	050-920	不定形	84×67×19		77	5
9	033-908	楕円	53×47×41		77	5
11	032-905	方形	(74)×62×58		77	5
12	033-903	長方形	(52)×40×27	P24と重複	77	5
13	034-910	楕円	61×55×19		77	5
14	033-910	楕円	(32)×27×16		77	5
16	031-908	楕円	64×63×23		77	5
18	032-911	楕円	48×43×34	1建P11と重複	77	5
20	033-912	不定形	45×35×22	1建P12と重複	77	5
21	036-912	方形	69×56×13		77	5
22	036-912	長方形	60×53×17		77	5
24	033-903	円形	32×24×52	P12と重複	77	5

本ピット群のピットのプランは方形が2基、長方形が2基、円形が1基、楕円形が7基、不定形が2基であった。また径は24～84cmで平均は49.24cm、深さは13～58cm、平均28.43cmを測った。

埋没土 覆土は一定ではないが、2・8号ピットがAs-Bを含む。

その他 断面観察から24号ピットは掘立柱の柱穴と判断される。また他のピットの掘削意図は特定できなかった。

遺物 中世に属する遺物は認められなかった。また11・12・14・16・20・22号ピットから炭化物の出土が見られた。

所見 本ピット群は確認面及び2・8号ピットからはAs-Bが混入することから中世の可能性を有する。

第14表 4区土坑一覧

No.	挿図 写真	位置 形状	長軸×短軸×深さ(cm) 軸方向	遺物と 埋没土	備考
2	図78 PL-8	043-914G 円形	85×83×7 N-65° W	As-B混土	
3	図78 PL-8	041-912G 菱形	93×90×42 N-86° W		
4	図78 PL-8	035-916G 不整形	100×82×14 N-5° W		
5	図78 PL-9	032-920G 長方形	177×85×15 N-3° W		
6	図78	050-934G 楕円形	60×46×24 N-65° E		
7	図78 PL-9	053-925G 楕円形	82×67×12 N-87° W		
8	図78 PL-9	045-919G 隅丸方形	49×48×18 N-5° W		
9	図78 PL-9	050-952G 不整形	121×117×23 N-75° W		10・11土坑と重複 1溝下層部
10	図78 PL-9	050-952G 楕円形	[33]×38×19 N-75° W		9・11土坑と重複 1溝下層部
11	図78 PL-9	051-952G 方形?	[28]×81×13 N-75° W		9・10土坑と重複 1溝下層部

(2) 土坑

4区土坑群(第71・72図 PL.8・9)

概要 本土坑群は11基から成り、1・6・7号土坑が4-1区中北部に在って1・2号溝の北に位置し、2・3号土坑が4-1区中東部に、8号土坑が1・2号溝の南に近接する。4・5号土坑が南東部北西寄りに位置し、9・10・11号土坑は4-1区北西部に在って、1・2号溝の中に掘削されている。

位置 表14に記した。

重複 9・10・11号土坑は重複し、9→10→11の順に新しい。また9・10・11号土坑は1・2号溝とも重複し、これを切っている。

規模形態 表14に記した。

本土坑群のプランは1・2号土坑が円形、6・7号土坑が楕円形、3号土坑が菱形、5号土坑が長方形、8号土坑が隅丸方形、4・9号土坑が不整形であり、10号土坑が楕円形、11号土坑が方形様の可能性を有する。6号土坑が丸底である以外は平底を呈し、掘削形態は箱状を呈する。

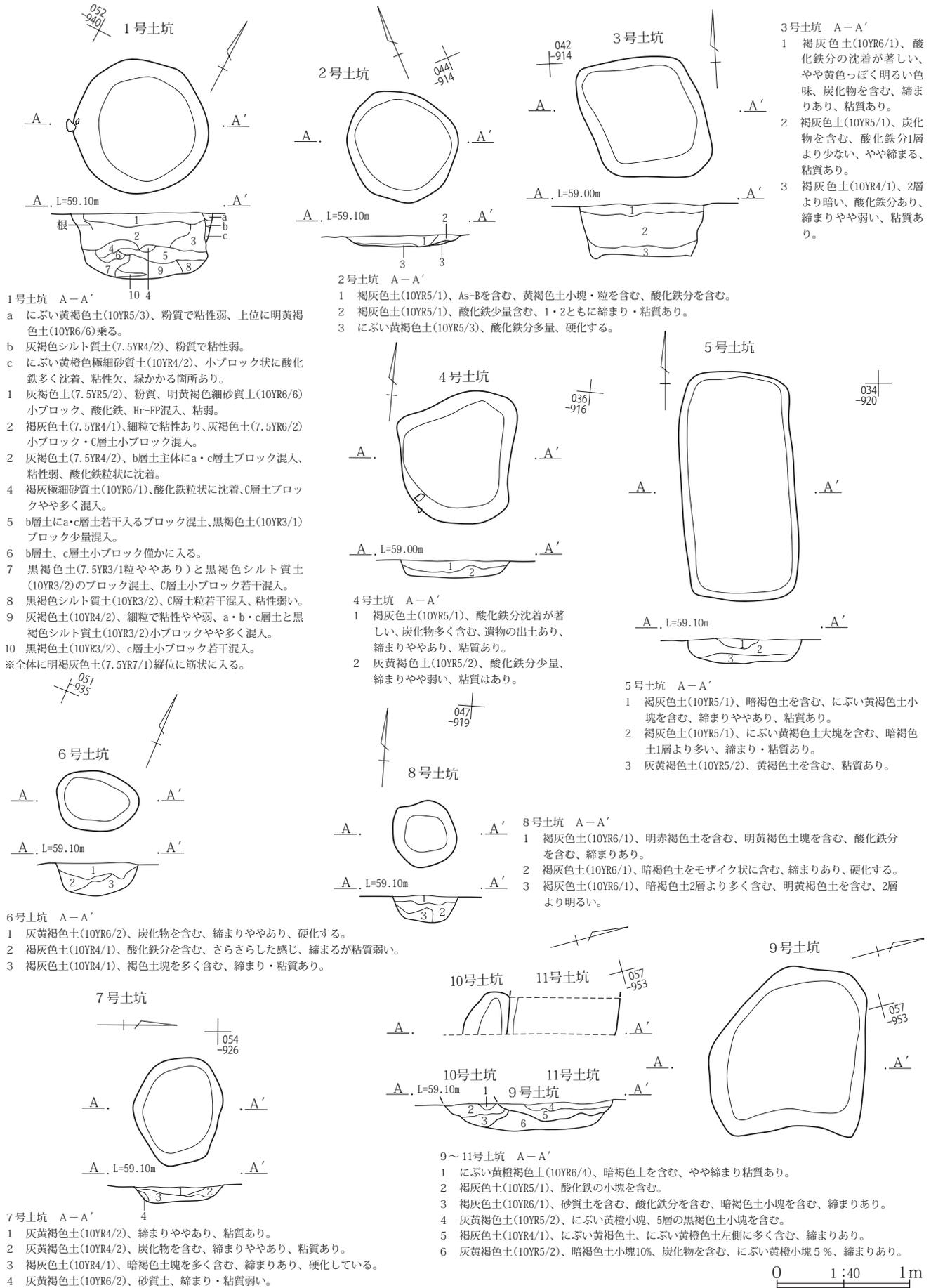
埋没土 褐灰色土等で被覆される。2号土坑にAs-Bが混入する。

その他 掘削意図は確認できなかった。

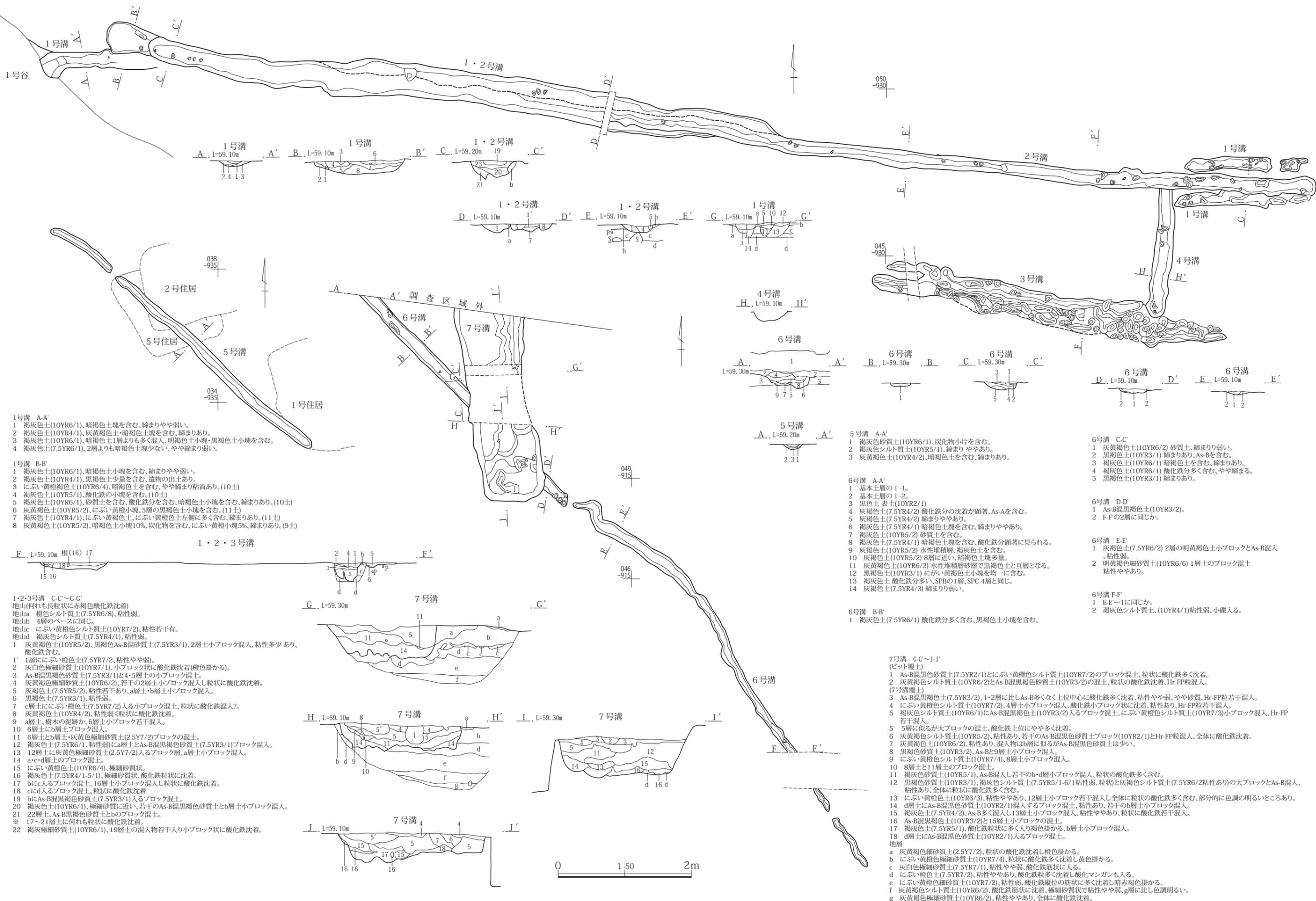
遺物 出土遺物は得られなかった。また3・6・7号土坑からは炭化物の出土が見られた。

所見 本土坑群の時期は明らかにできなかったが、確認面から概ね中世の可能性を有すると思われ、また5号土坑は中・近世に多い長方形土坑である。

第IV章 中世の遺構と遺物



第78図 4-1区土坑群



- 1号溝 A-A'
- 1 褐灰色土(10YR6/1)、暗褐色土塊を含む、締まりやや弱い。
 - 2 褐灰色土(10YR4/1)、灰黄褐色土・暗褐色土塊を含む、締まりあり。
 - 3 褐灰色土(10YR6/1)、暗褐色土1層よりも多く混入、明褐色土小塊・黒褐色土小塊を含む。
 - 4 褐灰色土(7.5YR6/1)、2層よりも暗褐色土塊少ない、やや締まり弱い。

- 1号溝 B-B'
- 1 褐灰色土(10YR6/1)、暗褐色土小塊を含む、締まりやや弱い。
 - 2 褐灰色土(10YR4/1)、黒褐色土少量を含む、遺物の出土あり。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR6/4)、暗褐色土を含む、やや締まり粘質あり。(10土)
 - 4 褐灰色土(10YR5/1)、酸化鉄の小塊を含む。(10土)
 - 5 褐灰色土(10YR6/1)、砂質土を含む、酸化鉄分を含む、暗褐色土小塊を含む、締まりあり。(10土)
 - 6 灰黄褐色土(10YR5/2)、にぶい黄褐色土、5層の黒褐色土小塊を含む。(11土)
 - 7 褐灰色土(10YR4/1)、にぶい黄褐色土、にぶい黄褐色土左側に多く含む、締まりあり。(11土)
 - 8 灰黄褐色土(10YR5/2)、暗褐色土小塊10%、炭化物を含む、にぶい黄褐色土塊5%、締まりあり。(9土)

- 1・2・3号溝 C-C'~G-G'
- 地山(何れも長粒状に赤褐色酸化鉄沈着)
- 地山1a 橙色シルト質土(7.5YR6/8)、粘性弱。
- 地山1b 4層のベースに同じ。
- 地山1c にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)、粘性若干有。
- 地山1d 褐灰色シルト質土(7.5YR4/1)、粘性弱。
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)、黒褐色As-B混砂質土(7.5YR3/1)、2層土小ブロック混入、粘性多少あり、酸化鉄含む。

- 1' 1層ににぶい褐色土(7.5YR7/2、粘性やや弱)。
- 2 灰白色極細砂質土(10YR7/1)、小ブロック状に酸化鉄沈着(橙色掛かる)。
- As-B混黒褐色砂質土(7.5YR3/1)と4・5層土の小ブロック混入。
- 灰黄褐色極細砂質土(10YR6/2)、若干の2層土小ブロック混入し粒状に酸化鉄沈着。
- 灰褐色土(7.5YR5/2)、粘性若干あり、a層土・b層土小ブロック混入。
- 黒褐色土(7.5YR3/1)、粘性弱。
- c層土ににぶい褐色土(7.5YR7/2)入る小ブロック混入、粒状に酸化鉄混入?
- 灰黄褐色土(10YR4/2)、粘性弱く粒状に酸化鉄沈着。
- a層土、樹木の泥跡か、6層土小ブロック若干混入。
- 6層土にb層土ブロック混入。
- 6層土とb層土・灰黄色極細砂質土(2.5Y7/2)ブロックの混入。
- 褐灰色土(7.5YR6/1、粘性弱)にa層土とAs-B混黒褐色砂質土(7.5YR3/1)ブロック混入。
- 12層土に灰黄色極細砂質土(2.5Y7/2)入るブロック層、a層土小ブロック混入。
- a・c・d層土のブロック混入。
- にぶい黄褐色土(10YR6/4)、極細砂質状。
- 褐灰色土(7.5YR4/1-5/1)、極細砂質状、酸化鉄粒状に沈着。
- bにc入るブロック混入、16層土小ブロック混入し粒状に酸化鉄沈着。
- ctc入るブロック混入、粒状に酸化鉄沈着
- bにAs-B混黒褐色砂質土(7.5YR3/1)入るブロック混入。
- 褐灰色土(10YR6/1)、極細砂質に近い、若干のAs-B混黒褐色砂質土とb層土小ブロック混入。
- 22層土、As-B混黒褐色砂質土とbのブロック混入。
- ※ 17~21層土に何れも粒状に酸化鉄沈着。
- 褐灰極細砂質土(10YR6/1)、19層土の混入物若干入り小ブロック状に酸化鉄沈着。

- 5号溝 A-A'
- 1 褐灰色砂質土(10YR6/1)、炭化物小片を含む。
 - 2 褐灰色シルト質土(10YR5/1)、締まりややあり。
 - 3 灰黄褐色土(10YR4/2)、暗褐色土を含む、締まりあり。

- 6号溝 A-A'
- 1 基本土層のI-1。
 - 2 基本土層のI-2。
 - 3 黒色土表土(10YR2/1)
 - 4 灰褐色土(7.5YR4/2) 酸化鉄分の沈着が顕著、As-Aを含む。
 - 5 灰褐色土(7.5YR4/2) 締まりややあり。
 - 6 褐灰色土(7.5YR4/1) 暗褐色土塊を含む、締まりややあり。
 - 7 褐灰色土(10YR5/2) 砂質土を含む。
 - 8 褐灰色土(7.5YR4/1) 暗褐色土塊を含む、酸化鉄分顕著に見られる。
 - 9 灰褐色土(10YR5/2) 水性堆積層、褐灰色土を含む。
 - 10 灰褐色土(10YR5/2) 8層に近い、暗褐色土塊多量。
 - 11 灰黄褐色土(10YR6/2) 水性堆積層砂層で黒褐色土と互層となる。
 - 12 黒褐色土(10YR3/1) にかい黄褐色土小塊を均一に含む。
 - 13 褐灰色土 酸化鉄分多い、SPBの1層、SPC-4層と同じ。
 - 14 灰褐色土(7.5YR4/3) 締まり弱い。

- 6号溝 B-B'
- 1 褐灰色土(7.5YR6/1) 酸化鉄分多く含む、黒褐色土小塊を含む。

- 6号溝 D-D'
- 1 As-B混黒褐色土(10YR3/2)。
 - F-F'の2層に同じか。

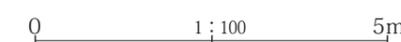
- 6号溝 E-E'
- 1 灰褐色土(7.5YR6/2) 2層の明黄褐色土小ブロックとAs-B混入、粘性弱。
 - 明黄褐色細砂質土(10YR6/6) 1層土のブロック混入、粘性ややあり。

- 6号溝 F-F'
- 1 E-E'に同じか。
 - 褐灰色シルト質土、(10YR4/1)粘性弱、小塊入る。

- 7号溝 G-G'~J-J'
- (ピット覆土)
- 1 As-B混黒色砂質土(7.5YR2/1)とにぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)のブロック混入、粒状に酸化鉄多く沈着。
 - 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2)とAs-B混黒褐色砂質土(10YR3/2)の混入、粒状の酸化鉄沈着、Hr-FP粒混入。(7号溝覆土)
 - As-B混黒褐色土(7.5YR3/2)、1・2層に比しAs-B多くなく上位中心に酸化鉄多く沈着、粘性やや弱、やや砂質、Hr-FP粒若干混入。
 - にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)、4層土小ブロック混入、酸化鉄小ブロック状に沈着、粘性あり、Hr-FP粒若干混入。
 - 褐灰色シルト質土(10YR6/1)にAs-B混黒褐色土(10YR3/2)入るブロック混入、にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3)小ブロック混入、Hr-FP若干混入。
 - 5層に似るが大ブロックの混入、酸化鉄上位にやや多く沈着。
 - 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)、粘性あり、若干のAs-B混黒色砂質土ブロック(10YR2/1)とHr-FP粒混入、全体に酸化鉄沈着。
 - 灰黄褐色土(10YR6/2)、粘性あり、混入物はb層に似るがAs-B混黒色砂質土は少ない。
 - 黒褐色砂質土(10YR3/2)、As-Bと9層土小ブロック混入。
 - にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/4)、8層土小ブロック混入。
 - 8層土と11層土のブロック混入。
 - 褐灰色砂質土(10YR5/1)、As-B混入し若干のb・d層小ブロック混入、粒状の酸化鉄多く含む。
 - 黒褐色砂質土(10YR3/1)、褐灰色シルト質土(7.5YR5/1-6/1粘性弱、粒状)と灰褐色シルト質土(7.5YR6/2粘性あり)の大ブロックとAs-B混入、粘性あり、全体に粒状に酸化鉄多く含む。
 - にぶい黄褐色土(10YR6/3)、粘性ややあり、12層土小ブロック若干混入し全体に粒状の酸化鉄多く含む、部分的に色調の明るいところあり。
 - d層土にAs-B混黒色砂質土(10YR2/1)混入するブロック混入、粘性あり、若干のb層土小ブロック混入。
 - 褐灰色土(7.5YR4/2)、As-B多く混入し13層土小ブロック混入、粘性ややあり、粒状に酸化鉄若干混入。
 - As-B混黒褐色土(10YR3/2)と15層土小ブロックの混入。
 - 褐灰色土(7.5YR5/1)、酸化鉄粒状に多く入り褐色掛かる、b層土小ブロック混入。
 - d層土にAs-B混黒色砂質土(10YR2/1)入るブロック混入。

- 地層
- 灰黄褐色極細砂質土(2.5Y7/2)、粒状の酸化鉄沈着し褐色掛かる。
 - にぶい黄褐色極細砂質土(10YR7/4)、粒状に酸化鉄多く沈着し黄色掛かる。
 - 灰白色極細砂質土(7.5YR7/1)、粘性やや弱、酸化鉄筋状に入る。
 - にぶい褐色土(7.5YR7/2)、粘性ややあり、酸化鉄粒多く沈着し酸化マンガンも入る。
 - にぶい黄褐色細砂質土(10YR7/2)、粘性弱、酸化鉄縦位の筋状に多く沈着し暗赤褐色掛かる。
 - 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2)、酸化鉄筋状に沈着、極細砂質状で粘性やや弱、g層に比し色調明るい。
 - 灰黄褐色極細砂質土(10YR6/2)、粘性ややあり、全体に酸化鉄沈着。

第79図 4区1~7号溝



(3) 溝

4区1・2号溝(第79図 PL.15)

概要 4区1・2号溝は4-1区の中北部からやや東寄りに位置する。中位に於いて1・2号溝の重複する遺構として確認されたが、東西両端で1号溝が南北に分かれており、従って1号溝は2条の遺構に分けられるものである。尚、東部、中部に1条、西部に2条現れる1号溝の各溝はどれが連続しているかは特定することはできなかった。

位置 (1号溝) 046～052-917～955グリッド。(2号溝) 046～051-917～955グリッド。

重複 4号溝と重複している。2号溝は1号溝を切っており、西端の1号溝のうち北側のものが南側のものを切っている。また、1号溝は新旧関係は特定できなかったが、西端で1号谷と重複している。

規模形態 調査区内にあって1・2号溝共に西北西-東南東方向に比較的直線的な走行を呈している。掘削形態は比較的箱堀状を呈しており、底面はやや凹凸が見られる。(1号溝)長さ38.52m、幅40～142cm、深さ11cmを測る。(2号溝)長さ35.30m、幅43～80cm、深さ21cmを測る。

埋没土 灰黄褐色土等。As-B混土含む。

方位 (1・2号溝)N-80°W。

その他 1・2号溝共に流水の痕跡は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 1・2号溝はその時期特定には至らなかったが、As-B混土を含むため、中世以降の所産と認識されるに過ぎないものであった。

4区3号溝(第79図 PL.15)

概要 本溝は4-1区の中北部に東寄りに位置する。底面付近を残すだけで遺存状態は良くなく、南北2列の溝遺構から成る。

位置 042～044-919～930グリッドに在る。

重複 4号溝と重複するが、新旧関係は認められなかった。また上記2列は同時に存在していて、新旧関係は認められなかった。

規模形態 本溝は西北西-東南東方向に比較的直線的な

走行を呈している。掘削形態は箱堀状を呈している。長さ10.8m、幅45～118cm、深さ15cmを測る。

埋没土 灰黄褐色極細砂質土等。

方位 N-80°W。

その他 本溝に流水の痕跡は認められなかった。また、南側のものを中心に底面に細かい鋤先痕跡が認められた。この鋤先痕は南側のものでは2列以上があった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の時期特定には至らなかったが、4-1区1・2号溝と並走して在ることから推して、その前後の時期遺構であると認識されるものである。

4区4号溝(第79図 PL.15)

概要 本溝も4-1区の中北部に東寄りに位置する。北側を4-1区2号溝に切れ、南側は4-1区3号溝に達している。

位置 043～046-921～922グリッドに在る。

重複 4-1区1～3号溝と重複するが、何れに対しても新旧関係は認められなかった。

規模形態 本溝は概ね南北方向に比較的直線的な走行を呈している。掘削形態は箱堀状を呈する。残長3.85m、幅40～60cm、深さ13cmを測る。

埋没土 記録不備。

方位 N-5°E。

その他 本溝に流水の痕跡は不明。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の時期は特定できなかった。

4区5号溝(第79図 PL.15)

概要 本溝は4-1区の中部に南西寄りに位置する。北側の遺存状態は不良で一旦途切れている。

位置 032～039-932～940グリッドに在る。

重複 4-1区1・2・5号住居と重複し、これを切っている。

規模形態 本溝は北西-南東方向に直線的な走行を呈しているが、北端で西方に若干回転している。掘削底面は丸底状を呈する。長さ10.2m、幅23～39cm、深さ6cmを測る。

埋没土 褐灰色砂質土。

方位 N-50°W。

その他 本溝に流水の痕跡等は認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝の時期は特定できなかった。

4区6号溝(第79図 PL.16)

概要 本溝は4-1区の東部に位置する。北側は調査区外に出ていて全容を把握することはできなかった。

位置 037～054-908～923グリッドに在る。

重複 4-1区7号溝と重複し、これを切っている。

規模形態 本溝は概ね北西-南東方向に比較的直線的な走行を呈するが、部分的に弱い蛇行なども認められる。掘削底面は箱堀状を呈し、部分的に横断面形の底面が丸底状を呈する。残長22.98m、幅16～44cm、深さ10cmを測る。

埋没土 褐灰色土、黒褐色土等。As-B含む。

方位 N-44°W。

その他 本溝に流水の痕跡等は見られなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は時期の特定には至らなかったが、覆土から概ね中世の所産と認められる。

4区7号溝(第79図 PL.16)

概要 本溝は4-1区の北東部に位置する堀と呼べるような規模の溝である。北側は調査区外に出ていて全容を把握できなかった。

位置 048～054-917～920グリッドに在る。

重複 4-1区6号溝と重複し、これに切られている。

規模形態 本溝は概ね北北西-南南東方向に比較的直線的な走行を呈する。掘削形態は箱堀状を呈する。残長5.7m、幅179～280cm、深さ54cmを測る。

埋没土 にぶい黄橙色シルト質土等。As-B含む。

方位 N-5°W。

その他 本溝に流水の痕跡等は見られなかった。また対応する堀等も認められなかった。

遺物 認められなかった。

所見 本溝は概ね中世の所産と思慮される。

(4) 谷

4区1号谷(第80～85図 PL.16・17、63

遺物観察表409・410頁)

概要 本谷は4-1区西部及び北側の4-2区中東部に位置している。当初、本谷は東側で断崖面を確認したことから4区～5区にかけての古墳時代以降の谷地形の東端部に当たると認識して調査に入ったのであるが、その後、西側が更に一段落ちることを確認したため、谷地に対する東側の河岸断丘面と確認された。本谷には1号谷-1～6号遺構と呼称した溝遺構が掘削されている。

位置 031～053-930～965グリッドに在る。また本谷に含まれる1号遺構は032～044-935～948、同2号遺構は033～037-918～946、3号遺構は037～043-946～951、4号遺構は033～053-938～960、5号遺構は034～052-951～965、6号遺構は033～052-941～965に在る。

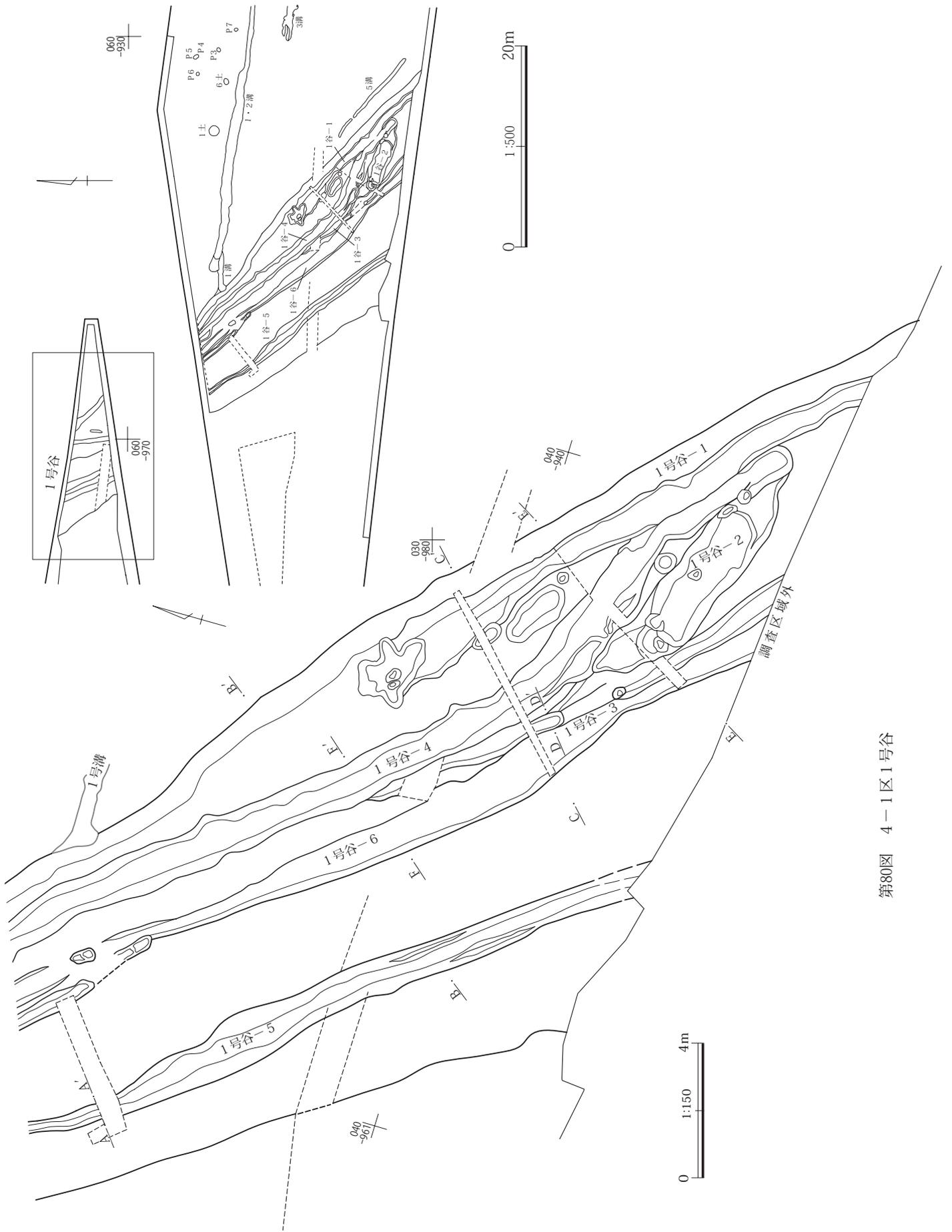
重複 4-1区1号溝と重複するが新旧関係は不詳。また1号谷内の遺構群では4→1、4→3、6→3、3→2の順に新しい。

規模形態 本谷は概ね北西-南東方向に比較的直線的に伸びる。底面に溝遺構群が走っているが、東より1号遺構が東壁際を走り、4・2号遺構、更に3・6号遺構が西接し、少し離れて5号遺構が北西-南東方向に並走し、4・2号遺構が南部で東南東方向に屈曲する。

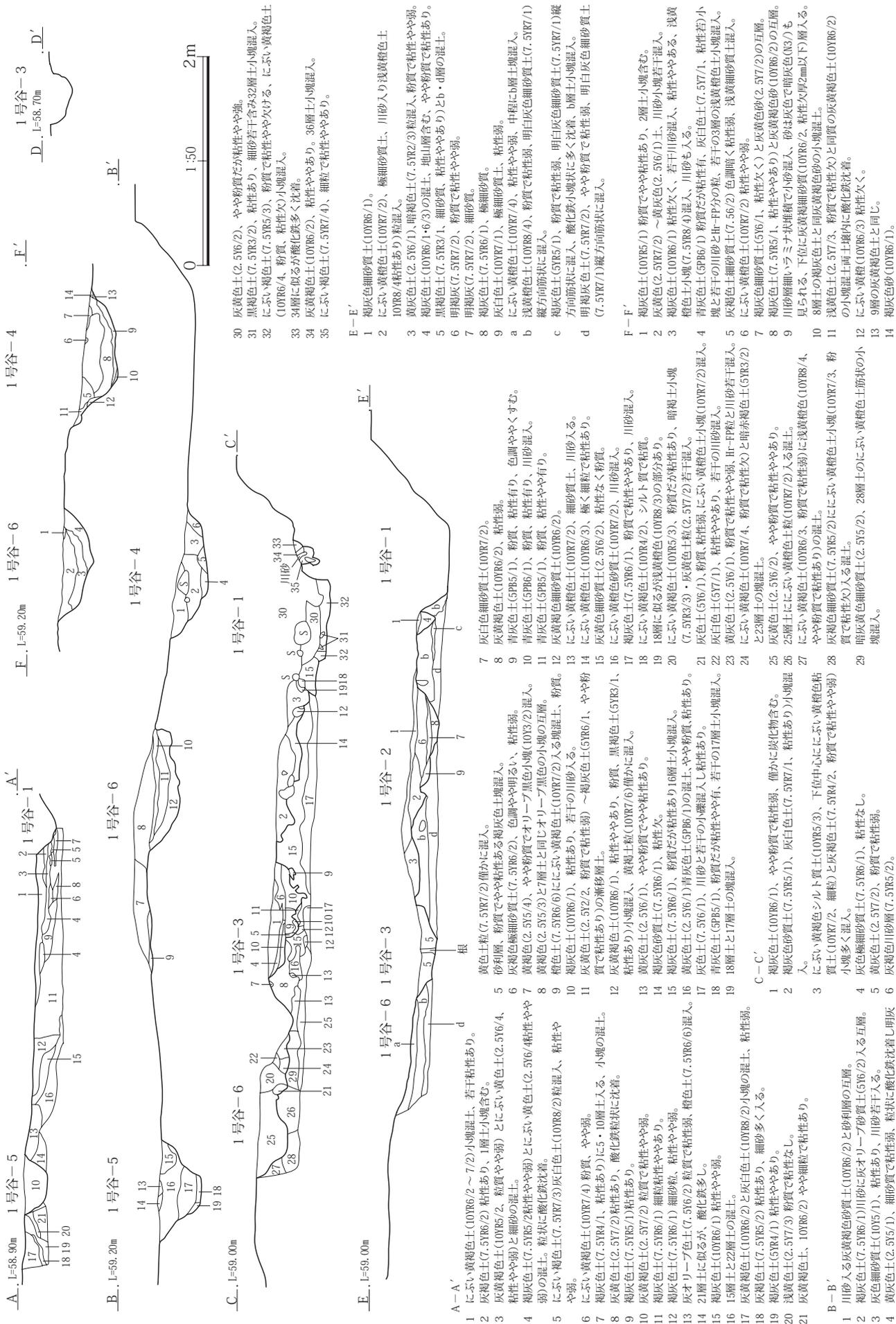
1号谷の規模 残長58m、残幅101cm、深さ72cm (1号遺構)残長17.5m、幅57～194cm、深さ76cm、(2号遺構)残長8.32m、幅113～176cm、深さ57cm、(3号遺構)残長7.18m、残幅38～68cm、深さ57cm、(4号遺構)残長29.18m、幅88～171cm、深さ76cm、(5号遺構)残長41.00m(4-1区:22.0m、4-2区:5.6m)、幅33～154cm、深さ67cm、(6号遺構)残長26.90m、幅43～157cm、深さ41cm。

埋没土 全体に褐灰色等の細砂質土で埋没し、上面に黄褐色細砂質の洪水層土が覆う。1・4・6号遺構は川砂を混入する。

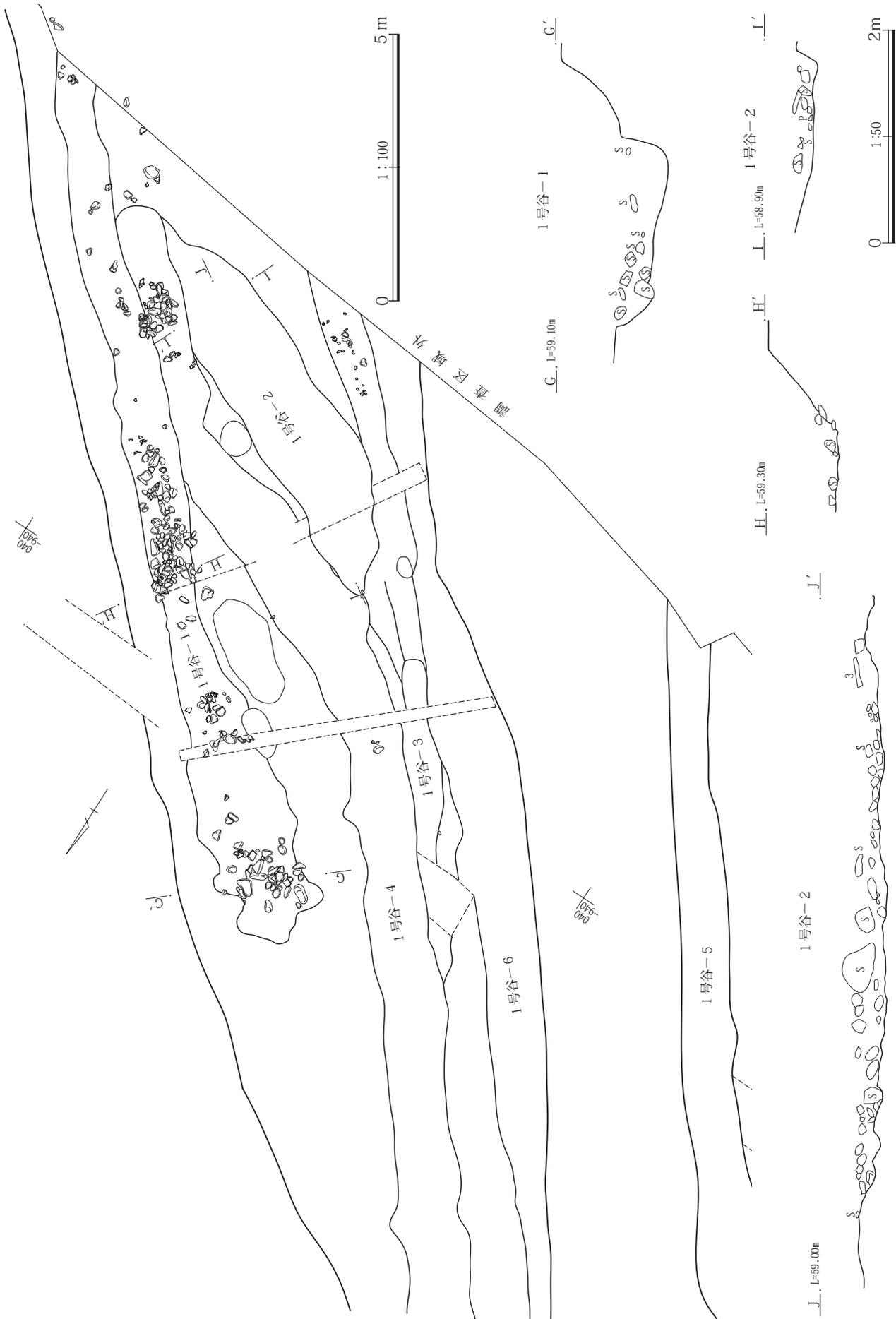
方位 N-41°W(1号遺構:N-42°W、2号遺構:N-70°W、3号遺構:N-53°W、4号遺構:N-50°W、5号遺構:N-37°W、6号遺構:N-45°W)。



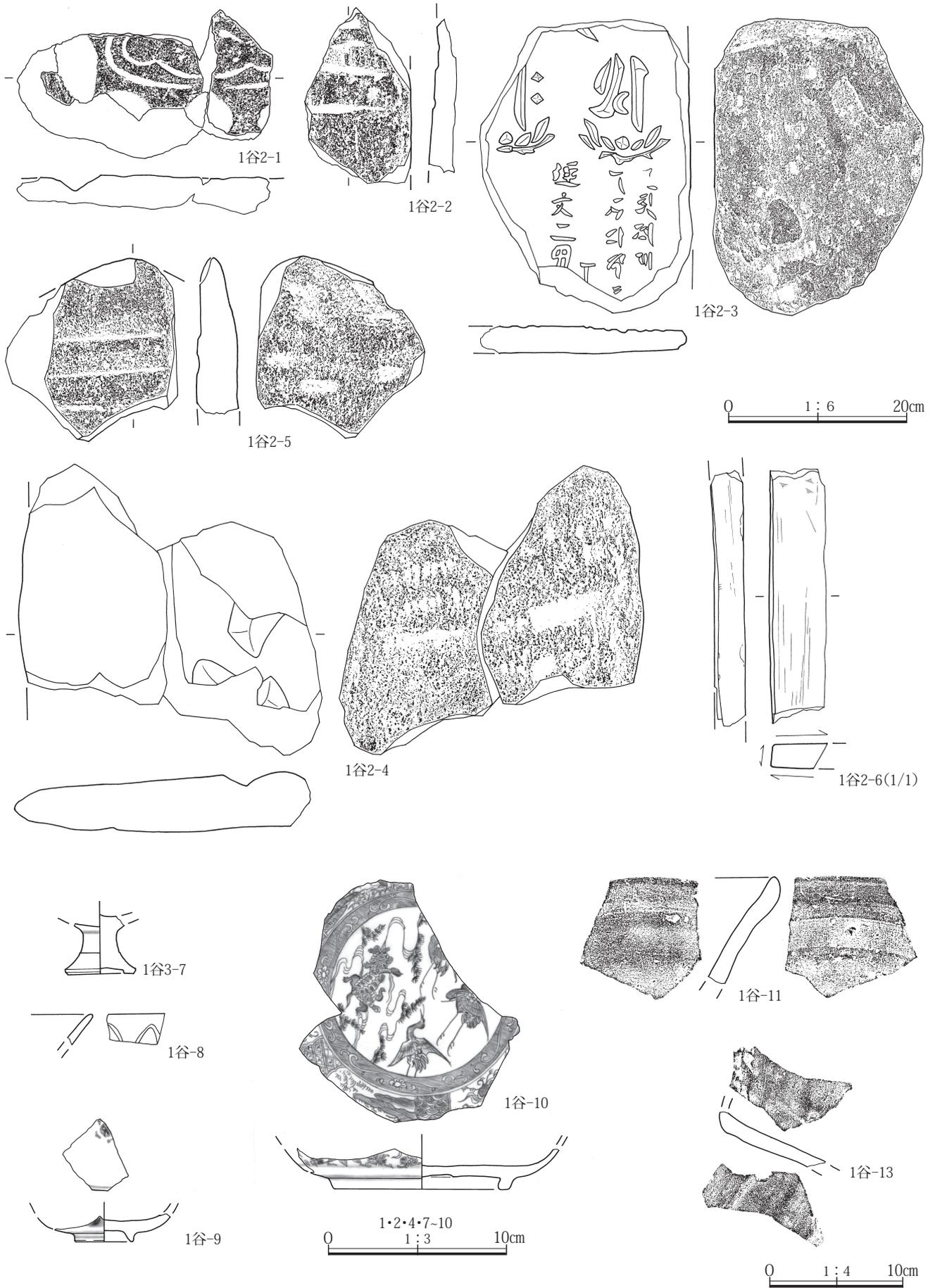
第80図 4-1区1号谷



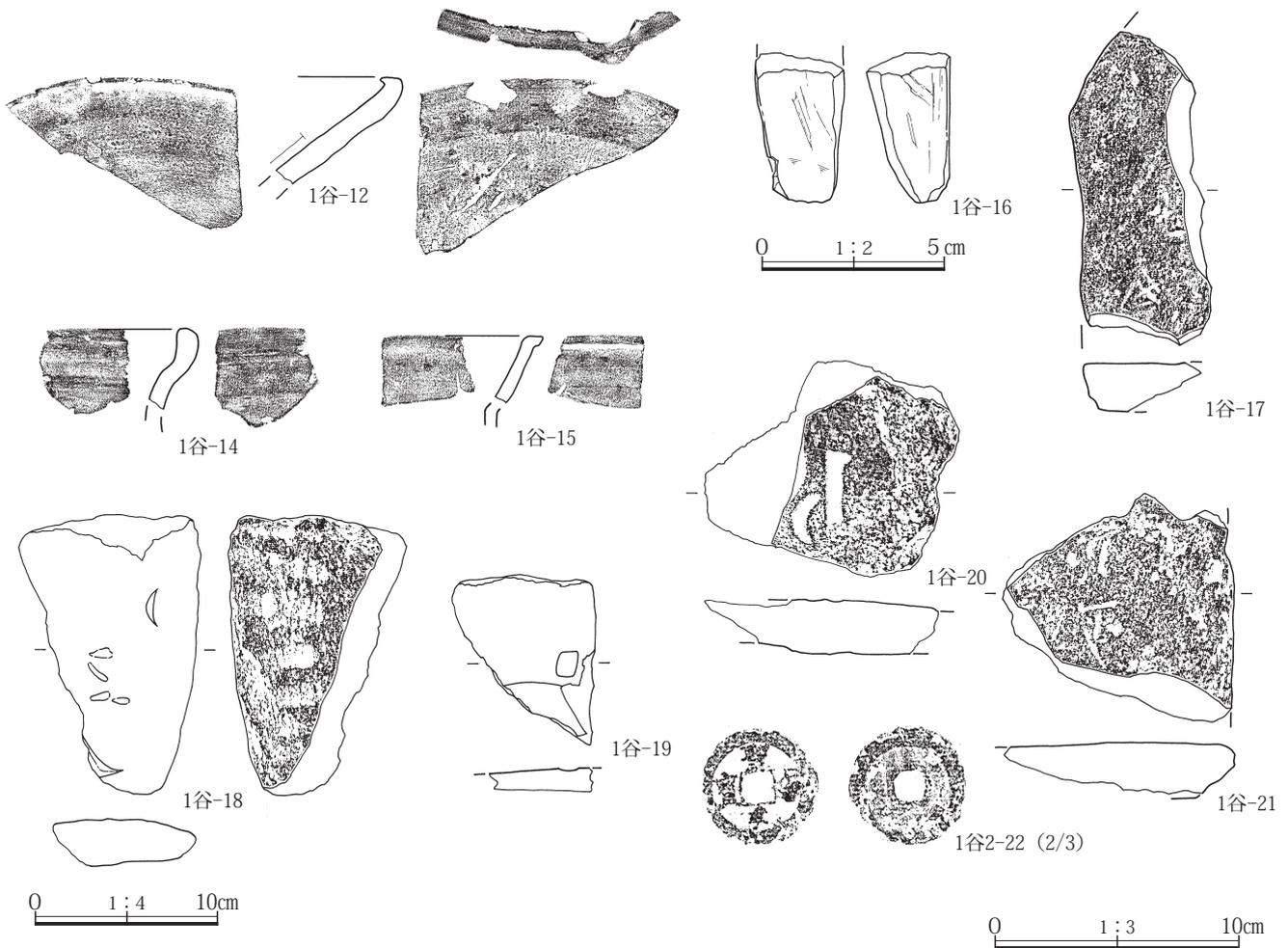
第81図 4-1区1号谷セクション



第82図 4-1区1号谷遺物出土状態



第83图 4-1区1号谷出土遺物(1)



第84図 4-1区1号谷出土遺物(2)

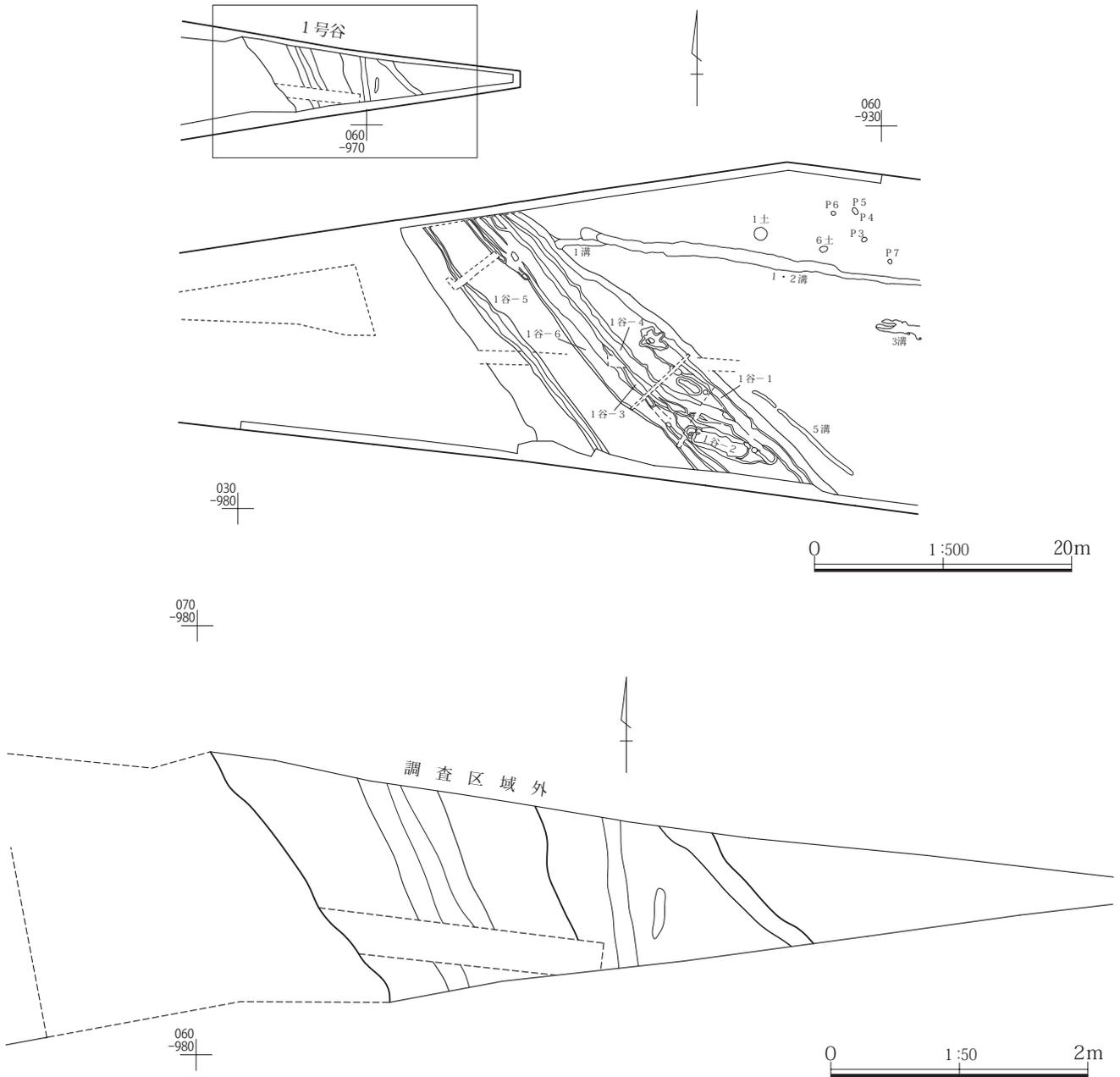
その他 本谷中の少なくとも1・2・4・6号遺構には流水の痕跡が認められ、従って水路等であった可能性が考慮される。

遺物 本谷からは龍泉窯系青磁碗(8)、肥前磁器の碗(9)、磁器皿か(10)、国産磁器片2点、国産施釉陶器片3点の他、国産焼締陶器片1点、在地系土器の片口鉢(11・12)、壺か甕(13)、内耳鍋(14・15)、焙烙・鍋片3点の他、土器類の破片2点、砥石(16)、板碑片(17～21)の出土が見られた。また2号遺構(溝)から板碑片(1～5)、砥石(6)、古銭(22)が、3号遺構(溝)からは肥前磁器仏飯器(7)の出土が見られた。

所見 本谷は谷地形と微高地の境に位置し、後者の東の端に位置する河岸段丘面を形成するものである。この面には中世以降、水路を主とする溝が谷方向に沿って掘削されている。出土遺物に見られる遺物は14世紀を中心に13世紀～19世紀に至るもので本谷の時期を表わすもの

と認識される。

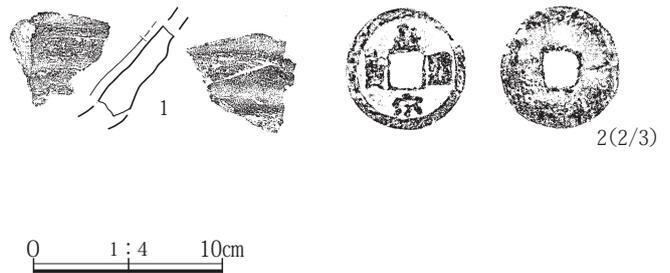
また本谷は谷地形の東端、微高地の際に位置しているが、本谷の西側(4・5区の境)に近接して第87図の耕地図に「↓」で示した広桃用水のうち広瀬川用水系に属する用水路が南流しており、本谷の溝群はその前身となる水路であった可能性を考えることができる。しかし、応永34年(1427)の利根川西遷以前の時期であれば、その水源は利根川ではなく榛名山を源とする水系に求められると思慮されるので、「→a・b・c」で示した地籍から想定される古い流路のうち「→a」或いは「→b」に沿って掘削された水路であった可能性も有している。



第85図 4-2区1号谷

(5) 遺構外

4区の遺構外の遺物(第88図 PL. 63 遺物観察表410頁)
 遺物 尾張陶器片口鉢(1)、古銭(2)や中世の国産施釉陶器1点や在地系鍋の破片1点、近世の国産施釉陶器2点等の出土が見られた。



第86図 4-1区遺構外出土遺物



第87図 阿弥大寺耕地図

6 5区の遺構と遺物

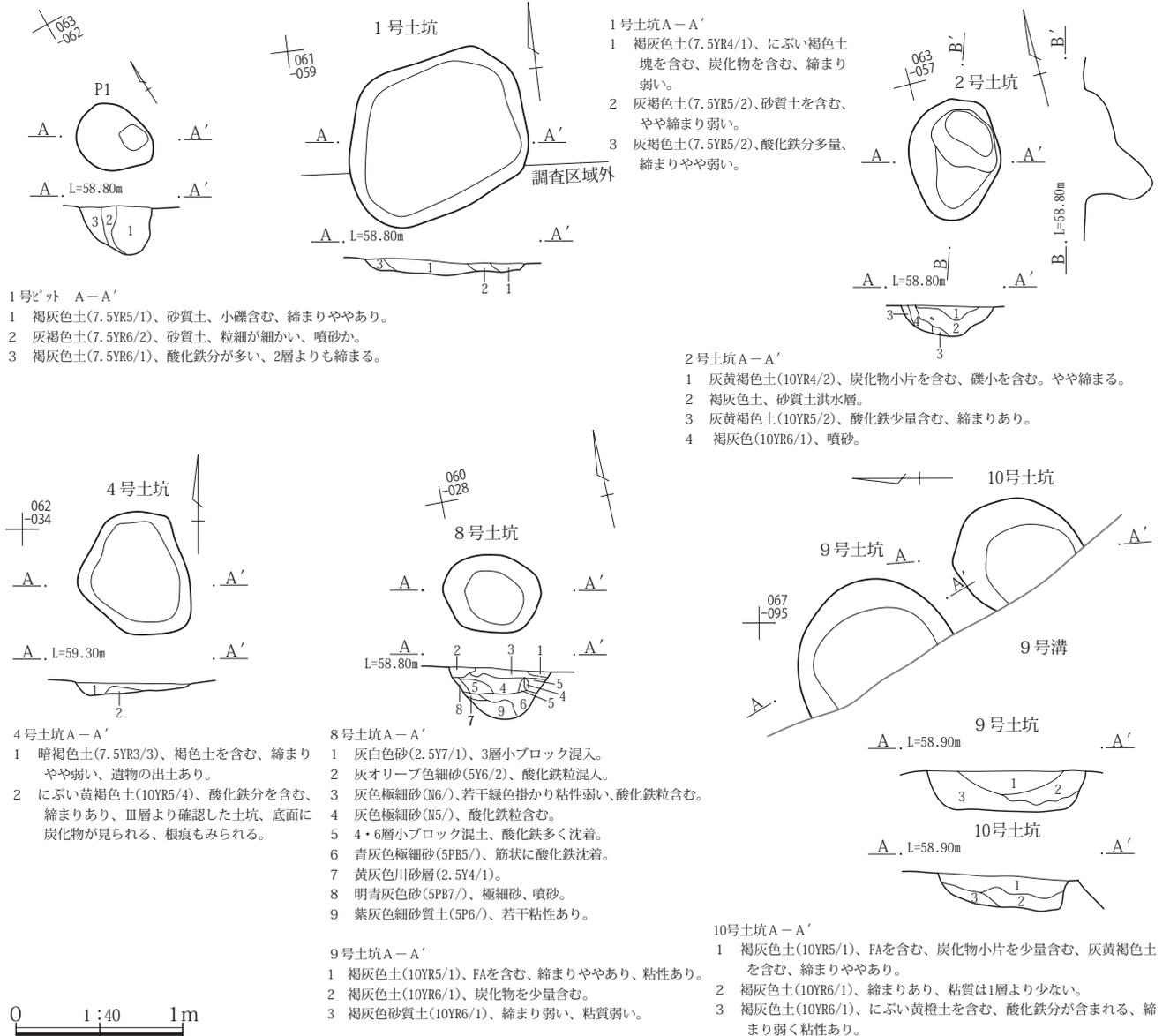
(1) ピット

5-1区1号ピット(第88図)

概要 本ピットは5-1区中部南壁寄りに位置しており、本区の中世遺構と同様Hr-F A面で確認、調査しているため、上位は大きく失われている。

位置 062-062グリッドに在る。

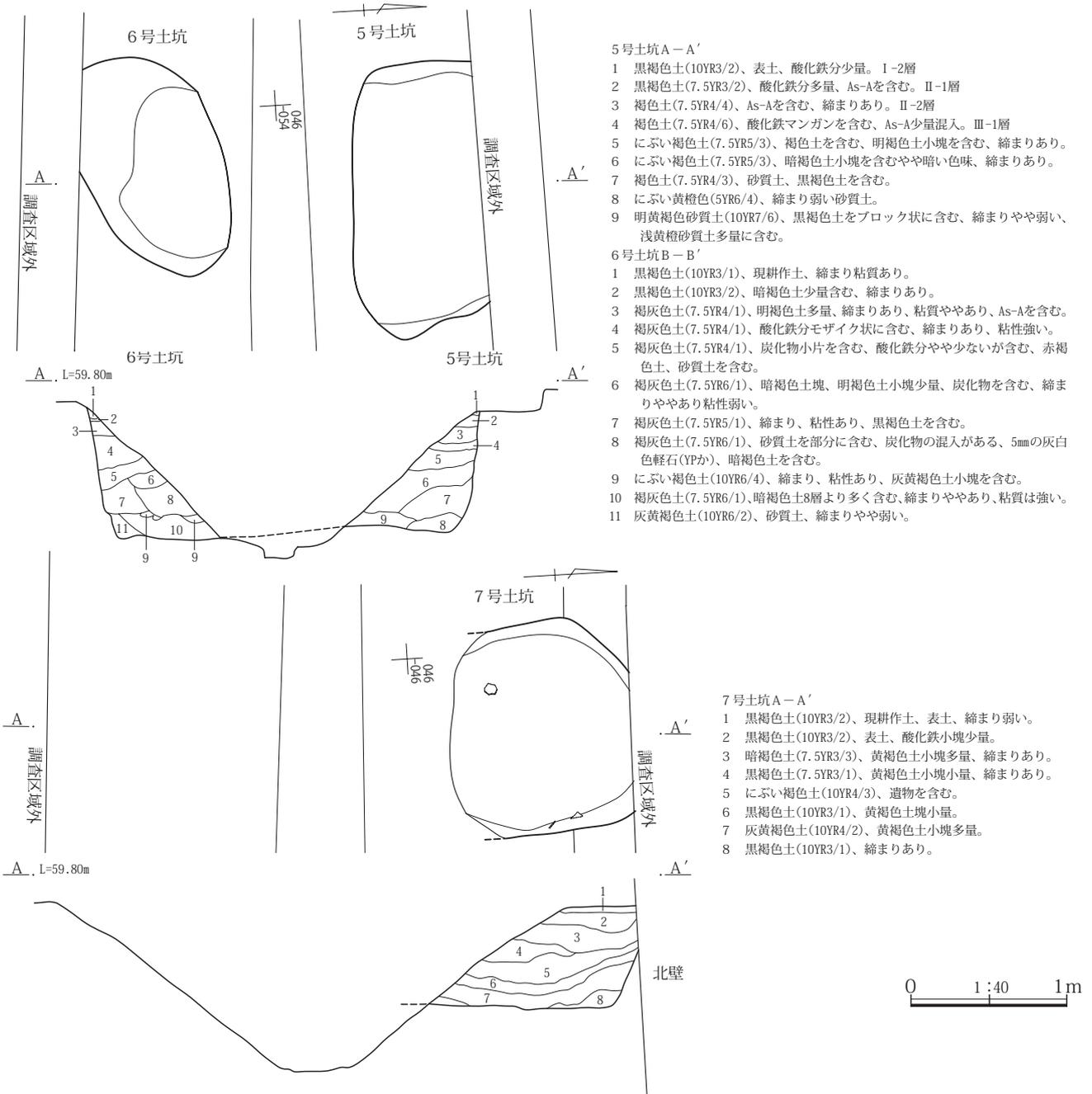
重複 本ピットは単独で在り、他の遺構との重複関係は



第88図 5-1区1号ピットおよび土坑群

第15表 5区ピット一覧

No.	位置	形状	長軸×短軸×深さ (cm)	備考	挿図	写真
1	062-061	方形	45×40×32		88	—



第16表 5区土坑一覧

第89図 5-2区5・6・7号土坑

No.	挿図 写真	位置 形状	長軸×短軸×深さ(cm)		遺物と 埋没土	備考
				軸方向		
1	図88 PL-	059-067 G 方形	112×92×42	N-72° E	炭化物 含む	5-1区
2	図88 PL-	062-066 G 隋円形	73×53×42	N-21° E	洪水 層土	5-1区
4	図88 PL-	061-043 G 不定形	75×66×9	N-4° W	遺物 含む	5-1区
5	図89 PL-9	046-052 G 方形	168×[81]×80	N-85° W	炭化物 小片含む	5-2区
6	図89 PL-	044-052 G 不明	150×88×85	N-74° E		5-2区
7	図89 PL-9	046-047 G 不明	[139]×116×67	N-85° W		5-2区
8	図88 PL-9	059-037 G 方形	57×46×33	N-5° E		5-1区
9	図88 PL-9	065-094 G 円形?	[60]×94×34	N-57° E	炭化物 含む	5-1区
10	図88 PL-9	065-094 G 円形?	[58]×70×29	N-54° E		5-1区

(2) 土坑

5-1区の土坑群(第88図 PL. 9)

概要 5-1区では1・2・4・8・9・10号土坑を確認したが、何れも5-1区の調査区南壁寄りに在って、1・2号土坑は中西部、4・8号土坑は中東部、9・10号土坑は西部に位置している。何れもHr-F A面を確認面としていたため、底部付近の調査と思慮される。

位置 (1号土坑) 059-067グリッド。(2号土坑) 062-066グリッド。(4号土坑) 061-043グリッド。(8号

土坑)059-037グリッド。(9号土坑)065-094グリッド。
(10号土坑) 065-094グリッド。

重複 9・10号土坑は9・10号溝と重複するが、新旧は特定できなかった。他の土坑に他遺構との重複は見られなかった。

規模形態 1号土坑は隅丸長方形で平底を呈し、2号土坑は楕円形を呈するが、北寄りに窪みを有する。4号土坑は盾形の隅丸六角形で平底を呈し、8号土坑は楕円形で丸底を呈する。また9・10号土坑は9号溝と重複して全容は確認できなかったが、大凡円形のプランを呈すると判断され、平底を呈する。(1号土坑)径112×92cm、深さ42cm、(2号土坑)径73×53cm、深さ42cm、(4号土坑)径75×66cm、深さ9cm、(8号土坑)径57×46cm、深さ33cm、(9号土坑)径[60]×94cm、深さ34cm、(10号土坑)径[58]×70cm、深さ29cmを測る。

埋没土 砂質の洪水層土で埋没していたものと思慮される。

方位 (1号土坑)N-72°E。(2号土坑)N-21°E。(4号土坑)N-4°E。(8号土坑)N-5°E。(9号土坑)N-57°E。(10号土坑)N-54°E。

その他 2号土坑の覆土は噴砂が貫いている。

遺物 認められなかった。

所見 何れの土坑も中世の遺構として報告しているが、2号土坑は覆土の観察から中世以降の可能性を有するものの古代末の可能性も考慮される。他の土坑は時期特定に至らなかったが、古代に遡る可能性も考慮される。また何れも掘削意図は確認できなかったが、2号土坑は形態と覆土の観察から推して柱穴である可能性が考慮される。

5-2区の土坑群(第88図 PL.9)

概要 5-2区には5・6・7号土坑が在り、何れも5-2区の中部に位置する。繰り返すように5区の遺構確認面はHr-F A堆積層を以て行っており、また洪水層がその上を被覆していたため中位層での遺構確認は難しかったのであるが、後述する5区2号井戸に投入された礫が集石としてあり、5区3号溝が残っていたため両者の間の調査区壁面を細かく観察したため、発見されたものである。尚6号土坑は南側に、5・7号土坑が北側の調査区外に延びており、全容を確認することはできな

かった。

位置 (5号土坑) 046-052グリッド。(6号土坑) 044-052グリッド。(7号土坑) 046-047グリッド。

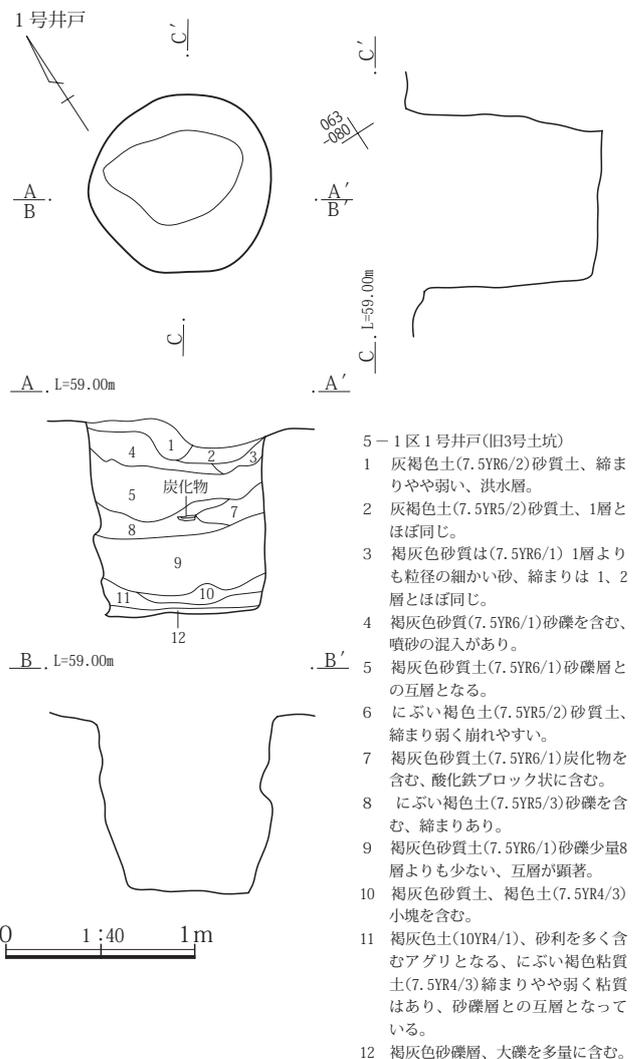
重複 6号土坑は5区3号溝と重複しておりこれを切っている。尚、5・7号土坑と他の遺構との重複関係は見られなかった。

規模形態 6号土坑は楕円形の分を呈し、5・7号土坑は方形若しくは長方形のプランを呈するが、掘削形態は何れも平底を呈している。(5号土坑)径161×[81]cm、深さ80cm、(6号土坑)径150×88cm、深さ85cm、(7号土坑)径[139]×116cm、深さ67cmを測る。

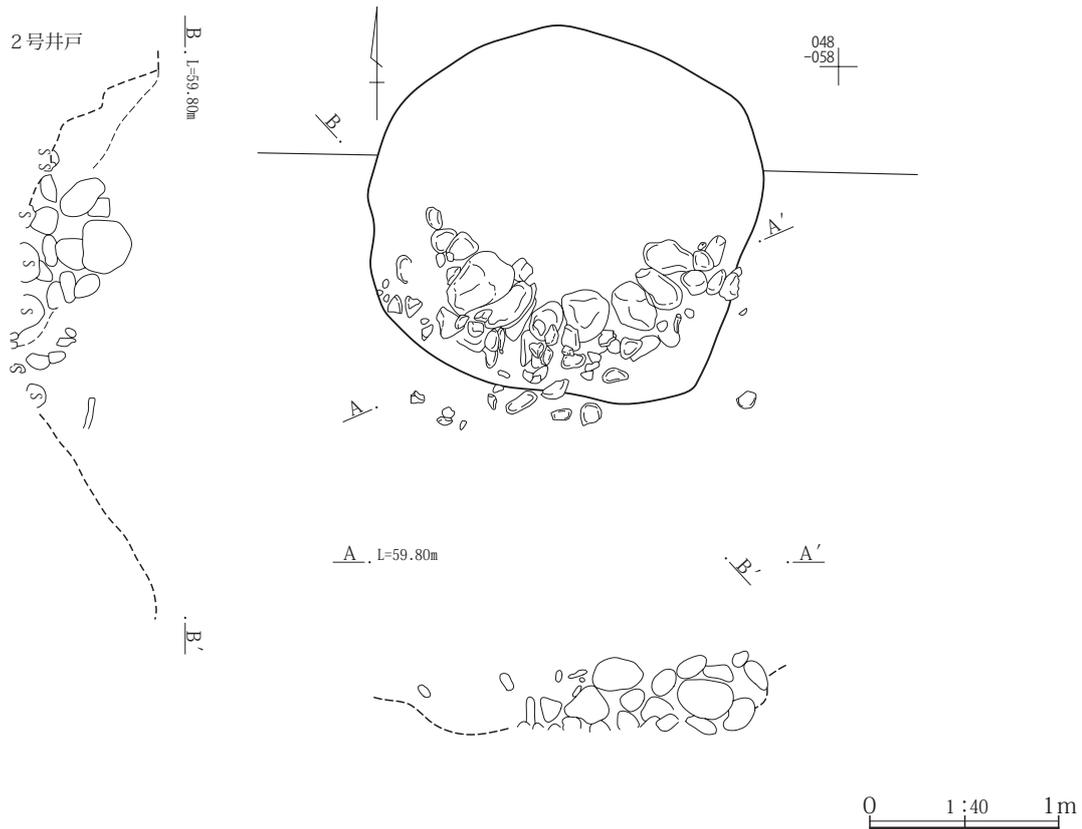
埋没土

方位 (5号土坑)N-85°W。(6号土坑)N-74°E。(7号土坑)N-85°E。

その他 何れの土坑も掘削意図は不明であったが、5・



第90図 5-1区1号井戸



第91図 5-2区2号井戸上面

7号土坑は形態的に中・近世の所産と認識される。

遺物 7号土坑より1点出土している。

所見 何れの土坑も時期の特定には至らなかったが、掘削層位等から概ね中世以降の所産と思慮される。

(3) 井戸

5-1区1号井戸(第90図 PL.10)

概要 本井戸は5-1区西部東南寄りに位置している。当初は5区3号土坑と呼称して調査に入ったが、井戸と判明したため1号井戸と遺構呼称を変更した。

位置 063-081グリッド。

重複 本井戸と同時期他遺構との重複関係は見られなかった。

規模形態 本井戸のプランは円形を呈し、掘削形態は井筒型を呈する。北側に底面から62cm寄り下位に厚さ6cmのアグリが形成される。径96×94cm、深さ104cmを測る。

埋没土 褐灰色の砂質土の洪水層土で埋没していたものと思慮される

方位 N-30°E。

その他 本井戸は湧水層を自然堆積11層の砂礫層と見做される。調査時点でも湧水が見られた。

遺物 認められなかった。

所見 時期の特定には至らなかったが、覆土等から概ね古代～近世中期の所産と思慮される。

5-2区2号井戸(第91・92図 PL.10、64

遺物観察表410頁)

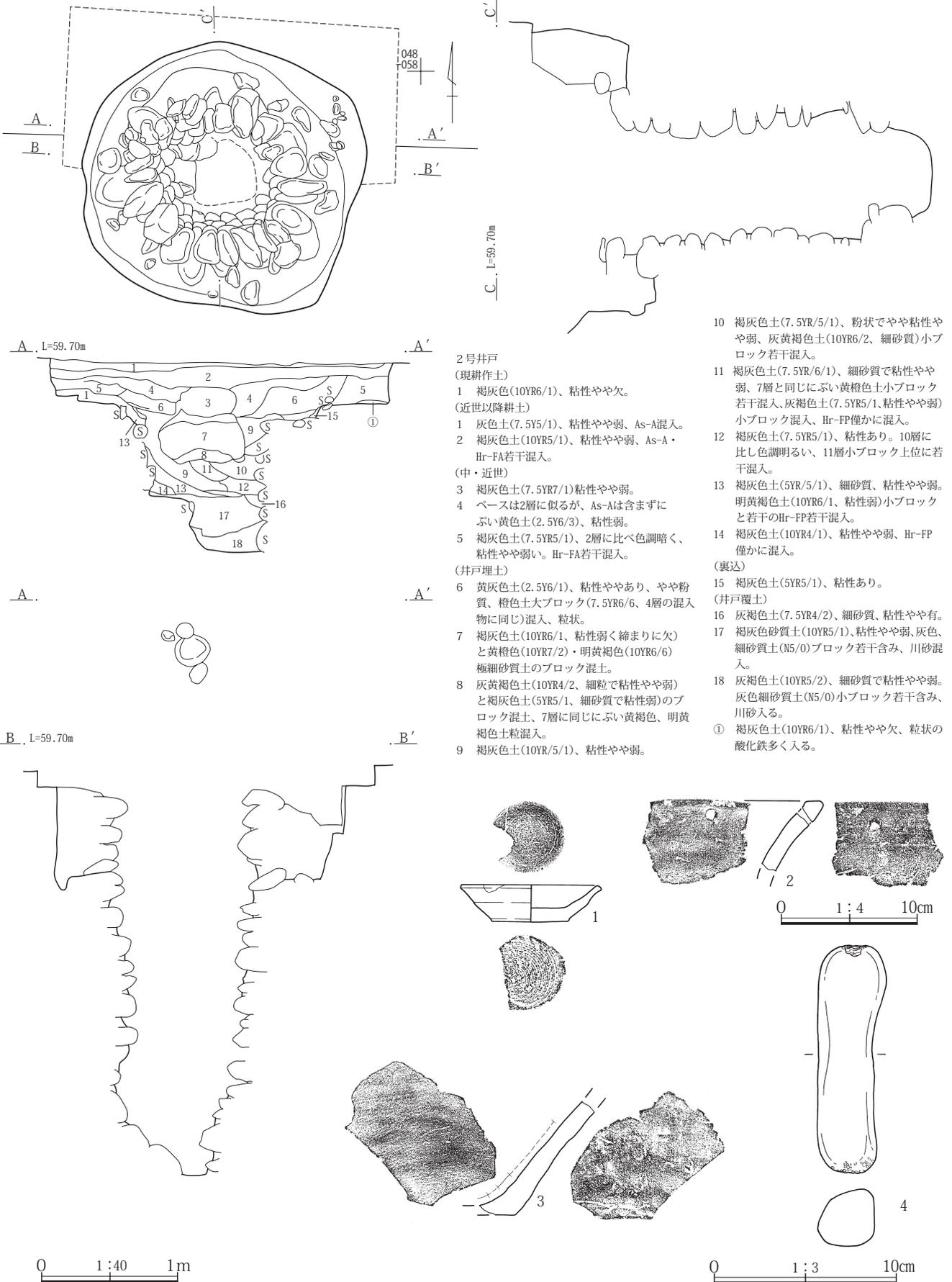
概要 本井戸は5-2区中部やや西寄りに位置している。確認面までの掘削途上で礫の集中する箇所があったため集石遺構として調査を進めた(第91図)が、やがて円形プランの石積みが確認され石積みの井戸と判明したものである。尚、石組の遺存状態は概ね良好であったが、下半部に於いては幾つか崩れていたものの、全体的な崩落には至っていなかった。

位置 047-059グリッド。

重複 本井戸と同時期の他遺構との重複関係は確認できなかった。

規模形態 本井戸のプランは円形を呈し、掘削形態は井筒型を呈する。円筒形に素掘り掘削し、それより

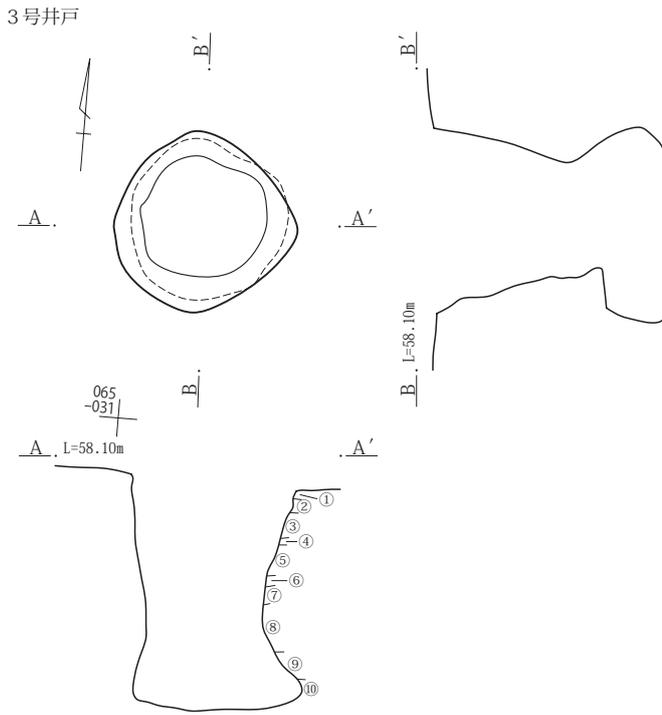
2号井戸下面



2号井戸
(現耕作土)

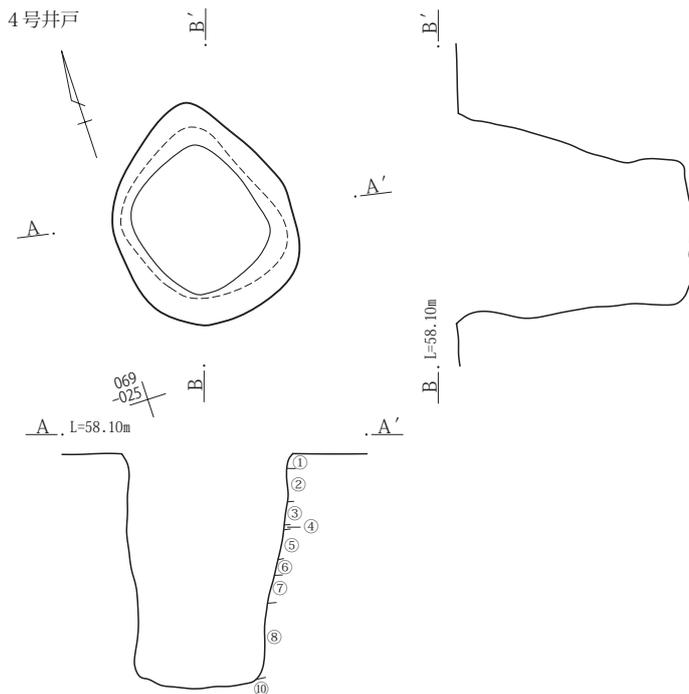
- 1 褐色土(10YR6/1)、粘性やや欠。
- (近世以降耕土)
- 2 褐色土(10YR5/1)、粘性やや弱、As-A混入。
- 3 褐色土(7.5YR7/1)粘性やや弱。
- 4 ベースは2層に似るが、As-Aは含まずに
ぶい黄色土(2.5Y6/3)、粘性弱。
- 5 褐色土(7.5YR5/1)、2層に比べ色調暗く、
粘性やや弱い。Hr-FA若干混入。
- (井戸埋土)
- 6 黄灰色土(2.5Y6/1)、粘性ややあり、やや粉
質、橙色土大ブロック(7.5YR6/6、4層の混入
物と同じ)混入、粒状。
- 7 褐色土(10YR6/1、粘性弱く締まりに欠)
と黄橙色(10YR7/2)・明黄褐色(10YR6/6)
極細砂質土のブロック混土。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2、細粒で粘性やや弱)
と褐色土(5YR5/1、細砂質で粘性弱)のブ
ロック混土、7層に同じにぶい黄褐色、明黄
褐色土粒混入。
- 9 褐色土(10YR5/1)、粘性やや弱。
- 10 褐色土(7.5YR5/1)、粉状でやや粘性や
や弱、灰黄褐色土(10YR6/2、細砂質)小ブ
ロック若干混入。
- 11 褐色土(7.5YR6/1)、細砂質で粘性やや
弱、7層と同じにぶい黄褐色土小ブロック
若干混入、灰褐色土(7.5YR5/1、粘性やや弱)
小ブロック混入、Hr-FP僅かに混入。
- 12 褐色土(7.5YR5/1)、粘性あり。10層に
比し色調明るい、11層小ブロック上位に若
干混入。
- 13 褐色土(5YR5/1)、細砂質、粘性やや弱。
明黄褐色土(10YR6/1、粘性弱)小ブロック
と若干のHr-FP若干混入。
- 14 褐色土(10YR4/1)、粘性やや弱、Hr-FP
僅かに混入。
- (裏込)
- 15 褐色土(5YR5/1)、粘性あり。
(井戸覆土)
- 16 灰褐色土(7.5YR4/2)、細砂質、粘性やや有。
- 17 褐色土砂質土(10YR5/1)、粘性やや弱、灰色、
細砂質土(N5/0)ブロック若干含み、川砂混
入。
- 18 灰褐色土(10YR5/2)、細砂質で粘性やや弱。
灰色細砂質土(N5/0)小ブロック若干含み、
川砂入る。
- ① 褐色土(10YR6/1)、粘性やや欠、粒状の
酸化鉄多く入る。

第92図 5-2区2号井戸下面および出土遺物



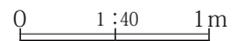
3号井戸 A-A'

- ① 褐灰色細砂質土(10YR4/1) 粘性やや弱い、にぶい黄橙色粒混入し、小ブロック状に酸化鉄沈着。
- ② ①に似るか、③層土ブロック混入し、筋状に酸化鉄沈着。
- ③ にぶい黄色細砂質土(2.5YR6/3) 幅広筋状に酸化鉄沈着、細砂多く入る。
- ④ 黒色細砂質土(N2/0) 細砂多く入り、⑤層土小ブロック混入。
- ⑤ にぶい黄色細砂質土(10YR6/5) 細砂多く入る、粘性弱、小ブロック状に酸化鉄沈着。
- ⑥ 灰黄褐色土(10YR5/1)、極細砂質、粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入。
- ⑦ 灰褐色土(7.5YR5/2)、細砂質土、細砂多く粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入(橙色)、全体にブロック状に酸化鉄沈着。
- ⑧ 灰黄色土(2.5Y7/2)、細粒だが粘性あり、表面が酸化しすぐ橙色(7.5YR6/6)になる傾向あり。
- ⑨ 明赤褐色細砂凝縮層(5YR5/6)、元々は灰黄色(2.5Y7/2)を成すが、酸化鉄が全体に沈着。
- ⑩ 湧水層、10～20cm程のアグリ形成、やや粗い砂層。



4号井戸 A-A'

- ① 褐灰色細砂質土(10YR4/1) 粘性やや弱い、にぶい黄橙色粒混入し、小ブロック状に酸化鉄沈着。
- ② ①に似るか、③層土ブロック混入し、筋状に酸化鉄沈着。
- ③ にぶい黄色細砂質土(2.5YR6/3) 幅広筋状に酸化鉄沈着、細砂多く入る。
- ④ 黒色細砂質土(N2/0) 細砂多く入り、⑤層土小ブロック混入。
- ⑤ にぶい黄色細砂質土(10YR6/5) 細砂多く入る、粘性弱、小ブロック状に酸化鉄沈着。
- ⑥ 灰黄褐色土(10YR5/1)、極細砂質、粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入。
- ⑦ 灰褐色土(7.5YR5/2)、細砂質土、細砂多く粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入(橙色)、全体にブロック状に酸化鉄沈着。
- ⑧ 灰黄色土(2.5Y7/2)、細粒だが粘性あり、表面が酸化しすぐ橙色(7.5YR6/6)になる傾向あり。
- ⑨ 明赤褐色細砂凝縮層(5YR5/6)、元々は灰黄色(2.5Y7/2)を成すが、酸化鉄が全体に沈着。
- ⑩ 湧水層、10～20cm程のアグリ形成、やや粗い砂層。



第93図 5-1区3・4号井戸

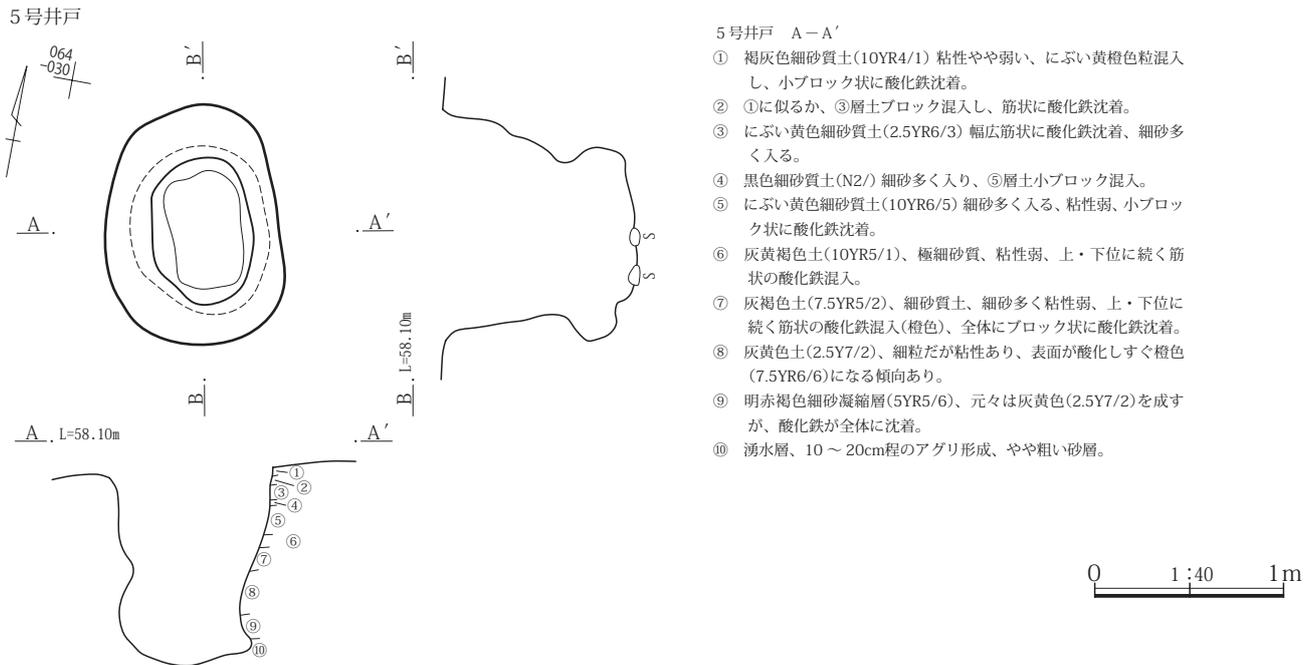
50cm程内側が内径となるよう石積みが施工されている。石組は基底の砂利層上に直に置かれ、円筒状に河床礫を積み上げて作られているが、安山岩質の礫をはつて筒状の曲面を形作っているものもある。石積の石は北側に底面から62cm寄り下位に厚さ6cmのアグリが形成される。径218×212cm、深さ300cmを測る。

埋没土 褐灰色の砂質土の洪水層土で埋没していたものと思慮される。

方位 N-62° E。

その他 本井戸は湧水層は最下面に当たる砂礫層と見做される。調査時点でも湧水が見られた。

遺物 本井戸からは、在地産皿(1)、火鉢破片(2)、片



- 5号井戸 A-A'
- ① 褐灰色細砂質土(10YR4/1)粘性やや弱い、にぶい黄橙色粒混入し、小ブロック状に酸化鉄沈着。
 - ② ①に似るか、③層土ブロック混入し、筋状に酸化鉄沈着。
 - ③ にぶい黄色細砂質土(2.5YR6/3) 幅広筋状に酸化鉄沈着、細砂多く入る。
 - ④ 黒色細砂質土(N2/) 細砂多く入り、⑤層土小ブロック混入。
 - ⑤ にぶい黄色細砂質土(10YR6/5) 細砂多く入る、粘性弱、小ブロック状に酸化鉄沈着。
 - ⑥ 灰黄褐色土(10YR5/1)、極細砂質、粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入。
 - ⑦ 灰褐色土(7.5YR5/2)、細砂質土、細砂多く粘性弱、上・下位に続く筋状の酸化鉄混入(橙色)、全体にブロック状に酸化鉄沈着。
 - ⑧ 灰黄色土(2.5Y7/2)、細粒だが粘性あり、表面が酸化しすぐ橙色(7.5YR6/6)になる傾向あり。
 - ⑨ 明赤褐色細砂凝縮層(5YR5/6)、元々は灰黄色(2.5Y7/2)を成すが、酸化鉄が全体に沈着。
 - ⑩ 湧水層、10～20cm程のアグリ形成、やや粗い砂層。

第94図 5-1区5号井戸

口鉢底部破片(3)、敲石(4)が、集石からは石製品(5・6)が出土した。

所見 時期の特定には至らなかったが、出土遺物等から概ね中世～近世中期の所産と思慮される。

5-1区3号井戸(第93図 PL.11)

概要 本井戸は5-1区東部に位置し、Hr-F A面で確認、調査した。従って井戸の下位部分を調査できずに過ぎない。

位置 065～066-030～031グリッド。

重複 本井戸と他の遺構との重複関係は確認できなかった。

規模形態 本井戸のプランは円形に近い隅丸方形状を呈し、掘削形態は井筒型を呈する。底面は平底を呈し、南側を中心に底面から30cmの範囲で、奥行き27cm以下を測るしっかりしたアグリが形成される。井戸の規模は径89×88cm、深さ122cmを測る。

方位 N-42° E。

その他 本井戸の湧水層は最下面に当たるやや粗い砂層である。

遺物 認められなかった。

所見 時期の特定には至らなかったが、古代～近世中期の所産と思慮される。

5-2区4号井戸(第93図)

概要 本井戸は5-1区東部に位置し、3号井戸と同様Hr-F A面で確認したため、下位部分を調査できずに過ぎない。

位置 069～070-023～024グリッド。

重複 本井戸と他の遺構との重複関係はなかった。

規模形態 本井戸のプランは方形状を呈する。掘削形態は井筒型で底面はやや凹凸のある平底状を呈する。底面から32cmの範囲で、奥行き2cm程の極弱いアグリが形成される。井戸の規模は径104×98cm、深さ124cmを測る。

方位 N-27° E。

その他 本井戸の湧水層は最下面に当たるやや粗い砂層と認識される。

遺物 認められなかった。

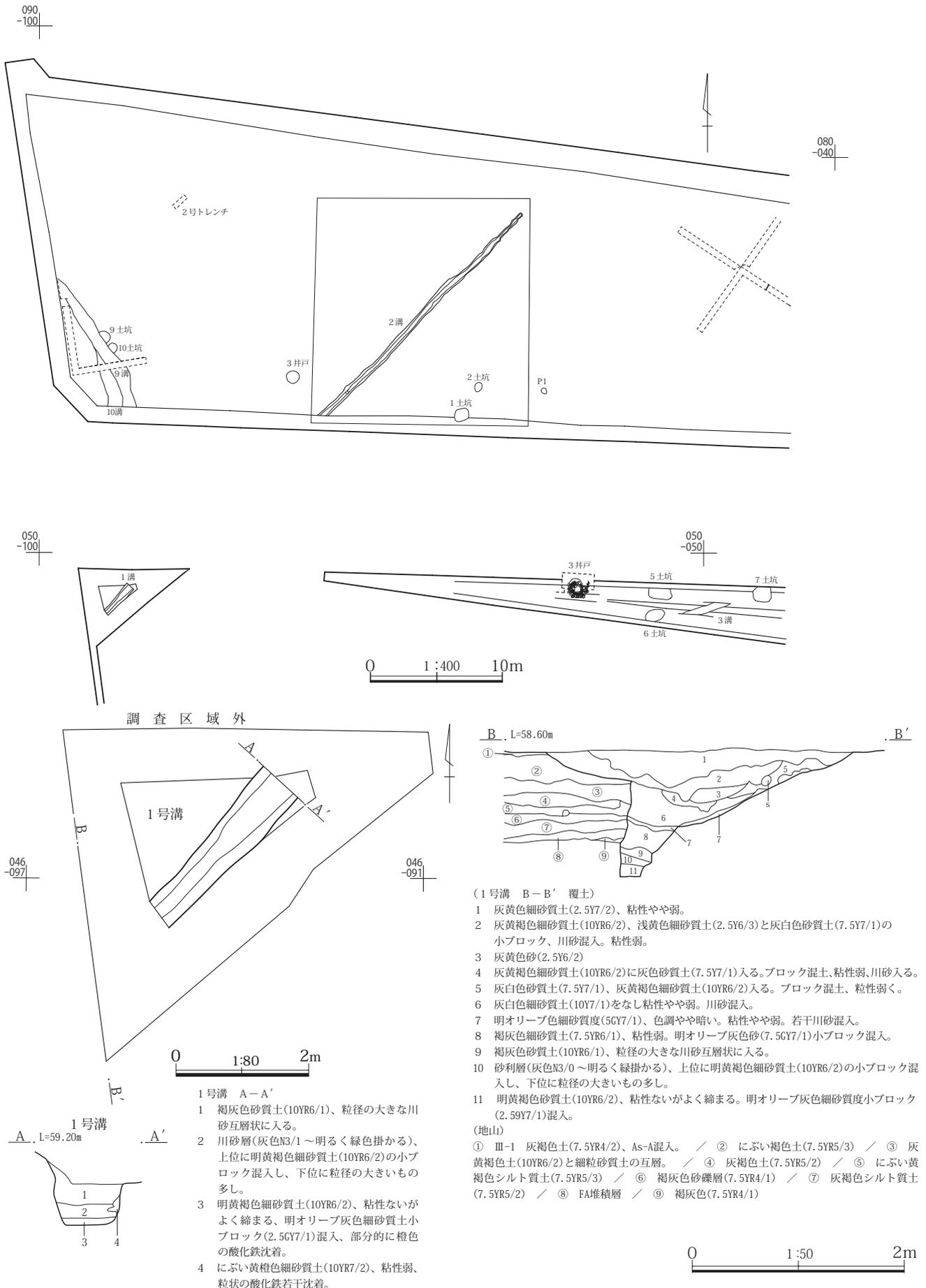
所見 時期の特定には至らなかったが、古代～近世中期の所産と思慮される。

5-2区5号井戸(第94図)

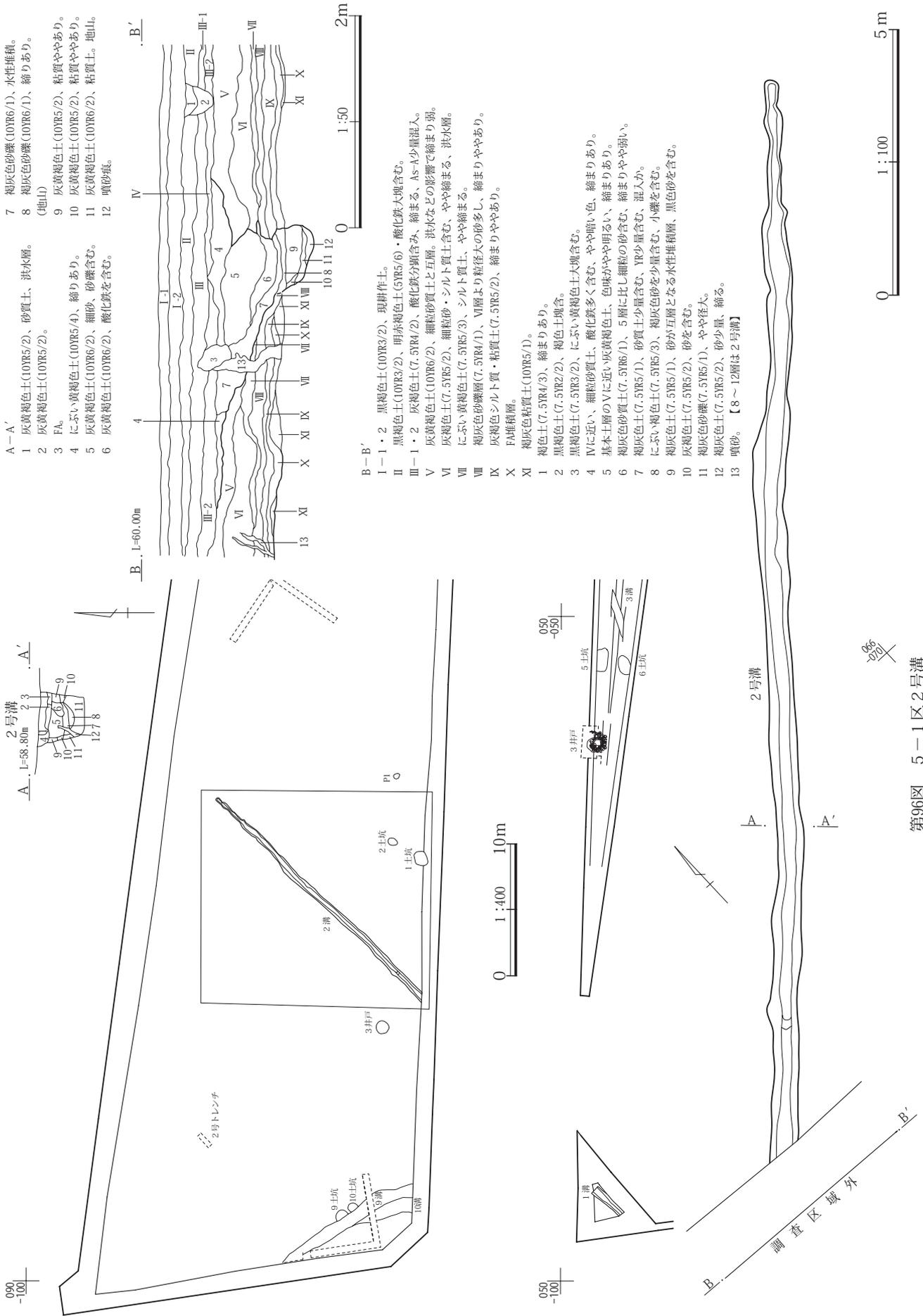
概要 本井戸は5-1区東部に位置し、Hr-F A面で確認、調査した。従って井戸の下位部分を調査できずに過ぎない。

位置 062～063-028～029グリッド。

重複 本井戸と他の遺構との重複関係は確認できなかった。



第95図 5-2区1号溝



第96図 5-1区2号溝

た。

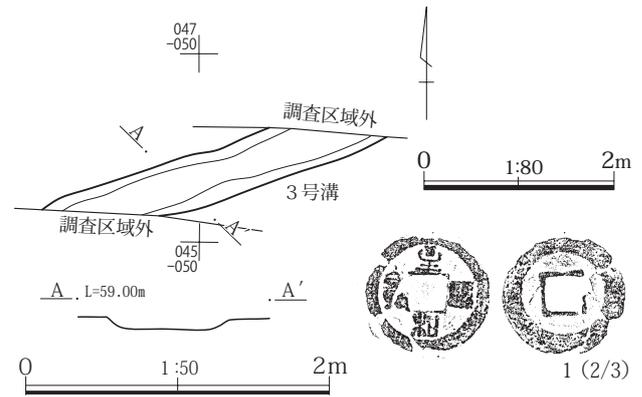
規模形態 本井戸のプランは隅丸長方形様を呈し、掘削形態は井筒型を呈し、底面は平底を呈する。底面から30～50cmの範囲で、奥行き22cm以下を測るししっかりしたアグリが形成される。井戸の規模は径126×92cm、底面は62×40cmで、深さ110cmを測る。

方位 N-14°E。

その他 本井戸の湧水層も最下面に当たるやや粗い砂層と認識される。

遺物 認められなかった。

所見 やはり時期の特定には至らなかったが、古代～近世中期の所産と思慮される。



第97図 5-2区3号溝

土層観察から中世以降の所産と認識されるに過ぎなかった。

(4) 溝

5区1・2号溝(第95・96図 PL.17)

概要 5区1号溝は5-2区の西部に位置し、5区2号溝は5-1区中西部に位置する。1・2号溝はその形態と位置から推して一続きの溝として把握されるが、1号溝の東西両側と2号溝の南側は調査区外に在り、また2号溝の北側は失われて確認することはできなかった。また5区では確認面をHr-F A下面に設定していて、同面に於いて確認、調査したため、下位の部分を調査できたに過ぎなかった。

位置 (1号溝) 046～047-092～095グリッド。(2号溝) 060～075-063～078グリッド。

重複 1・2号溝は共に同時期の遺構との重複関係は認められなかった。

規模形態 調査区内にあって1・2号溝共に南西-北東方向に直線的な走行を呈している。土層断面の観察からは掘削形態は薬研堀状を呈しており、底部付近を調査したに過ぎなかったが、調査範囲では壁面が垂直気味に立ち上がる箱堀状を呈している。(1号溝)長残2.74m、残上幅205cm、下位幅50～85cm、深さ39cmを測る。(2号溝)長残22.0m、残上幅125cm、下位幅43～80cm、深さ33cmを測る。

埋没土 砂利層や褐灰色砂質土。

方位 (1・2号溝)N-43°E。

その他 1・2号溝共に流水の痕跡が認められた。

遺物 認められなかった。

所見 1・2号溝はその時期特定には至らなかったが、

5区3号溝(第97図 PL.9・17、64 遺物観察表410頁)

概要 5区3号溝は5-2区中部に位置しており、南北両側が調査区外に出ていて一部が確認できたに過ぎなかった。当初確認面より上位で確認されたが、底面近くを調査できたに過ぎなかった。

位置 045～046-048～051グリッド。

重複 他の遺構との重複は見られなかった。

規模形態 調査区内にあって本溝は東北東-西南西方向に走行し、掘削形態は箱堀状を呈し、底面に若干の凹凸が見られた。残長2.20m、幅53～60cm、深さ8cm(推定深120cm)を測る。

埋没土 記録化に不備はあったが、砂質の洪水層土で埋没していたものと思慮される。

方位 N-65°E。

その他 流水の可否は確認できなかった。

遺物 古銭(1)が出土した。

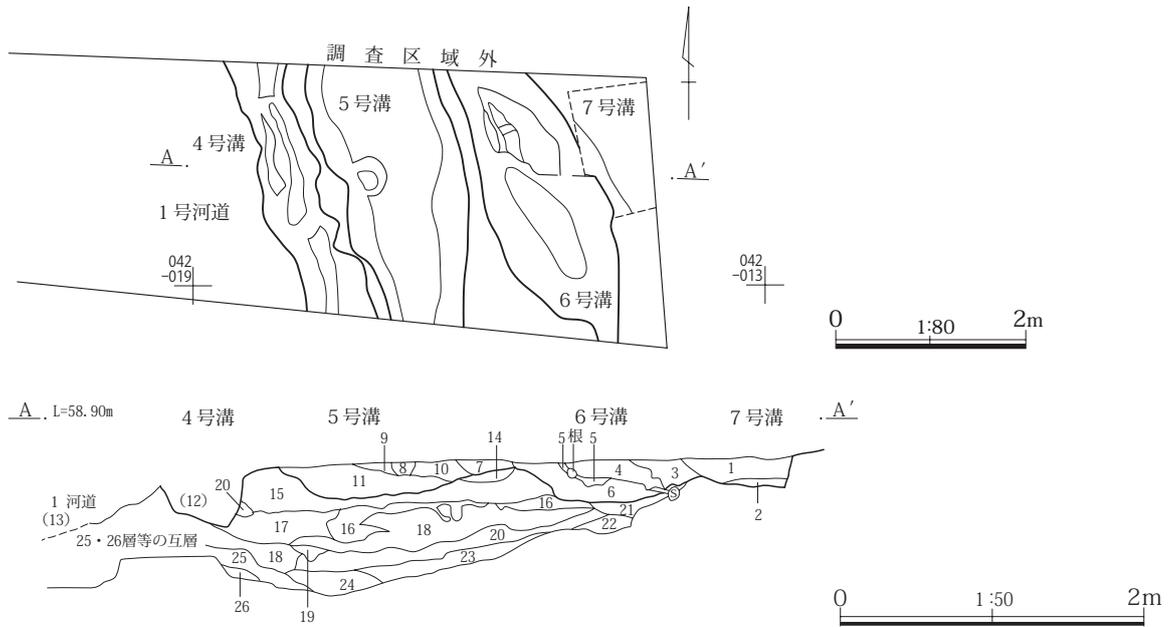
所見 時期特定に至らなかったが、掘削位置から中世以降の所産と認識される。

(5) 河道

5区1・2号河道、5区4・5・6・7号溝

(第99～101図 PL.17・18 遺物観察表410頁)

概要 5区1・2号河道は5-1区東部に位置し、その延長線上である5-2区東端近くに1・2号河道と認められる落ち込みが確認できたが、安全対策のため底面まで掘削することができなかった。また5区4・5・6・7号溝はこの5-2区の河道内に掘削された溝群である。



- 1 灰黄色細砂質土(2.5Y6/2) / 2 砂礫層、1層土混入 / 3 灰褐色細砂質土(7.5YR6/2) / 4 褐灰色粉質土(7.5YR5/1)。 / 5 灰白色細砂(5Y7/1) / 6 細砂層(5Y6/1)、若干の灰黄褐色土、部分的に川砂混入。 / 7 褐灰色土(7.5YR6/1)、やや粉質。明黄褐色土粒混入。 / 8 褐灰色土(7.5YR5/1)、明褐色土と川砂混入。 / 9 褐灰色土(5YR5/1)、川砂混入。 / 10 明褐色土(7.5YR7/2、粒性有)と褐灰色土(7.5YR5/1、粒性質弱)の混土、川砂混入。 / 11 褐灰色細砂質土(10YR6/1)、明褐色土(5YR7/2)と筋状の川砂混入。 / 12 細砂層(5YR4/4) / 13 砂礫層、灰褐色細砂層入る / 14 灰色橙細砂(5YR6/1)、川砂と褐色細砂入る互層。 / 15 川砂層、小礫入り暗灰色-灰白色呈す。 / 16 細砂層(10YR6/2)、14 層砂混入。 / 17 灰白色細砂質土(10YR7/1) / 18 灰色砂(7Y6/1)と褐灰色土(7.5YR6/1、粘性やや有)の互層。 / 19 川砂層、砂利混入。 / 20 灰黄褐色(10YR6/1)・黄灰色細砂質土(2.5Y7/2)の互層。 / 21 褐灰色細砂質土(7.5YR6/1-5/1)、川砂混入。 / 22 砂利層(N31-N619)、砂利含む。 / 23 砂利層 / 24 にぶい黄橙色土(10YR6/3)、川砂混入。 / 25 粗粒砂利層(10YR6/3) / 26 褐灰色細砂(10YR6/2)、川砂混入。

第98図 5-2区4~7号溝

何れの遺構も南北両側は調査区外に出ているが、1号河道に由来する砂利層が5-1区調査区の北壁西寄りから現れ始め、その層厚に変化があるものの概ね路線の北縁に沿って東南東方向に走行し1号河道の位置で南東方向に屈曲するものと認識される。

尚、断面図実測時点で4号溝は5号溝、5号溝は6号溝、6号溝は7号溝、7号溝は8号溝と遺構番号を付していた。

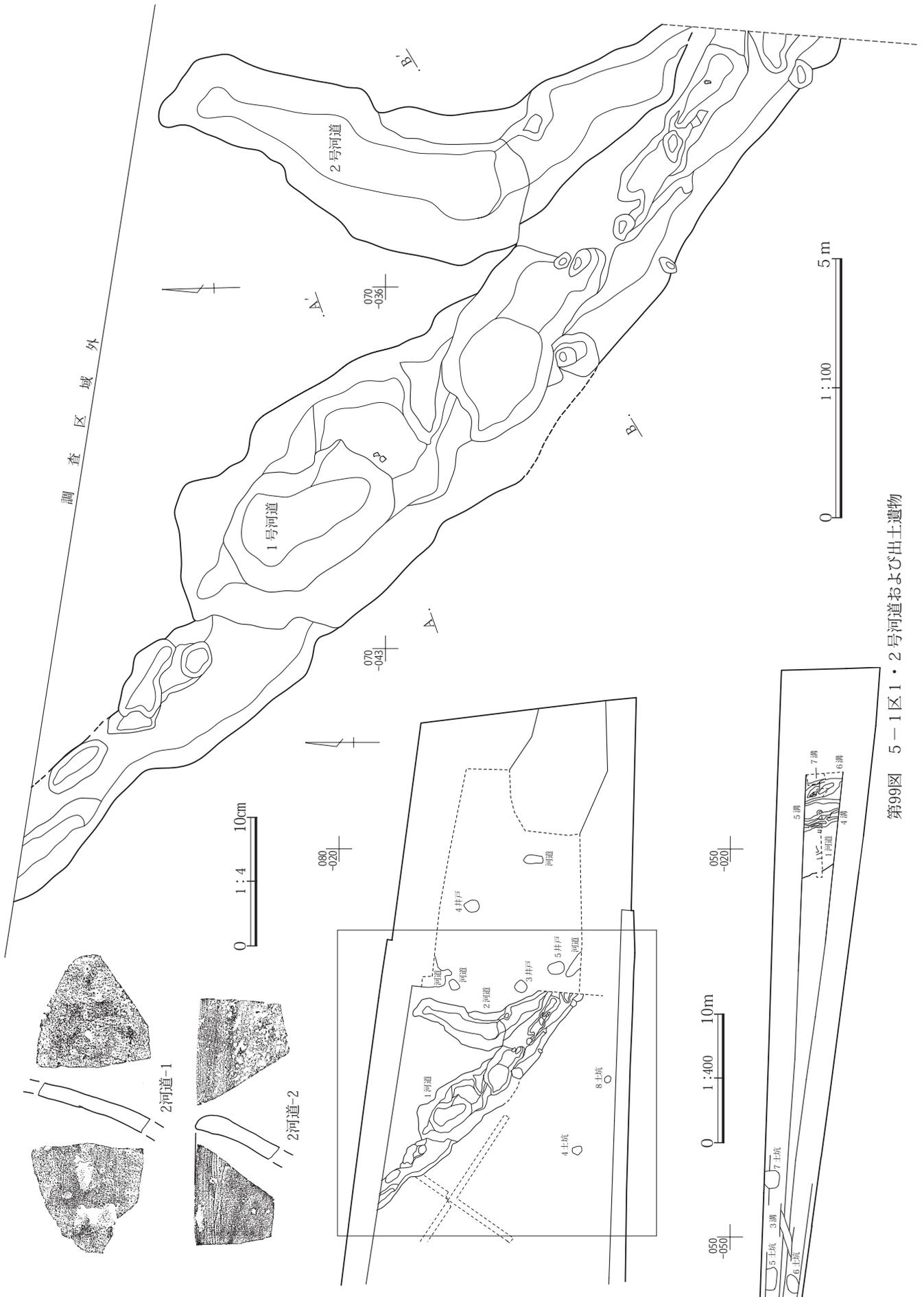
位置 (1号河道) 061~077-031~047グリッド。(2号河道) 063~074-031~035グリッド。(4号溝) 041~044-017~018グリッド。(5号溝) 041~044-016~017グリッド。(6号溝) 041~044-014~016グリッド。(7号溝) 041~044-014~015グリッド。

重複 2号河道は1号河道を切っている。4~7号溝は5-2区河道(1号河道)の覆土中に掘削されている。また5~7号溝は重複するが、5号溝、6号溝を7号溝の順に新しい。

規模形態 調査区内にあって1号河道は南東方向に流下し、2号河道は北から逆時計回りに弧を描くように1号

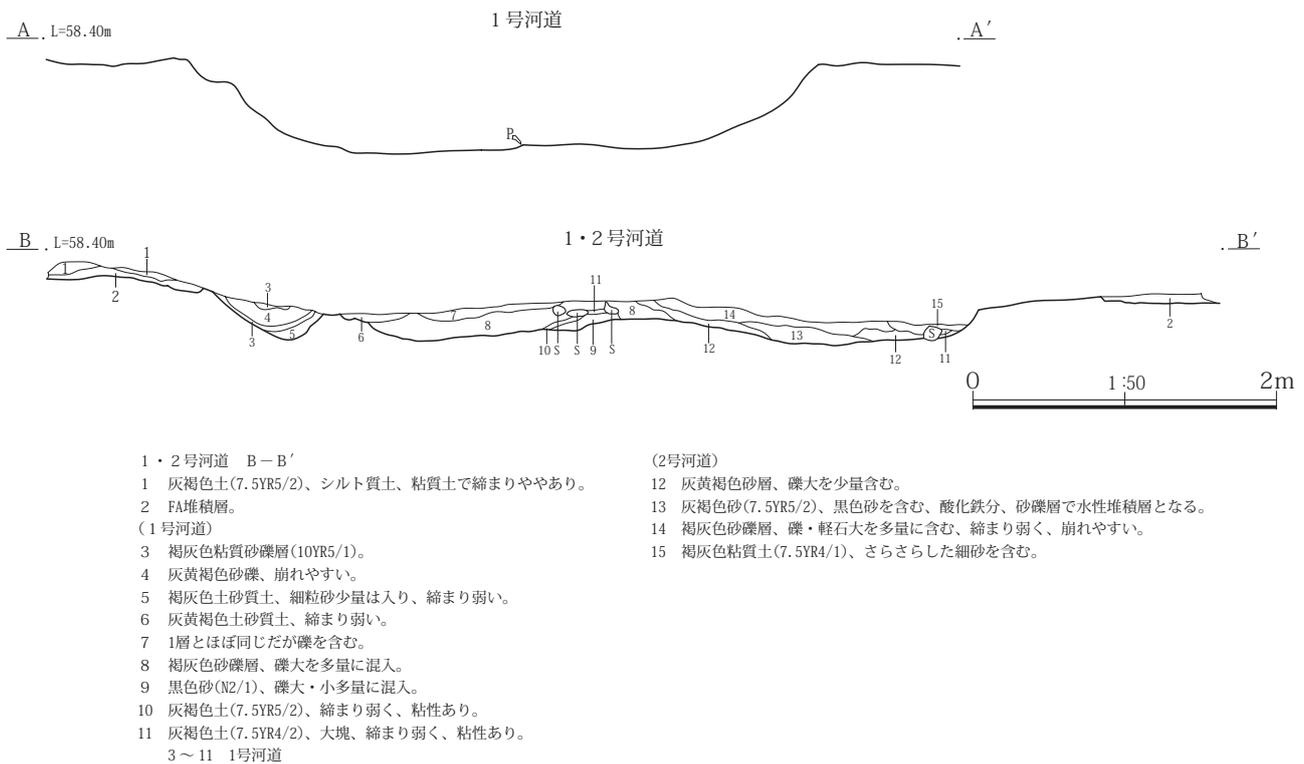
河道に合流している。4~7号溝は南南東方向に走行する。1・2号河道は箱堀状を呈しているが底面に凹凸が見られ、1号河道は長さ7.8m、幅4.1m、深さ60cm程の箱形の自然か人為的か判断の付かない落ち込みがある。4~7号溝の掘削形態は何れも箱堀状を呈しているが、5・6・7号溝の壁面は緩傾斜をなしている。(1号河道)残長22.12m、幅74~406cm、深さ5~40cmを測る。(2号河道)残長11.34m、幅82~290cm、深さ14~32cmを測る。(5-2区河道)残長4.5m、幅632cmを測る。(4号溝)残長2.78m、幅44~65cm、深さ42cmを測る。(5号溝)残長2.71m、幅78~142cm、深さ15cmを測る。(6号溝)残長3.06m、幅20~124cm、深さ27cmを測る。(7号溝)残長1.42m、幅77cm、深さ20cmを測る。

埋没土 1・2号河川は砂礫層を中心に灰黄褐色土等で埋没し、5-2区河道は川砂や褐灰色細砂質土の互層で埋没している。4号溝は川砂、5号溝は褐灰色細砂質土等、6号溝は灰色細砂質土等、7号溝は灰黄褐色細砂質土で被覆されていた。



第99図 5-1区1・2号河道および出土遺物

第IV章 中世の遺構と遺物



第100図 5-1区1・2号河道セクション

方位 (1号河道)N-50°W。(2号河道)N-15°E～N-35°W。(5-2区河道)N-27°W。(4号溝)N-12°W。(5号溝)N-10°W。(6号溝)N-20°W。(7号溝)N-25°W。

その他 1・2号河道及びその延長と認められる5-2区河道は強い流水によって形成された河道跡であり、その規模は中小河川に属するものと認識される。また本河道群は、砂礫によってその下位は短期間に埋没し、更に洪水等によって埋没したものと思慮される。

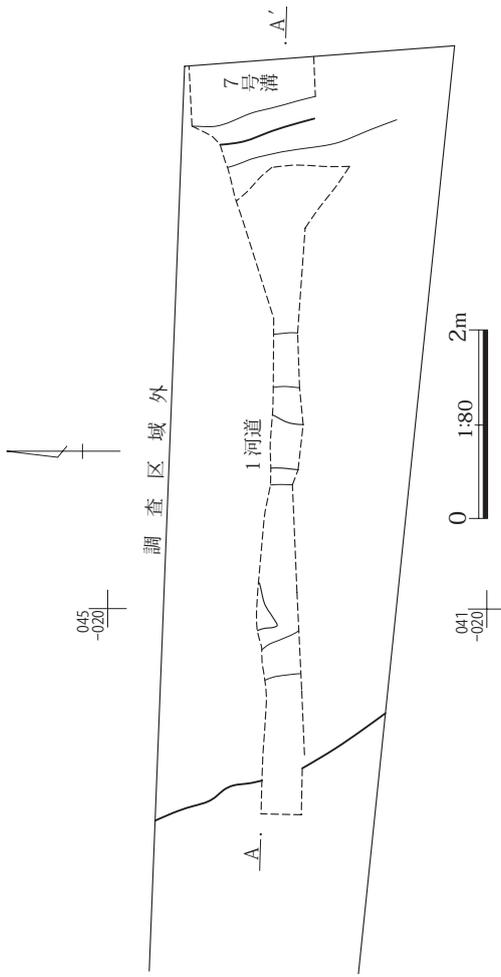
4～7号溝は河道がある程度埋没した後掘削されたもので、少なくとも4号溝は水路として開削されたものと解釈され、先に4区1号谷にも同様の可能性を述べたが、第87図の「↓」に記した広瀬川用水の水系に属する4・5区境を南流する用水路の前身となる水路であった可能性が考えられる。

遺物 5-2区1号河道からは常滑産陶器甕と思われる破片(3・4)や土師器片の出土が、5-1区2号河道からは常滑産陶器甕か(1)、在地産片口鉢(2)の破片が出土した。

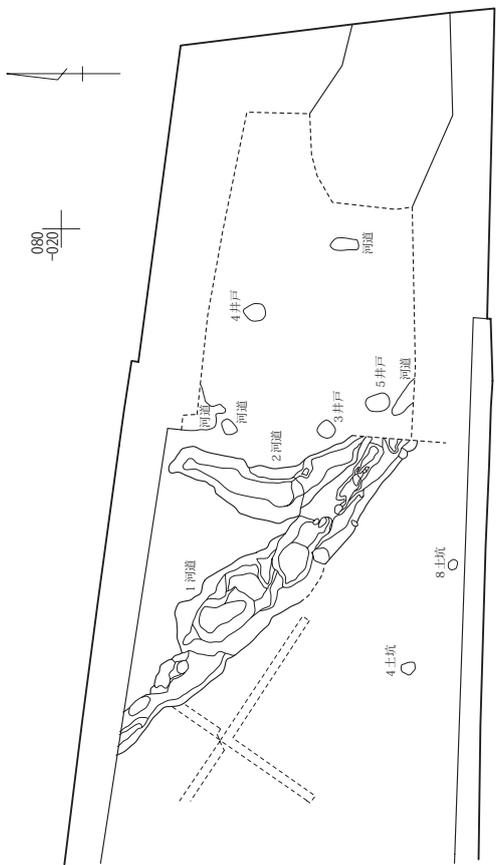
所見 旧河道は西北西方向から入り、元々の谷地形へ流れ込む形で形成されたものと判断される。その位置は地

籍図から想定した古い流路想定位置のうち、第87図に記した「→a」或いは「→b」に当たると考えられるが、その流水の勢いから推して利根川西遷の経過の中で発生したものと思慮されるものである。その時期は西遷開始時期(応永34年)からそれ程経たない時期と考えられ、利根川の氾濫によって埋没していったものと思慮される。

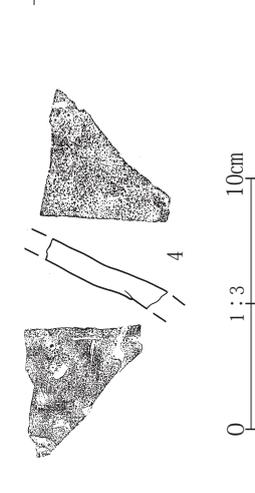
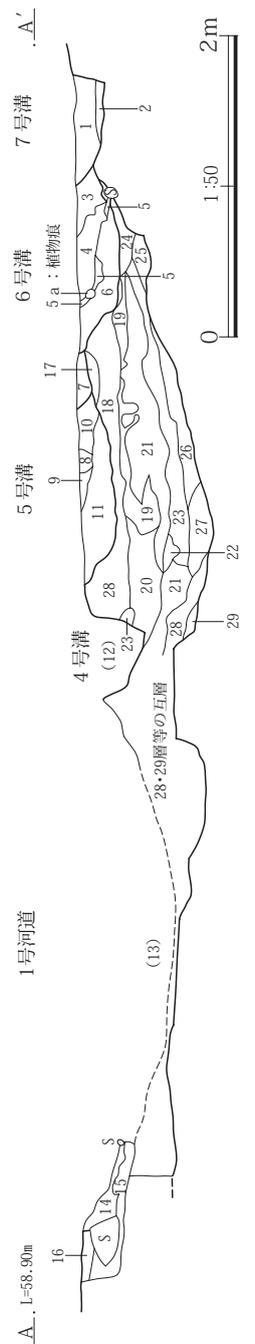
また5-1区に於いてその流路は東西2筋が確認されたが、2時期以上に亘っていたことが確認される。



- 1 号河道 A-A'
- 1 灰黄色細砂質土(2.5R6/2)、細砂質で粘性弱。
- 2 砂礫層、1層土混入。
- 3 灰褐色細砂質土(7.5R6/2)、粘性弱。
- 4 灰褐色細砂(10YR6/2)、粘性弱。
- 5 灰白色細砂(5Y7/1)
- 6 灰白色細砂(5Y6/1)、若干の灰黄色褐色(10YR6/2粘性質弱)ブロック混入、部分的に川砂ブロック混入。
- 7 褐色土(7.5R6/1)、やや粉質に欠く、明黄褐色土粒混入。
- 8 褐色土(7.5R5/1)、明褐色小ブロック(粘性弱、7.5R7/2)と川砂混入。
- 9 褐色土(5YR5/1)、粘性質欠け、やや粘質、上位に川砂ブロック混入。
- 10 明褐色土(7.5R7/2、粘性あり)と褐色土(7.5R5/1、粘性質弱)のブロックの混土、粒径に大小ある川砂の小ブロック混入し、酸化鉄多く沈着。
- 11 褐色細砂質土(10YR6/1)、明褐色土(5YR7/2)小ブロック混入、筋状に粒径に大小ある川砂ブロック混入。
- 12 細かい赤褐色細砂(5YR4/4)、全体に酸化鉄沈着。
- 13 砂礫層、帯状に灰褐色細砂層(7.5YR5/2)入る、5-10cm。
- 14 灰褐色細砂(5YR6/1)、筋状に川砂と褐色細砂(5YR6/1)入る互層。
- 15 粒径に大小ある、川砂、小礫入り灰白色(7Y7/0)を呈す。
- 16 灰黄褐色細砂(10YR6/2)、14層土小ブロック混入。
- 17 灰白色土(10YR7/1)、細砂質小ブロック状に酸化鉄沈着。
- 18 灰褐色(7Y6/1)と褐色土(7.5YR6/1、粘性あり)の互層。
- 19 川砂層、砂粒混入。
- 20 何れも細砂質の灰黄褐色土(10YR6/1)と黄灰色土(2.5Y7/2)の互層。
- 21 褐色細砂質土(7.5YR6/1の一部5/1)、川砂混入。
- 22 砂礫層(N3/0～N6/0)砂粒含む。
- 23 砂礫層。
- 24 細かい黄褐色土(10YR6/3)、川砂混入し、ブロック状に酸化鉄沈着。
- 25 粗い砂礫層(10YR6/3、細かい黄褐色土)酸化鉄沈着。
- 26 褐色細砂(10YR6/2)、酸化鉄沈着し、川砂混入。
- 27 砂礫層(10YR6/3、N3/0～6/0)
- 28 灰黄褐色細砂(10YR6/2)、酸化鉄沈着し、川砂入る。
- 29 砂礫層(N3/0～6/0)、28層土小ブロック混入。



- 1 号河道 A-A'
- 1 灰黄色細砂質土(2.5R6/2)、細砂質で粘性弱。
- 2 砂礫層、1層土混入。
- 3 灰褐色細砂質土(7.5R6/2)、粘性弱。
- 4 灰褐色細砂(10YR6/2)、粘性弱。
- 5 灰白色細砂(5Y7/1)
- 6 灰白色細砂(5Y6/1)、若干の灰黄色褐色(10YR6/2粘性質弱)ブロック混入、部分的に川砂ブロック混入。
- 7 褐色土(7.5R6/1)、やや粉質に欠く、明黄褐色土粒混入。
- 8 褐色土(7.5R5/1)、明褐色小ブロック(粘性弱、7.5R7/2)と川砂混入。
- 9 褐色土(5YR5/1)、粘性質欠け、やや粘質、上位に川砂ブロック混入。
- 10 明褐色土(7.5R7/2、粘性あり)と褐色土(7.5R5/1、粘性質弱)のブロックの混土、粒径に大小ある川砂の小ブロック混入し、酸化鉄多く沈着。
- 11 褐色細砂質土(10YR6/1)、明褐色土(5YR7/2)小ブロック混入、筋状に粒径に大小ある川砂ブロック混入。

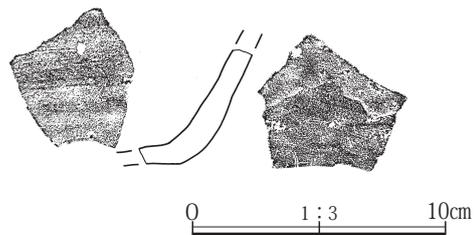


第101図 5-2区1号河道および出土遺物

(6) 遺構外

5区の遺構外の遺物(第102図 遺物観察表410頁)

遺物 在地系内耳鍋(1)や近世の国産施釉陶器片1点の出土が見られた。



第102図 5-1区遺構外出土遺物